

科目名	地域社会と大学教育（総合経営学部）		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL11101	研究室	学生セガ-
担当者	住吉 廣行		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
総観										
授業概要										
本講義は、初年次教育の意味合いを持たせています。大学のミッション、大学・学部・学科の3ポリシーについて確認します。大学生の特徴を捉えた教育手法を説明し、課題解決型の学びを展開しようとしていること、学生支援についての大学側の考え方がCSの向上にあるのではなく学生をパートナーと見なすというパラダイムシフトを考えていることを説明します。各種センターの機能について説明し、それらを大学生活の中で活かせるようにします。										
学修到達目標										
大学の教育に対する考え方、大学側が用意している学修支援システムの種類や場所やその機能等について理解すること。そしてそれらを活用するためにも、学生一人一人がこれからの大学生活をどのように送るべきかを十分に考え、カリキュラムの組み方、取得すべき資格、地域連携・ボランティア活動等学生の自主的な活動への参加などについてプランニングが出来るようになること。										
授業の進め方										
オムニバスでの授業となります。学長、学部長・両学科長、各センター長などが交代で担当します。加えて、大学の「自主独立の精神に基づいて、それぞれの学部に適した内容で前向きな姿勢で講演して下さるゲストをお招きし、熱く語っていただきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	長野県、松本市などの特徴	松本大学が立地する長野県、松本市がどのような特色を持った地域であるか、地勢、文化、歴史などから概観し、そのような地で学ぶ事の意義を考える。				事前：パンフレットを熟読する。(2時間)事後：配布したプリントに基づき復習する。(2時間)				
2	大学設立経緯と学校法人の組織	長野県、松本市及び広域連合、松商学園が1/3つ出合った本学の設立経緯、地域立大学と呼ばれる本学及び学生への期待と存在意義、法人組織の全容を紹介する。				事前：配布したプリントを読む。(2時間)事後：本学及び本学部について文章でまとめる。(2時間)				
3	松本大学の教育手法、具体例紹介	松本大学の地域連携による多様な取組をいくつか紹介し、それらが学生の成長をどのように促しているかを具体的に把握して貰う。				事前：以前に配布したプリントを読む(2時間)事後：地域連携に必要な資質を考える(2時間)				
4	本学での国際交流の現状と将来	本学の国際交流の現状を具体例を用いて説明し、学生にどのような可能性があるかを確認させる。その中で国際交流委員会が果たす窓口機能の役割も説明する。				事前：グローバル化について検討。(2時間)事後：自身の学修計画に国際を組み込む。(2時間)				
5	健康安全センターの役割、本学における図書館機能	前半は学生の健康を守る者としての健康安全センターの役割を周知し、身体検査結果の解説や喫煙や受動喫煙が体に及ぼす影響に警鐘をならす。後半は大学での学修拠点となる図書館から賢い利用方法を提示する。				事前：キャンパスガイドで健康安全センターと図書館の機能を把握する。(4時間)				
6	地域づくり考房『ゆめ』の存在意義	地域づくり考房『ゆめ』設立の経緯とその理念を理解して貰う。予め準備されたシートに書き込むことによって、自らの地域との関わり方とその可能性を認識する。				事前：活動事例を調べる。(2時間)事後：『ゆめ』を訪問し、活動に触れる。(2時間)				
7	特別講義 ホスピタリティの精神を学ぶ	これまでのキャリアにおける職場環境を例に挙げ、真のホスピタリティ精神を発揮することの意味を理解し、これからの学修やいざ訪れる就活等、学生生活に生かす。				事後：講義を聞いた感想を短くても良いのでまとめる。(4時間)				
8	特別講義 プライダグル業界の経営と志事	八芳園の経営戦略を学ぶ。顧客本位の姿勢を従業員と共有することにより、結婚式場への誘客数において見事V字回復を果たした要因を理解する。				事前：八芳園のホームページを閲覧しておく。事後：講演を聞いた感想をまとめる。(4時間)				
9	学部の理念と特徴、学ぶべき内容	学部のACDポリシーを説明し、学びの体系とその狙いなどを語る。2つの学科が存在することに對する大学側の思いや考え方にも触れ、学生の学修意欲を高めたい。				事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間)				
10	学科の理念と特徴、学ぶべき内容	2つある内の一つの学科について、どのような学びの可能性があるかを説明し、将来の就職先との関連などにも言及する。具体例に基づき学生のイメージを膨らませる。				事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間)				
11	学科の理念と特徴、学ぶべき内容	もう一つの学科について、その学科の特徴を踏まえて、上と同じような説明を行い、学生の学びへの意欲を高める。				事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間)				
12	教職センターの役割1	教職の免許を取るための学びの枠組みや履修するための諸手続きについて詳細に説明する。卒業要件に含まれない単位取得に伴う時間的な制約についても理解する。				事後：配付された資料を読み、教職センターを訪問し疑問点をなくすようにする。(4時間)				
13	教職センターの役割2	教育実習を含む学びの具体的な内容に加え、先輩である卒業生の状況、教員採用状況などについて理解する。学修支援の体制（試験対策）の利用を促す。				事前：前週配布のプリントを読む(2時間)事後：教職課程を取るが否かを検討する(2時間)				
14	大学側の学生支援の考え方を理解	松本大学が“B”ポリシーとして学生支援を積極的に考えており、学生をカスタマーではなくパートナーとして見ようと考えているが、その哲学を理解して貰う。				事前：事前配布のプリントを読む。(2時間)事後：自分たちに何が出来るかを考える。(2時間)				
15	松本大学の地方創生戦略と大学教育 授業のまとめ	松本大学がこれまで実施してきた地域連携活動が認められ、COC（地（知）の拠点）大学として認定された。こうした活動を踏まえ、大学のこれからの地域連携を考える。全講義のまとめ、期末試験の注意点を示				事後：蒼穹を読み松本大学のCOCがどのような内容であったかを学んでおく。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準					
講義用プリントが配布されます。					定期試験：100% S:大学の使命、教育手法等を正しく理解したうえで、大学生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画を立て、試験で特に優れた結果を出すことができる。A:大学の使命、教育手法等を理解したうえで、今後の大学生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画ができ、試験で80点以上である。B:大学の使命、教育手法等を概ね理解したうえで、卒業に向けた準備学修の計画ができ試験で70点以上である。C:大学の使命、教育手法等を踏まえ、準備学修の計画がある程度でき、試験で60点以上である。					
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）					
本学が発行する各種パンフレットなど。					講義は前の席で聞きたい学生を予め募集し、席を2列ほど確保します。残りの学生は座席指定とします。シラバスをよく読んで、講義に臨んで下さい。受講票に記入された感想、質問、要望には次の時間に返信したいと思います。					

科目名	知の技法		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパリング	UL11102	研究室	A-16
担当者	守 一雄		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C	2017年度～					
授業概要										
教養ある大人となるための「知の技法」を実習します。「知の技法」は広範囲に及びますが、この授業では言語の活用技術に絞って「読み・書き・聞き・話す」という4つの技能について実習を通して学びます。具体的には、3冊の課題図書を読み、レポートを6回書き、本の内容について6回ディベート（聞き、話す）をします。なお、最終試験の受験資格が与えられるのは「ディベートに5回以上出席し、すべての読後レポートを提出」した者としてします。										
学修到達目標										
1) 本を決められた期間内に読めるようになる。2) パラグラフ・ライティングで文章が書けるようになる。3) ディベートで相手の主張を正しく聞き取ることができるようになる。4) ディベートで自分の意見を決められた時間内に話すことができるようになる。										
授業の進め方										
全部で15回の授業のうち、6回を講義と実習、6回を小グループによるディベートに充てます。講義を聞くだけでなく、課題図書を読み、読後レポートを書き、ディベートで聞き、話すことで、言語の4つの機能をフル活用する授業となるようにします。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	この授業の進め方/ディベートのやり方と利点				課題図書(1)の読書(4時間)				
2	パラグラフライティング	レポートの書き方実習(三論点意見文章法)/パラグラフライティング				課題図書(1)の読書(4時間)				
3	ディベート	ディベート導入の是非についてディベート				読後レポート(1)の作成、提出(4時間)				
4	相互添削実習	レポート(1)の返却と相互添削実習 文章推敲の意義と方法				レポート(1)の書き直し(4時間)				
5	ディベート	ディベート導入の是非について再度ディベートします				レポート(1)の完成版提出(4時間)				
6	意見と感想	レポート(1)完成版返却とコメント 絶対評価と相対評価				課題図書(2)の読書(4時間)				
7	ディベート	課題図書(2)に関するテーマについてディベートします				課題図書(2)のレポート(3)提出(4時間)				
8	レポート(3)の相互添削実習	レポート(3)の相互添削実習/三論点文章法の応用				読後レポート(3)の推敲、完成版作成(4時間)				
9	ディベート	課題図書(2)に関するテーマについてディベートします				レポート(3)の書き直しと完成版(4)の提出(4時間)				
10	英語を学ぶことの意義	レポート(4)返却とコメント/科学的思考方法				課題図書(3)の読書(4時間)				
11	ディベート	課題図書(3)に関するテーマについてディベートします				課題図書(3)のレポート(5)提出(4時間)				
12	英語学習の実際	レポート(5)の相互添削実習/三論点文章法の応用				読後レポート(5)の推敲、完成版(6)作成(4時間)				
13	ディベート	課題図書(3)に関するテーマについてディベートします				読後レポート(6)の作成、提出(4時間)				
14	知の技法まとめ	レポート(6)返却とコメント				総合的復習(4時間)				
15	最終試験・授業アンケート	最終試験・授業アンケート				総合的復習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「ザ・ディベート」茂木秀昭著(ちくま新書) ISBN:978-4480058928(生協で購入してください。) 課題図書 「残念ながら、その文章では伝わりません」山口拓朗著(たいわ文庫) ISBN:978-4479306597(生協で購入してください。) 課題図書 「英語を制するライティング」キム ジョンキユ著(講談社現代新書)(別途、指示します。) 課題図書				定期試験:100% S:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C:課題すべてを基準レベルで達成した。なお、最終試験では、知識を問うような試験はしません。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				楽な授業ではありませんが、本を読む習慣が付き、文章を書く力がつくはずですが、また、ディベートを通して、自分の主張をわかりやすく話し、相手の主張をしっかりと聞き取れるようになると思います。						

科目名	基礎ゼミナール（総経）		学年学期	1年通年	単位数	4	ナパリング	UL11103	研究室	
担当者	各教員		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
<p>大学での学生生活は高校までとは異なります。本講義では「高校生から大学生へ意識や行動を変えること」、「大学生としての基礎的資質を固めること」の2つを目的としています。これらは導入教育、初年時教育などと呼ばれるものです。上記の2つの目的を実現するために、本講義では「大学での学び方が身につく」、「教員や他の学生と関わりを持つことができる」、「自分の将来（職業）について考えられる」、「大学での学びに慣れる」ことを基軸に講義計画を立てています。</p>										
学修到達目標										
<p>学修態度の基礎が身につく、友人や教員との人間関係の基礎づくりができる。また、大学における学びをより実りあるものに行うことができる。</p>										
授業の進め方										
<p>テキストや配布資料を用いた授業のほか、グループワーク、講演会参加など皆さんの積極的な参加を求めます。また、貸与したタブレットやパソコンによるアクティブラーニングもおこないます。</p>										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	各ゼミの発表	自己紹介、履修相談等				テキスト第1章1.1の予習（4時間）				
2	コンピュータ指導	履修登録等に不可欠な本学のコンピュータシステムに関する実習等				テキスト第1章1.2の予習（2時間）、第1章1.1の復習（2時間）				
3	学内施設の見学	図書館、基礎教育センター、キャリアセンター等				テキスト第1章1.3の予習（2時間）、第1章1.2の復習（2時間）				
4	ノート・テイキング	大学での学びとノート・テイキング				テキスト第1章1.4の予習（2時間）、第1章1.3の復習（2時間）				
5	ノート・テイキング	実践的なノート・テイキング				テキスト第2章2.1の予習（2時間）、第1章1.4の復習（2時間）				
6	キャリアセンターによる講演会	自己発見レポートのフォロー				テキスト第2章2.2の予習（2時間）、第2章2.1の復習（2時間）				
7	情報を集める	大学での学びと情報検索				テキスト第2章2.3の予習（2時間）、第2章2.2の復習（2時間）				
8	情報を集める	様々な情報源				テキスト第2章2.4の予習（2時間）、第2章2.3の復習（2時間）				
9	リーディング	大学での学びとリーディング				テキスト第2章2.5の予習（2時間）、第2章2.4の復習（2時間）				
10	リーディング	様々な文章とその読み方				テキスト第3章3.1の予習（2時間）、第2章2.5の復習（2時間）				
11	リーディング	読解のスキル				テキスト第3章3.2の予習（2時間）、第3章3.1の復習（2時間）				
12	学生委員会による講演会	防犯・防災に関する講習等				テキスト第3章3.3の予習（2時間）、第3章3.2の復習（2時間）				
13	ライティング	大学での学びとライティング				テキスト第3章3.4の予習（2時間）、第3章3.3の復習（2時間）				
14	ライティング	レポートの基礎知識				テキスト第3章3.5の予習（2時間）、第3章3.4の復習（2時間）				
15	ライティング	引用・注・参考文献表の書き方				テキスト第3章3.6の予習（2時間）、第3章3.5の復習（2時間）				
16	後期ガイダンス等	後期履修相談、前期の復習等				テキスト第4章4.1の予習（2時間）、第3章3.6の復習（2時間）				
17	ゼミ学生の親睦をはかる	各ゼミで主催する大学祭の企画に関する話し合い				テキスト第4章4.2の予習（2時間）、第4章4.1の復習（2時間）				
18	ゼミ学生の親睦をはかる	各ゼミで主催する大学祭の企画に関する話し合い				テキスト第4章4.3の予習（2時間）、第4章4.2の復習（2時間）				

科目名	キャリア入門（総合経営学部）		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL11104	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
本授業ではキャリア教育の初歩的段階として、自らのキャリアを考える上で必要となる情報を提供し、併せてこれらの情報を基に「考えてもらう」ことを目的としています。具体的には「自らのキャリアを考える上での情報提供」「実際に自らのキャリアを考える」「就職活動の基礎事項の情報提供」の3点に焦点を絞って展開します。										
学修到達目標										
現在の若年者の就職・労働に関する知識を修得し、大学生の就職活動の流れを理解した上で、自らの「働くこと」への初期ビジョンを形成できること。										
授業の進め方										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。なお講義では、毎回ミニレポートを作成してもらいます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	導入 - キャリアとは何か、そしてなぜ重要か -	キャリアという言葉の説明を行うとともに、本講義で扱う内容等について説明します。				「キャリア」とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
2	企業における人事管理の基盤 - 企業の社員区分制度の概要 -	人事管理の基盤システムの一つである社員区分制度について解説します。				社員区分制度とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
3	企業における人事管理の基盤 - 社員区分制度の詳細と学歴との関係 -	社員区分制度が学歴別管理とリンクしている点について説明します。				学歴別の賃金カーブについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
4	フリーターとしての働き方 - フリーターのタイプと所得の問題 -	フリーターの現状やタイプを説明した後、フリーターと正社員の生涯所得について説明します。				フリーターのデメリットについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
5	フリーターとしての働き方 - 雇用・能力開発・年金の問題 -	フリーターと正社員の違いについて、雇用の安定や老後など、所得以外の面から比較し、説明します。				国民年金と厚生年金の違いについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
6	産業研究 - どのような産業・業種があるのか -	社会にはどのような産業(業界)があるのかを紹介します。				自らが興味を抱く産業を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
7	職種研究 - どのような職種・仕事があるのか -	社会にはどのような職種(仕事)があるのかを紹介します。				自らが興味を抱く職種を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
8	転職のメリットとデメリット	転職した場合に有利になる点、不利になる点について解説します。				転職した場合に不利になる点について調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
9	ライフデザイン - 人生設計 -	人生の節目のイベントを経済的側面からみることで、生涯にどれだけのお金が必要かを解説します。				自らのライフデザインについて考えて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
10	働く上でのリスク	会社の倒産やリストラ、病気など、働く上でのリスクについて説明します。				企業の人員整理に関する事例を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
11	大学生の就職活動 - 大学生の就職活動の流れ -	大学生の就職活動の大きな流れについて説明します。				就職活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
12	大学生の就職活動 - データでみる大学生の就職活動 -	大学生の就職活動について、就職支援企業の調査結果を基に、その概要を説明します。				企業の採用活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
13	松本大学生の就職活動	松本大学生の就職活動をデータを用いて説明します。				就職活動の流れを調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
14	先輩方たちから学ぶ就職活動	就職活動を終えた先輩方の経験談を聞きます。				先輩方に対する質問を考えて下さい。講義後、先輩方の就活成功の秘訣を考えて下さい。（4時間）				
15	講義全体のまとめ	これまでの講義内容を簡単にレビューします。				これまでの講義での不明点を確認して下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリントを配布します。				小テスト：55% 出席レポート：45% 小テストと出席レポートの合計点が100点の場合にS、80点以上の場合にA、70点以上の場合にB、60点以上の場合にC、59点以下の場合にDとなります。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「キャリアデザイン入門 1 基礎力編」大久保幸夫著（日経文庫）				皆さんの将来の働き方や就職活動を考える上で、必ず役に立つ授業です。なお、授業は就職活動前の学生に対する内容のため、4年生の受講は可能な限り避けして下さい。						

科目名	地域史（地誌）			学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL11105	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
地域の歴史を正しく理解することは、地域の観光や福祉を考える場合にも有効だろうし、地域商工業の発展をはかるうえでも不可欠といえます。しかし地域史を学ぶ本当の意味は、歴史を見る際の勘所をおさえることにあります。松本地方の地域史は松本だけのことで他の地域とは全く関係がない、ということでは決してありません。皆さんが、他の地域の歴史を知ろうとするとときに、どういふところに目をつけてその地域の歴史をたどったらよいか、そのポイントを把握することになるのです。											
学修到達目標											
日本全体の歴史の中で、信州や松本地方の歴史はどこに特徴があるのかを理解することが目標です。											
授業の進め方											
基本的には教員からの説明を主体とした講義形式で進めます。アウトキャンパス等は計画していません。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスと講義全体についての基礎知識を説明					事前、テキスト1～3頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
2	中世の信州	戦国時代の信州と松本について概略的に解説する					事前、テキスト4～8頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
3	近世の地域（全国的傾向）	太閤検地を起点として日本近世の仕組みを概説する					事前、テキスト10～13頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
4	信州の年貢	近世において領主と農民の関係の基軸である年貢収受関係に関し、特に信州の各藩を取り上げ、年貢の実態を解説する					事前、テキスト14～18頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
5	江戸時代の松本	信州の中でも特に松本平に関し、その特徴を解説する					事前、テキスト18～20頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
6	“県”の成り立ち	明治期になって繰り返される県の合併について、詳述する					事前、テキスト22～29頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
7	「長野県」の誕生	初期の「長野県」および第二次「長野県」、そして現代の長野県が誕生するまでの複雑な経緯を詳述する					事前、テキスト30～33頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
8	市町村の整備	府県レベルの整備に続き、市町村の整備が展開する過程を詳述する。併せて町村合併が強行された事情にも触れる					事前、テキスト34～36頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
9	“市”の誕生	町村レベルの整備と併行して、わが国で初めて「市」が設定された経緯と、その実態について詳述する					事前、テキスト36～41頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
10	地域の商工業	地域に展開する商工業に関し、商工会議所を取り上げて解説する。特に松本商工会議所には特徴的な歴史があり、その点についても詳述する					事前、テキスト42～48頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
11	松本の製糸業と商工業	信州全土で盛んとなった製糸業について概説し、松本での製糸業の展開を、商工業全体の発展と関連づけて説明する					事前、テキスト42～48頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
12	信州の産業組合	信州で著しく発展した戦前の産業組合について、実態に即した説明をする					事前、テキスト50～58頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
13	地域の実業教育	松本市の誕生とともに始まる松本成成商業学校問題について、市議会資料にもとづいて解説する					事前、テキスト60～69頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
14	戦後の地域	戦前の歴史の上に、戦時中の特殊事情が加わり、どのように戦後の地域経済が形成されるのかを、概略的に説明する					事前、テキスト71～80頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
15	総括	地域の歴史を、政治・経済・社会という側面ごとに振り返り、総括する					事前、テキスト全体を通読(4時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「地域史（地誌）」木村晴壽著松本大学総合経営学部編(生協で購入してください。)						基本的には期末試験の結果を重視します。授業に出席するのが基本なので出欠に関してはあまり重視しません。レポート：20%、定期試：80%。S:授業内容を十分に理解し、日本の経済発展について解説できる。A:授業内容を理解している。B:授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容を6割程度理解している。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「長野県史」長野県編 「松本市史」						本講義では「遅刻」という範疇はありません。時間通りに着席することが基本です。					

科目名	総合英語（総経）Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 総合英語					
授業概要										
この授業では、基礎文法を復習しながら、実際のコミュニケーションに使える英語を修得します。ネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また、同じような場面設定で実際に会話ができるよう、様々なフレーズを学習します。										
学修到達目標										
ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力をつける。短い文章を読み、推測しながらおおまかな概要を把握できる。										
授業の進め方										
DVD教材を使用し、アウトプット中心の体験型学習を通して会話を修得していきます。課題もアウトプットが主になります。100語程度の短い文章のリーディングも取り入れます。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 英語学習のための意識改革と学習方法	英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。				自分に合った学習計画を立てロードマップ記入、音声ダウンロード(1時間)				
2	Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする	授業の概要と目標、授業の進め方を説明。be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認「握手」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
3	Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文, 自己紹介をする	疑問文と否定文の特徴自己紹介する際の口語表現「クラブ活動」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
4	Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形, 感想を言う	現在形と過去形の使い方自分の感想や感情を表す口語表現「ホームステイ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
5	Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞, 注文をする	可算名詞と不可算名詞の違いと使い方注文をする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
6	Scene5: She is so beautiful 代名詞, お願いをする	代名詞の確認お願いをする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
7	Scene6: Catching a cab 前置詞, 場所を説明する	前置詞の性質と使い方場所を説明する時の口語表現「チップ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
8	中間テスト(口述) Scene7: How Romantic!	中間テスト: ロールプレイ発表 残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方人を描写する際の口語表現				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
9	Scene8: I'm not feeling well 助動詞, 体調を述べる	助動詞の種類と使い方体調を表現するときの口語表現「旅行保険」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
10	Scene9: Tickets for a Yankees Game 進行形, 誘う	進行形の使い方行動を誘う時の口語表現「大学スポーツ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
11	Scene10: What's on the shopping list?接続詞, 誘いを断る	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
12	Scene11: MoMA is fun! 現在完了形, 聞き直す	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
13	Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形, 予定を尋ねる	未来形の種類と使い方予定を尋ねる時の口語表現「独立記念日」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
14	Scene13: Who is that guy?!不定詞と動名詞, 提案する	不定詞と動名詞の性質と使い方提案する時の口語表現「カレッジタウン」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
15	まとめ	口述テスト: スピーチ 残りのユニットを確認				期末試験に向けての準備(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。)				受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。						

科目名	総合英語（総経）Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	清澤 理恵		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
	○		A	B	C	~2016年度 総合英語				
授業概要										
この授業では、基礎文法を復習しながら、実際のコミュニケーションに使える英語を修得します。ネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また、同じような場面設定で実際に会話ができるよう、様々なフレーズを学習します。										
学修到達目標										
ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力をつける。短い文章を読み、推測しながらおおまかな概要を把握できる。										
授業の進め方										
DVD教材を使用し、アウトプット中心の体験型学習を通して会話を修得していきます。課題もアウトプットが主になります。100語程度の短い文章のリーディングも取り入れます。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 英語学習のための意識改革 と学習方法	英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。				自分に合った学習計画を立てロードマップ記入、音声ダウンロード(1時間)				
2	Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする	授業の概要と目標、授業の進め方を説明。be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認「握手」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
3	Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文、自己紹介をする	疑問文と否定文の特徴自己紹介する際の口語表現「クラブ活動」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
4	Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形, 感想を言う	現在形と過去形の使い方自分の感想や感情を表す口語表現「ホームステイ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
5	Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞, 注文をする	可算名詞と不可算名詞の違いと使い方注文をする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
6	Scene5: She is so beautiful 代名詞, お願いをする	代名詞の確認お願いをする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
7	Scene6: Catching a cab 前置詞, 場所を説明する	前置詞の性質と使い方場所を説明する時の口語表現「チップ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
8	中間テスト(口述) Scene7: How Romantic!	中間テスト: ロールプレイ発表 残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方人を描写する際の口語表現				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
9	Scene8: I'm not feeling well 助動詞, 体調を述べる	助動詞の種類と使い方体調を表現するときの口語表現「旅行保険」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
10	Scene9: Tickets for a Yankees Game 進行形, 誘う	進行形の使い方行動を誘う時の口語表現「大学スポーツ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
11	Scene10: What's on the shopping list?接続詞, 誘いを断る	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
12	Scene11: MoMA is fun! 現在完了形, 聞き直す	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
13	Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形, 予定を尋ねる	未来形の種類と使い方予定を尋ねる時の口語表現「独立記念日」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
14	Scene13: Who is that guy?!不定詞と動名詞, 提案する	不定詞と動名詞の性質と使い方提案する時の口語表現「カレッジタウン」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
15	まとめ	口述テスト: スピーチ 残りのユニットを確認				期末試験に向けての準備(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準				
「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。)						受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。				
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)				
参考書は授業内で紹介します。						インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。				

科目名	総合英語（総経）Cクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 総合英語					
授業概要										
この授業では、基礎文法を復習しながら、実際のコミュニケーションに使える英語を修得します。ネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また、同じような場面設定で実際に会話ができるよう、様々なフレーズを学習します。										
学修到達目標										
ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力をつける。短い文章を読み、推測しながらおおまかな概要を把握できる。										
授業の進め方										
DVD教材を使用し、アウトプット中心の体験型学習を通して会話を修得していきます。課題もアウトプットが主になります。100語程度の短い文章のリーディングも取り入れます。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 英語学習のための意識改革と学習方法	英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。				自分に合った学習計画を立てロードマップ記入、音声ダウンロード(1時間)				
2	Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする	授業の概要と目標、授業の進め方を説明。be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認「握手」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
3	Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文、自己紹介をする	疑問文と否定文の特徴自己紹介する際の口語表現「クラブ活動」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
4	Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形、感想を言う	現在形と過去形の使い方自分の感想や感情を表す口語表現「ホームステイ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
5	Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞、注文をする	可算名詞と不可算名詞の違いと使い方注文をする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
6	Scene5: She is so beautiful 代名詞、お願いをする	代名詞の確認お願いをする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
7	Scene6: Catching a cab 前置詞、場所を説明する	前置詞の性質と使い方場所を説明する時の口語表現「チップ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
8	中間テスト(口述) Scene7: How Romantic!	中間テスト: ロールプレイ発表 残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方人を描写する際の口語表現				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
9	Scene8: I'm not feeling well 助動詞、体調を述べる	助動詞の種類と使い方体調を表現するときの口語表現「旅行保険」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
10	Scene9: Tickets for a Yankees Game 進行形、誘う	進行形の使い方行動を誘う時の口語表現「大学スポーツ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
11	Scene10: What's on the shopping list?接続詞、誘いを断る	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
12	Scene11: MoMA is fun! 現在完了形、聞き直す	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
13	Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形、予定を尋ねる	未来形の種類と使い方予定を尋ねる時の口語表現「独立記念日」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
14	Scene13: Who is that guy?!不定詞と動名詞、提案する	不定詞と動名詞の性質と使い方提案する時の口語表現「カレッジタウン」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
15	まとめ	口述テスト: スピーチ 残りのユニットを確認				期末試験に向けての準備(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。)				受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。						

科目名	総合英語（総経）Dクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	N-01
担当者	大石 文朗		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、月曜日4限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○		A	B	C	~2016年度 総合英語				
授業概要										
この講義では、英語の基礎的な文法や語彙を復習することによって、英語に関する総合的基礎力の向上を目指します。また、実用英語技能検定の過去問に基づいた小テストを実施して、英語力の自己診断を行います。クラス編成はプレイスメントテストの結果に基づいて行い、受講生の英語力に適した授業内容を実施します。										
学修到達目標										
主語と動詞と目的語、物の状態や時をどう表すか、そんな英語の基礎を完全に理解し、説明することができるようになること。										
授業の進め方										
1. 実用英語技能検定に関する小テストを行います。2. 前回授業の簡単な復習を行います。3. テキストの解説を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方、英語能力の確認テスト				テキストP14～19を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
2	文脈に合う適切な語句を補う	Unit 1 & Unit 2				テキストP20～25を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
3	文脈に合う適切な語句を補う	Unit 3 & Unit 4				テキストP26～31を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
4	語句の並び替え	Unit 5 & Unit 6				テキストP32～37を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
5	語句の並び替え	Unit 7 & Unit 8				テキストP38～43を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
6	空所に適切な語句を補う	Unit 9 & Unit 10				テキストP44～49を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
7	空所に適切な語句を補う	Unit 11 & Unit 12				テキストP14～49の授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
8	英語力の確認	中間のまとめと試験				テキストP50～55を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
9	長文の読解	Unit 13 & Unit 14				テキストP56～61を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
10	長文の読解	Unit 15 & Unit 16				テキストP62～67を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
11	リスニング	Unit 17 & Unit 18				テキストP68～73を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
12	リスニング	Unit 19 & Unit 20				テキストP74～79を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
13	リスニング	Unit 21 & Unit 22				テキストP80～82を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
14	リスニング	Unit 23				テキストP50～82の授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
15	英語力の確認	講義全体のまとめと試験				英語力を確認して、今後の学習意欲につなげる。(1時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「First Primer」Tetsuzo Sato etc. 著(南雲堂) ISBN:978-4-523-17710-4 C0082(生協で購入してください。)		定期試験:50% 小テスト:20% 受講態度:30% (受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「英和辞典、和英辞典」		予習・復習は必ずしておいてください。								

科目名	総合英語 (INT) Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	ミゲル アルバート ション		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 総合英語					
授業概要										
実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。										
学修到達目標										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。										
授業の進め方										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。				授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間)				
2	The World's Best-Selling Medicine 1	ガイドランスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The World's Best-Selling Medicine 2	授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	Fighting Diseases with Diseases 1	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Fighting Diseases with Diseases 2	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Saved from Certain Death 1	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	Saved from Certain Death 2	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	Dolphins to the Rescue 1	動物と人間の不思議な関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	Dolphins to the Rescue 2	動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	The Gentle Giant from Africa 1	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	The Gentle Giant from Africa 2	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Animal Detectives 1	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	Animal Detectives 2	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	How the Kiwi Got Its Name 1	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	How the Kiwi Got Its Name 2	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「READ THIS! 2」Daphne Mackey, Alice Savage著(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9(生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特になし。		原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。								

科目名	総合英語 (INT) Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	イサー フィリップ		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
	○		A	B	C	~2016年度 総合英語				
授業概要										
実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。										
学修到達目標										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。										
授業の進め方										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。				授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間)				
2	The World's Best-Selling Medicine 1	ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The World's Best-Selling Medicine 2	授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	Fighting Diseases with Diseases 1	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Fighting Diseases with Diseases 2	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Saved from Certain Death 1	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	Saved from Certain Death 2	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	Dolphins to the Rescue 1	動物と人間の不思議な関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	Dolphins to the Rescue 2	動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	The Gentle Giant from Africa 1	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	The Gentle Giant from Africa 2	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Animal Detectives 1	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	Animal Detectives 2	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	How the Kiwi Got Its Name 1	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	How the Kiwi Got Its Name 2	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「READ THIS! 2」Daphne Mackey, Alice Savage著(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特になし。		原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。								

科目名	総合英語 (INT) Cクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
	○		A	B	C	~2016年度 総合英語				
授業概要										
実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。										
学修到達目標										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。										
授業の進め方										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。				授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間)				
2	The World's Best-Selling Medicine 1	ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The World's Best-Selling Medicine 2	授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	Fighting Diseases with Diseases 1	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Fighting Diseases with Diseases 2	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Saved from Certain Death 1	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	Saved from Certain Death 2	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	Dolphins to the Rescue 1	動物と人間の不思議な関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	Dolphins to the Rescue 2	動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	The Gentle Giant from Africa 1	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	The Gentle Giant from Africa 2	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Animal Detectives 1	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	Animal Detectives 2	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	How the Kiwi Got Its Name 1	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	How the Kiwi Got Its Name 2	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「READ THIS! 2」Daphne Mackey, Alice Savage著(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特になし。		原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようになしてください。								

科目名	総合英語（総経）Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	N-01
担当者	大石 文朗		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限、火曜日4限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C	~2016年度 観光英語				
		○								
授業概要										
カナダへの旅行を想定した内容のテキストを使用し、旅に必要な英語を旅行の順番通りに学ぶことができます。また、旅行英語だけではなく、旅行中に人と出会う際、自分のことについてどういう風に話せばよいのかも網羅しています。この授業では、将来、観光関係の職場で役に立つ実践的な英会話表現を習得します。さらに、観光英検の問題にもふれたいと思います。										
学修到達目標										
海外旅行で使用するための重要な英語表現を身につけることが最終的な目標です。										
授業の進め方										
1.観光英検に関する小テストを行います。2.前回授業の簡単な復習を行います。3.新出単語を音読し、意味、発音などの学習を行います。4.テーマごとの英文問題を解きながら、内容を把握してペアワークによる会話の練習を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 現状の英語能力の確認	授業の進め方、英語能力の確認テスト				テキストP8～15を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
2	旅行目的地を尋ねる時の英語表現	Where are you heading?に関する英語表現について				テキストP16～23を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
3	入国時の英語表現	May I see your passport?に関する英語表現について				テキストP24～31を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
4	行き先を答える時の英語表現	Where to? に関する英語表現について				テキストP32～39を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
5	宿泊先での英語表現	I asked for a double?に関する英語表現について				テキストP40～47を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
6	観光のおすすめ先を尋ねる時の英語表現	What would you suggest?に関する英語表現について				テキストP48～49を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
7	Unit 5までの復習	Review を行う				テキストP8～49の授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
8	英語力の確認	中間試験				テキストP50～57を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
9	レンタカーを借りる時の英語表現	Here are your keys.に関する英語表現について				テキストP58～65を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
10	道を探る時の英語表現	Turn left at the light.に関する英語表現について				テキストP66～73を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
11	買い物の時の英語表現	How much is this?に関する英語表現について				テキストP74～81を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
12	予定を探る時の英語表現	Are you free tomorrow?に関する英語表現について				テキストP82～89を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
13	レストランでの英語表現	I'll have the steak.に関する英語表現について				テキストP90～91を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
14	Unit 6～Unit 10までの復習	Review を行う				テキストP50～91の授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
15	英語力の確認	講義全体のまとめと試験				英語力を確認して、今後の学習意欲につなげる。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準				
「Encounters Abroad with CD」Michael P. Critchley著(南雲堂) ISBN:978-4-523-17539-1(生協で購入してください。)						小テスト:25% 課題:25% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。				
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)				
「英和辞典、和英辞典」						辞書を必ず毎回持参してください。授業中に次回の予習部分を周知するので、分からない単語などは、事前に調べて授業に臨んでください。また、授業への出席は言うまでもなく、課題への積極的な取り組みが重要です。				

科目名	総合英語（総経）Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	非常勤
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 観光英語				
		○								
授業概要										
外国人観光客を街角などで「おもてなし」するための会話表現を習得するとともに、英語コミュニケーション能力を向上させるためのヒントと海外の観光地事情を、主体的なアクティブラーニングを通じて学びながら、英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をスキルアップしていきます。										
学修到達目標										
外国人観光客にシンプルな英語で対応できる会話力と、コミュニケーション能力を、アクティブラーニングによって向上させていく中で、主体的に学び問題解決する力と、様々な価値観を受容する能力を高めていくことが目標です。										
授業の進め方										
個人、ペアやグループでの、アクティブラーニングを中心とした演習形式で行います。具体的には、簡単なディスカッション、街頭インタビュー、プレゼンテーション、ビデオ視聴、会話と音読のトレーニングなどを行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	体験授業(どこでも使える基本フレーズ他)・授業概要				テキストを購入後、テキストの概要を把握。				
2	道案内	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
3	街角	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
4	交通	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
5	食事	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
6	買い物	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
7	プレゼンテーション[1]	街頭インタビュー[1]についての英語プレゼンテーション				プレゼンテーション[1]の準備				
8	観光	前々回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前々回の復習と出席レポート				
9	宿泊	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
10	社会・文化	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
11	交流[1]	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
12	プレゼンテーション[2]	街頭インタビュー[2]についての英語プレゼンテーション				プレゼンテーション[2]の準備				
13	交流[2]	前々回の復習。出席レポートの発表。				前々回の復習と出席レポート				
14	トラブル[1]	前回の復習。出席レポートの発表。				前回の復習と出席レポート				
15	トラブル[2]	前回の復習。出席レポートの発表。				定期試験の準備。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「キクタン英会話【おもてなし】編」一杉武史著(アルク) ISBN:978-4-7574-2636-8(生協で購入してください。) 必須テキストですので、早期に購入をお願いします。		出席レポート:40% 課題:30% 定期試験:30% S:授業内容を高度に理解し実践力を身に付け批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み応用問題が解ける。A:授業内容を理解し実践力を身に付け積極的な探究姿勢をもって課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「辞典(例:ジーニアス英和・和英辞典) 電子辞書を推奨します。」英和・和英辞書を持参してください。		主体的に緊張感を持って取り組みたいという意欲的な姿勢を歓迎します。								

科目名	総合英語（総経）Cクラス	学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	非常勤
担当者	林 英美	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C	~2016年度 観光英語				
○									
授業概要									
この講義の目的は、大学で学ぶ皆さんが、コミュニケーションの手段としての英語を楽しく学び、世界に自分の気持ちを発信できる英語を身につけることです。英語に興味はあるけれど、あまり得意ではない学生でも履修できるように、学び直しができる内容となっています。映像を用いた授業では4技能をバランスよく使いながら、英語だけでなく異文化についても学びます。									
学修到達目標									
コミュニケーションの手段としての英語を楽しく学び、世界に自分の気持ちを発信できる英語を身につけることを目的とします。									
授業の進め方									
海外旅行や生活で使える英語表現を学び、会話練習をします。Listening練習で自然な速度の英語に慣れるように練習します。また英語表現を通じて異文化理解を深めます。単語クイズ、会話テスト、定期試験を通じて包括的に評価します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス、Unit 1	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をします。教科書の構成について説明をし、予習や復習の進め方を説明します。be動詞について学習します。				Unit 1の復習とUnit 2の予習。			
2	Unit 2	可算名詞、府可算名詞について学習します。				Unit 2の復習とUnit 3の予習			
3	Unit 3	一般動詞の現在時制について学習します。				Unit 3の復習とUnit 4の予習をする。(1時間)			
4	Unit 4	代名詞について学びます。				Unit 4の復習とUnit 5の予習をする。(1時間)			
5	Unit 5	一般動詞の過去時制について学びます。				Unit 5の復習とUnit 6の予習をする。(1時間)			
6	Unit 6	進行について学びます。				Unit6の復習とUnit 7の予習をする。(1時間)			
7	Unit 7	will/be going to~について学びます。				Unit7の復習とUnit 8の予習をする。(1時間)			
8	Unit 8	助動詞について学びます。				Unit8の復習とUnit 9の予習をする。(1時間)			
9	Unit 9	前置詞について学びます。				Unit9の復習とUnit 10の予習をする。(1時間)			
10	Unit 10	現在完了について学びます。				Unit10の復習とUnit 11の予習をする。(1時間)			
11	Unit 11	比較について学びます。				Unit10の復習とUnit 11の予習をする。(1時間)			
12	Unit 12	WH疑問文について学びます。				Unit 11の復習とUnit 12の予習をする。(1時間)			
13	Unit 13	動名詞/不定詞について学びます。				Unit 12の復習とUnit 13の予習をする。(1時間)			
14	アウトキャンパススタディ	外国人が多く訪れる観光地に出かけ、これまでに学習してきた事項を活用した街頭インタビューを実施し、日本への海外旅行者の動向について英語で調査する。				アウトキャンパススタディの事後レポートを作成する。(1時間)			
15	これまでの学習まとめ	Unit 1からUnit 13までのまとめ学習をします。				Unit 1~Unit 13までの総復習(1時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「We Love L.A.！」Robert Hickling, Misato Usukura著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4049-5(生協で購入してください。)		定期試験:30%、小テスト:30%、レポート:10%、出席レポート:30% 定期試験には、リスニング試験、筆記試験、会話試験が含まれます。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
英和辞典、和英辞典		会話の練習をたくさんして、使える英語の習得を目指します。これから英語圏へ出かけてみたい方、英語を仕事で使いたい方、英語を学び直したい方、ともに役立つ英語表現を実践的に学びましょう。							

科目名	総合英語 (INT) Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	非常勤
担当者	ミゲル アルバート ション		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 観光英語					
		○								
授業概要										
前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。										
学修到達目標										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。										
授業の進め方										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・Ice Hotel 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
2	Ice Hotel 2	またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The Traveling Chef 1	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	The Traveling Chef 2	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Sail High in the Sky 1	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Sail High in the Sky 2	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	The Mysterious Disappearance of Kaiko 1	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	The Mysterious Disappearance of Kaiko 2	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	An Ocean of Plastic 1	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	An Ocean of Plastic 2	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	Ed Pulaski and the Big Burn 1	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Ed Pulaski and the Big Burn 2	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	The Flying Housewife 1	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	The Flying Housewife 2	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	Blade Runner	Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「READ THIS! 3」Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。						

科目名	総合英語 (INT) Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	非常勤
担当者	イサー フィリップ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 観光英語					
		○								
授業概要										
前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。										
学修到達目標										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。										
授業の進め方										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・Ice Hotel 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
2	Ice Hotel 2	またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The Traveling Chef 1	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	The Traveling Chef 2	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Sail High in the Sky 1	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Sail High in the Sky 2	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	The Mysterious Disappearance of Kaiko 1	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	The Mysterious Disappearance of Kaiko 2	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	An Ocean of Plastic 1	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	An Ocean of Plastic 2	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	Ed Pulaski and the Big Burn 1	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Ed Pulaski and the Big Burn 2	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	The Flying Housewife 1	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	The Flying Housewife 2	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	Blade Runner	Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「READ THIS! 3」Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。						

科目名	総合英語 (INT) クラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 観光英語					
		○								
授業概要										
前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。										
学修到達目標										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。										
授業の進め方										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・Ice Hotel 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
2	Ice Hotel 2	またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The Traveling Chef 1	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	The Traveling Chef 2	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Sail High in the Sky 1	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Sail High in the Sky 2	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	The Mysterious Disappearance of Kaiko 1	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	The Mysterious Disappearance of Kaiko 2	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	An Ocean of Plastic 1	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	An Ocean of Plastic 2	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	Ed Pulaski and the Big Burn 1	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Ed Pulaski and the Big Burn 2	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	The Flying Housewife 1	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	The Flying Housewife 2	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	Blade Runner	Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「READ THIS! 3」Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。						

科目名	総合英語 (総合経営学部)		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UL22103	研究室	非常勤
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 時事英語				
		○								
授業概要										
時事英語の記事、論説、映像、音声を資料にして、インプットとアウトプットすることで、英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)を高めるレニングをします。また、批判的思考を伴うコンテンツを理解して、ペアやグループワークで自分が形成した意見を効果的に発信していきます。										
学修到達目標										
TOEIC(L&R)のスコアアップに役に立つ、記事、論説やニュースなどの情報の要点を、的確かつスピーディーに把握できる能力を強化します。また、論理的で説得力のあるスピーチ原稿を作成すると共に、聞き手に伝わるプレゼンテーション技術を磨いていきます。										
授業の進め方										
アクティブラーニングを実施し、家庭での自律学習が大きな役割をにない、クラスの大半で、自主的に演習に取り組んでいきます。ペアワーク、グループワーク、学び合い・教え合いといったスタイルをとり、課題の発表後には相互にフィードバックをします。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Introduction ネコ派? イヌ派? Do you like cats or dogs?	授業ガイダンスの説明を受けた後に、授業の概要を体験します。 What is critical thinking? (批判的思考とは)				Unit 2 [Flip side] 背景知識のインプット				
2	Unit 2A 社内公用語は英語 English as In-House Language	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング				Unit 2 [Speech Writing]				
3	Unit 2B 社内公用語は英語 English as In-House Language	スピーチの発表とフィードバック。音読トレーニング				Unit 3 [Flip side] 背景知識のインプット				
4	Unit 3A レディファースト Ladies First	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング				Unit 3 [Speech Writing]				
5	Unit 3B レディファースト Ladies First	スピーチの発表とフィードバック。音読トレーニング				Unit 4 [Flip side] 背景知識のインプット				
6	Unit 4A オリンピックの商業化 Are the Olympics Business?	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング				Unit 4 [Speech Writing]				
7	Unit 4B オリンピックの商業化 Are the Olympics Business?	スピーチの発表とフィードバック。音読トレーニング				課題[1]発表の準備				
8	課題[1]の発表	課題[1]の発表とフィードバックの作成。				Unit 5 [Flip side] 背景知識のインプット				
9	Unit 5A 国際結婚 International Marriage	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング				Unit 5 [Speech Writing]				
10	Unit 5B 国際結婚 International Marriage	スピーチの発表とフィードバック。				Unit 6 [Flip side] 背景知識のインプット				
11	Unit6A 遺伝子組み換え食品 Is GM Food Safe?	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング				Unit 6 [Speech Writing]				
12	Unit6B 遺伝子組み換え食品 Is GM Food Safe?	スピーチの発表とフィードバック。				Unit 7 [Flip side] 背景知識のインプット				
13	Unit7A SNSと人間関係 Social Networks and Personal Relations	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング				Unit 7 [Speech Writing]				
14	Unit7B SNSと人間関係 Social Networks and Personal Relations	スピーチの発表とフィードバック。				課題[2]発表の準備				
15	課題[2]の発表	課題[2]の発表とフィードバックの作成。				定期試験の準備。				
テキスト					成績評価の方法・基準					
「意見交換のための英語 リーディングからスピーチへ。」幸重美津子・尾鍋智子・赤尾美和・Carl Nommensen・西山史子著(三修社) ISBN:978-4-384-33467-8(生協で購入してください。) テキストを使って授業が進行しますので、毎回持参してください。					出席レポート:40% 課題:30% 定期試験:30% S:授業内容を高度に理解し実践力を身に付け批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に取り組み難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し実践力を身に付け積極的な探究姿勢で課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおよそを理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し実践することができ、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「辞典(例:ジーニアス英和・和英辞典)」英和辞典を毎回持参してください。電子辞書が便利です。					自主的に緊張感を持って取り組みたいという意欲的な姿勢を歓迎します。					

科目名	総合英語 (総合経営学部)		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22104	研究室	非常勤
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 ビジネス英語				
		○								
授業概要										
ビジネス関連の記事や映像等を基に、自宅学習によって各自で完成させたライティングの課題をクラスでシェアして理解を深めます。また、現場で役に立つ実用的なビジネス英語のリスニングとスピーキングの演習を通して、リアルな職場環境の一例を体感していきます。										
学修到達目標										
TOEIC(L&R)テストに対応する実践的なビジネス英語や、ビジネス・パーソンのためのブログやビデオ等を資料にして、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングに関する知識と技能を高めるとともに、ビジネスで重視される主体的、協働的な取り組みをしながら、具体的な問題把握能力と課題解決能力等を発揮していくことが目標です。										
授業の進め方										
アクティブラーニングを実施します。例えば、ミニ課題をベースにした反転授業、グループ・ディスカッション、ペアワーク、街頭インタビュー、プレゼンテーション等を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	1A Business cards	例題の課題に取り組みながら具体的な授業の流れを把握します。				事後学修：課題の完成と発表練習				
2	1A Business cards	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
3	1B Business cards	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
4	2A Working hours	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
5	2B Working hours	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
6	3A What kind of company?	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
7	3B What kind of company?	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				Presentation[1]の発表練習				
8	Presentation[1]	Presentation[1](課題)の発表。フィードバック。				ミニ課題の完成と発表練習				
9	4A Corporate culture	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
10	4B Corporate culture	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
11	11A Future plans	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
12	11B Future plans	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
13	12A Entertaining	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
14	12B Entertaining	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				Presentation[2]の発表練習				
15	Presentation[2]	Presentation[2](課題)の発表。フィードバック。				定期試験の準備				
テキスト					成績評価の方法・基準					
「Get Ready for Business Level[1] Student Book 生協様、注文は日本出版貿易に願います」 Andrew Vaughan & Dorothy E Zemach著 (MACMILLAN) ISBN:978-0-2300-3979-7 (生協で購入してください。) 生協様、発注は日本出版貿易に願います。 テキストは必須資料ですので、生協で早期の購入をお願いします。					出席レポート：40% 課題：30% 定期試験：30% S：授業内容を高度に理解し実践力を身に付け批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に取り組み難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し実践力を身に付け積極的な探究姿勢で課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C：授業内容の60%程度を理解し実践することができ授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「電子辞典(例：ジーニアス英和・和英辞典)」辞書には、英作文を容易にする例文が豊富に記載されています。毎回持参して自主学習に役立ててください。					松本やその周辺の企業でも、年々国際化が進んでおり、就職後に英会話やTOEICに取り組む人たちが増えています。自主的な姿勢で緊張感を持って受講していきたいという意欲的な姿勢を歓迎します。					

科目名	英会話 Aクラス (総経・人間)		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12105	研究室	非常勤
担当者	フレデリック 加ース		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
		○	A	B	C	~2016年度 英会話 (入門)				
授業概要										
さまざまな日常的な話題について、英語を聞き、話すことを練習します。 We will practice listening and speaking English about a wide variety of everyday topics.										
学修到達目標										
日常的な英会話を修得し、自信を持ってコミュニケーションをとることができる。 Upon finishing this class, students will be able to communicate more confidently in English.										
授業の進め方										
毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。										
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class				Preparation for a test.(1h)				
2	Getting to know each other	Get to know each other game				Write a self-introduction.(1h)				
3	Getting to know each other	Teacher interview				Report on an English reading book.(1h)				
4	Dates and Ordinal Numbers	Japanese holidays and events; Birthdays				Write Japanese holidays.(1h)				
5	Dates and Ordinal Numbers	Describing weather around the world				Write about the weather in your hometown.(1h)				
6	Personal Information	Ask and answer questions about yourself				Write about yourself.(1h)				
7	Personal Information	Japanese celebrities				Write about a Japanese celebrity.(1h)				
8	Likes and Dislikes	Ask about likes and dislikes				Write about something you like.(1h)				
9	Likes and Dislikes	Interviews about likes and dislikes; favorites				Write about your favorite.(1h)				
10	Counters and Singular/Plural	Ogui contest; Review singular/plural				Report on an English reading book.(1h)				
11	Counters and Singular/Plural	Card activity to practice singular/plural				Write about "What 's in my refrigerator." (1h)				
12	Wh- Questions	Question formation; Adverbs of frequency				Write about something you like.(1h)				
13	Wh- Questions	Discussion about interests				Write about a T.V. show or movie you like.(1h)				
14	Can and Can ' t	Talk about abilities				Write about some of the things you can do.(1h)				
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination				Prepare for final examination.(1h)				
テキスト						成績評価の方法・基準				
「Talk a Lot, Starter Book, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。)						課題 : 25% 定期試験 : 25% 授業への参加度 : 25% 努力点 : 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude:25%, Assignments: 25%. S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。				
参考書						履修上の注意 (学生へのメッセージ)				
辞書 Any dictionary						いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.				

科目名	英会話 Bクラス (総経・人間)		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12105	研究室	非常勤
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 英会話 (入門)				
		○								
授業概要										
ナチュラルで実用的な基礎英会話を、考えなくても自動的にできるまでに習得していくために、スピーキングとリスニングのトレーニングと、ペアでの英語コミュニケーションを重ねていきます。まとめとして、ユニットごとのミニ・プレゼンテーションと、2度の総合プレゼンテーションをすることで重要構文を繰り返し復習し、より正確で自由度の高い会話力とコミュニケーション力を高めていきます。										
学修到達目標										
日本語を通さずに直接英語で考えて実用的な基礎英会話ができる達成感を段階的に積み重ねることで、学ぶ意欲と自信を高め、社会にでてからも自主的に学び続けることのできる方法を身に付けていきます。自主的な姿勢で自らとパートナーのコーチになって工夫しながらトレーニングをすることができるようになることをめざします。										
授業の進め方										
アクティブラーニングを実施し、文法事項の予習クイズの後、テキストに沿ってリスニングとペアワークで話す練習をします。クラスの後半では、完成させた総括課題をクラスの中でシェアして学び合います。										
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	現状の英語能力の確認のためにプレイズメント・テストを受けます。				基礎的な英語の総復習。				
2	Unit 1AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
3	Unit 2AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
4	Unit 3AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
5	Unit 4AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
6	Unit 5AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
7	Unit 6AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
8	Presentation[1](課題)	Unit 1-6 テキストを見ないでペアで行う会話試験。				Unit 1-6の総復習				
9	Unit 7AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
10	Unit 8AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
11	Unit 9AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
12	Unit 10AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
13	Unit 11AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
14	Unit 12AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
15	Presentation[2](課題)	Unit 7-12 テキストを見ないでペアで行う会話試験。				Unit 7-12の総復習				
テキスト					成績評価の方法・基準					
「Get Real! New Edition Level [1] Student Book 生協様、注文は日本出版貿易に願います」Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson著 (MACMILLAN) ISBN: 978-0-230-44708-0 (生協で購入してください。) テキストは毎回使用しますので、早期の購入をお願いします。					出席レポート: 30% 課題: 40% 定期試験: 30% S: 授業内容を高度に理解し実践力を身に付け批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に取り組み難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し実践力を身に付け、積極的な探究姿勢で課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおよそを理解し実践することができ、与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C: 授業内容の60%程度を理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意 (学生へのメッセージ)					
「辞書(例: ジーニアス英和・和英辞典など) 電子辞書を推奨します。」辞書には、作文に役立つ例文が豊富にあり、大変便利です。毎回持参して下さい。					授業の大半は演習ですので、皆さん一人一人が主役となって自主的な姿勢で活躍してください。また、お互いに助け合い、学び合っていきましょう。					

科目名	英会話 Cクラス (総経・人間)	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12105	研究室	非常勤
担当者	フレデリック 加ース	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)				
		A	B	C	~2016年度 英会話 (入門)				
○									
授業概要									
さまざまな日常的な話題について、英語を聞き、話すことを練習します。 We will practice listening and speaking English about a wide variety of everyday topics.									
学修到達目標									
日常的な英会話を修得し、自信を持ってコミュニケーションをとることができる。 Upon finishing this class, students will be able to communicate more confidently in English.									
授業の進め方									
毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。									
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class				Preparation for a test.(1h)			
2	Getting to know each other	Get to know each other game				Write a self-introduction.(1h)			
3	Getting to know each other	Teacher interview				Report on an English reading book.(1h)			
4	Dates and Ordinal Numbers	Japanese holidays and events; Birthdays				Write Japanese holidays.(1h)			
5	Dates and Ordinal Numbers	Describing weather around the world				Write about the weather in your hometown.(1h)			
6	Personal Information	Ask and answer questions about yourself				Write about yourself.(1h)			
7	Personal Information	Japanese celebrities				Write about a Japanese celebrity.(1h)			
8	Likes and Dislikes	Ask about likes and dislikes				Write about something you like.(1h)			
9	Likes and Dislikes	Interviews about likes and dislikes; favorites				Write about your favorite.(1h)			
10	Counters and Singular/Plural	Ogui contest; Review singular/plural				Report on an English reading book.(1h)			
11	Counters and Singular/Plural	Card activity to practice singular/plural				Write about "What 's in my refrigerator." (1h)			
12	Wh- Questions	Question formation; Adverbs of frequency				Write about something you like.(1h)			
13	Wh- Questions	Discussion about interests				Write about a T.V. show or movie you like.(1h)			
14	Can and Can ' t	Talk about abilities				Write about some of the things you can do.(1h)			
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination				Prepare for final examination.(1h)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「Talk a Lot, Starter Book, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。)		課題 : 25% 定期試験 : 25% 授業への参加度 : 25% 努力点 : 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude:25%, Assignments: 25%. S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。							
参考書		履修上の注意 (学生へのメッセージ)							
辞書 Any dictionary		いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.							

科目名	英会話 Dクラス (総経・人間)		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12105	研究室	N-02
担当者	マレット ショーン		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限、木曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 英会話 (入門)				
		○								
授業概要										
どんな状況でも自信を持って英語を使えるようにすることがこのコースの目的です。特に、物事を表現したり、意見を述べたり、説明やプレゼンの仕方を学びます。異文化コミュニケーション、クリティカルシンキング、ポキャブラリーの増強、正確な文法、流暢な会話を目指してください。										
学修到達目標										
本コースではスピーキング力を伸ばすために、個人的かつ学術的に興味深いトピックについてディスカッションを行います。「TED Talks」からスピーチを学び、実際に自分の「TED Talks」を作り上げましょう。様々なトピックについて自然で文法的に正しい会話ができるような教材を準備しますので、教員の指示に従い、グループディスカッションやプレゼンで使用するツール持参してください。										
授業の進め方										
積極的に授業に参加すること。教員およびクラスメートの話を注意して聞くこと。全ての授業に出席すること。クラスを休むと宿題が出ます。宿題の内容について教員または級友に連絡すること。予習をして遅刻をせずに授業に来ること。										
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション。	Orientation to this "English Speaking" class. Introduction to the evaluation of this class, as well as to the textbook.				Purchase the textbook, and then become familiar with its format. Study ユニット 1.				
2	ユニット 1- Friends and Family (Lesson 1)	ユニット 1- Friends and Family (Lesson 1)				Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。				
3	ユニット 1- Friends and Family (Lesson2)	ユニット 1- Friends and Family (Lesson2)				Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。				
4	ユニット 1- Friends and Family (Lesson3)	ユニット 1- Friends and Family (Lesson3)				Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。				
5	ユニット 1- Friends & Family (Lesson 4)- Test.	ユニット 1- Friends & Family (Lesson 4)- Chapter Test.				Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。				
6	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 1)	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 1)				Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。				
7	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 2)	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 2)				Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。				
8	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 3)	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 3)				Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。				
9	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 4)- Test.	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 4)- Chapter Test.				Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。				
10	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 1)	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 1)				Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。				
11	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 2)	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 2)				Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。				
12	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 3)	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 3)				Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。				
13	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 4)- Test.	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 4)- Chapter Test.				Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。				
14	ユニット4: Possessions (Lesson 1)	ユニット4: Possessions (Lesson 1)				Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。				
15	ユニット4: Possessions (Lesson 2)	ユニット4: Possessions (Lesson 2) ~The final class of this semester .				Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。				
テキスト					成績評価の方法・基準					
「World English Introduction (Second Edition, 2015)」 Martin Milner, Rebecca Chase, And Kristen Johannsen 著 (National Geographic Learning - Cengage) ISBN:978-1-305-08955-6 (生協で購入してください。)					定期試験 : 30% 各回のプレゼンテーションに対する評価 70%					
参考書					履修上の注意 (学生へのメッセージ)					
「Any English language dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.					

科目名	英会話 Aクラス (総経・人間)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12106	研究室	N-02
担当者	マレット ショーン		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限、水曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 英会話 (基礎)				
		○								
授業概要										
どんな状況でも自信を持って英語を使えるようにすることがこのコースの目的です。特に、物事を表現したり、意見を述べたり、説明やプレゼンの仕方を学びます。異文化コミュニケーション、クリティカルシンキング、ポキャブラリーの増強、正確な文法、流暢な会話を目指してください。										
学修到達目標										
本コースではスピーキング力を伸ばすために、個人的かつ学術的に興味深いトピックについてディスカッションを行います。「TED Talks」からスピーチを学び、実際に自分の「TED Talks」を作り上げましょう。様々なトピックについて自然で文法的に正しい会話ができるような教材を準備しますので、教員の指示に従い、グループディスカッションやプレゼンで使用するツール持参してください。										
授業の進め方										
積極的に授業に参加すること。教員およびクラスメートの話を注意して聞くこと。全ての授業に出席すること。クラスを休むと宿題が出ます。宿題の内容について教員または級友に連絡すること。予習をして遅刻をせずに授業に来ること。										
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション。	Orientation to this "English Speaking II" class. Introduction to the evaluation of this second semester class, as well as to the latter half of the textbook.				Refresh yourself with the textbook. Study the latter half of ユニット 4.				
2	ユニット4: Possessions (Lesson 3)	ユニット4: Possessions (Lesson 3)				Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。				
3	ユニット4: Possessions (Lesson 4) ~ Chapter Test.	ユニット4: Possessions (Lesson 4) ~ Chapter Test.				Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。				
4	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 1)	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 1)				Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。				
5	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 2)	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 2)				Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。				
6	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 3)	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 3)				Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。				
7	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 4) ~ Chapter Test.	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 4) ~ Chapter Test.				Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。				
8	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 1)	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 1)				Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。				
9	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 2)	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 2)				Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。				
10	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 3)	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 3)				Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。				
11	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 4) - Chapter Test	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 4) - Chapter Test				Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。				
12	ユニット 7: Free Time (Lesson 1)	ユニット 7: Free Time (Lesson 1)				Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。				
13	ユニット 7: Free Time (Lesson 2)	ユニット 7: Free Time (Lesson 2)				Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。				
14	ユニット 7: Free Time (Lesson 3)	ユニット 7: Free Time (Lesson 3)				Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。				
15	ユニット 7: Free Time (Lesson 4) - Chapter Test.	ユニット 7: Free Time (Lesson 4) - Chapter Test.				Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「World English Introduction (Second Edition, 2015)」 Martin Milner, Rebecca Chase, And Kristen Johannsen 著 (National Geographic Learning - Cengage) ISBN:978-1-305-08955-6 (生協で購入してください。)		定期試験: 30% 各回のプレゼンテーションに対する評価 70%								
参考書		履修上の注意 (学生へのメッセージ)								
「Any English language dictionary.」		Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.								

科目名	英会話 Bクラス (総経・人間)	学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12106	研究室	非常勤	
担当者	ルティック 加-ス	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-				
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度 (読替科目)								
		A	B	C	~2016年度 英会話 (基礎)					
		○								
授業概要										
<p>さまざまな日常的话题について、英語を聞き、話すことを練習します。 We will practice listening and speaking English about a wide variety of everyday topics.</p>										
学修到達目標										
<p>英会話 で修得した英語能力をさらに向上させ、さまざまな日常的话题について自信をもってコミュニケーションをとることができる。 Upon finishing this class, students will be able to communicate more confidently in English.</p>										
授業の進め方										
<p>毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。</p>										
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class					Preparation for a test.(1h)			
2	Simple Present and Describing Things	Listen and guess the creature; Simple present					Report on an English reading book.(1h)			
3	Simple Present and Describing Things	Describing food; Food crossword					Write a description of an animal or insect.(1h)			
4	Family	Talk about relatives					Bring family pictures.(1h)			
5	Family	Ask and answer questions about family and pets					Report on an English reading book.(1h)			
6	Simple Past: Questions and Stories	Ask and answer questions about what you did yesterday, last weekend					Write about what you did last weekend.(1h)			
7	Simple Past: Questions and Stories	Telling a story					Finish the story on page 33.(1h)			
8	Jobs	Talk about jobs and what they are like					Report on an English reading book.(1h)			
9	Jobs	Talk about jobs					Describe a job.(1h)			
10	Making Comparisons	Study comparison forms, then play the Comparison Game					Write a comparison of two things.(1h)			
11	Making Comparisons	Ask and answer comparison and superlative questions					Write about the most ____ in your life.(1h)			
12	Numbers	Numbers: pronunciation, bingo, math game, tell time					Write about your daily schedule.(1h)			
13	Numbers	Ask and answer questions about your daily schedule					Write about what you did today.(1h)			
14	Present and Past Progressive	Ask and answer questions about actions					Be ready to play the Action Game.(1h)			
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination					Prepare for final examination.(1h)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
「Talk a Lot, Starter Book, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。)		<p>課題：25% 定期試験：25% 授業への参加度：25% 努力点：25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude:25%, Assignments: 25%, S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。</p>								
参考書		履修上の注意 (学生へのメッセージ)								
辞書 Any dictionary		いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.								

科目名	英会話 Cクラス (総経・人間)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12106	研究室	非常勤
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 英会話 (基礎)				
		○								
授業概要										
前期より上級の文法事項を含むナチュラルで実用的な基礎英会話を、自動的にできるまでに習得していくために、話す・聴くの演習とペアでの英語コミュニケーションを重ねていきます。まとめとして、ユニットごとのミニ・プレゼンテーションと2度の課題発表をすることで、重要構文を繰り返し復習し、より正確で自由度の高い会話力とコミュニケーション力を高めていきます。										
学修到達目標										
日本語を通さずに直接英語で考えて実用的な基礎英会話ができる達成感を段階的に積み重ねることで、学ぶ意欲と自信を高めて、社会にでてからも自主的に学び続けることのできる方法を身に付けていきます。自主的な姿勢で自らとパートナーのコーチになって工夫しながらトレーニングをすることができるようになることをめざします。										
授業の進め方										
アクティブラーニングを実施し、文法事項の予習クイズの後、テキストに沿ってリスニングとペアワークで話す練習をします。クラスの後半では、完成させた総括課題をクラスの中でシェアして学び合います。										
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス	現状の英語能力の確認のためにプレイズメント・テストを受けます。					基礎的な英語の総復習。			
2	Unit 1AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
3	Unit 2AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
4	Unit 3AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
5	Unit 4AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
6	Unit 5AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
7	Unit 6AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
8	Presentation[1](課題)	Unit 1-6 テキストを見ないでペアで行う会話試験。					Unit 1-6の総復習			
9	Unit 7AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
10	Unit 8AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
11	Unit 9AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
12	Unit 10AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
13	Unit 11AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
14	Unit 12AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。					予習クイズの準備			
15	Presentation[2](課題)	Unit 7-12 テキストを見ないでペアで行う会話試験。					Unit 7-12の総復習			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「Get Real! New Edition Level[2] Student Book 生協様、注文は日本出版貿易に願います」Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson著 (MACMILLAN) ISBN: 978-0-230-44710-3 (生協で購入してください。) テキストは毎回使用しますので、早期の購入をお願いします。					出席レポート: 30% 課題: 40% 定期試験: 30% S: 授業内容を高度に理解し実践力を身に付けて批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に誠実に取り組み難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し実践力を身に付けて積極的な探究姿勢で課題に取り組みや難しい応用問題が解ける。 B: 授業内容のおおよそを理解し実践力を身に付けて与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C: 授業内容の60%程度を理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意 (学生へのメッセージ)					
「辞書(例: ジーニアス英和・和英辞典など) 電子辞書を推奨します。」 辞書には、作文に役立つ例文が豊富にあり、大変便利です。 毎回持参して下さい。					授業の大半は演習ですので、皆さん一人一人がクラスの主役となって自主的な姿勢で活躍してください。また、お互いに助け合い、学び合いましょう。					

科目名	英会話 (総合経営学部)		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UL22107	研究室	非常勤
担当者	ルデリック ガース		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 ホテル英会話				
		○								
授業概要										
ホテルで、あるいはレストランで使われる、基礎的で実践的な英語を学びます。働く時の英語コミュニケーション能力を高めるのがねらいです。 We will study the basic, practical English used in hotels and restaurants. Improve your ability to communicate in English when working.										
学修到達目標										
ホテルやホスピタリティ業界で働くための基礎英語力を身につけている。 After finishing the class, students will feel more confident with the English required to work in the hotel and hospitality industry.										
授業の進め方										
各単元はリスニングから始まり、次に役に立つ語彙や文法の学習へ移ります。練習は、最初は型にはまったものから次第に自由なものになります。また練習は、個人、ペア、小グループで行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class				Prepare to talk about an English reading book.(1h)				
2	Introductions	Names, nationalities and jobs at hotels				Prepare to talk about an English reading book.(1h)				
3	Check-in	Handling reservations				Write Personal Job File, p. 71.(1h)				
4	Hotel bedroom	Describing with "There is/are"				Draw a hotel bedroom and describe it.(1h)				
5	Hotel services	Talking about what the hotel can do for guests				Write Personal Job File, p. 73.(1h)				
6	Hotel facilities	Talking about hotel facilities				Write Personal Job File, p. 74.(1h)				
7	Room services	Responding to requests from guests				Write Personal Job File, p. 75.(1h)				
8	Problems and Solutions	Handling complaints; helping guests				Write Personal Job File, p. 8.(1h)				
9	Taking bar orders	Taking orders in the bar; describing drinks				Write Personal Job File, p. 77.(1h)				
10	In the restaurant (1)	Taking orders in the restaurant				Write Personal Job File, p. 78.(1h)				
11	In the restaurant (2)	Describing food				Write Personal Job File, p. 79.(1h)				
12	Enquiries	Handling questions from guests				Write Personal Job File, p. 80.(1h)				
13	Using the phone	Telephone procedures; being polite to guests				Write a telephone conversation.(1h)				
14	Check-out	Checking guests out; paying bills				Write a check-out conversation.(1h)				
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination				Prepare for final examination.(1h)				
テキスト					成績評価の方法・基準					
「Be My Guest, English for the Hotel Industry」(Cambridge University Press)(生協で購入してください。)					授業への参加度25%、努力点25%、宿題25%、定期試験25% Assignments: 25%, Effort: 25%, Homework: 25%, Final examination: 25% S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
辞書 Any dictionary					いつでもメールで連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.					

科目名	英会話 (総合経営学部)		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22108	研究室	非常勤
担当者	ルデリック ガース		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 トラベル英会話				
		○								
授業概要										
移動中、ホテルで、あるいはレストランで使われる、基礎的で実践的な英語を学びます。旅行の時の英語コミュニケーション能力を高めるのがねらいです。 We will study the basic, practical English used in transportation, at hotels, restaurants, etc. Improve your ability to communicate in English when traveling.										
学修到達目標										
旅行するための基礎英語力を身につけている。 When the class is finished, students will feel more confident using English in travel situations.										
授業の進め方										
各単元はリスニングから始まり、次に役に立つ語彙や文法の学習へ移ります。練習は、最初は型にはまったものから次第に自由なものになります。また練習は、個人、ペア、小グループで行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class				Prepare to talk about an English reading book (1h)				
2	Introduction; Where are you from?	Talking about people and travel				Write about some place you'd like to visit (1h)				
3	On the airplane	Asking and answering requests on the airplane and at the airport				Listen to the CD and write the conversation (1h)				
4	Landing in a new country	Asking and answering questions at immigration				Write a conversation for "Activity." (1h)				
5	Talking about your family	Ask and answer questions about your family.				Bring some pictures of your family (1h)				
6	On a homestay	Ask and answer requests at the host's home				Write a conversation between host and guest (1h)				
7	Ordering at a restaurant	Conversations at a restaurant; describing food				Write a conversation for "Activity." (1h)				
8	Destination: the U.K.	Talk about the U.K.; Compare Japan and the U.K.				Write about your trip to the U.K. (1h)				
9	Directions	Asking for and giving directions				Give directions in New York (1h)				
10	Banking	Using ATMs; changing money				Write a conversation at the bank (1h)				
11	Staying at a hotel	Making reservations; checking in; requests at a hotel				Write a phone conversation for "Activity." (1h)				
12	Talking about minor medical problems	Conversations at a pharmacy				Write a conversation at the pharmacy (1h)				
13	Talking about countries	Talk about Japan and other countries				Write about your hometown (1h)				
14	Destination: New Zealand	Talk about New Zealand; Compare Japan and New Zealand				Write about your trip to New Zealand (1h)				
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination				Prepare for final examination (1h)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「Passport to New Places: English for International Communication」(生協で購入してください。)		授業への参加度25%、定期試験25%、努力点25%、宿題25% Assignments: 25%, Effort: 25%, Homework: 25%, Final examination: 25% S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
辞書 Any dictionary		いつでもメールで連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.								

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバ`リ`ン`グ`	UL12109	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`ワ`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレシメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。				自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2)				Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5)				Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1)				Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)				Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2)				Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4)				Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7)				Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7)				Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 小テスト	Lesson5 問かけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2)				Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5)				Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6)				Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバ`リ`ン`グ`	UL12109	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`ワ`ー`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。				自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2)				Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5)				Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1)				Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)				Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2)				Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4)				Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7)				Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7)				Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 小テスト	Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2)				Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5)				Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6)				Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバ`リ`ン`グ`	UL12109	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。				自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2)				Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5)				Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1)				Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)				Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2)				Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4)				Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7)				Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7)				Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 小テスト	Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2)				Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5)				Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6)				Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」を受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバ`リ`ン`グ`	UL12109	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`ワ`ー`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で370点以上取得することを目指します。プレシメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC L&R で320点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。				自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2)				Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5)				Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1)				Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)				Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2)				Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4)				Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7)				Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7)				Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 小テスト	Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2)				Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5)				Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6)				Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12109	研究室	非常勤
担当者	清澤 理恵		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
授業概要										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけでなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC」を通してTOEIC Bridge 140点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC Bridge 120点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。										
授業の進め方										
講義形式ではなく受講生のみなさんの参加形式です。英語を声に出し会話を楽しみながら、文法演習やTOEICの演習問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。				自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間)				
2	TOEIC Bridge演習(1回目) 課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。				テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題				文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題				文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト Part 2 When 単語テスト				実践テストの復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who				文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題)				文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト				文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題)				文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題)				文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習				文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
14	TOEIC Bridge演習(2回目) 課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト				間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間)				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。				授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3 (生協で購入してください。) 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4053046499 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバ'リング	UL12109	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
授業概要										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけでなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC」を通してTOEIC Bridge 130点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC Bridge 110点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。										
授業の進め方										
講義形式ではなく受講生のみなさんの参加形式です。英語を声に出し会話を楽しみながら、文法演習やTOEICの演習問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。				自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間)				
2	TOEIC Bridge演習(1回目) 課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。				テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題				文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題				文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト Part 2 When 単語テスト				実践テストの復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who				文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題)				文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト				文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題)				文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題)				文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習				文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
14	TOEIC Bridge演習(2回目) 課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト				間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間)				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。				授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。) 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Gクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12109	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
授業概要										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけで使うものではなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC」を通してTOEIC Bridge 120点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
学修到達目標										
TOEIC Bridge 100点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。										
授業の進め方										
講義形式ではなく受講生のみなさんの参加形式です。英語を声に出し会話を楽しみながら、文法演習やTOEICの演習問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。				自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間)				
2	TOEIC Bridge演習(1回目) 課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。				テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題				文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題				文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト Part 2 When 単語テスト				実践テストの復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who				文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題)				文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト				文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題)				文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題)				文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習				文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
14	TOEIC Bridge演習(2回目) 課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト				間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間)				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。				授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。) 「はじめてのTOEIC受験」霜村和久著(センゲージラーニング) ISBN:9784863121812(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です						

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
授業概要										
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。										
学修到達目標										
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
前期「TOEIC I」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
授業概要										
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。										
学修到達目標										
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
前期「TOEIC 1」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) 「新TOEIC TEST 初心者特急 読解編」神崎正哉、TEX加藤著(朝日新聞出版) ISBN:978-4023313231(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
授業概要										
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。										
学修到達目標										
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
前期「TOEIC I」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) 「新TOEIC TEST 初心者特急 読解編」神崎正哉、TEX加藤著(朝日新聞出版) ISBN:978-4023313231(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
授業概要										
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。										
学修到達目標										
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで370点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
授業の進め方										
前期「TOEIC I」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	清澤 理恵		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
	○		A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)				
授業概要										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。										
学修到達目標										
TOEIC Bridgeで140点を目標せる英語力を身につけている。 英語での基本的な応答がスムーズにできる。 リーディングに必要な、基本的スキルを身につけている。										
授業の進め方										
前半はリスニング力の習得に力を入れながら、同時に会話練習を行って、楽しみながら基本的なコミュニケーション能力を身につけます。後半では、文法・読解問題演習を増やし、TOEIC Bridgeテストでのスコアアップを目指します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	前期を振り返り、目標を達成するために何が必要かを確認します。				前期の内容を復習して授業に臨む。宿題として自己学習の目標を立てる。(1時間)				
2	学習方法の確認と実践 文法演習 リスニング Part 2	英語学習に必要な学習方法を確認 基本文法(過去完了進行形)の問題演習 Part 2 手段・程度				文法復習、テキストP. 28-29の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(未来を表す表現・未来進行形と未来完了形)の問題演習 Part 2 一般疑問文・平叙文 Part 5 料理法				文法復習、テキストP. 30-31、88-89の復習と音読、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(仮定法過去・仮定法過去完了)の問題演習 Part 2 付加疑問文・否定疑問文 Part 5 広告・記事(基礎問題)				文法復習、テキストP. 32、90-91の復習と音読筆写、単語リスト、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	実践テスト、小テスト Part 2 選択疑問文 Part 5 広告・記事(実践問題)				実践テスト 復習、テキストP. 33、122の復習と音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(分詞・受動態)の問題演習 Part 3 Where Part 5 広告・記事(実践問題)				文法復習、テキストP. 40、123の復習と音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(受動態のいろいろな形)の問題演習 実践テスト Part 3 Who、Part 5 広告・記事(実践問題)				文法復習、テキストP. 41、126の復習と音読練習、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞・不定詞を使った文)の問題演習 Part 3 When Part 5 掲示文(基礎問題)				文法復習、テキストP. 42、92-93の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞のいろいろな形・動名詞)の問題演習 Part 3 How、Part 5 掲示文(実践問題) 単語テスト				文法復習、テキストP. 43-44、121の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞と動名詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 3 What、Part 5 Eメール(基礎問題)				文法復習、テキストP. 45、94-95の復習と音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(関係代名詞・そのほかの関係代名詞)の問題演習 Part 3 Why Part 5 Eメール(実践問題)				文法復習、テキストP. 46、124の音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(注意すべき関係代名詞・関係副詞)の問題演習 Part 4 実践問題演習、Part 3 交通機関 Part 5 手紙(実践問題)				文法復習、テキストP. 47、113-114、125の復習と音読練習、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 1-3 時間配分について	基本文法(関係代名詞と関係副詞のちがい)の問題演習 Part 1-2 通し練習、Part 3 ガイドツアー 時間配分確認、単語テスト				文法復習、テキストP. 48の復習と音読、単語リスト1-6、Eラーニング(1時間)				
14	通し練習振り返り 文法演習 リスニング Part 3	課題の通し練習を振り返り、課題分析 基本文法(比較級・最上級)の問題演習 実践テスト、Part 4 実践問題演習、Part 3 電話メッセージ				文法復習、テキストP. 49、115-116の復習と音読練習、単語リスト7、Eラーニング(1時間)				
15	リスニング Part 2-3	Part 4 実践問題演習 Part 2-3 部分的に通して練習し、テスト対策				テキストP. 113-118、間違った個所の復習と音読練習、単語リスト1-7、Eラーニング(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「TOEIC Bridgeスピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサ・チ出版) ISBN:978-4901429573(生協で購入してください。) 「TOEICテスト 英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版)(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で指示します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
授業概要										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。										
学修到達目標										
TOEIC Bridgeで130点を目標せる英語力を身に着けている。 英語での基本的な応答がスムーズにできる。 リーディングに必要な、基本的スキルを身に着けている。										
授業の進め方										
前半はリスニング力の習得に力を入れながら、同時に会話練習を行って、楽しみながら基本的なコミュニケーション能力を身につけます。後半では、文法・読解問題演習を増やし、TOEIC Bridgeテストでのスコアアップを目指します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	前期を振り返り、目標を達成するために何が必要かを確認します。				前期の内容を復習して授業に臨む。宿題として自己学習の目標を立てる。(1時間)				
2	学習方法の確認と実践 文法演習 リスニング Part 2	英語学習に必要な学習方法を確認 基本文法(過去完了進行形)の問題演習 Part 2 手段・程度				文法復習、テキストP. 28-29の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(未来を表す表現・未来進行形と未来完了形)の問題演習 Part 2 一般疑問文・平叙文 Part 5 料理法				文法復習、テキストP. 30-31、88-89の復習と音読、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(仮定法過去・仮定法過去完了)の問題演習 Part 2 付加疑問文・否定疑問文 Part 5 広告・記事(基礎問題)				文法復習、テキストP. 32、90-91の復習と音読筆写、単語リスト、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	実践テスト、小テスト Part 2 選択疑問文 Part 5 広告・記事(実践問題)				実践テスト 復習、テキストP. 33、122の復習と音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(分詞・受動態)の問題演習 Part 3 Where Part 5 広告・記事(実践問題)				文法復習、テキストP. 40、123の復習と音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(受動態のいろいろな形)の問題演習 実践テスト Part 3 Who、Part 5 広告・記事(実践問題)				文法復習、テキストP. 41、126の復習と音読練習、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞・不定詞を使った文)の問題演習 Part 3 When Part 5 掲示文(基礎問題)				文法復習、テキストP. 42、92-93の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞のいろいろな形・動名詞)の問題演習 Part 3 How、Part 5 掲示文(実践問題) 単語テスト				文法復習、テキストP. 43-44、121の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞と動名詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 3 What、Part 5 Eメール(基礎問題)				文法復習、テキストP. 45、94-95の復習と音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(関係代名詞・そのほかの関係代名詞)の問題演習 Part 3 Why Part 5 Eメール(実践問題)				文法復習、テキストP. 46、124の音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(注意すべき関係代名詞・関係副詞)の問題演習 Part 4 実践問題演習、Part 3 交通機関 Part 5 手紙(実践問題)				文法復習、テキストP. 47、113-114、125の復習と音読練習、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 1-3 時間配分について	基本文法(関係代名詞と関係副詞のちがい)の問題演習 Part 1-2 通し練習、Part 3 ガイドツアー 時間配分確認、単語テスト				文法復習、テキストP. 48の復習と音読、単語リスト1-6、Eラーニング(1時間)				
14	通し練習振り返り 文法演習 リスニング Part 3	課題の通し練習を振り返り、課題分析 基本文法(比較級・最上級)の問題演習 実践テスト、Part 4 実践問題演習、Part 3 電話メッセージ				文法復習、テキストP. 49、115-116の復習と音読練習、単語リスト7、Eラーニング(1時間)				
15	リスニング Part 2-3	Part 4 実践問題演習 Part 2-3 部分的に通して練習し、テスト対策				テキストP. 113-118、間違った個所の復習と音読練習、単語リスト1-7、Eラーニング(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「TOEIC Bridgeスピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサ-チ出版) ISBN:978-4901429573(生協で購入してください。) 「TOEICテスト 英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4053046499(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で指示します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Gクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
授業概要										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。										
学修到達目標										
TOEIC Bridgeで120点を目標せる英語力を身に着けている。 英語での基本的な応答がスムーズにできる。 リーディングに必要な、基本的スキルを身に着けている。										
授業の進め方										
前半は前期に引き続き、リスニング力の習得に力を入れながら、同時に会話練習を行って、楽しみながら基本的なコミュニケーション能力を身につけます。後半では長文問題演習を増やし、TOEIC Bridgeテストでのスコアアップを目指します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。				自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間)				
2	TOEIC Bridge演習(1回目) 課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。				テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題				文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題				文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト Part 2 When 単語テスト				実践テスト の復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who				文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題)				文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト				文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題)				文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題)				文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習				文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
14	TOEIC Bridge演習(2回目) 課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト				間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間)				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。				授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3 (生協で購入してください。) 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4053046499 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
学修到達目標										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
授業の進め方										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
学修到達目標										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
授業の進め方										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
学修到達目標										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
授業の進め方										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
学修到達目標										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
授業の進め方										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	宮坂 るみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
学修到達目標										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
授業の進め方										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	田邊 雅彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
学修到達目標										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
授業の進め方										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)					
○										
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。										
授業の進め方										
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)			
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) 「TOEIC L&R TEST 標準模試2」神崎正哉、ダニエル・ワーリナ著(IBC/ブリッシング) ISBN:978-4794604668 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。					

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤	
担当者	春日 啓子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)						
○											
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) 「TOEIC L&R TEST 標準模試2」神崎正哉、ダニエル・ワーリナ著(IBC/ブリッシング) ISBN:978-4794604668 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤	
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)						
○											
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤	
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
○			A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)					
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤	
担当者	宮坂 るみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)					
○											
授業概要 TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標 TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方 この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤
担当者	田邊 雅彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)				
		○								
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。										
授業の進め方										
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。				前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	中国語（基礎）（総合経営学部）		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UL22113	研究室	非常勤
担当者	中島 暉		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
本講義は中国語の発音と簡単な会話を学び、中国語の基礎を身に付けることを目的とします。本講義はテキストを用いて、その内容を「聴く、話す、読む、書く」という練習を繰り返すことによって、標準的な発音および会話能力の定着をはかります。										
学修到達目標										
受信するだけではなく発信にも使えるような基礎的な文法と会話表現を身に付けることが具体的な目標です。										
授業の進め方										
声を出すことを大切に、ロールプレイ形式で練習します。授業に合わせて中国の食文化、習慣などを紹介していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス、中国語とは	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明をします。中国語の特徴を紹介します。				テキストP6とP7を事前に予習する。（1時間）				
2	発音「単母音」、声調	中国語の発音（ピンイン）と声調（四声）について説明をします。発音練習を行います。				前回授業内容について復習をする。（1時間）				
3	発音「子音」、挨拶	発音「子音」と簡単な挨拶について説明をします。発音練習を行います。				テキストP9を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
4	発音「子音」、自己紹介	発音「子音」と名前の言い方について説明をします。発音と会話練習を行います。				テキストP9とP14を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
5	発音「複合母音」、自己紹介	発音「複合母音」と「出身地、職業」の言い方について説明をします。発音と会話練習を行います。				テキストP14とP15を事前に読み、P16の問題練習をする。（1時間）				
6	発音「複合母音」、物事の尋ね方（指示代名詞、疑問詞）	発音「複合母音」と「これは何ですか？」の使い方について説明をします。発音と会話練習を行います。				テキストP19を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
7	発音「鼻母音」	前回学習した内容を使い、会話練習を行います。				テキストP10とP18を事前に読み、P20の問題練習をする。（1時間）				
8	動詞の文	「動詞の文」について説明をします。会話練習を行います。				テキストP22とP23を事前に読み、P24の問題練習をする。（1時間）				
9	量詞、形容詞の文、買い物	「量詞」、「形容詞の文」と「買い物」をする時に使う表現について説明をします。会話練習を行います。				教科書P26とP27を事前に読み、P28の問題練習をする。（1時間）				
10	数字、日付、時刻	「数字」、「日付」と「時刻」の使い方について説明をします。会話練習を行います。				教科書P30とP31を事前に読み、P32の問題練習をする。（1時間）				
11	完了、助動詞、食事	「完了」、「助動詞」と「食事」の時に使う表現について説明をします。小テストを行います。				テキストP33～P35を事前に読み、P36問題練習する。（1時間）				
12	所在	「所在」を表す表現について説明をします。「～は～にある・いる」と「～したい」を使い、会話練習を行います。				テキストP35を事前に読み、授業内容について復習する。（1時間）				
13	介詞、反復疑問文、家族名称	「介詞」、「反復疑問文」と「家族名称」の呼び方について説明をします。				教科書P39を事前に読み、授業内容について復習する。（1時間）				
14	存在、家族構成	「存在」と「家族構成」の言い方について説明をします。会話練習を行います。				教科書P38を事前に読み、P40の問題を練習する。（1時間）				
15	講義全体まとめ	これまで学習した内容をまとめます。				テキストP8～P40の内容について目を通し、全体の復習をする。（1時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「中国語はじめの一步」竹島金吾 監修 尹景春・竹島毅著（白水社） ISBN:978-4-560-06925-7（生協で購入してください。） 必要に応じて、プリントを配布します。				小テスト：30% 定期試験：40% 受講態度：30% S:各回の授業内容を十分理解するとともに、自ら意欲的に課題を取り組み、授業で学んだことを95%以上ができる。A:各回の授業内容を理解するとともに、積極的に課題を取り組み、授業で学んだことを80%以上ができる。B:授業内容について概ね理解し、課題を取り組み、授業で学んだことを70%以上ができる。C:授業内容について理解し、授業で学んだことを60%以上ができる。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
特にありません				授業中恥ずかしがらずに声を出して、練習をしましょう。予習と復習を行ってください。						

科目名	中国語（展開）（総経・人間）		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22114	研究室	非常勤
担当者	中島 暉		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件	中国語 を修得していること				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
本講義では、学習した中国語 をベースに、さらに具体的、実践的な場面での会話能力を習得します。本講義はテキストを用い、その内容を「聴く、話す、読む、書く」という練習を繰り返すことによって、標準的な発音および会話能力の習得を目指します。										
学修到達目標										
受信するだけでなく発信にも使えるような会話能力を身に付けることが具体的な目標です。										
授業の進め方										
声を出すことを大切に、ロールプレイ形式で練習することを重視します。中国文化についても紹介し、異文化への理解を深めていきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス、発音（ピンイン）の確認	授業概要、学習目標、授業の進め方、成績評価の仕方について説明をします。発音（ピンイン）の確認をします。				学習した「中国語」の内容について復習をする。（1時間）				
2	時間量、助動詞、介詞	「時間量」、「助動詞」と「介詞」について説明をします。				テキストP43を事前に読む。授業内容について復習をする。（1時間）				
3	アルバイト	前回学習した内容を使い、「一週間に何回アルバイトがありますか？」などの会話練習を行います。				テキストP41とP42を事前に読む。P44の問題を練習する。（1時間）				
4	過去型、強調	「過去形」と「強調」について説明をします。				テキストP47を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
5	介詞、応用	「介詞」、「～したことがある」と「～が～に」の使い方について説明をします。				テキストP47を事前に読み、P48の問題を練習する。（1時間）				
6	旅行	「あなたは旅行が好きですか？」、「アメリカに行った事がありますか？」などの会話練習を行います。				テキストP46を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
7	動作の様態、助動詞	「動作の様態」と「助動詞」について説明をします。				テキストP51を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
8	動詞の重ね型	「動詞の重ね型」について説明をします。				テキストP51を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
9	できる（能力的・条件的・習得する）	「できる」を使い、会話練習を行います。				テキストP50を事前に読み、P52の問題を練習する。（1時間）				
10	動作の進行、選択疑問	「動作の進行」と「選択疑問」について説明をします。				テキストP55を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
11	趣味	前回学習した内容を使い、会話練習を行います。小テストを行います。				テキストP53～P55を事前に読み、P56の問題を練習する。（1時間）				
12	比較、2つの目的語をもつ文	「比較」と「2つの目的語をもつ文」について説明をします。				テキストP59を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
13	予定	前回学習した内容を使い、会話練習を行います。				テキストP57～P59を事前に読み、P60の問題を練習する。（1時間）				
14	作文（自己紹介）	学生自身が実際に中国語で「自己紹介」の作文を書いてみます。				テキストP61を事前に読んでください。（1時間）				
15	講義全体まとめ	これまで学習した内容をまとめます。				テキストP43～P60の内容について復習をする。（1時間）				
テキスト					成績評価の方法・基準					
「中国語ははじめの一步」竹島金吾 監修 尹景春・竹島毅著（白水社） ISBN:978-4-560-06925-7（生協で購入してください。） ・必要に応じて、プリントを配布します。					受講態度：30% 小テスト：30% 定期試験：40% S:各回の授業内容を十分理解するとともに、自ら意欲的に課題を取り組み、授業で学んだことを95%以上ができる。A:各回の授業内容を理解するとともに、積極的に課題を取り組み、授業で学んだことを80%以上ができる。B:授業内容について概ね理解し、課題を取り組み、授業で学んだことを70%以上ができる。C:授業内容について理解し、授業で学んだことを60%以上ができる。					
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）					
特にありません。					授業中恥ずかしがらずに声を出して、練習を行いましょう。予習と復習を行ってください。					

科目名	ハングル（基礎）（総合経営学部）		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	UL22115	研究室	非常勤
担当者	林 英美		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
ハングルとは、元来朝鮮半島で使われている言語（韓国語・朝鮮語）を表記するために用いられている文字のことを示しますが、この授業では科目の名称として使用しています。この科目では韓国語・朝鮮語の文字と発音を習得します。また、韓国語の文章が読めるようになり、簡単な日常会話を身につけることを目的とします。										
学修到達目標										
履修生は、ハングルの文字の発音の基礎について学び、読み書きができるようになることを目的とします。また、韓国語の文章が読めるようになり、簡単な日常会話を話せるようになることを目的とします。										
授業の進め方										
主にテキストの内容に沿って授業を進めます。書き取り・聞き取り・カードゲームなど様々なミニテストを実施し、会話練習にも取り組みます。ハングル歌・映画・ドラマ等を紹介するほか、朝鮮半島の文化風習についても紹介します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス ハングル・韓国語・朝鮮語について	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をします。ハングルで用いられている記号の説明をし、韓国語・朝鮮語がどのような言語であるのかを紹介します。				テキスト第1課1と2を読んで、授業内容の復習をする。(1時間)				
2	単母音、ヤ行	単母音、ヤ行について学びます。				テキストP10～18の復習と予習をする。(1時間)				
3	ワ行	ワ行について学びます。				テキストP14～17の復習と予習をする。(1時間)				
4	平音	平音について学ぶ。				テキストP18～25の復習と予習をする。(1時間)				
5	激音・濃音	激音と濃音について学ぶ。				テキストP18～27の復習をする。(1時間)				
6	有声音化	平音の有声音化について学ぶ。				テキストP26～32の復習をする。(1時間)				
7	これまでのまとめ	テキスト第1課と第2課のまとめをする。				テキストP10～32の復習をし、P33～35までの予習をする。(1時間)				
8	パッチム(1)	鼻音と流音について学ぶ。				テキストP33～39の復習と予習をする。(1時間)				
9	パッチム(2)	口音と日本語のハングル表記について学ぶ。				テキストP36～43の復習と予習をする。(1時間)				
10	発音規則(1)	連音化、hの弱音化・無音化について学ぶ。				テキストP40～45の予習と復習をする。(1時間)				
11	発音規則(2)	濃音化について学ぶ。				テキストP44～47の復習と予習をする。(1時間)				
12	発音規則(3)	激音化について学ぶ。				テキストP48～49の復習をする。(1時間)				
13	発音規則(4)	口蓋音化・流音化について学ぶ。				テキストP32～35の復習をする。(1時間)				
14	アウトキャンパススタディ	韓国文化を実体験し、韓国語とそれにまつわる文化的理解を深める。				アウトキャンパススタディに関するレポートを書く。				
15	講義全体まとめ	前期で学んだ事項を復習する。				テキストP10～49の復習をする。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「おはよう韓国語1」崔柄珠著（朝日出版社） ISBN:978-4-255-55632-1（生協で購入してください。）		小テスト：20% レポート：10% 定期試験：40% 出席レポート：30% S：授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100%である。 A：授業内容を理解しており、成績評価の合計が80%～99%である。 B：授業内容を概ね理解しており、成績評価の合計が70%～79%である。 C：授業内容の60%程度を理解しており、成績評価の合計が60%～69%である。								
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）								
適宜お知らせいたします。		平日頃から韓国や朝鮮のドラマ・映画、ニュースなどに興味を持ち、ハングルに親しみましょう。また、留学生との交流を図り、学んだ知識を実践で使ってみるよう心掛けましょう。								

科目名	ハングル（展開）（総経・人間）		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UL22116	研究室	非常勤	
担当者	林 英美		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件	ハングル を修得していること					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
			A	B	C						
授業概要											
前期に学んだハングルの文字と発音のルールをベースにして、後期では主に簡単な会話表現・文法について学ぶことを目的とします。											
学修到達目標											
ハングルの基本的な読み書きを習得している受講生が、語彙、文法、発音に関する知識を深め、日常会話に役立つ表現を学ぶことを目的とします。また、ハングル能力検定試験5級及び韓国語能力試験1級を受験できるレベルの知識習得を目標とします。											
授業の進め方											
対話練習を重視し、語彙・文法・発音を身につけられるようにします。会話・筆記試験を定期的を実施し、習得状況を確認します。映画鑑賞や異文化学習、アウトキャンパススタディによる実践練習を取り入れた楽しい学習方法を伝授します。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス、文字と発音	文字と発音について学びます。					テキストP10-49を復習する。 (1時間)				
2	第5課自己紹介(1)	第5課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。					テキストP58～67を復習する。 (1時間)				
3	第5課自己紹介(2)	第5課のまとめ学習をする。					テキストP58～67を復習する。 (1時間)				
4	第6課～ではありません(1)	第6課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。					テキストP68～77を復習する。 (1時間)				
5	第6課～ではありません(2)	第6課のまとめ学習をする。					テキストP68～77を復習する。 (1時間)				
6	第5～6課のリスニングと会話	第5～6課のリスニングと会話学習をする。					テキストP58～77を復習する。 (1時間)				
7	第7課～が好きです(1)	第7課の発音と語彙、文法について学ぶ。第4課「流音の鼻音化」について学ぶ。					テキストP78～91を復習する。 (1時間)				
8	第7課～が好きです(2)	第7課の重要表現について学ぶ。					テキストP78～91を復習する。 (1時間)				
9	第7課～が好きです(2)	第7課のまとめ学習をする。					テキストP78～91を復習する。 (1時間)				
10	第8課お誕生日(1)	第8課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。					テキストP92-105を復習する。 (1時間)				
11	第8お誕生日(2)	月と曜日、時を表す語を学ぶ。第4課「nの添加（合成語）」について学ぶ。					テキストP92-105を復習する。 (1時間)				
12	第8お誕生日(2)	へヨ体を学び、第8課のまとめ学習をする。					テキストP92-105を復習する。 (1時間)				
13	第9課予定と時間	固有数詞と時刻について学ぶ。					テキストP110-114を復習する。 (1時間)				
14	アウトキャンパススタディ、第10課	5課から10課までの会話表現を用いて、韓国語話者と会話練習をする。異文化体験を通じて、「ハングル」に対する理解を深める。					アウトキャンパススタディ参加レポートを作成する。(1時間)				
15	全体のまとめ	第5課から第10課を復習する。					テキストP58～125を復習する。 (1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「おやよう韓国語1」崔柄珠著（朝日出版社） ISBN:978-4-255-55632-1（生協で購入してください。）					小テスト：30% 定期試験：30% レポート：10% 受講態度：30% S：授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100%である。 A：授業内容を理解しており、成績評価の合計が81%～99%である。 B：授業内容を概ね理解しており、成績評価の合計が71%～80%である。 C：授業内容の60%程度を理解しており、成績評価の合計が61%～70%である。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
適宜お知らせいたします。					ハングルIIを履修する学生は、ハングルIを受講していることが条件です。後期から受講を希望する場合、文字の読み書きができることが必須条件です。						

科目名	情報処理 (WORD) (総合経営学部)	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12201	研究室	非常勤
担当者	内川 小百合	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)	履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C					
授業概要									
情報処理を学ぶことは、ひとつはコンピュータ・リテラシーを学ぶこと、つまりコンピュータを使いこなしていくことです。文字を入力することは、その基礎です。さまざまな文書をコンピュータで作成し、編集し、そして保存し、また再利用することは、現代社会の中で、必須の技能といえるでしょう。本講義では、クラウド上の文書管理やビジネスメールの送り方、ワープロソフトWORDを使った正しく速い入力技術の習得、ビジネス文書・図形・表などを作成していくための機能を学んでいきます。									
学修到達目標									
Office365の機能を習得し、ファイルの送受信などビジネスで使えるスキルを身につけている。正しいキータッチを習得し、ワープロソフトWORDを使ってビジネス文書・表作成・図形挿入・クリップアートや写真の挿入と編集ができる。日本情報処理検定協会ワープロ検定3級～2級を取得できる力を身につけている。									
授業の進め方									
演習形式で進めます。特に正確で素早いキータッチの技術を身につけるために、毎回スピードテストを行っていきます。WORDの機能を知り、その機能を使いこなせるように多くの演習をこなしていきます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	Office365の概要	Office365の機能と操作、WORDの起動と終了。					Office365の予復習(1時間)		
2	文書管理、メール送信	文書管理(ONE DRIVE)、メール機能、送信練習など					メール機能について予復習(1時間)		
3	キータッチについて	正しいキータッチについての解説と演習					キータッチの運指練習(1時間)		
4	日本語入力基礎	日本語入力基礎 日本語変換モード、IMEパッド、ファンクションキー及びキータッチ演習					キータッチの運指練習(1時間)		
5	漢字変換について	漢字変換について(変換、文節区切り、文字の修正) 短文入力・記号の入力演習					キータッチによる単語練習(1時間)		
6	特殊文字の入力	特殊文字の入力 アルファベット、カタカナ、特殊文字を含む文章の入力演習					キータッチによる短文入力練習(1時間)		
7	編集機能	文字の修正、移動、コピーの演習					練習問題の復習(1時間)		
8	編集機能	文字の書式(フォント・サイズ・ボールド体・イタリック体・下線・囲み・網掛け)					練習問題の復習(1時間)		
9	編集機能	文字の書式(拡大縮小・下付き文字・上付き文字・取り消し線・影付きなど)					編集機能の復習と入力練習(1時間)		
10	文書保存	文書保存、文書読み込み、再保存(上書き保存、新しいファイル名を付けて保存)					入力練習および保存(1時間)		
11	ビジネス文書	ビジネス文書のページ設定(右詰め、中央揃え、インデント、段落番号、箇条書き)					ビジネス文書の入力練習(1時間)		
12	表作成	罫線機能、表挿入、線種変更、列幅行高変更、セルの結合と分割、列や行の挿入と削除					表入力練習(1時間)		
13	画像編集	画像の挿入(ワードアート、オートシェイプ、クリップアート)					画像挿入および編集の復習(1時間)		
14	ビジネス文書	表と画像を含むビジネス文書の完成					表と画像を含む文書の入力練習(1時間)		
15	ビジネス文書	会社見学礼状や、内定時の礼状など、学生として出す文書の作成と留意点					さまざまな文書を自分の立場で作成してみる(1時間)		
テキスト					成績評価の方法・基準				
「WORDの基礎」内川小百合著(丸の内ハイデ出版)(生協で購入してください。) 「日本語ワープロ検定問題模擬問題集」(日本情報処理検定協会)(生協で購入してください。)					受講態度:40% 定期試験:60% 受講態度は、授業への参加度(授業への取組、発言等)で評価します。 S:9割以上の理解度+授業への参加度+実技点が100点。 A:8割以上の理解度+授業への参加度+実技点が80点以上。 B:8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が70点以上。 C:8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が60点以上。				
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)				
「知りたい操作がすぐわかるWord2013全機能Bible」西上原裕明著(技術評論社)					コンピュータの入力技術は本講義でしっかりと身につけてください。講義以外の時間を利用してできるだけキーボードに慣れ、WORDの機能についてよく復習してください。日本語ワープロ検定をぜひ受検しましょう。				

科目名	情報処理 (EXCEL初級) (総合経営学部)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12202	研究室	W-32
担当者	小林 俊一		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日3限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A B C								
総○ 観○										
授業概要										
本講義は、表計算2級の検定合格を目標とします。Excelを用いた数値情報の加工・分析は、大学における研究分野のみならず、ビジネスシーンでも幅広く用いられています。身の回りの数値データを的確に処理し、自分に必要な情報として加工する道具としてExcelを使いこなせるようにしていきます。入力や計算式の作り方の基本から、セル参照の種類やよく使う算術・論理関数、グラフ作成、印刷設定などについて学びます。										
学修到達目標										
日本情報処理技能検定協会が実施している「表計算検定2級」の資格取得、またはそれと同等の実力を養い、Excelを用いて素早く数値データの集計・加工ができるようになることを目標としています。										
授業の進め方										
講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。資格取得のためには、作業スピードも重要な要件となるため、時間外にも模擬問題を繰り返し解答することで作業効率の向上を図ってもらいます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法についてクラス分けのため、Excelの基本操作(表計算検定4級レベル)を行います。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
2	基本操作と計算式	表計算検定4・3級レベルで必須とされる、文字・数値の入力、列幅変更、計算式、合計、平均関数等について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
3	基本書式と印刷処理	表計算検定4・3級レベルで必須とされる、罫線処理、表示形式、文字揃え、印刷について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
4	判断文と絶対参照・構成品	表計算検定3級レベルで必須とされる、IF関数による条件判断、セルの相対参照・絶対参照、構成比率の計算について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
5	端数処理と順位付け	表計算検定3級レベルで必須とされる、数値の端数処理や順位付け、並べ替えについて解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
6	多重判断文と表検索	表計算検定2級レベルで必須とされる、IF関数のネストを使った多重判断文とVlookup関数を用いた表検索について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
7	グラフ作成とセル証明	表計算検定2級レベルで必須とされる、グラフ作成とセル証明について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
8	論理演算子を使った判定	表計算検定2級レベルで必須とされる、AND関数、OR関数を理解し、IF関数と組み合わせた処理について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
9	日付や時刻の計算	表計算検定2級レベルで必須とされる、日付や時刻の計算について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
10	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
11	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
12	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
13	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
14	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
15	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「情報処理技能検定模擬問題集・表計算2級」日本情報処理技能検定協会編(生協で購入してください。)				定期試験：60% 課題：40% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Excel 最強の教科書[完全版]」(SBクリエイティブ) ISBN: 978-4797388701				必ず資格取得に挑戦してください。定期試験は検定試験と同等の内容を予定しています。収集した数値データや膨大な情報を、Excelを使って効率よく取り扱えるかで、今後の問題解決のスピードが大きく変わります。						

科目名	情報処理 (EXCEL上級) (総合経営学部)		学年学期	2年前期		単位数	1		ナバリング	UL22203		研究室	非常勤		
担当者	松澤 みわ子		必修選択	選択		科目種別	講義		オフィスアワー						
関連資格						履修条件									
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)									
○			A	B	C										
授業概要															
本講義は、表計算1級の検定合格を目標とします。楽しくパソコンを操作しながら、Excelの本格的な使い方を身につけます。会社などの仕事で実際に役立つような表計算の実力を身につけることを目的としています。数値データをもとにさまざまな統計処理が行えるようになります。「情報処理」では登場しなかった文字列関数や特殊関数、データベース関数、データの抽出、シート間の連携、複合グラフなどについて学びます。															
学修到達目標															
本講義は日本情報処理検定協会が実施している「表計算検定1級」以上の資格取得、またはそれと同等の実力をけることを目標とします。Excelを用いて複雑な数値データの集計・加工ができるようになることが目標です。															
授業の進め方															
講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。基本解説の後に演習課題を繰り返し行い、さまざまなパターンを経験し、実践力と作業のスピードアップを狙います。															
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。															
回	テーマ		内容						事前事後学修						
1	授業ガイダンス		授業の進め方、評価方法についてExcelの操作復習 (表計算2級レベル) を行います。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
2	多重判断文等の復習		表計算検定2級レベルで必須とされている、多重判断文、表検索等について再確認をします。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
3	文字列操作関数		表計算検定1級レベルで必須とされている、文字列を操作するLife・Right、CONCATINATE関数などについて解説します。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
4	特殊関数		表計算検定1級レベルで必須とされている、ABS関数など特殊なについて解説します。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
5	データベース関数		表計算検定1級レベルで必須とされている、DSUM、DAVERAGE、DCOUNT関数などのデータベース関数について解説します。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
6	データベース関数		前回の授業で解説したDSUM、DAVERAGE、DCOUNT関数などのデータベース関数について復習をします。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
7	抽出と抽出後のデータ処理		表計算検定1級レベルで必須とされている、条件を指定したデータ抽出とそのデータに対する処理について解説します。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
8	シート間の処理		表計算検定初段レベルで必須とされている、複数シートを用いた計算式の作り方を紹介します。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
9	複合グラフの作成		表計算検定初段レベルで必須とされている、複合グラフやグラフを複数作成する方法を紹介します。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
10	検定試験対策		総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
11	検定試験対策		総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
12	検定試験対策		総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
13	検定試験対策		総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
14	検定試験対策		総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
15	検定試験対策		総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。						授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)						
テキスト			成績評価の方法・基準												
「情報処理技能検定模擬問題集・表計算1級」日本情報処理技能検定協会編 (生協で購入してください。)			定期試験：80% 課題：20% 定期試験は表計算検定1級レベルの内容となります。 A: 課題の提出と定期試験または表計算検定において80%程度の技能が認められる B: 課題の提出と定期試験または表計算検定において70%程度の技能が認められる C: 課題の提出と定期試験または表計算検定において60%程度の技能が認められる												
参考書			履修上の注意 (学生へのメッセージ)												
「カラー図解Excel「超」効率化マニュアル」立山 秀利著 (講談社) ISBN: 978-4062579995 なし			定期試験は、表計算検定1級と同等の問題を予定しています。「情報処理」を履修する学生は「情報処理」を履修し、2級を取得していることが望ましい。Excelの幅広い分野への応用力を養いましょう。												

科目名	情報処理（パワーポイント）（総合経営学部）		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22204	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスワ-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
		○								
授業概要										
Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションは、研究発表や教育現場、ビジネスシーンなどで幅広く用いられています。本講義ではプレゼンテーションというコミュニケーション手段の特色をよく理解し、企画立案の段階から訴求力の高い視覚資料の作成方法、内容が伝わる発表技法など、プレゼンテーション全般を扱います。										
学修到達目標										
効果的なプレゼンテーションのために一連の作業（企画立案～視覚資料の作成～発表まで）ができる。また、PowerPointの操作技能としては、デザインに重点を置き、視覚効果を多様化した資料作成能力（プレゼンテーション作成検定2級レベル）を修得している。										
授業の進め方										
講義は主にパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。 授業内にプレゼン・スキルのトレーニングをかねて、一人ひとりプレゼンテーション（個人課題）実施の機会を設けます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法についての説明 PowerPointの基本的な機能を使用して、プレゼンテーション資料の作成方法を確認します（プレゼンテーション作成検定4級）。				シラバスの内容を事前に確認 事後は同様の問題で復習を行う。 （1時間）				
2	プレゼンの企画立案	プレゼンの企画段階において重要なことや、ストーリー構成の組み立て方、情報収集の手法について学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
3	レイアウト・デザイン	視覚資料のデザイン決定において重要なことや、テーマの活用方法を学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
4	視覚に訴えるチャート化	目に見えない概念や考え方、手順などを説明する際にチャートを活用する方法について学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
5	訴求力を上げるカラー化	カラーの基礎知識や配色の基本テクニック、カラー化によってプレゼン資料の訴求力を上げるためのポイントを学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
6	数値のビジュアル化とイメージ伝達	数値を目的に合わせてビジュアル表現するため、表やグラフの活用方法や具体的なイメージを伝える手段について学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
7	効果的なアニメーション	アニメーション効果、画面切り替えなど特殊効果の活用方法と、事前に行っておくべきさまざまな準備作業について学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
8	発表スキルと質疑応答	内容を効果的に相手に伝えるための様々なテクニックや、質疑応答の進め方について学習します。				次回のプレゼン本番に備え、視覚資料を完成させ、所定のフォルダに提出する。（2時間）				
9	プレゼン準備とリハーサル	これまで学んだ内容を実際に使って個人毎のプレゼン実施の準備とリハーサルを行います。				次回のプレゼン本番に備え、視覚資料を完成させ、所定のフォルダに提出する。（2時間）				
10	プレゼン発表	大切な個人ごとのプレゼン発表の回です。発表者はこれまでのプレゼンスキルの成果発表を行い、その他の人は質疑応答の場面で質問者となってもらいます。				事前に関りリハーサルを済ませ、必要に応じて発表者用ノートを準備しておく。（2時間）				
11	プレゼン発表、またはプレゼン振り返り	履修者の人数にもよりますが、プレゼン発表の続き、または前回のプレゼン成果発表の振り返りを行います。				事前に関りリハーサルを済ませ、必要に応じて発表者用ノートを準備しておく。（2時間）				
12	プレゼン検定対策（3級）	プレゼンテーション作成検定3級の模擬問題を解きながら、基本的なスライド作成手順やPowerPointの操作方法を復習します。				練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
13	プレゼン検定対策（2級）	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めめます。				練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
14	プレゼン検定対策（2級）	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めめます。				練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
15	プレゼン検定対策（2級）	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めめます。				練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint 2013/2010対応」山崎 紅著（日経BP社） ISBN:978-4-82229-702-2（生協で購入してください。） 教科書は全員が購入してください。				課題：50% 定期試験：50% 定期試験はプレゼンテーション作成検定2級レベルの内容となります A:課題の提出・発表と定期試験において80%程度の技能が認められる B:課題の提出・発表と定期試験において70%程度の技能が認められる C:課題の提出・発表と定期試験において60%程度の技能が認められる						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「プレゼンテーション検定模擬問題集2級」（日本情報処理技能検定協会）検定受験を予定している方は購入をしてください。				プレゼンテーションとPowerPointの精通することで、円滑なコミュニケーション能力の向上も期待できます。他の授業においても、積極的にプレゼン発表の機会を得るように心がけてください。						

科目名	情報処理 (ホームページ) (総合経営学部)	学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12205	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格		履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性	A B C	履修対象入学年度(読替科目)					
	○			~2016年度 ホームページ作成					
授業概要									
ホームページは情報の取得と発信の強力なツールであり、高度情報社会における重要な情報メディアと言えます。本講義では、ホームページ作成における初中級レベルの技術を習得することを目的とします。ホームページの基礎知識 (HTML・スタイルシート) を学び、さらにホームページ内で用いるWebコンテンツ (画像、ロゴ、アニメーション) の作成についても学びます。									
学修到達目標									
ホームページビルダーを使った一連の作業 (サイト作成~Webページやコンテンツ類作成まで) ができる。日本情報処理検定協会が実施している「ホームページ作成検定2級」に合格する。									
授業の進め方									
本講義はコンピュータ教室での実習となります。 使用ソフトは「ホームページ・ビルダー」、「Webアートデザイナー」、「Webアニメーター」です。									
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容						事前事後学修	
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法についてホームページビルダーを使って初歩的なホームページの作り方を学びます。まずはホームページ作成検定4級レベルに挑戦します。						HP検定4級の復習をしておくこと。(1時間)	
2	ホームページビルダー基本操作	ホームページビルダーの基本操作を習得します。この回ではホームページ作成検定3級レベルに挑戦します。						HP検定3級の復習をしておくこと。(1時間)	
3	ページの属性 HP検定対策 (3級)	トップページの作成、およびページ属性について学びます。また、ホームページ作成検定3級の出題範囲について学習します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定3級の復習をしておくこと。(1時間)	
4	書式の設定 HP作成検定対策 (3級)	さまざまな書式設定やWebで扱うカラーや画像の特徴について学びます。また、ホームページ検定3級の出題範囲について学習します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定3級の復習をしておくこと。(1時間)	
5	表の作成 HP作成検定対策 (2級)	表挿入や表編集の方法を学びます。この回からホームページ検定2級に挑戦します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
6	リンクの設定 HP作成検定対策 (2級)	各ページにリンクを設定する方法を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
7	リンクの応用 HP作成検定対策 (2級)	ラベルリンク、ロールオーバー、イメージマップなど、リンクの応用を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
8	HP作成検定対策 (2級)	よく出題されるプロパティを含むHP2級の問題の解き方を学習します。						HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
9	HP作成検定対策 (2級)	ボーダーなどのプロパティを含むHP検定2級の問題の解き方を学習します。						HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
10	HP作成検定対策 (2級)	ラベルリンクなどを用いた難易度の高いHP検定2級の問題の解き方を学習します。						HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
11	HP作成検定対策 (2級)	検定模擬を実施し、弱点の抽出を行います。						HP検定2級の過去問題を配布するので、課題として提出すること。(2時間)	
12	Webページ課題制作	新たな題材でホームページ制作の過程を最初から復習していきます。課題「京都物語」サイトの構築を行っていきます。						教科書の総合問題を解いておくこと。(2時間)	
13	Webコンテンツの制作	Webアートデザイナーを利用し、写真の加工や合成の方法、タイトルロゴやボタンなど、個人課題で使用する素材を制作していきます。						課題の中で利用するオリジナル素材を準備すること。(1時間)	
14	Webコンテンツの制作	Webアニメーターを利用した文字バナー広告など、個人課題で使用するアニメーション素材を制作します。						課題の中で利用するオリジナル素材を準備すること。(1時間)	
15	Webページ課題仕上げ	課題「京都物語」を指示に従って完成させていきます。HP作成検定2級に関する復習も行う予定です。						課題を期限までに提出すること。(2時間)	
テキスト				成績評価の方法・基準					
「よくわかるホームページ・ビルダー19」(FOM出版) ISBN:978-4-86510-207-9 (生協で購入してください。) 教科書に従って演習を進めていきますので、必ず購入してください。				課題:50% 定期試験:50% 定期試験はホームページ作成検定2級レベルの内容となります。 A:課題の提出と定期試験またはHP検定において80%程度の技能が認められる B:課題の提出と定期試験またはHP検定において70%程度の技能が認められる C:課題の提出と定期試験またはHP検定において60%程度の技能が認められる					
参考書				履修上の注意 (学生へのメッセージ)					
「ホームページ作成検定試験模擬問題集2級編」日本情報処理検定協会編 検定試験を受験する方はできる限り購入してください。				パソコン操作に慣れていることが前提ですが、複雑な操作は多くありませんので誰でも受講可能です。今後、「ホームページ実践」の履修、またはHP作成検定1級取得を目指す人はぜひ履修をしてください。					

科目名	日本語入門（異文化理解基礎）		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング		研究室	E-15
担当者	中村 純子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件	【外国人留学生限定科目】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
大学で学ぶためには、講義を理解し、教科書、参考文献を読み、レポートを作成する能力が必要です。本講義は教科書、参考文献を読むための読解力、レポート作成のための基礎を学びます。まず、論理的な文章に触れ、読解力を養います。それとともにレポートの文体、論理的な文章構成、論理的な表現を学びます。最後に学んだことをもとにテーマを決めて、レポートを作成します。										
学修到達目標										
論理的な文章の読解、レポートの作成ができるようになることが到達目標です。そのために語彙、表現の幅を広げ、文章の構成、段落の構成に配慮できるようになることを目指します。また、学生同士でレポートをチェックすることで、互いの意見を理解し、自分の意見を表明できるようになることが目標です。										
授業の進め方										
読解に必要な技能、表現などを演習形式で学んでいきます。さらに、レポートを書くために必要な文体、構成、表現について講義をし、実際に学んだことを基にレポートを作成してもらいます。作成後、互いの文を評価し合い、フィードバックを受けます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	読解：語のまとめり 作文：表記の仕方 作文「国の有名人」	読解のストラテジーとして、語を意味のまとめりでもとらえる観点を学びます。作文では、縦書き、横書き、文体と書き言葉について学び、実際に「国の有名人」について作文を書いてもらいます。				文体、書き言葉に注意し、作文を書く(2時間)				
2	読解：語のまとめり復習 作文：段落の構成	読解は前回と別の文を使い、語のまとめりでもとらえるエクササイズをします。また、作文では段落の構成について学びます。中心文、支持文について説明します。				「使役」について復習をし、教科書のP8～15までを読んで、予習をする(2時間)				
3	読解：使役 作文：助詞相当語 作文「国の有名人」	読解は使役、使役受身、授受表現に注意し、「する」側、「される」側の関係をつかむストラテジーについて学びます。作文は助詞相当語について学びます。作文の合評会を行い、フィードバックを受けます。				使役、使役受身、授受表現を含んだ他の文の読解をする(2時間)				
4	読解：使役復習 作文：引用表現	「する」側、「される」側の関係をつかむストラテジーを使って、読解練習をします。作文は「引用表現」について学びます。最後に引用表現文型を使って「各国の国民性」についての作文を書きます。				「各国の国民性」についての作文を完成させる。小テストに備え、復習をする(2時間)				
5	読解：文の構造 小テスト	読解では文の修飾関係を正しく理解するストラテジーについて説明します。さらに今までの読解、作文の書き方について小テストを行い、フィードバックをします。				小テストの結果のフィードバックをもとに理解できていない点を復習する(2時間)				
6	読解：文の構造復習 作文：間接疑問 作文「日本人の不思議」	読解は文の構造の復習をします。作文は間接疑問文について作り方を確認したあと、その文を使って、作文「日本人の不思議」について書いてもらいます。「各国の国民性」のフィードバックをします。				作文「各国の国民性」の清書。作文「日本人の不思議」を完成させる(2時間)				
7	読解：前件と後件 作文：接続表現	読解は前件と後件の関係をつかむことを学びます。作文は接続表現について学びます。小テストに備えて、前回までの復習をします。				小テストに備えて該当箇所を復習する(2時間)				
8	読解：前件と後件の復習 作文：「日本人の不思議」合評会、小テスト	読解は前件と後件の復習を行います。作文は「日本人の不思議」の合評会とフィードバックです。また読解と作文の小テストを行います。				小テスト結果フィードバック、理解できていない点を復習する。作文の清書をする(2時間)				
9	読解：指示詞 作文：レポート作成 レポート文を読む	読解は指示詞のさすものを見つけるストラテジーを身につけます。作文は調査をもとにしたレポート作成の準備をします。まず、参考になるレポート文の読解をし、到達目標をつかみます。				インターネット、図書館を利用して、レポートのテーマを考える(2時間)				
10	読解：指示詞復習 作文：資料の引用	読解は指示詞の復習を行います。作文は資料の引用の仕方について、説明します。また、参考文献の書き方についても学んでもらいます。				インターネット、図書館を利用して、レポートのテーマを考える(2時間)				
11	読解：省略 作文：レポートのテーマ決定・構成	読解は省略されているものはなにかを見つけるストラテジーを学びます。作文はレポートのテーマの決定、構成を練ります。図表の書き方も学びます。				レポートのテーマについて図書館、インターネットを利用し、調査する(2時間)				
12	読解：「省略されているもの」復習 作文：文献調査	読解は省略されているものはなにかを見つけるストラテジーの復習をします。作文は仮アウトラインを作ります。仮説も立てます。				レポートのテーマについて、調査する。レポート下書きをする(2時間)				
13	読解：関連のある言葉 作文：レポート下書チェック	読解は関連のある言葉を見つけるストラテジーを学びます。作文はレポートの下書きをして、チェックを受けます。				レポートを執筆する(2時間)				
14	読解：関連ある言葉復習 作文：レポート校正	読解は関連ある言葉を見つけるストラテジーの復習をします。作文はレポートの校正を行います。				レポートを完成させる(2時間)				
15	レポート合評会	レポートの合評会を行い、学生同士の作文から様々な視点を学びます。フィードバックを受けて、さらに校正を行います。				レポートを清書する(2時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「留学生の日本語 作文編」アカデミック・ジャパニーズ研究会編著（アルク） ISBN:4-7574-0500-6（別途、指示します。） 「留学生のための読解トレーニング」石黒圭他著（凡人社） ISBN:978-4-89358-780-0（別途、指示します。）				受講態度：15% 小テスト：25% 課題：60% 受講態度(合評会などでの発言回数と内容) S:適切な表現で論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、適切かつ正確に伝えられる。A:書き言葉で論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、適切に伝えられる。B:ほぼ適切な表現である程度論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、ほぼ適切に伝えられる。C:ある程度論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、伝えられる。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「留学生のための論理的文章の書き方」二通信子著（スリーエーネットワーク） ISBN：978-4-88319-257-1				作文は時間外にやらなければならないことが多いです。講義計画に沿って準備してきてください。質問はオフィスアワーに対応します。						

科目名	日本語応用(異文化理解応用)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパリング		研究室	E-15
担当者	中村 純子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件	【外国人留学生限定科目】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本授業は、大学のテキスト、参考文献を理解するための読解力を養うことと、場面に合わせた文章を作成することを扱います。具体的には、手紙文、スピーチ原稿、自身および母国の状況をテーマにした作文を扱い、最後に社会問題に関するレポートを作成をします。また、必要な語彙、表現、文法なども学んでいきます。										
学修到達目標										
場面に合わせた適切な文章を作成することができるようになることが目標です。そのためには、文章の目的に合わせて、適する語彙、表現の選択のほか、文体、構成にも配慮できるようになることを目指します。また、互いの作文をチェックすること、ディスカッションを通して、様々な視点を学ぶこと、自分の意見を表明できるようになることを目標とします。										
授業の進め方										
読解と作文を行います。読解は読解のためのストラテジーを学んでいきます。作文は事例に触れながら、様々な文章の特徴を理解してもらい、その特徴を踏まえ、様々な文章を作成してもらいます。作成後、学生同士、フィードバックも行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 読解：筆者の意見 作文：はがきの書き方	授業の目的、概要、評価の仕方を説明します。読解では文末に注意し、筆者の意見を見抜くストラテジーを学びます。作文では、eメール、はがきの書き方について学び、実際に書く練習をします。				実際にeメールを教員に出す。また、はがきは実際に書き、投函する(2時間)				
2	読解：「筆者の意見」復習 作文：手紙文の書き方	読解は筆者の意見を見抜くストラテジーについて復習をします。作文は手紙文の書き方を学び、実際に書く練習をします				手紙文の下書きをしてくる(2時間)				
3	読解：筆者の立場 作文：スピーチ原稿	読解は筆者の立場を見分けるストラテジーを学びます。作文は過去の留学生の書いたスピーチ原稿を参考にし、ブレインストーミングをします				スピーチのテーマを考え、下書きをする(2時間)				
4	読解：「筆者の立場」復習 作文：スピーチ原稿の発表の仕方	読解は筆者の立場を見分けるストラテジーの復習をします。作文はスピーチ原稿の下書きをチェックし、フィードバックをします。よいスピーチとは何かを考えます。				スピーチ原稿の清書、スピーチの練習をする(2時間)				
5	読解：大切なことのサイン 作文：スピーチ発表会	読解は大切なことのサインをつかむストラテジーを学びます。スピーチの発表をし、他学生、教員からフィードバックを得ます。				小テストに備え、復習をする(2時間)				
6	読解：「大切なことのサイン」復習 作文：アジア賞応募原稿構成	読解は「大切なことのサイン」の復習をします。作文はアジア賞に向けて、テーマを考え、構成を練ります。前回のアジア賞応募原稿を読み、到達目標を把握します。				アジア賞の応募原稿の下書きを書く(2時間)				
7	読解：速読 作文：アジア賞応募原稿作成	読解は速読のストラテジーを学びます。作文は、作文評価の観点の説明を受けたのち、アジア賞応募原稿の下書きを学生同士、チェックします				アジア賞応募原稿の清書をする(2時間)				
8	読解：「速読」復習 作文：アジア賞応募原稿完成、合評会	読解は速読の復習、作文はアジア賞原稿の合評会を行い、学生同士、互いの考え方を理解します。				アジア賞応募原稿校正をする(2時間)				
9	読解：話題を見抜く 作文：調査をしてレポートを書く	読解は文章の話題を見抜くストラテジーを身につけます。作文は社会問題もとにしたレポートの作成をします。テーマ決定のためのブレインストーミングを行います。				インターネット、図書館などを利用して、レポートのテーマを考える(2時間)				
10	読解：「文章の話題を見抜く」復習 作文：仮アウトライン	読解は「文章の話題を見抜く」ストラテジーの復習をします。作文はレポートのテーマ、構成を決め、仮アウトラインを作成します。				小テストのための復習をする。レポートのテーマについて調べる(2時間)				
11	小テスト 読解：ストーリーを読む	小テストをします。読解はストーリーを読むためのストラテジーを学びます。作文は仮アウトラインにのって、下書きをします。				レポートの下書きを完成させる(2時間)				
12	読解：「ストーリーを読む」復習 作文：賀状の書き方	読解は「ストーリーを読む」の復習をします。作文は賀状の書き方について学びます。				レポートの下書きを完成させる(2時間)				
13	読解：読み間違いを見つける 作文：下書きチェック	読解は読み間違いを見つけるストラテジーを学びます。作文はレポートの下書きを学生同士観点に沿って、チェックし、フィードバックを得ます。				フィードバックをもとにレポートの校正、清書をする(2時間)				
14	読解「読み間違いを見つける」復習 作文：レポート合評会	読解は「読み間違いを見つける」ストラテジーの復習をします。作文はレポート合評会を行い、学生同士、互いの考え方を理解し、ディスカッションを行います。				定期試験に備え、復習をする(2時間)				
15	総復習 作文：合評会	定期試験に備え、総復習をします。作文はレポートの合評会の続きを行い、学生同士、考え方を理解しディスカッションを行います。				定期試験に備え、復習をする(2時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「留学生のための読解トレーニング」 石黒圭著(凡人社) ISBN:978-4-89358-780-0(別途、指示します。) 日本語入門と同じ教科書です。				受講態度：15% 小テスト：20% 課題：45% 定期試験：20% 受講態度(合評会などでの発言回数と内容)S:場面に合わせた文章を適切、かつ正確に作成できる。自分の意見を適切かつ正確に表明できる。A:場面に合わせた文章を適切に作成できる。自分の意見を適切に表明できる。B:場面に合わせた文章をほぼ適切に作成できる。自分の意見をほぼ適切に表明できる。C:場面に合わせた文章を作成できる。自分の意見を表明できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「日本語Eメールの書き方」築晶子他著(ジャパンタイムズ) ISBN:4-7890-1184-4				留学生の物の見方、考え方を表明する場でもありますので日頃より見聞を広げてほしいと思います。質問はオフィスアワーで対応します。						

科目名	日本事情（異文化理解基礎）		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	E-15
担当者	中村 純子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件	【外国人留学生限定科目】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
この授業は日本人学生と留学生が共に学び合い、異文化コミュニケーションを実践する授業です。地域のグローバル化に伴って、異文化の人との円滑なコミュニケーション力の養成は重要な課題となっています。この授業では、理論として異文化コミュニケーションの特徴、異文化コミュニケーションに対する態度を学び、さらにトレーニング、実際の異文化交流を通して、異文化に対する意識の変革を目指します。										
学修到達目標										
この授業では、異文化コミュニケーションの特徴、異文化コミュニケーションに対する態度を学び、実際に異文化の人との円滑なコミュニケーションをとれるようになることが目的です。さらに留学生と日本人がテーマに沿ってディスカッションをし、互いの意識改革を行い、多文化共生社会の礎を築くことが目標です。										
授業の進め方										
講義形式で異文化コミュニケーションに関する理論を説明します。その理論をもとに様々な事例を取り上げ、日本人学生と留学生がディスカッションをし、互いの考え方、価値観、文化が理解できるようにします。また、国際交流活動に参加してもらいます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 異文化を理解する	授業の目的、概要、評価の仕方を説明します。異文化コミュニケーションとは何かを考えます。				身近にあった異文化コミュニケーションの経験をレポートにまとめる(2時間)				
2	異文化体験発表 新しい常識の発見	異文化体験を発表し、異文化が身近であることを理解します。異文化の人と常識が違うことを様々な例を用いて説明します。自分の価値観を絶対正しいと思わない態度を身につけます。				自分の体験で、異文化でなくても、常識の通じなかった経験をレポートにまとめる(2時間)				
3	常識が通じなかった体験発表 ステレオタイプ	常識の通じないというのは異文化だけではないことを理解します。ステレオタイプの定義、要因、そして自らのステレオタイプを考えます。さらに自分、自分の国がどう見られているかを考えます。				世界の様々な国のステレオタイプを調べて、レポートにまとめる(2時間)				
4	ステレオタイプについての発表 文化とコミュニケーション	ステレオタイプについて発表を行い、ステレオタイプの弊害について考えます。文化とコミュニケーションについて考え、誤解を受けるメカニズムを考えます。				誤解を受けた経験を客観的に振り返り、その要因を分析し、レポートにまとめる(2時間)				
5	誤解に関するレポート発表 コミュニケーションスタイル - 誘い方と断り方	人間がコミュニケーションをとるとき、異文化ならずとも誤解がおこることをメカニズム的に理解します。さらに、コミュニケーションスタイルの違う文化では誤解が起こりやすいことを学びます。				誘い方と断り方の自分のコミュニケーションスタイルについて、分析的に考え、まとめる(2時間)				
6	「誘い方と断り方」発表 コミュニケーションスタイル - 謝罪と感謝	自分の誘い方と断り方のコミュニケーションスタイルを客観的に知る。謝罪と感謝のコミュニケーションスタイルの文化による相違について考える。				コミュニケーションスタイルが異なるとどんな摩擦が起きやすいかをレポートにまとめる(2時間)。				
7	松本国際ふるさと祭り 「こいこい松本」への参加準備	「こいこい松本」の目的、概要を説明します。松本の外国籍住民についての理解を深め、自分なりのスタッフ参加の目的を決めます。				スタッフ会議も含め当日スタッフとして参加する。参加後、レポートを書く(16時間)				
8	「こいこい松本」に参加して学んだことを発表	「こいこい松本」に参加しての自分の目的に合わせた成果を発表します。発表の後、ディスカッションをします。				ディスカッションの内容も含め、レポートをまとめ直す(4時間)				
9	非言語コミュニケーション - タッチング・空間距離	非言語コミュニケーションとは何か。非言語の文化的影響を説明します。本授業ではタッチング、空間距離の文化的差異を取り上げます。				他者を観察し、非言語を使ったコミュニケーションの実例をレポートにまとめる(4時間)				
10	非言語コミュニケーション - 表情・アイコンタクト・ジェスチャー	非言語コミュニケーションの表情、アイコンタクト、ジェスチャーを取り上げ、文化的差異について説明します。最後に非言語コミュニケーションが摩擦を生む例について考えていきます。				非言語コミュニケーションを分類し、摩擦の多いタイプは何かをレポートにまとめる(4時間)				
11	多文化共生の意義と課題	多文化共生の意義、課題を考えます。まず、カナダ、日本の実例について紹介します。課題についてディスカッションをします。				多文化共生の意義と課題について調べてレポートにまとめる(4時間)				
12	多文化共生の意義と課題 - 発表	多文化共生の意義、課題について調べてきたことを発表します。お互いの発表を聞いて、ディスカッションをします。				外国人(異文化の出身者)にインタビューする。テーマを考える(4時間)				
13	外国人にインタビュー	学習してきたことをもとに自分でテーマを決めて、外国人にインタビューします。本授業ではテーマについて理解を深め、調査項目を決定します。				仮調査票を完成させる(4時間)				
14	外国人にインタビュー - パイロット調査	調査項目をもとにパイロット調査を行います。学生同士質問をし合い、調査項目を見直します。				調査票を完成させ、調査を行い、PPTでスライドを作る(4時間)				
15	発表原稿チェック 発表シミュレーション	お互いに発表原稿のチェックをします。よい発表の観点を説明し、シミュレーションを行います。				シミュレーションでのフィードバックをもとに発表原稿を完成させ、発表練習をする(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「異文化コミュニケーション・ワークブック」矢代京子他著(三修社) ISBN:978-4-384-01851-6(別途、指示します。)				受講態度:30% レポート:40% 発表30% 受講態度(発言回数と内容)S:異文化コミュニケーションの特徴を深く理解し、異文化の人と円滑なコミュニケーションがとれる。A:異文化コミュニケーションの特徴を理解し、異文化の人と円滑なコミュニケーションがとれる。B:異文化コミュニケーションの特徴をほぼ理解し、異文化の人とのコミュニケーションがとれる。C:異文化コミュニケーションの特徴をある程度理解し、異文化の人とコミュニケーションができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「異文化理解入門」原沢伊都夫著(研究社) ISBN:978-4-327-37734-2				異文化の人と交流をして互いの価値観を知り、理解できるようにしてください。質問はオフィスアワーで対応します。						

科目名	日本事情（異文化理解応用）	学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	E-15	
担当者	中村 純子	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限			
関連資格				履修条件	【外国人留学生限定科目】					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度（読替科目）								
		A	B	C						
授業概要										
地域のグローバル化にともない、日本の事情を客観的に知ること、さらにそれを他に伝えることが必要となっています。この授業はまず日本を大きく3つの地域に分け、その文化、歴史、宗教等を学んでいきます。そして、地域ごとに自分が興味を持ったテーマを見つけ、発表します。発表は3回行います。留学生と日本人学生がともに日本事情について学ぶことにより、互いの文化、歴史、宗教等を比較し、日本事情の特徴に対する理解を深めます。										
学修到達目標										
日本の事情を知り、さらにそれを他に伝えられるようになることを目標とします。また、留学生の母国との比較により、それぞれの文化に対する理解を深めることも目標とします。また、発表のスキルを学ぶことも目標です。										
授業の進め方										
授業の前半は講義形式で、地域ごとの文化、歴史、宗教等を学びます。後半は学生がテーマを選び、発表します。その内容について学生同士質問したり、話し合ったりしてもらいます。最後に発表のコメントを書き、提出します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス 日本の地理 北部（北海道）について	授業の目的、授業概要、授業評価について説明を受けます。日本の地理の概要をつかんだ後に、北海道について学びます。北海道は主にアイヌの歴史について学びます。					復習及び発表準備（2時間）			
2	北部（岩手県）について	柳田國男の「遠野物語」を中心に学びます。日本の民俗学について理解を深めます。方言についても考えます。					復習及び発表準備（4時間）			
3	北部（仙台、奥の細道）について	東北の3大祭りについて学びます。さらに俳句について学び、「奥の細道」について理解を深めます。また句会の準備をします。					俳句を実際に作る。 復習及び発表準備（4時間）			
4	句会 北部（福島・茨城）について	句会を体験します。さらに東日本大震災について学びます。また、白虎隊、日光東照宮についてそれぞれの歴史についても理解を深めます。					発表準備まとめ。北部小テスト準備（6時間）			
5	中部（東京・富士山）について 学生発表 小テスト（北部）	東京、下町文化、富士山とそこから生まれた芸術について、学びます。東北地方に関する小テストを受け、知識を定着させます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					発表準備（2時間）			
6	中部（信州）について 学生の発表	桜と日本人の美意識について学びます。また、江戸時代の人々の暮らしについて絵島事件を通して学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					日本人の美意識に対する本を読み、レポートを書く（4時間）			
7	中部（奈良、京都） 学生の発表	奈良時代、平安時代を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					復習及び発表準備（4時間）			
8	中部（滋賀、大阪） 学生の発表	戦国時代を中心に学びます。また、茶道の概要、精神についても学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					発表準備 茶道の歴史と茶掛けを調べる。（4時間）			
9	茶道体験	茶道を体験します。その際茶道の精神がどのように実際に活かされているかを探ります。					茶道体験をレポートにまとめる。 発表準備 小テスト準備（6時間）			
10	南部（島根県出雲・松江）について 小テスト（中部）	神話、怪談などを中心に学びます。また、中部地方について知識定着のための小テストを行います。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					神話、怪談の中から、好きなものを選び、あらすじをまとめる。（4時間）			
11	南部（岡山・広島）について 学生の発表	日本の城、および安芸の宮島を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					復習及び発表準備（4時間）			
12	南部（四国）について 学生の発表	坂本竜馬、正岡子規を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					復習及び発表準備（4時間）			
13	南部（福岡・長崎・大分）について 学生の発表	原爆、鎖国、温泉を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					復習及び発表準備（4時間）			
14	南部（熊本・鹿児島）について 学生の発表	熊本、鹿児島島の自然、歴史を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					復習及び発表準備（4時間）			
15	沖縄について 学生の発表	戦争、自然、歴史を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。					小テスト（南部）準備及び発表準備（4時間）			
テキスト					成績評価の方法・基準					
(講義にて配布します。) パワーポイントによる資料を配布					受講態度：10% レポート：20% 小テスト：20% 発表50% S:授業内容の高度な理解の上に立ち、自らテーマを発見、探求し、他に伝えることに優れている。A:授業内容を理解し、自らテーマを発見、探求し、他に伝えることができる。B:授業内容をほぼ理解し、テーマにそって探求し、他に伝えることができる。C:授業内容の60%程度を理解し、テーマについて他に伝えることができる。					
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「日本人と日本文化」司馬遼太郎 ドナルド・キーン著（中公新書 285） ISBN：4-12-100285-7					日本人学生、留学生が互いの国の事情を積極的にし合うことが必要です。質問はオフィスアワーで対応します。					

科目名	こころと体の健康		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13101	研究室	S-03
担当者	進藤 政臣・廣田 直子・中島 節子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日1限、金曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
			A	B	C	2017年度～				
		○								
授業概要										
大学生生活を送る上で、また卒業後の社会生活を送る上で、学生自身が自分の心や体について十分な知識を持ち、健康で安全な日常生活を営むことが必要です。そのため、健康日本21の標語にもなっている「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、5にクスリ」のそれぞれに対応して、専門的な視点からその基礎的知識を学び、自らの生活に結びつけて実践し、健康で安全な学生生活が送れることを目的とします。										
学修到達目標										
<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活を送るために必要な運動、栄養、休養の必要性について理解し、実践できる。 ・生活習慣病の発症について理解し、予防策を説明することができる。 ・安全な生活を送るために必要な知識と技術を説明することができる。 										
授業の進め方										
各専門分野の教員がオムニバス形式で進めます。講義、演習を含めて実施します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション 健康とは	講義の進め方のオリエンテーションを行います。健康の概念について学びます。健康日本21の取り組みや課題を学びます。				健康の概念について予習復習する。（4時間）				
2	飲酒、喫煙について がんの発症と予防	飲酒、喫煙のからだへの影響について学び、がんなどの病気との関連について学びます。				飲酒、喫煙、がんについて予習復習する。（4時間）				
3	生活習慣に関連する病気	生活習慣と関連の深い高血圧、高脂血症について、疾病の症状や要因、予防方法、治療方法について学びます。				生活習慣病について予習復習する。（4時間）				
4	生活習慣に関連する病気	生活習慣と関連の深い疾病について学びます。糖尿病、肥満など異常の早期発見のための健康診断の必要性や項目について学びます。				健康診断や検査について予習復習する。（4時間）				
5	メンタルヘルス	代表的な精神疾患の特徴について学び、それらの対応について学びます。				精神疾患について予習復習する。（4時間）				
6	メンタルヘルス	現代社会の精神的な課題やストレスへの対応などを学び、予防と相談方法について学びます。				メンタルヘルスについて予習復習する。（4時間）				
7	栄養・食生活	栄養についての基礎知識を学び、健康的な食生活について考えます。				栄養・食生活について予習復習する。（4時間）				
8	健康と食生活	食生活と疾病との関連を学び、食事についての現代的な課題について解決策を考えます。				食生活と疾病についてレポートを作成する。（4時間）				
9	健康と食生活 休養	健康的な食生活について考えます。健康づくりのための休養指針について学び、健康づくりのための休養について考えます。				休養について予習、復習する。（4時間）				
10	健康づくりのためのレクリエーション	積極的な休養の方法を学び、レクリエーション活動を行います。				レクリエーションについて予習復習する。（4時間）				
11	健康づくりと運動	運動と健康の関連について学びます。				運動と健康との関連について予習復習する。（4時間）				
12	健康づくりと運動の実際	運動についての課題と対応策を考えます。健康づくりのための運動を行います。				運動と健康についてのレポートを作成する。（4時間）				
13	安全と救急法について	けがの予防と応急手当について学びます。救命救急法について学び、演習を行います。				けがの予防と応急手当、救急法について予習復習をする。（4時間）				
14	生と性について	生と性について考えます。性の多様性LGBT、妊娠、出産について学びます。				生と性について予習復習する。（4時間）				
15	感染症と予防について	感染症と感染予防について学びます。				感染症について予習復習する。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
必要な資料はその都度配布します。				定期試験：100% S：授業内容を高度に理解し、自己の健康課題を解決する方法に応用することができる。 A：授業内容を理解し、自己の健康課題を明確にし、解決する方法を見出すことができる。 B：授業内容のおおよそを理解し、自己の健康課題を明確にすることができる。 C：授業内容の60％は理解でき、健康の重要性を説明できる。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「大学生の健康ナビ キャンパスライフの健康管理 2016」山本真由美著（岐阜新聞社） ISBN：978-4877972240				大学生生活を健康で安全に送る基礎を学び、実践に結びつけられるように努力してください。						

科目名	哲学			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	UL23102	研究室	非常勤
担当者	護山 真也			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
私たちの常識的な世界の見方に対して、一歩ひいたところから、その価値を疑い、批判的な考察をくわえることで、その真価を見極めていくことが「哲学」の実践です。そのような哲学は、古今東西、さまざまな場所、さまざまな時代で行われてきました。この授業では、西洋哲学のみならず、東洋哲学にも目を配り、それらに共通するテーマを設定し、それに対する異なるアプローチの仕方を学んでいきます。											
学修到達目標											
哲学・倫理学・宗教学で問われる諸問題を理解し、それらに対して批判的に考えることのできる力を身につけている。											
授業の進め方											
プリントを用いて講義形式で進めます。映像資料を利用する回もあります。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	哲学への招待	授業全体の見取り図を示し、授業のガイダンスを行います。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
2	プラトンの愛	プラトンの『饗宴』を素材として、ギリシア哲学の特質について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
3	キリスト教の愛	ユダヤ教・キリスト教の基本的な考え方を学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
4	仏教の慈悲	ブッダの思想と大乘仏教の菩薩道を中心に、仏教の慈悲の考え方について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
5	愛を哲学する	フロムの『愛するということ』を通して、現代における愛の問題について考えます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
6	自己をめぐる哲学	わたしとは何か、それがなぜ哲学の問題になるのか、ということをも 鷲田清一『じぶん・この不思議な問題』を参照しながら、学習します。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
7	デカルトと近代的自我	デカルトの『省察』を素材として、西洋近代思想の誕生の背景について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
8	反デカルト主義の哲学	デカルト以降の哲学、特にニーチェが展開した反デカルト主義の議論を学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
9	人格の同一性について	パーフィットの『理由と人格』を参照しながら、人格の同一性の問題について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
10	日本哲学の可能性	西田幾多郎の思想について学びます。また、この回で、自己をめぐる哲学の問題をまとめます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
11	心と世界(1)	『マトリックス』的世界について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
12	心と世界(2)	カントの認識論とその背景について学びます					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
13	心世界(3)	インド仏教の唯識思想について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
14	心と世界(4)	観念論を批判する議論について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
15	哲学の再構築	授業のまとめを行います。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
授業中にプリントを配布します。						小テスト：50%、レポート：50% 方法については初回に指示。(1)与えられた哲学的問題を正しく理解し、(2)自らの考えを、(3)論理的に、(4)独自の考察を加えて、表現することができる。(1)のみはC、(2)まででB、(3)まででA、すべて満たせばS評価とする。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「愛するということ」エーリッヒ・フロム著(紀伊国屋書店) 「じぶん・この不思議な存在」鷲田清一著(講談社) 「観念論の教室」富田泰彦著(筑摩書房)						今学期は休講とそれに伴う補講が3~4回予定されています。初回に日程を伝えます。					

科目名	生命倫理		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	UL23103	研究室	W-03
担当者	福島 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
生命をめぐる倫理(道徳・規範)的諸問題をさまざまな視点から考察し、医療領域における今日的かつ具体的問題に対処できる思考力を養います。生命倫理学の歴史的背景と今日の課題について理解し、具体的な倫理的問題を包括的な観点から把握することを目標とします。1960年代以降、医療領域において生じた倫理的諸問題を個別に取り上げ考察します。										
学修到達目標										
生命科学、医療領域における具体的な倫理的問題に、一個人として対峙し、個別の倫理的判断を導き出せるようになること。										
授業の進め方										
授業内容に応じてグループ報告、グループ討論を実施します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	生命倫理学の成立背景	生命倫理学の歴史と現状について概説します。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
2	健康と病気	健康と病気、正常と異常、それぞれの概念について学びます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
3	治療と人体実験	医療の目的と人体実験の歴史について学びます。				事前配布資料を読んで下調べをする。(4時間)				
4	Quality of LifeとSanctity of Life	Quality of Life(生命の質)とSanctity of Life(生命の神聖性)について学びます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
5	生殖技術	生殖技術の発展とそれに伴う倫理的問題について学びます。				授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
6	脳死と臓器移植	脳死と臓器移植の関係について、現状と課題について学びます。				授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
7	安楽死と尊厳死	安楽死・尊厳死と治療停止の現状と課題について学びます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
8	ケアの倫理	医療福祉分野におけるケアの倫理について学びます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
9	医師 患者関係	医師-患者関係の変容と今日的課題について学びます。				授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
10	インフォームド・コンセントと情報開示	インフォームド・コンセントの歴史と医療領域における情報開示について概説します。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
11	医療資源の配分	医療資源の配分における公正さと正義について考えます。				事前配布資料を読み、下調べをする。(4時間)				
12	パーソン論	パーソン(人格)とは何かについて学びます。				配布資料の要点をまとめる。(4時間)				
13	老人介護と世代間倫理	少子高齢化と介護問題について概説します。				授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
14	生命倫理学の比較考察	諸外国と日本における生命倫理学の比較をします。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
15	まとめ	講義全体のまとめ。				総復習。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
学生が選択するグループ討論のテーマによって、使用テキストは異なりますので個別に指定します。				受講態度:20% 出席レポート:20% レポート:30% 受講態度にはグループ討論への参加状況が含まれます。また、上記以外にグループ報告30%で評価します。 S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「生命倫理とは何か」市野川容孝編(平凡社) 「生命倫理学を学ぶ人のために」加藤尚武・加茂直樹編(世界思想社)				ひとつひとつの事例について、学生自身考えることが要求されます。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。						

科目名	文学		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリノ	UL33104	研究室	
担当者	中西 満義		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
旅の文学(俳諧紀行文学)をとおして、古人における旅の意義を考察していきます。古典文学の世界に親しみつつ、その豊饒な表現世界を理解することを目標とします。松尾芭蕉『おくのほそ道』を取り上げ、松尾芭蕉の人と文学についての考察の後、序章・旅立から終着地大垣まで、主要な章段を講読していきます。										
学修到達目標										
古文を読解することができること、古典文学の表現世界を理解することができること。松尾芭蕉の思念、思想を汲み取ることができること。										
授業の進め方										
松尾芭蕉、ならびに俳諧にたいする理解を得たところで、『おくのほそ道』のすぐれた文学表現を鑑賞していきます。全章を講読することはできませんので、適宜割愛しつつ、主要な箇所を鑑賞していきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	文学の意義	講義ガイダンス(世界遺産の文学)『おくのほそ道』を知る					様々な文学に触れ、文学的関心の発掘をしておく(2時間)。従前の古典学習を振り返る(2時間)。			
2	旅と文学	紀行文学の系譜 旅の文学について理解する					授業での解説を振り返り、古典の旅を理解する(2時間)。「更科紀行」の知識を得る(2時間)。			
3	文学史の中の俳諧	俳諧についてジャンルを理解する					授業での解説を振り返り、日本の詩歌文学の特質を理解する(4時間)。			
4	松尾芭蕉の作品	松尾芭蕉の旅と文学 芭蕉における旅の意義					授業での解説を振り返り、芭蕉の俳諧紀行文の理解をする(4時間)。			
5	『おくのほそ道』講読	序章、旅立ち 構成を理解する					冒頭文の暗唱と鑑賞を試みる(2時間)。日光についての知識を得る(2時間)。			
6	『おくのほそ道』講読	日光 章段の構成を理解					文章構成と世界遺産に対する理解を深める(4時間)。			
7	『おくのほそ道』講読	那須野、黒羽、雲巖寺 下野の伝承を知る					授業での解説を振り返り、地域伝承に対する理解を深める(4時間)。			
8	『おくのほそ道』講読	殺生石、遊行柳、白川の関 陸奥への玄関口					授業での解説を振り返り、文体の理解を深める(2時間)。東北地方について理解する(2時間)。			
9	『おくのほそ道』講読	須賀川～武隈の松 陸奥の歌枕を理解する					授業での解説を振り返り、陸奥の歌枕を調べる(4時間)。			
10	『おくのほそ道』講読	宮城野、壺の碑 芭蕉の行動を考える					授業での解説を振り返り、「風流」を理解する(2時間)。日本三景について知る(2時間)。			
11	『おくのほそ道』講読	末の松山、塩竈、松島 風景描写を学ぶ					授業での解説を振り返り、旅の目的の再確認をする(2時間)。「歌枕」についての復習(2時間)。			
12	『おくのほそ道』講読	瑞巖寺、石の巻 表現の仕方を学ぶ					「松島」から「平泉」への接続を理解する(2時間)。源義経について知る(2時間)。			
13	『おくのほそ道』講読	平泉 高館(義経の最期)・中尊寺					世界遺産について調べ、理解を深める(課題・4時間)。			
14	『おくのほそ道』講読	象潟 風景描写を理解する					「松島」との比較をしておく(2時間)。風景描写を学ぶ(2時間)。			
15	『おくのほそ道』講読	越後、北陸道～大垣(まとめにかえて)					後半、各章段のテーマを理解する(2時間)。全巻通読を試みる(2時間)。			
テキスト		成績評価の方法・基準								
「新版 おくのほそ道」(角川ソフィア文庫) ISBN:4-04-401004-8(生協で購入してください。)		課題:20% 定期試験:60% 受講態度:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、対象を追究する研究的姿勢で課題に取り組む。 A:授業内容を理解し、積極的に課題に取り組む。 B:授業内容をおおよそ理解し、課題にも誠実に取り組む。 C:授業内容の過半を理解し、課題にも取り組む。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特に指定しませんが、公共図書館や附属図書館を活用して参考文献を参照してください。		世界(文化)遺産登録地が二箇所も登場する注目の作品で、「観光」の在り方を考えるにも有効な学習内容だと思います。ほそ道本文は、各自、事前に読んでおくようにしてください。								

科目名	健康管理論		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	S-16
担当者	江原 孝史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日2限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
生活習慣病や高齢化などを背景に、健康志向の考え方が社会に広まっています。このような時代背景にいったいどんな健康を害する要素が潜んでいるのか?、本科目では講義を行います。「健康ではない状態」を回避するため、または、改善するために何をすべきなのか?についても情報を提供します。										
学修到達目標										
「健康」の概念を理解し、「健康」を害する要因と「健康」を維持するための方法について基礎知識を習得することが目標です。										
授業の進め方										
指定のテキストを用いて進めますが、テキストには掲載されていない内容も講義内容には含まれます。必要に応じてプリントなどを配布したり、スライドを使って説明します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	社会と健康	健康の定義、概念を理解する。生活習慣と健康との関係や環境が健康に及ぼす影響について理解し、公衆衛生とその歴史について学びます。				テキストの第1章を読んでおく。テキストの練習問題を解く。(4時間)				
2	疫学	疫学の定義と疫学のさまざまな指標、疫学的研究方法について学びます。				テキストの第2章を読んでおく。練習問題を解く。(4時間)				
3	人口統計	統計の基本事項について学び、人口統計、国勢調査、平均寿命、健康寿命について学びます。				テキストの第3,4,5章を読んでおく。健康寿命延伸について調べる。(4時間)				
4	健康づくり	日本の健康づくり施策(第一次健康づくり対策からの歴史的意義、運動指針)、食生活関連施策、運動関連施策について学びます。				テキストの第6章を読んでくる。食生活関連の施策とその変遷について調べる。(4時間)				
5	健康管理	健康管理の原則と考え方、健康教育の定義とその方法、その計画と実施、事例について学びます。				テキストの第7章を読んでくる。健康教育の事例を調べる。(4時間)				
6	生活習慣と健康	生活習慣病、メタボリックシンドロームについて学び、特定健診、保健指導について学びます。				テキストの第8章を読んでくる。生活習慣病についてどれか1つ選び調べる。(4時間)				
7	生活習慣病の疫学、予防、健康管理 1	循環器疾患、糖尿病、脂質異常、がんとその予防について学び、運動による予防効果と運動を始める前のメディカルチェックの重要性と検査項目、基準値について学びます。				テキストの第9章を読んでくる。血液検査の脂質異常の項目について調べる。(4時間)				
8	生活習慣病の疫学、予防、健康管理 2	骨粗鬆症、慢性閉塞性肺疾患、ロコモティブシンドロームについて学び、運動による予防効果と運動を始める前のメディカルチェックの重要性と検査項目、基準について学びます。				テキストの第9章を読んでくる。骨粗鬆症の治療法について調べる。(4時間)				
9	地域の保健予防システム	保健所の歴史とその役割、保健師の役割、災害・危機管理対策、感染症法について学びます。				テキストの第10章を読んでくる。感染症法の疾患について調べる。(4時間)				
10	社会保障制度	社会保障の概念、医療制度、福祉制度について学びます。				テキストの第11章を読んでくる。世界の国の社会保障制度について調べる。(4時間)				
11	高齢者の健康管理	高齢者の医療確保に関する法律、健康増進事業、介護保険法と制度、認知症、サルコペニアについて学びます。				テキストの第12章を読んでくる。サルコペニアの予防について調べる。(4時間)				
12	母子の健康管理	母子保健事業、保健指導、児童虐待、子育て支援制度について学びます。				テキストの第13章を読んでくる。児童虐待、いじめについて調べる。(4時間)				
13	学校の健康管理	健康診断と保健指導、学校給食、児童生徒の問題行動について学びます。				テキストの第14章を読んでくる。発達障害について調べる。(4時間)				
14	職場の健康管理	一般健康診断、職業病と特殊健康診断、メンタルヘルスについて学びます。				テキストの第15章を読んでくる。職業病の歴史について調べる。(4時間)				
15	国際保健	地球規模の健康問題、世界の人口問題について学びます。				テキストの第1章を読んでくる。世界と自分の住む地域の人口問題について調べる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「基礎から学ぶ健康管理概論」柳川 洋、尾島俊之編(南江堂) ISBN:978-4-524-25475-0(生協で購入してください。) 監修 吉米地孝之助				定期試験:80% レポート:20% S:授業内容を高度に理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が特に優れ、定期試験も90点以上。A:授業内容をよく理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が優れ、定期試験が80点以上。B:授業内容を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、実習課題の評価が良く定期試験が70点以上。C:授業の内容を理解し、与えられた課題に取り組み、実習課題の評価が可定期試験が60点以上。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「生活習慣病と健康管理」斉藤征夫、柏原征子、鈴木康夫、谷口いつか著(診断と治療社)				社会人になると、自分の健康は自分で管理しなければなりません。皆さんを取り巻く環境や自分のライフスタイルを客観的に評価してみよう、という気持ちで講義を聞いてください。						

科目名	生涯スポーツ（集团的スポーツ）Aクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL13106	研究室	S-22
担当者	中島 弘毅	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日2限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（基礎）				
授業概要									
人間にとってスポーツはどのようなものなのでしょうか。スポーツは人間社会におけるひとつの文化です。人間に空気が必要なように、人間が「人間らしい」生活をする上で、スポーツはなくてはならないものであり、健康は自己実現を果たすための基盤であると考えられます。そこで本講義では、アルティメット種目を取り上げます。生涯にわたって健康で、スポーツを楽しむことができるよう、そのための基礎的能力の獲得を目指します。									
学修到達目標									
当該種目を楽しむための基本技術及びルールを学習し、技術向上を目指します。アルティメットにおいては、3種類の投げ方及び取り方のスキルを習得すると共に、ゲームにおける戦術の習得を目指します。これらの種目を通して自らの身体を感じ、知り、より良い身体の使い方を学びます。また、スポーツに親しみ、楽しむ上での基本的態度および能力の習得を目指します。									
授業の進め方									
実技を中心にを行います。各種目の種目特性を知り、それぞれの種目にあった身体の動かし方を身につけるように、分習法から全習法へ、基礎から実践へと展開して行きます。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	なぜ、スポーツを行うのか。	ガイダンス 生涯スポーツの意義					スポーツの意義についてレポートにまとめて提出する。		
2	フライングディスクに慣れよう！	バックハndsロー及びキャッチング練習					投動作及び捕球におけるポイントをレポートにまとめて提出する。		
3	フォアハンドスローを習得しよう！	バックハndsローの正確性の向上とフォアハンドスローの練習					フォアハンドスロー動作におけるポイントをレポートにまとめて提出する。		
4	ショルダーズローを習得しよう！	前者2つのスローイングの正確性の向上及びショルダーズローの習得					ショルダーズローのポイントについてまとめて提出する。		
5	ロングパスの練習とキャッチング	ロングスローの練習とキャッチングにおける動き方の習得					ロングスローのポイントについてまとめて提出する。		
6	ミニゲームを楽しんでみよう。	ゲームの成立において何が重要であるかを確認しよう。					チームワークについて考える		
7	ミニゲームにおける動きについて考える。	ミニゲームによる連携プレーについて考える。					自分の動きについて考える。		
8	ミニゲームの質を高めよう！	ミニゲームを通して戦術について考えよう。					試合に勝つためには、何が必要かをレポートにまとめて提出しよう。		
9	ゲームのルールを確認しよう	アルティメットルールの説明と進行について					ルールについて調べてこよう。		
10	チームにおける個々の能力について把握しよう。	チーム力を知り、チームの課題を明らかにしよう！					自分の強みと弱みについて整理してみよう！		
11	自分達のチームの強みを意識しよう！	チーム対抗戦：自分達のチームの強みについて考える					自分達のチームの特徴について考える		
12	ゲームの戦術について考えよう。	チーム対抗戦：戦術について考える					戦術についてまとめる。		
13	ゲームの質を上げよう。	チーム対抗戦：得点パターンを磨く					自分達のチームにあった得点パターンを考える。		
14	ゲームを楽しんでみよう。	チーム対抗戦：総合練習					勝っても負けても充実感がある試合とはどのような試合かを考えてみよう。		
15	スポーツの必要性について	まとめ					生涯スポーツの持つ意味について考え、まとめてみよう。		
テキスト		成績評価の方法・基準							
必要に応じて資料を配布します。		受講態度：60% レポート：20% 実技：10% 出席レポート：10% 受講態度は、積極性・協力性（リーダーシップ、メンバーシップ）・発言、向上心等を授業参加度とともに評価します。							
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「ニュースポーツ事典」北川勇人・（財）日本レクリエーション協会 共編著（遊戯社） 「フライング・ディスクのすすめ」日本フライング・ディスク協会著（ベース		運動着、運動靴を着用することとします。安全に留意し、他者と積極的にコミュニケーションを図り、協力して授業に取り組みしましょう。ルールの事前確認をするとともにスキルについては専門書等で確認をしておきましょう。							

科目名	生涯スポーツ（集团的スポーツ）Bクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL13106	研究室	S-18
担当者	新井 喜代加	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	月曜日5限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)	履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（基礎）					
授業概要									
本授業では、バレーボールを通じてスポーツに親しむ資質を身につけることを目的とします。スポーツに親しむには、なによりスポーツの楽しさを体験することが重要であると考えられます。本授業では、チームごとに「楽しい」という気持ち、感覚、雰囲気、表情等と向かい合いながら、「楽しいバレーボール」を探究します。									
学修到達目標									
(1)バレーボールの基本的技術を習得し、ゲームに活かすことができる (2)チームメイトと協力し、ゲームを展開することができる (3)楽しくゲームを進行するために工夫することができる									
授業の進め方									
基本的に本授業は、チーム単位で「課題の設定 課題を解決する練習方法の決定と実施 ミニゲームの実施 ミニゲームの振り返り 課題の見直しと再設定」というサイクルで進めていきます。(アクティブラーニングの実施)									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション	授業のねらい、授業内容、評価方法、留意事項等について解説し、チーム分けをします				事前：シラバスを読む/事後：本授業のルールと6人制ルールを確認する(1時間)			
2	攻守の基本的技術の習得1	チームごとにパスの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：パスについて調べる/事後：パスをする際の注意点を復習する(1時間)			
3	攻守の基本的技術の習得2	チームごとにサーブの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：サーブについて調べる/事後：サーブをする際の注意点を復習する(1時間)			
4	攻守の基本的技術の習得3	チームごとにレシーブの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：レシーブについて調べる/事後：サーブをする際の注意点を復習する(1時間)			
5	攻守の基本的技術の習得4	チームごとにスパイクの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：スパイクについて調べる/事後：スパイクをする際の注意点を復習する(1時間)			
6	攻守の基本的技術の習得5	チームごとにブロックの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：ブロックについて調べる/事後：ブロックをする際の注意点を復習する(1時間)			
7	基本的なルールの理解と審判技術の習得	6人制ルールとその審判技術の基本を確認し、それを簡易ゲームで実践します				事前：6人制ルールと審判について調べる/事後：審判をする際の注意点を復習する(1時間)			
8	リーグ戦1-1	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてチーム対抗の試合をします				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)			
9	リーグ戦1-2	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを再考する/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)			
10	リーグ戦1-3	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを再考する/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)			
11	基本的技術およびチームプレーの確認	チームごとにリーグ戦1を振り返り、基本的技術およびチームプレーをミニゲームを通して確認します				事前：チームごとに課題を整理する/事後：チームプレーを再確認する(1時間)			
12	リーグ戦2-1	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)			
13	リーグ戦2-2	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)			
14	リーグ戦2-3	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにリーグを振り返る(1時間)			
15	9人制バレーボールの体験	6人制との違いを体感するために9人制バレーボールの試合を実施します				事前：9人制のルールを確認する/事後：これまでを振り返り6人制と9人制の違いを考える(1時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
特に指定せず、必要に応じて資料を配布します。		出席レポート：60% 実技：20% レポート：20% 評価基準は次の通りです。S:批判的思考に基づく探究姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いて、チームメイトと楽しくゲームを展開することができる/A:探究姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いて、チームメイトとゲームを展開することができる/B:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術をゲームに活かすことができる/C:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術を実践することができる							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特に指定しません。		履修者数を抽選により調整する場合があります、30~40名程度の予定です。							

科目名	生涯スポーツ（集团的スポーツ）Cクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL13106	研究室	S-15
担当者	山本 薫	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（基礎）				
授業概要									
ソフトボールは「打つ」「捕る」「投げる」「走る」といった運動の基本動作が盛り込まれた競技スポーツであり、その手軽さから老若男女問わず学校や職場、地域で盛んに実施されている生涯スポーツでもあります。本授業ではソフトボールの基本的な技術や戦術を概説し、またゲーム中の個々の役割について練習やゲームを通してそれらを習得します。さらに審判の実施方法なども体験します。その他、生涯スポーツとして実施するための展開方法、安全管理について習得します。									
学修到達目標									
ソフトボールにおける基本的技術や戦術の習得およびそのためのドリルを学習し実践できるようになること。 チームメートとの関わりの中で積極的にプレーしチームプレーを身につけること。 生涯スポーツとして行うにあたり、リスク管理ができるようになること。									
授業の進め方									
全15回をソフトボールの実技を行い、前半と後半の大きく2つに分けて前半を基礎的技術の習得とミニゲーム、後半をリーグ戦という構成で展開していきます。雨天時には室内での学習もしくは体力づくりを予定していますので準備してください。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	オリエンテーション	概要・スケジュール説明。場所、道具準備片付け手順確認、種目紹介、未経験者確認。					ソフトボールの映像を見てレポート提出する。		
2	基礎能力測定	グループ分け、基礎体力・能力測定(送捕球、守備力、打力)					ソフトボールの技術についてテキストや参考書等で予習する。		
3	基本練習1	キャッチボール：送球と捕球					送球と捕球の基本についてテキストや参考書等で予習する。		
4	基本練習2	トスバッティング：近・中距離打撃と捕球					ソフトボールの打撃と補給についてテキストや参考書等で予習する。		
5	基本練習3	ロングティーバッティングと守備：打撃と捕球					ソフトボールの打撃と守備についてテキストや参考書等で予習する。		
6	応用練習1、ミニゲーム	シートバッティング：打撃と走塁、守備					ソフトボールの打撃、守備、走塁についてテキストや参考書等で予習する。		
7	応用練習2、ミニゲーム	シートバッティング：打撃と走塁、守備					ソフトボールの打撃、守備、走塁についてテキストや参考書等で予習する。		
8	応用練習3、ミニゲーム	シートバッティング：バント、内外野の連携練習					ソフトボールのバント、守備の連携についてテキストや参考書等で予習する。		
9	実践を通して学ぶ1	ゲームでの実践(1)リーグ戦形式					ソフトボールの試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
10	実践を通して学ぶ2	ゲームでの実践(2)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦形式についてテキストや参考書等で予習する。		
11	実践を通して学ぶ3	ゲームでの実践(3)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
12	実践を通して学ぶ4	ゲームでの実践(4)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
13	実践を通して学ぶ5	ゲームでの実践(5)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
14	実践を通して学ぶ6	ゲームでの実践(6)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
15	プレー評価、まとめ	自己プレー評価、他者プレー評価、まとめ					前回までの自分のプレー、他者のプレーについて振り返る。		
テキスト		成績評価の方法・基準							
「いちばんわかりやすいソフトボール入門：ワイド版」宇津木妙子著(大泉書店)(別途、指示します。)		受講態度：90% レポート：10% 取り組む姿勢、積極性を評価します。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「わかりやすいソフトボールのルール」吉村正著(成美堂出版)		安全管理上、体調が急変した場合は教員へ速やかに伝えること。活動し易い服装、帽子やタオル、飲料などを持参すること。遅刻者はウォーミングアップ不十分で怪我防止のため授業参加を認めない場合もある							

科目名	生涯スポーツ（個人的スポーツ）Aクラス	学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL13107	研究室	S-22
担当者	中島 弘毅	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日2限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
	A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（展開）					
授業概要									
人間にとってスポーツはどのようなものなのでしょうか。スポーツは人間社会におけるひとつの文化です。人間に空気が必要なように、人間が「人間らしい」生活をする上で、スポーツはなくてはならないものであり、健康は自己実現を果たすための基盤であると考えられます。そこで本講義では、ターゲットバードゴルフ種目を取り上げ、本種目を通して生涯にわたって健康で、スポーツを楽しむことができるよう、そのための基礎的能力の獲得を目指します。									
学修到達目標									
本講義では、当該スポーツ種目を楽しむための基本技術の習得および技術向上を目指します。当該種目を通じて、スポーツを通して自らの身体を感じ、知り、より良い身体の使い方を学びます。また、スポーツに親しみ、楽しむ上での基本的態度および能力の習得を目指します。									
授業の進め方									
実技を中心に行います。当該種目の種目特性を知り、種目にあった身体の動かし方及び技術を身につけるように、分習法から全習法へ、基礎から実践へと展開して行きます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	スポーツの意義について考えてみよう!	ガイダンス 生涯スポーツの意義				本授業の意義を考え、自らの達成目標を設定しよう。			
2	ターゲットバードゴルフとは?	ターゲットバードゴルフにおけるグリップの握り方とスイングフォームについて				グリップの握り方について調べてこよう。			
3	スイングのポイントについて考えてみよう。	ターゲットバードゴルフにおける軸と支点について				スイング時における軸及び支点についてまとめてみよう。			
4	スイングとボールとの関係について考えて見よう。	ターゲットバードゴルフにおけるスイングプレーンとインパクトについて				クラブの軌道、フェイスの向きとボールの軌道、回転について考えてみよう。			
5	軸、支点とヘッドスピードとの関係について考えて見よう。	ターゲットバードゴルフにおける身体の軸、支点とヘッドスピード関係について考える。				身体の軸、支点とヘッドスピードについてまとめてみよう。			
6	軸、支点と身体の使い方について考える。	軸、支点を生み出す下半身の使い方と身体への意識について考える。				意識することの重要性について考える。			
7	振り幅と距離について考える。	クラブの振り幅とボールの飛距離について考える。				より少ない打数であがるためにはどうしたらよいか考えてみよう!			
8	ビジネスゾーンについて	腰から腰の振り幅におけるスイングの重要性について。スロースイングとフェイスに対する意識と方向性について				スロースイングと意識について考えてみよう。			
9	ラウンドにおける楽しさを感じてみよう。	ラウンドの仕方を学ぼう。ゲームの説明と進行の仕方について。				ルールについてまとめてみよう。			
10	スコアの記入の仕方を学ぼう。	ラウンドをしながらスコアの記入の仕方を学ぼう。				ゴルフと審判について考えてみよう。			
11	ゴルフの特性を考えながらラウンドしてみよう。	ラウンドをしながら、自然とプレーとの関係について考えてみよう。				ゴルフは自然との戦いであると言う意味について考えてみよう。			
12	ゴルフの特性について考えてみよう。	ラウンドをしながら、自分の心の変化とプレーとの関係について考えてみよう。				ゴルフは自分との戦いであると言う意味について考えてみよう。			
13	マナーと楽しさについて考えてみよう。	ラウンドをしながら、ゴルフのマナーがプレイに及ぼす影響とプレイの楽しさについて考えてみよう。				マナーの重要性について考えてみよう。			
14	作戦を立てながらラウンドを楽しもう。	コースマネージメントについて考える。				次を考えることの重要性についてまとめてよう。			
15	ゴルフの歴史から見た種目特性について考える。	まとめ				ゴルフにおける紳士のスポーツとしての特性と楽しさとの関係について考えてみよう。			
テキスト		成績評価の方法・基準							
必要に応じて資料を配布します。		受講態度：60% レポート：20% 実技：10% 出席レポート：10% 受講態度は、積極性・協力性(リーダーシップ、メンバーシップ)・向上心等を授業参加度とともに評価します。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「ニュースポーツ事典」北川勇人・(財)日本レクリエーション協会 共編著(遊戯社)		運動着、運動靴を着用することとします。安全に留意し、他者と積極的にコミュニケーションを図り、協力して授業に取り組みましょう。ルールの事前確認をするとともにスキルについては専門書等で確認をしておきましょう。							

科目名	生涯スポーツ（個人的スポーツ）Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL13107	研究室	S-18
担当者	新井 喜代加		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ(展開)					
授業概要										
本授業では、バドミントンを通じてスポーツに親しむ資質を身につけることを目的とします。スポーツに親しむには、なによりスポーツの楽しさを体験することが重要であると考えられます。本授業では、ペア・チームごとに「楽しい」という気持ち、感覚、雰囲気、表情等と向き合いながら、「楽しいバドミントン」を探索します										
学修到達目標										
(1)バドミントンの基本的技術を習得し、ゲームに活かすことができる (2)ペア・チームで協力して、ゲームを展開することができる (3)楽しくゲームを進行するために工夫することができる										
授業の進め方										
基本的に本授業は、ペア・チーム単位で「課題の設定 課題解決のための練習方法の決定と実施 ミニゲームの実施 ミニゲームの振り返り 課題の見直しと再設定」というサイクルで進めていきます。(アクティブラーニングの実施)										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業内容、評価方法、留意事項等について解説し、チーム分けをします				事前：シラバスを読む/事後：バドミントンのルールを確認する(1時間)				
2	攻守の基本的技術の習得1	グループごとにストロークの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：ストロークについて調べる/事後：ストロークをする際の注意点を復習する(1時間)				
3	攻守の基本的技術の習得2	グループごとにサービスの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：サービスについて調べる/事後：サービスをする際の注意点を復習する(1時間)				
4	攻守の基本的技術の習得3	グループごとにショット(スマッシュ)の技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：スマッシュについて調べる/事後：スマッシュをする際の注意点を復習する(1時間)				
5	攻守の基本的技術の習得4	グループごとにショット(クリアー)の技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：クリアーについて調べる/事後：クリアーをする際の注意点を復習する(1時間)				
6	攻守の基本的技術の習得5	グループごとにショット(ドロップ)の技術の習得方法を考え、それを実践します				ドロップについて調べる/事後：ドロップをする際の注意点を復習する(1時間)				
7	基本てきなルールの理解と審判技術の習得	ルールと審判技術の基本を確認し、簡易ゲームで実践します				事前：ルールと審判について調べる/事後：審判をする際の注意点を復習する(1時間)				
8	リーグ戦1-1	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
9	リーグ戦1-2	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
10	リーグ戦1-3	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
11	基本的な技術と戦術の確認	チームごとにリーグ戦1を振り返り、基本的な技術と戦術をミニゲームを通して再確認します				事前：チームごとに課題を整理する/事後：チーム戦術を再確認する(1時間)				
12	リーグ戦2-1	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする				
13	リーグ戦2-2	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする				
14	リーグ戦2-3	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする				
15	レクリエーション	討議により設定した特別ルールのもと試合を実施します				事前：楽しくゲームができる特別ルールを考える/事後：本授業のレポートを作成する				
テキスト				成績評価の方法・基準						
特に指定せず、必要に応じて資料を配布します。				出席レポート：60% 実技：20% レポート：20% 評価基準は次の通りです。S:批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いて、チームメイトと楽しくゲームを展開することができる/A:探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いて、チームメイトとゲームを展開することができる/B:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術をゲームに活かすことができる/C:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術を実践することができる						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特に指定しません。				履修者数を抽選により調整する場合があります。						

科目名	生涯スポーツ（個人的スポーツ）Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL13107	研究室	非常勤
担当者	寺平 美樹		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（展開）					
授業概要										
本講義はバドミントンとボクササイズという全く違うスポーツを体験することで、個の運動習慣を生産的に継続できるようにすることを目的とします。										
学修到達目標										
生涯スポーツに結び付けられるよう、仲間と楽しむ。										
授業の進め方										
前半はバドミントン、後半は音楽に合わせてボクササイズを行います。（講義内容は変更する場合があります）										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション ウォーミングアップの重要性	授業時の注意点、講義への向き合い方、進め方の説明。 正しいストレッチの方法を修得します。レクリエーションも行います。				基礎体力がつく運動にはどのようなものがあるか考えてみる。 (1時間)				
2	体づくりレクリエーション バドミントン基礎	ウォーミングアップを兼ね、レクリエーションを楽しみ体づくり。 バドミントンのラリー、サーブ練習。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
3	ストレッチ バドミントン	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 バドミントンのラリー、スマッシュ練習、シングルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
4	ストレッチ バドミントン	バドミントンのラリー、スマッシュ、ヘアピン練習、シングルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
5	ストレッチ バドミントン	バドミントンのルールを再確認。 シングルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
6	ストレッチ バドミントン	バドミントンの審判などゲーム運営の確認。 シングルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
7	ストレッチ バドミントン	バドミントンのラリー、スマッシュ、ヘアピンの練習。 ダブルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
8	ストレッチ バドミントン	バドミントンのラリー、スマッシュ、ヘアピン練習。 ダブルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
9	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害の予防と、パフォーマンス向上のため全身のストレッチを行います。 ジャブ、ストレート動作を音楽に合わせて動きます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
10	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 ジャブ、ストレート動作にフックを加えて動いてみます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
11	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 ジャブ、ストレート、フック動作にアッパーを加えて動きます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
12	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 上肢の動きに加え、前蹴りの動作を行います。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
13	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 相手を想定した構成で動いてみます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
14	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 単純な動きから複雑な動きにチャレンジしてみます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
15	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 複雑な動きをよりバワフルに動いてみます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「なし」				S：遅刻、早退、欠席がなく、私語を慎み、前向きに授業が受けられる。 A：遅刻、早退がない。欠席は1回程度。前向きに授業が受けられる。 B：遅刻、早退、欠席が2回程度。前向きに授業が受けられる。 C：遅刻、早退、欠席が3回程度。前向きに授業が受けられる。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「なし」				スポーツウェア（上・下）、スポーツシューズは必ず着用してください。 大学の備品はていねいに扱うようにしてください。						

科目名	生活習慣病と予防		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ'リング	UL23108	研究室	S-16
担当者	江原 孝史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日2限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	2017年度～					
授業概要										
食事をはじめとする生活習慣はさまざまな病気の発症に深くかかわっています。遺伝によっておこる病気においてもこれは同様です。生活習慣を見直すことで病気の発症を防ぎ健康長寿を達成することができます。本講義では、生活習慣が関係して発症するさまざまな疾患について学び、生活習慣病を防ぐための食事や運動などについて知り実習では、自分の体の状態(体重、胸腹囲、血圧、ヘモグロビン、内臓脂肪量、動脈血酸素飽和度)をチェックします。										
学修到達目標										
自分の生活習慣と健康状態を知り、自らの生活習慣病のリスク因子を把握することによって、より健康的な学生生活を送ることができるようになること。かつ、生活習慣病とそれを予防するための知識を教えることができるようになること。										
授業の進め方										
スライドを使いながらレポートと実習で進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	生活習慣病とは? 成人病から生活習慣病と呼ばれるようになった経緯、特に生活習慣病の低年齢化について学びます。				教科書13-36ページを読んでくる。自分の生活習慣を考える。(4時間)				
2	肥満、肥満症	なぜヒトは太るのか(痩せることができないか)、肥満の定義とBMIについて学びます。自分の体重測定、体脂肪のチェックとBMIを計算します。				教科書37-72ページを読んでくる。小児肥満の問題について調べる。(4時間)				
3	糖尿病(1)	糖尿病の定義、分類(I型、II型)、血糖値とHbA1cの意義について学び、血糖値を測定します。グルコーススパイクとその意義について学びます。				教科書73-87ページを読んでくる。糖尿病と遺伝の関係を調べる。(4時間)				
4	糖尿病(2)	糖尿病の合併症、運動療法、食事療法について学びます。				教科書88-102ページを読んでくる。糖尿病の合併症の頻度を調べる。(4時間)				
5	脂質異常	脂質異常の種類と原因、動脈硬化との関係、脂質異常の予防について学びます。				教科書125-130ページを読んでくる。一日に摂取する脂質の種類と特徴について調べる。(4時間)				
6	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームの定義とその意義について学びます。				事前に腹囲を測定する。メタボリックシンドロームの影響について調べる。(4時間)				
7	高血圧	高血圧の定義、本態性高血圧と二次性高血圧、家庭高血圧と診察室高血圧について学びます。血圧の正しい測定方法を学び、自分の血圧を測定します。				教科書103-124ページを読んでくる。高血圧の影響について調べる。(4時間)				
8	虚血性心疾患	虚血性心疾患の分類(狭心症、心筋梗塞)、運動療法について学びます。				教科書133-158ページを読んでくる。心臓リハビリについて調べる。(4時間)				
9	脳卒中	脳出血、脳梗塞の分類、脳卒中のサイン、危険因子について学びます。				脳梗塞の治療法、特に薬物治療について調べる。(4時間)				
10	消化器の生活習慣病	逆流性食道炎、胃潰瘍、胆石、脂肪肝、慢性膵炎、大腸憩室などについて学びます。				生活習慣とさまざまな消化器疾患との関係を調べる。(4時間)				
11	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の種類と動脈血酸素飽和度(SpO2)測定の意義、COPDに対する運動療法の有用性、運動誘発性ぜんそくについて学びます。パルスオキシメーターでSpO2を測定します。				スパイロメーターで自分の肺活量、一秒率、肺年齢を調べる。(4時間)				
12	がん	がんの定義、がんの男女別死亡率、癌の生物学、がん検診と一次予防について学びます。				日本人がかかるがんの特徴とがん検診の問題について調べる。(4時間)				
13	運動器疾患	変形性関節症、変形性脊椎症、骨粗鬆症について、予防と運動について学びます。骨密度の測定方法との特徴を学びます。				教科書233-256ページを読んでおく。自分の骨密度を測定する。(4時間)				
14	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの構成概念、サルコペニアやフレイルの定義、高齢者の運動障害の特徴について学びます。				事前にロコチェックとロコトレを行う。サルコペニアのメカニズムについて調べる(4時間)				
15	認知障害、認知症	認知症の病態、認知症症状と、症状に対する運動療法(コグニサイズ)について学びます。				教科書211-232ページを読んでくる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「Q&A 生活習慣病の科学 Neo」中尾 一和編(京都大学出版会) ISBN:978-4-8140-0050-0(生協で購入してください。)授業とレポートで必要なので必ず購入してください				定期試験:80% レポート:20% 評価の基準 S:授業内容を高度に理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が特に優れ、定期試験も90点以上。A:授業内容をよく理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が優れ、定期試験が80点以上。B:授業内容を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、実習課題の評価が良く定期試験が70点以上。C:授業の内容を理解し、与えられた課題に取り組み、実習課題の評価が可で定期試験が60点以上。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「健康運動指導士養成講習会テキスト」(財団法人健康・体力づくり事業団)95頁～253頁 「世界一長寿な都市はどこにある?」家森幸男著(岩波書店) ISBN:978-				毎日の生活習慣(食事を含め)が病気の発症に影響することを知ろう。とくに栄養と運動とが大きな要素であることを学ぼう。						

科目名	日本国憲法（総合経営学部）		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL13201	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
日本国憲法の基本的な枠組、背景、その意義などを理解するために、近代憲法の基本原理（基本的人権の保障と権力分立制）、日本における二つの憲法（明治憲法と日本国憲法）の異同、日本国憲法の基本原理（民主主義、基本的人権の尊重、平和主義）などを明かにした上で、具体的な政府の仕組みと人権保障のあり方についての基本論点を検討しながら理解を深めて行くことにします。										
学修到達目標										
本講義は、日本国憲法についての基本的な知識を獲得することを目的としています。日本国憲法を近代立憲主義の歴史の中に位置づけた上で、日本における憲法学説・判例を手がかりにしながら、日本国憲法の人権および統治機構（政府の仕組み）の基本的なあり方を理解する。										
授業の進め方										
講義は、六法（毎時間必携）で条文（憲法、関連諸法令）を参照しながら進めていきます。なお、ほぼ毎時間、講義テーマまたは人権、憲法に関連した新聞・雑誌などの記事を配布し、解説を加えることにします。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	近代憲法の成立と構成	ガイダンス、憲法の諸概念				講義内容の復習（4時間）				
2	統治総論と国民主権	二つの憲法の比較、日本国憲法制定過程、基本原理				テキストを読む（4時間）				
3	国民主権と天皇	日本国憲法の成立過程とその評価				テキストを読む（4時間）				
4	選挙制度と選挙権	選挙制度、選挙権、法の下での平等				テキストを読む（4時間）				
5	国会1	議院と議員				テキストを読む（4時間）				
6	国会2	活動と地位				テキストを読む（4時間）				
7	内閣	内閣、首相、国務大臣				テキストを読む（4時間）				
8	司法権と裁判所	司法権、裁判所の組織				テキストを読む（4時間）				
9	違憲審査制	違憲審査制と重要判例				テキストを読む（4時間）				
10	基本的人権1	人権保障のしくみ、幸福追求権				テキストを読む（4時間）				
11	基本的人権2	法の下での平等				テキストを読む（4時間）				
12	思想・良心の自由と信教の自由	思想・良心の自由、信教の自由、政教関係				テキストを読む（4時間）				
13	表現の自由	表現の自由、知る権利				テキストを読む（4時間）				
14	経済的自由	財産権、職業選択の自由				テキストを読む（4時間）				
15	社会権	生存権、教育を受ける権利				半期講義の復習（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「一歩先への憲法入門」片桐直人・井上武史・大林啓吾著（有斐閣） ISBN:978-4641131965（生協で購入してください。） 「ポケット六法 平成29年度版」山下友信、山口厚編（有斐閣） ISBN:978-4641009172（生協で購入してください。）				定期試験：90% 受講態度：10% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
なし				講義の中では、授業の受け方、ノートの取り方、六法の使い方など大学で学ぶために必要な技術についても教えます。学生諸君は、講義内容そのものだけでなく、学ぶための技術についても学ぶよう心がけてください。						

科目名	地域企業特論		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバ`リング`	UL13202	研究室	W-32
担当者	小林 俊一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`	水曜日3限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2016年度 ~					
授業概要										
本講義は国際ロータリー第2600地区(松本地域)と松本大学の教育連携協定に基づく講座であり、長野県を代表する企業から毎回招く講師の講義内容は、実践や実務の中から獲得された「経験知」です。論理的に構築される大学での学びがバーチャルの世界の「知」とするならば、まさしくリアリティのある「知」とも言え、新たな自己発見につながる講義です。										
学修到達目標										
企業の歴史的背景や現状を踏まえた現在の活動ならびに、将来構想などについて企業家自身から講義を受けることで、「自己」、「社会」、「企業」といった視点から、大学での学びや自らの進路、生き方について考えていきます。さらに、社会人として必要な実践的知識や環境対応力といった社会人基礎力と言われる社会的知識を獲得することが最終的な目標となります。										
授業の進め方										
各回のテーマに沿った企業人を講師に招いて講義形式の講演を聴きます。講義の最後には講師の出題するテーマや講演を聴いた感想をレポートにまとめて提出します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・ロータリークラブの役割	地域社会のリーダーという立場から、国際的組織でもあるロータリークラブの目的と社会的役割について解説します。				事前にシラバスを読んでおく。ロータリークラブについて整理しておく。(4時間)				
2	プロフェッショナルとは	社会人として身につけなければならないプロ意識について、企業人の実際の活動から学び取り、働くことの意義を再認識します。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
3	企業イノベーション	これからの企業経営の課題であるイノベーションとは、技術だけでなく幅広い意味での「革新」です。アイデアやひらめきが生み出される背景を探り、発想力豊かな社会人について考えます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
4	企業活動と地域社会	企業活動が経済、文化など、様々な形で地域社会に及ぼしている影響について展望し、社会人なることの意味を考えます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
5	グローバルとローカル	グローバル化が叫ばれる現在において、その対称に位置すると考えられているローカルの思考が重要であるとされる理由を実際の企業活動を通して考察していきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
6	リーガルマインドと企業活動	法的な解釈を基本とした論理的思考とバランス感覚に基づく企業活動の実際を例に、社会人に求められるリーガルマインドとは何かを考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
7	社会問題に挑む企業活動	高齢化や環境など現代社会に存在する様々な社会問題の解決に取り組む企業活動を通して、社会を形成する仕事の在り方について考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
8	企業の専門性	企業における専門性とは何か、企業規模とは全く違う視点から企業の価値について考え、働くということの意味を再考します。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
9	企業がおこなう地域貢献	企業はどのような理念に基づき地域貢献をおこない、それがどのような社会的意義を持つのかを考えることで、企業と地域の関係を見直します。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
10	経済情勢と企業経営	現在の経済情勢を踏まえた企業経営とはどのようなものかを学び、経済動向に応じた柔軟な企業活動と今後の見通しについて考えます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
11	企業のグローバル戦略	経済の激しいグローバル化が進む中で、地方の企業がどのような戦略に基づき経営しているか実例から学び、国際的視野の重要性を考えます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
12	企業のコンプライアンスとモラル	コンプライアンスやモラルを企業価値を高めるものとしてとらえ、積極的に取り組んでいる企業の実例から、信頼され尊敬される企業や従業員とは何かを考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
13	ブラック企業と何か	社会問題化しているブラック企業とはどのような企業のことを指しているのか、その実態を捉えつつ、労働者としての権利と義務について考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
14	起業するための条件	起業するとはどういうことか、ビジネスチャンスのつかみ方やリスクについて学び、起業家として成功するための条件について考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
15	意味のある働き方とは	企業が求める人材とはどのような人材なのかについて経営者の立場から話を聞き、人間にとって働くということがどのような意味を持っているのか、今何をすべきか考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
テキストはありませんが、毎回講義用の参考資料を配付しますので、全ての資料をファイルしておいてください。		レポート：90% 受講態度：10% 毎回、講義の最後に授業内容に関する小論を書きそれを講師が評価します。15回の講義の小論の評価の合計点に、授業中のメモを取るなどの聴講態度を加えた総合評価とします。小論は各回の講義の狙いによって多少の違いはありますが、講義内容のまとめ、自分の考えや主張、文章量などが評価されます。Sは9割以上、Aは8割以上、Bは7割以上、Cは6割以上の得点を必要とします。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
できれば2紙以上の新聞を読むようにして下さい。		自分の就職や生き方など、将来を真剣に考えている人にとっては有益な講義です。外部から毎回招聘する講師が違います。それだけに学生諸君には積極的な傾聴姿勢を求めます。								

科目名	地域課題研究Aクラス			学年学期	1年通年	単位数	2	ナパリング	UL13203	研究室	W-34
担当者	白戸 洋			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
学生が地域の直面する課題について、その現状を学ぶとともに、実践活動を通じて具体的に課題解決を図ることを目的とします。											
学修到達目標											
地域課題について理解をするとともに、実践活動の成果を分析・評価し、その成果を踏まえて具体的な解決にむけたアクションを自ら計画し実施する技術及び能力を身に付ける 活動を通じコミュニケーション能力や課題解決能力、社会的課題に対する関心、地域に向き合う意識などを身に付ける											
授業の進め方											
子育ての問題や買い物弱者問題、地域の居場所づくり、子どもの育ち、まちづくりなど地域が直面する課題についての講義、課題の実態を把握するための調査、その解決を図るための実践活動によって構成されます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	講義の内容及び進め方を説明し履修者シートの作成を行う(学修達成目標等)					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
2	地域課題に関する講義	高齢者の抱える問題(買い物弱者問題など)について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
3	地域課題に関する講義	まちづくりをめぐる地域課題について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
4	地域課題に関する講義	子育てをめぐる問題について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
5	地域課題に関する講義	子どもをめぐる問題について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
6	地域課題に関する講義	その他の地域課題について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
7	地域課題解決事業の実施準備	対象地区等での実態の把握(現地踏査)を行う					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
8	地域課題解決事業の実施	対象地区において地域課題の解決を図る事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
9	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
10	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
11	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
12	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
13	地域づくりに関する講義	まちづくりに関して講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
14	地域づくりに関する講義	居場所づくりに関して講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
15	地域づくりに関する講義	人づくりに関して講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
16	地域づくりに関する講義	子ども・子育てについて講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
17	地域づくりに関する講義	高齢者について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
18	地域づくりに関する講義	対象地区における課題を考える					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
20	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
21	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
22	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
23	調査手法	社会調査について講義する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
24	調査手法	分析・評価手法について講義する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
25	調査手法	アンケート等調査に必要な資料の作成を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
26	事業の成果分析	対象地区等での成果と課題の把握（アンケート調査）を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
27	事業の成果分析	対象地区等での成果と課題の把握（ヒアリング調査）を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
28	事業の成果分析	対象地域における事業の効果の検証を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
29	今後の事業計画の策定	次年度以降の事業の計画策定を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
30	まとめ	個人別学修達成目標の評価を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
テキスト		成績評価の方法・基準	
「買い物難民を救え!移動スーパーとくし丸の挑戦」村上 稔著（緑風出版） ISBN:978-4-8461-1411-4（生協で購入してください。）		レポート：60% S:講義の成果を活かして持続的に課題解決のために具体的な活動を行うことができる。A:実践活動を通じて地域課題を把握し有効な解決策を提言し解決を試みた。B:実践活動を通じて地域課題を把握し有効な解決策を提言。C:実践活動を通じて地域課題を把握し概ね具体的な解決策を提言	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「買い物難民 もうひとつの高齢者問題」杉田 聡著（大月書店）		PBL（問題解決）型の授業として、みなさんの身近な社会問題に対して実践的にアプローチし、解決方法を学びます。積極的に参加してください。	

科目名	地域課題研究Bクラス			学年学期	1年通年	単位数	2	ナパリング	UL13203	研究室	S-02
担当者	廣田 直子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	前期：水曜日3限 後期：水曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この授業では地域全体を学びの場とし、フィールド活動により地域課題を見出し、その解決に向けて皆でディスカッションし、提案という形にまとめます。Bクラスでは人の一生を「健康」の視点で概観し、まずは、乳幼児期、学童・青年期、壮年期、高齢期といったライフステージごとの特徴をとらえます。その上で、地域活動に参画して生活者である地域の人々が直面する健康課題を発見し、グループ討議を経て解決に向けて考え合い、提案をまとめます。											
学修到達目標											
能力：フィールド活動での観察力を修得する。課題について積極的にディスカッションできる。 具体的到達目標：健康を栄養と運動、社会生活の視点からとらえ、近隣社会の現状を踏まえて地域が抱える健康問題・課題への認識を深め、自分たちの提案をまとめる。											
授業の進め方											
前半はオムニバス形式で、講義を中心に進めます。後半は、周辺地域で行なわれている「健康」への取り組みを、実習体験を通じて学び、グループで地域課題に向けた解決法を探り、提案をまとめます。(履修者数を制限することがあります。)											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方と、後半に行う実習参加について実習先や実習内容の説明をします。決定している範囲で参加実習の情報を提示します。					各自で、予定されている実習に参加するための日程を調整し、参加意欲を高める。(1時間)				
2	社会生活と健康	4~5人のグループをつくります。自己紹介に加え、自身の健康観について自由に語ることで互いの考えを知り、その後「社会生活と健康」を考える次回以降の講義の意味について学びます。					健康観について、自身の健康に対する受け止め方や考え方をまとめて記述する。(1時間)				
3	ライフステージと健康 乳幼児期	乳幼児期の発育発達の大枠を捉え、生涯にわたり健康な生活を送るための基盤となる育ちの環境について、栄養・運動の両面から学びます。					身近に暮らす乳幼児に関心を寄せ、乳幼児期に重要な育ちの環境についてまとめる。(2時間)				
4	ライフステージと健康 学童・青年期	長野県内の児童の生活習慣の実態について学びます。生活習慣が子どもの発育発達に及ぼす影響について県内の実態からとらえ、改善に向けた栄養と運動両面からの支援の可能性を探ります。					学童期の生活時間、生活習慣の実態を知り、問題の所在について考えレポートを作成する。(2時間)				
5	ライフステージと健康 壮年期	体力をはじめ諸機能の衰えを感じ始めるのが壮年期です。健康上の様々な問題を感じるようになるこの年代は、健康への関心が高まる時期でもあります。栄養・運動の両面からの指導や支援の表情を学びます。					身近な大人との会話から、働き盛り世代の健康への意識・関心を聞き取ってまとめる。(2時間)				
6	ライフステージと健康 高齢期	元気な高齢者、支援が必要な高齢者など、「高齢期」とひとくくりにしてもその幅は広く、人生における喜・哀のイベントが健康に影響を及ぼす年代でもあります。様々な観点から健康維持について学びます。					高齢期に生じる体の生理的衰えを知り、健康であることの価値について考え、まとめる。(2時間)				
7	地域課題 (健康と栄養)	これまでの学習で得た知識を基に、地域に目を向けます。実際に行われている栄養指導の場面やその内容、また対象に関する地域の実情を知り、アウトキャンパスでの学習目標に向けて考えます。					これまでの学習内容を振り返り、生活実態に合った「食」のあり方を考え、まとめる。(2時間)				
8	地域課題 (健康と運動)	これまでの学習で得た知識を基に、地域に目を向けます。実際に行われている運動指導の場面やその内容、また対象に関する地域の実情を知り、アウトキャンパスでの学習目標に向けて考えます。					これまでの学習内容を振り返り、生活実態に合った「運動」の必要性を考え、まとめる。(2時間)				
9	松本市の健康づくりの取り組み	健康寿命延伸都市松本の制度や健康づくりに関する様々な取り組みについて知り、若者(学生)の視点からの行政への要望・提案についてディスカッションし、その中から自分たちで対応可能な課題を発見します。					市の活動内容をまとめ、行政が取り組みにくい課題に関するレポート執筆の準備をする。(3時間)				
10	市民運動としての健康づくりの取り組み	NPOや地域の自主運営による健康の取り組みについての実態を学びます。熟年体育大学(JTRC)の取り組みや、本学地域健康支援ステーションの事業例を参考に、健康に関する地域課題について考えます。					前回に続き、地域の健康課題を、実際の事例から捉えてレポートを完成させる。(3時間)				
11	情報収集の方法	これまでに学習した健康に関する様々な情報を、さらに幅広く収集するための方法とその活用方法について学びます。その際、今後の活動で必要とされるルール、マナーについても学修します。					以後の報告や発表資料に役立てるための健康情報、地域情報などの情報を収集する。(3時間)				
12	プレゼンテーションの方法	本講義後半では、グループで「地域における健康課題(仮)」を発表するので、収集した資料や実習での体験をまとめる際に必要となるプレゼンテーションの方法として、パワーポイントの作成技法を学びます。					パソコンの操作に慣れ、パワーポイントを活用し、プレゼンファイル作成の練習をする。(3時間)				
13	地域課題を探る	3~4人のグループになり、健康観について話し合いを持ちます。初回講義でそれぞれが感じていた健康観を振り返り、あらためて地域の健康課題について考え、メンバーと共有します。					グループで共有した問題について地方紙などから情報を収集し、次回講義時に持ち寄ります。(2時間)				
14	地域課題を提起1	前回授業に続き、KJ法やブレインストーミングなどで情報を出しあい、グループの関心事をまとめて発表します。グループで収集した地域課題について問題の所在を探ります。					グループで決めたテーマを咀嚼し、実習の際のモチベーションの向上を図る。(1時間)				
15	地域課題を提起2	グループで決めた地域課題(テーマ)を再確認します。何が問題で、どうしていくことが求められるか、自分たちにはできることは何かなど具体化させ、グループの意思決定を図ります。					後期に行う実習を意味あるものにするため、積極的に必要な準備を整える。(3時間)				
16	オリエンテーション(後期)	グループで進めます。前半の学習やグループの課題・目標を再確認します。今後実施する実習参加について説明を受けます。実習記録ノートを配布します。					実習記録ノートを確認し、実習参加の準備と心構えを確固としたものにする。(1時間)				
17	実習事前指導	実習の事前指導を受けます。実習に臨む姿勢、記録の取り方、事後報告について理解するとともに、実習先や対象者によって参加時の配慮や参加姿勢が異なることを理解します。					実習先について事前に情報収集し(1時間)、実習ごとの目標を定めて臨みます。(1時間)				
18	実習(栄養指導場面1)	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。					実習記録ノートをまとめる。(3時間)				

授業計画（各回のテーマ等）		事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。	
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	実習（栄養指導場面1-2）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
20	実習（栄養指導場面1-3）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
21	実習を振り返る（栄養）	グループ毎、体験から得た学びを共有します。互いの実習記録を振り返り、それぞれの場面での気付きを話題提供し、地域社会に求められている健康づくりの課題を探ります。	実習での振り返りや気づきを次回実習に生かすために、自身の課題目標を明確にする。（1時間）
22	実習（運動指導場面1）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
23	実習（運動指導場面1-2）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
24	実習（運動指導場面1-3）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習での振り返りや気づきを報告会に生かすため、自分の考えや意見をまとめる。（2時間）
25	実習を振り返る	前期講義で得た学びや地域活動での実習体験をふまえ、グループで話し合い、報告会での発表を前提にした討議をします。地域社会に求められている健康づくりの課題と解決方法を探ります。	自分の考えや意見を、体験と理論の両面から語れるように準備を進める。（2時間）
26	報告会の準備	グループで互いの実習記録を振り返り、それぞれの場面での気付きについて話題提供し、地域社会に求められる健康づくりの課題とその解決方法に向けた提案をまとめ、報告会での発表資料を作成します。	発表の準備・練習（2時間）、自分の考えや意見を体験と理論の両面から語れるようにする。
27	実習報告会1	互いの報告・発表を聞き、自分の実習体験と重ね、他のグループの発表に対して質問や感想を述べるなど、関心を持って聞き、互いに学び合います。	「健康問題」を、個人の問題としてではなく、地域が抱える課題として再考する。（2時間）
28	実習報告会2	互いの報告・発表を聞き、自分の実習体験と重ね、他のグループの発表に対して質問や感想を述べるなど、関心を持って聞き、互いに学び合います。	「健康問題」を、個人の問題としてではなく、地域が抱える課題として再考する。（2時間）
29	実習報告会のまとめ	報告会での発表を受けて、地域課題解決に向けた方途についてグループディスカッションをします。	ディスカッションを踏まえて地域課題解決のための方途についてまとめる。（3時間）
30	地域課題 まとめ	一人ひとりが本講義の学びをまとめ、それをお互いに聴取し合い多様な考えがあることを知ります。それを通して個々の学生が大学生活及び将来の健康課題について、地域という視点で考え続ける姿勢を培います。	記録ノートや発表から、地域社会における健康課題解決の方途に関するレポートを作成する。（3時
テキスト		成績評価の方法・基準	
(別途、指示します。) 配布資料(プリント)で進めます。		出席レポート：50% 課題：50% S:積極的な地域活動参加を通し、多角的な観察による気づきや提案を的確に文章表現できる。集団討議ではリーダーシップを発揮できる。A:積極的な地域活動での観察から、気づきや提案を文章表現できる。集団討議での確かな意見を述べるができる。B: 地域活動での観察による気づきを文章表現できる。集団討議で自分の意見を述べるができる。C: 地域活動に参加して学修した内容を文章表現できる。グループワークで自分の意見を述べるができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
配布資料で進めます。		学生だから体験できる地域社会との交流を通じ、誰もが大切にしたい「健康」への認識を深め、自身の健康についても考えください。また、学修を通して社会の健康課題と向き合い、その解決方法を考え地域に目を向けましょう。	

科目名	地域課題研究Cクラス			学年学期	1年通年	単位数	2	ナバリング	UL13203	研究室	W-19
担当者	矢崎 久			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日2限、火曜日3限、木曜日2限、木曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
			A	B	C						
授業概要											
買い物難民、老老介護、孤独死など高齢化社会に共通した課題に加えて、豪雨や地震など近時増加する自然災害への対処など地域が抱える課題は少なくありません。これら諸課題から今年度は「防災」に焦点をあてて、地域における防災の現状と課題について学ぶとともに、具体的な活動を通じた課題解決能力の獲得を図ります。											
学修到達目標											
地域における「防災」をテーマに、課題の発見、解決目標の設定、目標達成にむけた実践計画の立案と実行、評価までを自らが主体となり、かつ創造的におこなえる。											
授業の進め方											
火災、地震、豪雨などの災害や防災初動組織と地域連携のありかたについての座学、グループワーク、減災や防災と社会資源の活用、災害支援ボランティア体験、さらに自治防災組織に関わることで「防災士」としての実践力を涵養します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	地域課題とはなにか	地域社会における課題の存在を知る					事前：プリント予習(0.5時間) 事後：講義計画理解(0.5時間)				
2	地域と防災	地域防災の現状と課題を知る					事前：プリント予習(0.5時間) 事後：課題作成(0.5時間)				
3	地域と防災	地域防災についての課題を抽出する					事前：課題作成(0.5時間) 事後：ワーク準備(0.5時間)				
4	地域課題としての防災	課題の発見と解決目標の検討					事前：解決目標の絞り込み(0.5時間)事後：解決にむけた計画検討(0.5時間)				
5	地域課題としての防災	課題の決定と解決にむけた実践計画作成					事前：課題シート作成(0.5時間) 事後：実践計画案作成(0.5時間)				
6	防災と社会資源	防災に活かせる社会資源を知る					事前：社会資源マップ準備(0.5時間)事後：マップ作成(0.5時間)				
7	防災と社会資源	災害想定と社会資源活用の実践					事前：社会資源確認(0.5時間) 事後：実践振り返り(0.5時間)				
8	災害と危機管理	危機管理とはなにか。管理すべきポイントを知る					事前：危機管理について調べる(0.5時間)事後：管理ポイントの整理(0.5時間)				
9	災害と危機管理	災害予防、状況把握、対策検討、実施計画策定、実施、評価の実際(図上訓練の準備)					事前：訓練手順を調べる(0.5時間)事後：手順修正・整(0.5時間)				
10	災害と危機管理	災害の想定と図上訓練の実施					事前：訓練手順確認(0.5時間) 事後：訓練実施後の課題まとめ(0.5時間)				
11	地域住民の防災意識	地域住民の防災意識を知る(調査準備)					事前：防災意識調査表案作成(0.5時間)事後：ワーク準備(0.5時間)				
12	地域住民の防災意識	地域住民の防災意識を知る(調査実施)					事前：調査表作成(0.5時間)事後：結果集計(0.5時間)				
13	地域住民の防災意識	地域住民の防災意識調査の結果集計と発表資料作成					事前：発表準備(0.5時間) 事後：発表資料作成(0.5時間)				
14	地域防災組織との交流	地域防災組織(消防団等)の役割、体制、訓練について学ぶ					事前：消防団について(調査)(0.5時間)事後：報告書作成(0.5時間)				
15	地域防災組織との交流	訓練の実際を知る(見学)					事前：作成準備(0.5時間)事後：報告書作成(0.5時間)				
16	地域防災組織との交流	地域防災組織から学ぶ自治防災					事前：報告書作成(0.5時間) 事後：報告書修正(0.5時間)				
17	防災訓練	地域防災組織の指導による防災訓練の企画					事前：計画案作成(0.5時間) 事後：計画作成(グループワーク)(0.5時間)				
18	防災訓練	防災訓練計画立案と関係部門間調整					事前：計画書作成(0.5時間)事後：調整実施(0.5時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	防災訓練	地域防災組織と所属機関協働による防災訓練を実施する	事前：事前調整（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
20	災害とボランティア	災害支援ボランティア活動の実際（東日本大震災ボランティア活動）	事前：プリント予習（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
21	災害支援とボランティア	被災地のニーズを知り災害支援ボランティアとして行動する	事前：ニーズ調査（0.5時間） 事後：支援準備（0.5時間）
22	災害支援とボランティア	被災地支援をおこなう	事前：ニーズ絞込み（0.5時間） 事後：実施評価（0.5時間）
23	災害支援とボランティア	支援体験を発表する	事前：支援・行動・評価表作成（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
24	災害と自治防災組織	地域防災における防災士の役割、地域防災組織との協働による自治防災をありかたを調べる	事前：自治防災組織調査（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
25	災害と自治防災組織	組織の設立を準備する	事前：組織案作成（0.5時間） 事後：設立企画書案作成（0.5時間）
26	自治防災組織の設立	設立企画書の作成と開始準備	事前：設立企画案作成（0.5時間） 事後：準備計画作成（0.5時間）
27	自治防災組織の設立	地域防災組織と連携した自治防災組織をつくる	事前：役割の確認（0.5時間） 事後：報告書作成準備（0.5時間）
28	自治防災組織の設立	地域防災組織との協働訓練と情報共有	事前：役割の確認（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
29	実践の検証	地域課題の解決にむけた実践を検証する	事前：実践報告書作成（0.5時間） 事後：発表資料作成（0.5時間）
30	実践の検証	地域課題研究における成果をまとめる	事前：報告書作成準備（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜配布します。		出席レポート：30% 実技：30% 定期試験：40% 「防災士」資格の理念である自助・共助・協働の姿勢があるか、演習および訓練に求められる知識と技能を發揮しているかを総合的に判定します。 成績評価基準「S」レポート、演習と実技、定期試験のすべてが95%以上 「A」 " 80%以上 「B」 " 70%以上 「C」 " 60%以上	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
適宜プリントを配布します。		履修は「防災士養成講座」を受講し認証試験に合格している者、あるいは地域防災に関心があり「防災士」の取得を目指している者に限定します。	

科目名	経済入門A (総経)		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-09
担当者	成 耆政		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度					
授業概要										
本講義は、世の中で暮らしていくために必要な「経済の仕組み」を、経済学的な視点に立って「生きた知識」として理解することを目的とします。大まかな内容は、経済の見方(基礎知識)を身につける、日本経済のほか欧米やアジアなど海外経済の状況を知る、グローバルな視点から経済を見る眼を養う、海外経済との比較などを通じて日本経済の課題を探る、などです。										
学修到達目標										
新聞・ネットの経済記事が理解できる程度の経済知識や考え方を習得し、それを活用して賢く生きるために必要な判断力(経済リテラシー)を身につけることを目指します。										
授業の進め方										
教室での講義を原則とし、プロジェクターや配付資料等に基づいて講義を行います。また、必要に応じて講義内容に関連したその時々のトピック(経済常識と思われる時事問題)も取り上げます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、総合経営学と経済との関係について説明します。				高校時代に経済について学んだ内容を復習し、自分が関心のある経済問題を探します。(4時間)				
2	経済の仕組み(1): 経済の規模と変動	一国経済の規模を表すGDP(国内総生産)の概念と国際比較、経済変動のメカニズムについて説明します。				配布資料を読み、GDP統計を使って世界経済動向を概観します。授業外学修は週に4時間必要。				
3	経済の仕組み(2): 経済の均衡(バランス)	経済の均衡とはどういうことか。経済の国内均衡(物価、資産価格、労働市場、財政)、対外均衡(経常収支)の概念と具体的な動きについて説明します。				配布資料を読み、経済指標の動きを最近の新聞等で確認します。授業外学修は週に4時間必要。				
4	1970年代以降の日本経済の歩み	GDP成長率、株価、円・ドル相場の動きを確認しながら、1970年代以降の日本経済の歩みを概説します。				日本経済の大きな流れを理解し、課題レポートを作成します。授業外学修は週に4時間必要。				
5	地域経済の動向: 長野県経済の現状と課題	地域経済の動向を概観した後、長野県経済の全国シェア、産業構造の特徴、景気動向などについて説明します。				配布資料を読み、身近な長野県経済の動きを理解します。授業外学修は週に4時間必要。				
6	財政の仕組みと役割	財政の役割について説明した後、日本の財政の現状と課題について解説します。				日本で消費税や社会保障改革がなぜ必要なのかを考えます。授業外学修は週に4時間必要。				
7	中間総括	これまで解説した経済や財政について、確認のための小テストを含め、中間総括をします。				これまでの講義内容を復習し、疑問点を解消します。授業外学修は週に4時間必要。				
8	金融の仕組み: お金の基礎知識	金融取引の内容やお金の流れる仕組み、金利(利子率)、金融資産(商品)の種類と特徴など、お金の基礎知識を説明します。				金融は専門用語が多いので、理解できるようによく復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
9	生涯の生活設計と金融資産運用	生涯所得と人生に必要な生活費、金融資産運用の基礎知識、分散投資の考え方と方法などについて説明します。				配布資料を読み、自分の生涯を念頭において復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
10	金融システム: 金融機関と証券市場の将来像は?	金融システムの機能、金融システム改革の歴史と現状、金融システムの将来像について説明します。				やや専門的な内容なので、大まかな流れを理解します。授業外学修は週に4時間必要。				
11	金融政策の仕組みと役割	金融政策の枠組み、最近の金融政策運営とその課題などについて説明します。				最近の金融政策運営の考え方と課題について自分で考えます。授業外学修は週に4時間必要。				
12	国際金融経済: 国際収支と外国為替相場の仕組み	国際収支の仕組み、外国為替相場変動の意味と仕組み、円高・円安の日本経済への影響などについて説明します。				最近の為替相場の動きを確認し、課題レポートを作成します。授業外学修は週に4時間必要。				
13	経済政策の目標と効果	金融政策、財政政策、為替政策、構造改革(成長戦略)の目標と効果を検証し、今後の政策運営のポイントについて説明します。				最近の新聞・ネット等で、経済政策運営について理解する。授業外学修は週に4時間必要。				
14	世界経済の構造変化と日本経済の課題	先進国や新興国の動向など世界経済の構造変化を踏まえ、日本経済再生の課題について解説します。				いろいろな見解を比較し、自分なりの考え方を整理します。授業外学修は週に4時間必要。				
15	講義全体のまとめ	講義全体の総括として、各回の講義の要約と相互にどのように関連しているか、また賢い消費者になるためにこうした経済知識をどのように活用したらよいかを説明します。				配布資料を読み、講義全体を振り返って、内容を理解します。授業外学修は週に4時間必要。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
この授業は、テキストを使用しませんが、配付資料のほか、下記の参考書や新聞・ネット等の経済記事を読むことを薦めます。				定期試験: 50% 小テスト: 30% レポート: 20% S: 授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組みレポートを作成できる。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組みレポートを作成できる。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組みレポートを作成できる。C: 授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組みレポートを作成できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Q&A日本経済の基本50」日本経済新聞社編(日本経済新聞出版社) 「日本経済図説(第4版)」宮崎勇、本庄真、田谷禎三著(岩波書店)				高校時代に学んだ「現代社会」や「政治・経済」(選択必修)の経済分野の内容を事前に復習しておいてください。 質問には、オフィスアワーで回答します。						

科目名	地理学			学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13205	研究室	W-21
担当者	古川 智史			必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日4限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>本講義では、現代社会の様々な事象、課題を地理学の観点から検討することを通して、地理学の諸概念、アプローチ方法を身につけます。まず、地理学とはどのような学問であるのか、その成り立ちを概説した上で、地理学において重要なツールである地図の活用について理解を深めます。次に、地理学の諸分野について、具体的な事例を取り上げながら、地理学の基礎的な視点、概念、アプローチ方法について解説します。そして、身近な地域や世界の国・地域を取り上げながら、地誌的なアプローチについて解説します。</p>											
学修到達目標											
<p>地理学の基礎概念を理解し説明できる。 主題図などの資料を的確に読み取ることができる。 現代社会の様々な事象に対して地理学の視点からアプローチできる。</p>											
授業の進め方											
<p>レジュメをもとに講義を進めますが、グループワーク(数回)、フィールドワーク(松本市内)を実施する予定です。受講者には毎回コメントシートの提出を求めます。また簡単な調べ学習や小テストを予定しているため、予習・復習の上、講義に臨んでください。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション：地理学とはどのような学問か	地理学の概要とともに、本講義の進め方等について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
2	地図と活用と地理情報システム(1)	地図の歴史を取り上げるとともに、地図の活用やその留意点などについて説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
3	地図の活用と地理情報システム(2)	地理情報システムの概要を説明するとともに、その活用方法について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
4	気候の多様性	気候とその規定要因、人々の暮らしとの関係などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
5	地形と自然災害	地形の成り立ち、自然災害とその対策などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
6	環境問題の諸相	環境問題とその対策、アプローチ方法などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
7	農業の空間構造	農業立地の基礎を解説した上で、現代の農業立地について考えます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
8	工業の空間構造	工業立地の基礎を解説した上で、現代の工業立地について考えます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
9	商業立地と流通システム	商業立地の基礎を解説した上で、現代の商業立地を考えます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
10	都市の地理	都市システム、都市の内部構造を取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
11	公共サービスと立地	公共サービスの供給に地域差が生じる要因、公共施設の立地などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
12	身近な地域の地誌	松本を事例に、身近な地域の変化を読み解きます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
13	日本のすがた	具体的な地域を取り上げながら、日本地誌へのアプローチ方法について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
14	世界の諸地域	具体的な国・地域を取り上げながら、世界地誌へのアプローチ方法について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
15	総括	これまでの内容を振り返りながら、講義全体を総括します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
毎回レジュメを配付します。					<p>受講態度：30% 定期試験：70%</p> <p>「受講態度」では、調べ学習などの事前学習、コメントシートの提出状況およびその内容、小テストの結果を総合的に評価します。</p> <p>S：積極的な探求心、批判的な思考力を持って課題に取り組み、授業内容を高度に理解している。A：積極的な探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容を十分に理解している。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容のおおよそを理解している。C：与えられた課題に取り組み、授業内容の60%程度を理解している。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義中に適宜紹介します。					高校時に使用した地図帳を持参してください。						

科目名	芸術文化		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13206	研究室	W-26
担当者	山根 宏文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
日本と海外の伝統文化を育んだ地域とともに学びます。日本人の美意識、芸術文化を京都から、さらに、ヨーロッパ諸国、アメリカ合衆国の特色ある芸術文化に視点を置いて学びます。日本との文化の違いを学び、異文化に対する広い視野と深い洞察力を養い、国際的な視野も身につけてもらうのが講義の到達目標です。										
学修到達目標										
日本の伝統文化、美意識について学び、暮らしの中にある多くの文化芸術について気づき、理解できるようになること。さらに海外での文化芸術、芸術振興を学び異文化に対する広い視野を身につけることができることが目標です。										
授業の進め方										
市販のテキストは用いず、独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義のみになります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。				15回の講義テーマについて関心のあるテーマについて予復習する。(事前事後4時間)				
2	日本人の美意識	日本の芸術文化 日本人の美意識と伝統文化				暮らしに使用されているもので美しいもの、伝統文化を復習する。(事前事後4時間)				
3	日本の食文化	日本の食文化 無形文化遺産 日本食の魅力とは				日本食の魅力、食材について復習する。(事前事後4時間)				
4	地域と芸術振興	地域と芸術文化 フランスの芸術振興策 「パリがなぜ芸術の都と言われるのか10の要因」				パリの芸術振興と日本の芸術振興の比較を学修する。(事前事後4時間)				
5	地域と食文化	地域と芸術文化 イタリアの食文化 「イタリアがグルメの国と言われる10の理由」				イタリアの食文化について学修する。(事前事後4時間)				
6	現代アート都市	地域と芸術文化 「アメリカ合衆国と現代アート 現代アート都市 ラスベガス」				現代アートを活かしたラスベガスの都市政策を学修する。(事前事後4時間)				
7	地域と庭園文化	地域と芸術文化 英国の庭園文化と田園 「なぜ英国のカントリーサイドは美しく活気があるのか」				日本の田園風景について学修する。(事前事後4時間)				
8	ハワイ文化とアロハ	地域と芸術文化 ハワイの伝統文化フラ(ダンス)とアロハスピリット つくられたリゾートとハワイアン悲しい歴史				ハワイ文化の基本アロハの精神について学修する。(事前事後4時間)				
9	民藝と朝鮮時代の美	地域と芸術 民藝と手仕事・李朝(韓国)の美について				民藝について学修する。(事前事後4時間)				
10	世界のデザイン	地域と芸術 スカンジナビアデザインの特色と世界のデザイン				身の回りにあるデザインについて学修する。(事前事後4時間)				
11	大衆芸術	大衆芸術 ポップカルチャーとポップカルチャー 「世界一 日本のアニメ」の魅力とは				個々の好きな大衆芸術を選び、その要因を考える。(事前事後4時間)				
12	芸術文化振興(音楽)	「なぜウィーンは音楽の都と言われるのか。」 ウィーンの音楽振興策を解説します				芸術文化の楽しみ方を復習する。(事前事後4時間)				
13	文化情報と発信	文化と観光 文化情報と発信 ディスカバリージャパンから「そうだ京都行こう」まで。心に残る情報発信とは				様々な文化芸術情報について学修する。(事前事後4時間)				
14	芸術文化とまちづくり	芸術文化によるまちづくりについて40の事例とともに成功要因を解説します。				芸術文化による街づくりの事例を復習する。(事前事後4時間)				
15	まとめ	まとめ 14回の講義内容を要点を解説し、芸術文化の魅力についてまとめをします。				15回の講義ノートを再度読み直してください。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
講義ごとに概要を説明したレジメを配ります。				出席レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A:授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B:授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C:授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				芸術文化は講義だけでなく、日々の暮らしを豊かにするために必要です。暮らしの中にある芸術文化を探してみてください。						

科目名	社会学			学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13207	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	社会福祉士、中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この講義では、社会学の入門および概論として、基本レベルの知識や概念が習得できるように講義をします。社会学の対象は広範です。講義では、個人のアイデンティティ、家族、地域コミュニティ、国家と社会、国際社会、仕事と労働、宗教、情報、テクノロジーなどを具体的な事例を素材として分析と検討を加えながら、社会学のものの見方、問題の立て方、考え方について理解ができるようにします。											
学修到達目標											
本講義の目標社会学の基本的な諸概念を検討しながら、社会学の基本的なものの見方、問題の立て方、考え方が身につく。											
授業の進め方											
講義は指定したテキストを用いながら、関連した新聞や雑誌の記事などを取り上げつつ、社会学の基本的な知識を習得できるようにして、現実の社会問題や事件と関連を持つことを実感できるように工夫していきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション	社会学とはどういう学問なのか					事前学習は特にありません。				
2	社会学と近代	近代と近代社会のあり方					テキスト「序」を読む(4時間)				
3	行為論	個人と社会のあり方、行為と行動、行為の四類型など					テキスト第1章を読む(4時間)				
4	行為論	準拠集団、資源の四類型、社会規範など					第1章後半部分を読む(4時間)				
5	行為論	社会化、家族とジェンダー、宗教など					第1章後半部分を読む(4時間)				
6	相互作用論	地位と役割、コミュニケーション、情報とメディア					第2章を読む(4時間)				
7	相互作用論	ダブル・コンティンジェンシー、自我の構造、ジェンダーなど					第2章後半を読む(4時間)				
8	集団論	個人・集団・社会、個人と地域社会、未組織集合体など					第3章を読む(4時間)				
9	集団論	集団の諸類型、官僚制論					第3章後半を読む(4時間)				
10	社会の構造	社会の構造と機能、権力と権威、支配の四類型、社会変動など					第4章を読む(4時間)				
11	全体としての社会	社会変動、全体社会の概念、産業社会論、市民社会と大衆社会					第5章を読む(4時間)				
12	現代社会の諸論点	家族と地域社会の役割: 社会と医療・福祉のあり方					指示した文献を読む(4時間)				
13	現代社会の諸論点	国家論、民族・人種・国家、世界システム論: 国際化とグローバリズム					第5章後半を読む(4時間)				
14	現代社会の諸論点	社会変動、合理化、情報化、グローバル化など					第6章を読む(4時間)				
15	まとめ	それまでの講義内容の振り返りとまとめ					講義を復習する(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「社会学がわかる事典」森下伸也著(日本実業出版社) ISBN:978-4534031730(生協で購入してください。)						定期試験:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし						社会福祉士受験合格をめざす学生は、必ず履修しなければなりません。					

科目名	新聞に見る社会の動き		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	UL23208	研究室	非常勤
担当者	江成 康明		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2017年度～					
授業概要										
新聞を使って社会の動きを考えていきます。インターネットの普及により活字離れが目立ち、読書や手書きの習慣が薄れてきました。一番身近なはずの新聞も無読層の増加によって、読まれなくなっています。新聞には政治、経済、外交や社会の動向などが凝縮されており、情報の収集だけでなく、どう読みこなすかが必要になってきます。記事の内容を読み、理解したうえで自分の考えをまとめるという習慣をつけるための授業です。乱れ始めた日本語の良さや文章の作り方も授業の中で実施していきます。										
学修到達目標										
4年間の大学生活中に就職活動という社会人への第一歩が始まります。社会の動きを知っていることは企業側へ有利な評価を与えるとともに、面接でも自信を持って臨むことができます。情報収集、読解力、理解力、筆記力を高め、最終的には学生自らがひとつのテーマを選んで「私の考察」をまとめられることができる。										
授業の進め方										
主に新聞のコピーを資料とします。新聞にはニュースの情報発信のほか解説、コラムなども掲載されており、一つの出来事に対して幅広い知識が得られます。グループ討論や特別講師招へい、新聞社見学なども行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	総論 新聞の価値と役割	新聞には多くの情報が詰まっています。1面から最終面までにどのようなものが載っているかなど新聞の全体像を紹介しながら、トップ記事の意味やベタ記事、焦点、解説、コラム記事とは、などを説明します				この1週間の新聞の中から興味があったニュースを取り上げ、感想を書く。(4時間)				
2	新聞を読む必要性	ネット社会の中で、新聞は不要という若者が多くいます。しかし、ネット情報だけだと偏りがちで、幅広い知識は得られません。社会を知る意味では新聞を読み、「なぜ」「どうして」を考えることが必要です。				疑問の沸いたニュースを選び、疑問を持ちながらまとめてみる。(4時間)				
3	各論 硬派記事についての考察	政治、経済、国際外交などは硬派記事と呼ばれます。授業のころに起きている問題を取り上げ、硬派面を騒がしているニュースを検証します。				この日取り扱った記事の感想や意見を書く。(4時間)				
4	各論 軟派記事についての考察	社会の動きやスポーツ、暮らしなどを軟派記事と呼びます。社会ではいったい何が起きているのかを新聞をもとに検証します。				この日の話題に対して、どう思ったかをまとめる。(4時間)				
5	グループ討論	ひとつのテーマについての新聞記事を読み、そのあとのグループ討論でその話題について話し合ってみましょう。自分の気付かなかったことを知るはずです。				グループ討論を経験して、という内容でレポートを提出する。(4時間)				
6	グループ討論	5回目と違ったテーマで、同様に進めます。考えながらしっかり読むことは、書くことが上達に必ずつながります。				読んだ記事に対してどう感じたかをレポートに書き、提出する。(4時間)				
7	新聞社見学	地元紙で伝統のある信濃毎日新聞社(予定)を訪ね、編集局などを見学。政治(県政担当)、社会部記者などの話を聞き、新聞作りに携わる人たちの意識などを学びます。				見学の感想や意見を書く。(4時間)				
8	日本語の美しさ	最近は日本語が乱れている、と言われます。若者が普段使っている言葉が正反対の場合もあります。正しい日本語の意味を考えてみましょう。				テキストにある例と普段の自分の言葉が適切かどうか考える。(4時間)				
9	文章の書き方	新聞は中学生にも理解できるような平易な言葉で書いてあります。文章を書くときには難しい言葉はいりません。相手が読みやすいような文章を書くにはどうしたらいいかを学びます。				気に入ったコラムを探してみる。(4時間)				
10	特別講演	2012年、年間でただ一人に送られる「日本記者クラブ大賞」に輝いた毎日新聞・萩尾信也氏を招き、講演していただく。記者として頂点に立った取材力、執筆力に興味をわくはずです。				事前配布の萩尾氏の記事を読み、質問を考えておく。(4時間)				
11	社会現象の自由研究	過去1年間の政治、経済、国際、社会問題などの動きの中で、自身が最も注目すべき課題をひとつ決めて下さい。どうしてそれを選んだのかをグループ討論で意見発表しましょう。				自分の選んだテーマの記事を集める。(4時間)				
12	社会現象の自由研究	新聞に書いてあることを鵜呑みにするのではなく、疑問や幅広い考え方を持って問題点を探して下さい。いくつもの新聞や新聞コピーを読んでまとめる力をつけましょう。				800字にまとめられるように準備と整理をする。(4時間)				
13	社会現象の自由研究	自分のテーマについて、800字にまとめてみましょう。問題を深く掘り下げて書く習慣を身につけるだけでなく、しっかりとした言葉遣いも重要なポイントです。				自分の書いた文章を思い出し、再考してみる。(4時間)				
14	自由研究の成果と課題	受講生がまとめた内容についての考察をします。同じテーマで臨んだ人々たちによるグループ討論も行い、足りなかった点などさらにテーマを深めることに努めて下さい。				この科目に対する感想を書く。(4時間)				
15	まとめ	新聞の役割や機能と必要性をもう一度再確認します。ネット社会に慣れていても、「新聞を読む習慣」を持ち続けてほしいものです。				15回目のまとめのテキストを熟読する。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
毎回、テキストを配布します。		受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30% S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書き力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかりと書ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
毎回、テキストを配布します。		毎回の授業で感じるものが必ずあるはずですが、受講票には名前だけでなく、感想や意見を書いて下さい。書き慣れることが頭の整理につながります。図書館などで普段から新聞に接するようにしましょう。								

科目名	地方自治論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ`リング	UL23209	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
日本の地方自治制度のしくみを理解するために、国の制度、中央地方関係、地方公共団体のしくみなどについて講義します。										
学修到達目標										
この講義は、日本の政府システムの中での地方自治、都道府県・市町村の仕組みと活動、国と都道府県・市町村の関係、自治体と住民の関係についての理解を得る。										
授業の進め方										
指定のテキストを使用し、適宜プリント等を配布します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	ガイダンス				高校社会科の日本国憲法と地方自治について復習すること(4時間)				
2	国と地方のしくみ	日本の地方自治のアウトライン：国、都道府県、市町村				指示した文献を読む(4時間)				
3	国のしくみ	国会、国の立法と地方自治の関係				テキストを読む(4時間)				
4	国のしくみ	内閣、国の行政と地方の行政の関係				テキストを読む(4時間)				
5	国のしくみ	裁判所、地方公共団体の条例制定権、地方自治関連の判例				テキストを読む(4時間)				
6	中央地方関係と地方自治の本旨	国と地方公共団体の関係まとめ				テキストを読む(4時間)				
7	地方公共団体の制度としくみ	地方公共団体の種類、地方公共団体の機関				テキストを読む(4時間)				
8	地方公共団体と住民	国民権と住民自治				テキストを読む(4時間)				
9	地方公共団体の事務	自治事務と法定受託事務				テキストを読む(4時間)				
10	地方公共団体の長と議会	都道府県・市町村の長と議会				テキストを読む(4時間)				
11	住民参加	住民参加の諸制度				テキストを読む(4時間)				
12	地方公共団体の合併	地方公共団体の数の推移、平成の大合併				テキストを読む(4時間)				
13	地方分権	地方分権の意義と動向				テキストを読む(4時間)				
14	道州制	道州制の意義と動向				テキストを読む(4時間)				
15	まとめ	地方自治の価値を考える				テキストを読む(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「目で見える憲法(第4版)」初宿正典・大沢秀介ほか著(有斐閣) ISBN:978-4641131040(生協で購入してください。)				定期試験：80% 出席レポート：20% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				地方自治の基礎知識を学ぶ機会としてこの講義を活用してください。						

科目名	行政法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ ¹ リング	UL23210	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この講義では行政法の基本的な知識を得るための概説を行います。入門レベルのテキストを理解して、その後により大部な教科書や判例集を読む際に役に立つように講義を位置づけています。											
学修到達目標											
行政法の基本的知識を習得し、行政や政策を理解する法的枠組みを通して行政の活動や政策について理解できる。											
授業の進め方											
指定テキストを使用し、適宜プリント等を配布します。六法は必ず持参してください。この講義は、教室での講義だけです。アウトキャンパスは行いません。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション	ガイダンス、行政法とは何か					第1章を読む(4時間)				
2	公法と私法	公法と私法の区別					ト第2章を読む(4時間)				
3	行政の基本ルール	法律による行政の原理					第6章を読む(4時間)				
4	行政作用法1	行政行為					第7章を読む(4時間)				
5	行政作用法2	行政裁量					第8章を読む(4時間)				
6	行政作用法3	行政立法、行政計画、行政契約					第9章を読む(4時間)				
7	行政作用法4	行政上の強制執行、義務違反に対する制裁、即時強制					第11章を読む(4時間)				
8	行政作用法5	行政立法					第12章を読む(4時間)				
9	行政救済法1	行政上の不服申立て					第13章を読む(4時間)				
10	行政救済法2	行政事件訴訟法					第14章を読む(4時間)				
11	行政救済法3	国家賠償法					ト第15章を読む(4時間)				
12	行政組織法1	中央省庁等改革					第3章を読む(4時間)				
13	行政組織法2	地方分権改革					第5章を読む(4時間)				
14	司法制度改革	司法制度改革					第4章を読む(4時間)				
15	まとめ	行政法の全体像					講義内容の振り返り(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「社会とつながる行政法入門」大橋洋一著(有斐閣) ISBN:978-4641227330 (生協で購入してください。) 六法は各自持参してください。						定期試験:90% 出席レポート:10% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「はじめの行政法(第3版)」石川敏行・藤原静雄ほか著(有斐閣) ISBN:978-4-64122089						行政法を理解する前提として、法学、日本国憲法、契約法、地域行政、地方自治の講義は履修しておいてください。それらの知識なしにいきなり行政法の講義を理解するのは大変困難です。					

科目名	日本文化		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL13401	研究室	W-26
担当者	山根 宏文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	2017年度～					
授業概要										
本授業では、日本で培われてきた芸能・文化芸術・自然観・食生活・住生活・建築・武道・宗教・習俗等々の文化を全般にわたって学び、日本文化の基礎知識を総合的に養います。ジャポニズムからディスカバージャパン、クール・ジャパンなど日本文化ブームになっています。一過性の日本文化ではなく、総合的に日本文化の豊かさ、真の魅力の理解を深めていきます。										
学修到達目標										
日本の文化、美意識を学び、暮らしの中に息づいている多くの文化に気付き、それを享受でき、説明することができる。さらに、日本人としての誇りを感じ、外国人にも伝えることができる。										
授業の進め方										
市販のテキストは用いず、独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義になります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価について案内します。				日本文化で魅力を感じるものとその要因について考える。(4時間)				
2	日本の美	後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など)				後世に残したい日本の美について考える。(4時間)				
3	日本の美	後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など)				後世に残したい日本の美について考える。(4時間)				
4	日本の伝統文化 華道	いけばなと日本人の自然観について述べます。				日本の伝統芸能についてどのようなものがあるか考える。(4時間)				
5	日本の伝統文化 茶道	「茶の文化 利休の心・42の教え」とホスピタリティについて述べます。				茶道から学ぶおもてなしの心について考える。(4時間)				
6	日本の伝統工芸と民藝	日本の工芸品と柳宗悦によって提唱された民藝運動について述べます。				身の周りにおける生活雑器を探し、魅力を考える。(4時間)				
7	和食「和食の魅力とは」	古代から現在までの食文化と食生活を解説します。				食生活についての課題について考える。(4時間)				
8	日本の宗教 仏教と神道	仏教と神道についての考え方や日々の暮らしにある宗教行事について解説します。				各家庭の宗教と教えについて考える。(4時間)				
9	江戸文化と武士道	武士道と城下町・国宝の城について講義します。武士道では、今も息づいている日本人の精神性についてあるいは、ビジネスに活かせる宮本武蔵の思考を説明します。				武士道と言われ思いつくもの考える。(4時間)				
10	浮世絵とジャポニズム	なぜ、西洋画家が浮世絵を愛したのか 日本の美と文化について、モネやゴッホやエミール・ガレの作品をみながら解説します。				モネ・ゴッホについて調べる。(4時間)				
11	現代の日本文化 大衆文化	大衆文化として漫画文化について歴史から読み解きます。				漫画の魅力を考える。(4時間)				
12	現代の日本文化 農村文化	現代日本の生活文化 農村文化の魅力 について理解を深めます。				日々の生活文化について考える。農村文化の魅力について考える。(4時間)				
13	現代の日本文化 芸術振興	文化の活かし方、楽しみ方について解説をし、暮らしの中で文化芸術が活きる為の施策について解説します。				自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるもの考える。(4時間)				
14	現代の日本文化 芸術振興	文化の活かし方、楽しみ方について解説をし、暮らしの中で文化芸術が活きる為の施策について解説します。				自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるもの考える。(4時間)				
15	まとめ	日本文化の魅力についてのまとめをします。				全講義の復習をする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
特になし。				定期試験：70% 課題：30% S：授業内容を高度に理解し、提案力が特に優れている。 A：授業内容を高度に理解し、探究心・提案力が優れている。 B：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力がある。 C：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力が60%程度である						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。				あたりまえのような暮らしの中に、日本人の美意識が宿っています。この講義でそれらの多くからいくつかを選択して日本人としての美しい心と伝統芸能、伝統工芸について講義します。皆さんも日本の魅力を探してください。						

科目名	異文化理解		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL13402	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	2017年度～					
授業概要										
本授業では、自分自身の文化と他者の文化を比べ、それらを意識することによって、どのように文化間において差が見られるか、英文等を通して理解していきます。その際に、それらの異文化間での違いについての事象を分類化して理解したり、その事象を具体化して自分自身のケースと比較したりすることで理解していきます。これらにより、自身の文化をさらに意識していくと共に、他の文化に対し自文化の観点からのみ理解していくことを避けていく考え方を身につけます。授業は全て英語で行われます。										
学修到達目標										
異なる文化においてお互いを理解しあうために、英語で様々なことが理解できる。また文化を理解するために、自分自身の文化を考えながら、それとは異なる文化を知り、その価値観等を理解できる。										
授業の進め方										
学習内容に応じ、グループワークや講義形式、英語による発表など様々な形態で行います。また授業は英語で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・文化とは	授業の進め方、異文化理解の考え方について。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
2	文化とは 1	英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
3	文化とは 2	英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解し、まとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
4	文化のルールと許容される行動 1	文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
5	文化のルールと許容される行動 2	文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解し、まとめます。また調べたものについて発表します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
6	ステレオタイプ 1	ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
7	ステレオタイプ 2	ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解し、まとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
8	メディアと文化 1	メディアによる考え方への影響について理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
9	メディアと文化 2	メディアによる考え方への影響について理解し、まとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
10	非言語コミュニケーション 1	非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をします。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
11	非言語コミュニケーション 2	非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をし、内容をまとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
12	時間の考え方 1	文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
13	時間の考え方 2	文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解し、内容をまとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
14	接触と空間 1	文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
15	接触と空間 2	文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解し、まとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「This Is Culture」梶浦麻子・Gregory Goodmacher著TA/YK編(南雲堂) ISBN:978-4-5231-7489-9(生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に理解し、テーマに関し探究し課題に取り組み、教科書より難しい英語とテーマが理解できる。A:授業をよく理解し、テーマに関し探求し課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語とテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題を誠実にやり、教科書レベルの英語やテーマが理解できる。C:授業が理解でき、課題を誠実にやり、教科書の英語とテーマが理解できる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特になし。		授業は全て英語で行われます。しっかりと復習とまとめ課題をして下さい。また異文化の例等に対し偏見を持たないようにして下さい。原則、欠席は2回までです。授業では自分の意見を英語で言うなど積極的に取り組んでください。								

科目名	比較文化		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13403	研究室	E-18
担当者	松原 健二		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	2017年度～					
授業概要										
アメリカ文化を代表とする欧米文化と日本文化を比較することによって、欧米的な考え方や欧米文化への理解を深めると共に、我々が親しんでいる日本文化を客観的に見直していくことをめざします。題材として、贈答・挨拶・食事・住居・買物など、日常生活上の身近なものを取り上げて進めて行きます。										
学修到達目標										
自分たちが慣れ親しんでいる日本文化が、唯一絶対のものではないことを理解できる。また、言葉と文化の密接なつながりや、言葉の探求によって人々の生活様式や文化を類推できる。										
授業の進め方										
まず、「日米異文化間適応訓練」のクイズに取り組みます。その後、プリント教材を用いて講義を進めて行きます。学習内容の理解を助けるために、スライドやビデオなどの視聴覚教材も利用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	文化とは/贈答習慣	人々の暮らしの中で、贈答というものが人間関係の潤滑油として機能している実態を学びます。そして日本人に多く見られる旅行土産について、その歴史的な成立過程を踏まえて考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
2	おごりと食事習慣	「おごる」行為の背後にある人間関係について考えます。また日常生活の中で非常にありふれた食事習慣の中に、異文化が潜んでいる事実を検証します。食器とプライバシーについても、考察します。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
3	挨拶	挨拶というものが、文化により、性別により、また時代により違いが認められるものであることを学びます。日本語と英語の挨拶言葉の違いから、その背後にある、社会における人間関係の違いを考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
4	客/人格構造の比較	社会における人間関係や、家族間の人間関係を、「人間関係のベクトル」の観点から考えます。そして三重の同心円のモデルを使って、日本人とアメリカ人の人格構造の違いを比較します。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
5	家と住まいの文化論	アメリカ開拓史についてその概要を学び、17世紀初頭に開拓者たちがどのようにして住宅建築をしたのかを学びます。そして、伝統的な日本の住宅とどのような違いがあるのかを、検証して行きます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
6	家と住まいの文化論	建築工法や建築材料によって、窓の造形に違いが生まれることを学びます。石造りの建築においてアーチ様式が生まれた理由や、ドームへの発展、気候風土と建築様式の関連性についても考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
7	エチケット/羞恥心	羞恥心の感じ方は、文化の影響を受けていることを学びます。そしてその違いがエチケットという社会規範に影響していることを検証して行きます。中国に生まれた纏足という珍しい文化についても考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
8	事故と謝罪(1)	謝罪言葉と責任の所在という問題について、日米を比較しながら考えます。題材として「えひめ丸事故」を取り上げ、米側からの謝罪がなぜ長い期間行われなかったのかという問題を、文化的視点から考えます。				えひめ丸事故について調べる/授業プリントの復習(4時間)				
9	事故と謝罪(2)	謝罪行動の日米での違いを、「ファイアストンタイヤ破裂事故」を題材にして考えます。フォード社とプリヂストン社の対応の違いは、深い文化的な問題に根ざすものであることを学びます。				「ファイアストンタイヤ破裂事故」について調べる/授業プリントの復習(4時間)				
10	結婚と離婚の国際比較	初婚年齢や婚姻率の国際比較から、結婚というものを取り巻く諸文化を学びます。また日本における結婚は伝統的に「家と家」の結びつきである歴史が長かった実態も検証します。また離婚についても考えます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
11	おつりの比較文化論	日本では、おつりは引き算で渡されますが、欧米では足し算で渡されていることを学びます。そしてこの社会習慣の違いの背景には、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを検証して行きます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
12	決済方法の比較文化論	決済方法の選択にも、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを学びます。そして、この問題が小切手や口座振替の普及率と密接に関連していることを検証して行きます。				Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
13	広告の比較文化論	同じメーカーの洗顔クリームを題材にして、日米の広告を比較します。広告の仕方やキャッチフレーズの違いの背景には、売り手側の会社と買い手側の消費者との人間関係の捉え方の違いがあることを学びます。				Culture Assimilatorの予習/同一商品の広告を、日米で比較する。(4時間)				
14	仕事と職場の文化論	会社と従業員の関係が、日米の経営スタイルにも影響していることを学びます。題材として、日本の自動車メーカーが米国に進出した際の事例を取り上げ、個人と会社の関係、仕事と職場の文化について考えます。				Culture Assimilatorの予習/映画『Gung Ho』について調べる。(4時間)				
15	個人と集団の関係	童話「アリとキリギリス」を題材に、日本では従来、異文化的改変が施された翻訳が広く読まれていた実態を検証します。そして、社会における個人と集団の関係が、日本と欧米では大きく異なることを学びます。				家にあるイソップ童話を調べる/意図的な改変が施された翻訳事例を調べる。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準					
独自のプリント教材を作成し、毎回の授業で配布します。					受講態度：30% 定期試験：70% S：探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して自分なりの解決方法を見つけ出すことができる。A：探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して解決方法を見つけ出すことができる。B：授業に参加し、各回の講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を考えることができる。C：授業に参加し、講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を探ることができる。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし					この講義では、異文化衝突の場面において、どのような問題があり、いかなる解決方法があるかを考えてもらいます。「課題解決能力」					

科目名	文化人類学	学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	UL33404	研究室	W-03	
担当者	福島 智子	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限			
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
	○	A	B	C						
授業概要										
異文化を知ることで自らを確認し、その上で両者を相対化しうる感受性を多少でも身につけること。これが本講義のめざすところです。あたりまえの世界を疑い、文化とは何かを考えます。文化人類学は難しい学問ではありません。抽象度の高い理論についても触れますが、基本的には身近にある(「理由はわからないけど、そうなっている」)事例を捉えなおして試みるのが重要です。内容については講義計画を参考にしてください。										
学修到達目標										
自身が属する集団(地域社会、日本)の文化を理解し、異文化を学ぶことで自文化を相対化できる。										
授業の進め方										
講義形式で行います。講義で学んだ視点から各自の生活を振り返ってもらうため、講義後に小レポートを課す場合があります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	文化人類学とは	文化人類学とは何か概説します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
2	文化相対主義と自文化中心主義	文化の捉え方である文化相対主義と自文化中心主義について概説します。					事例研究として各自リサーチする。(4時間)			
3	文化相対主義とFGM	事例研究としてFGM(Female Genital Mutilation)を取り上げます。					ドキュメンタリー映像に対する意見をまとめる。(4時間)			
4	神話(1)	神がこの世を作る話である神話(物語)の構造について学びます。					具体的な神話を取り上げ、調べる。(4時間)			
5	神話(2)	神話の具体的な事例を紹介します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
6	信仰と世界観(1)	世界宗教と民族宗教、一神教と多神教など、宗教の分類について学びます。					配布資料を読み、下調べをする。(4時間)			
7	信仰と世界観(2)	呪術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。					配布資料を読み、下調べをする。(4時間)			
8	信仰と世界観(3)	妖術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。					配布プリントの要点をまとめる(4時間)			
9	信仰と世界観(4)	日本人の宗教観の特徴について概説します。					配布資料の要点をまとめる。(4時間)			
10	通過儀礼	人が一生のうちに経験する通過儀礼とは何かを学びます。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
11	文化と身体(1)	葬送儀礼について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
12	文化と身体(2)	事例研究として特定の地域の葬送儀礼を取り上げます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
13	病気と治療の文化人類学：総論	病気と治療をテーマとした文化人類学について概説します。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
14	病気と治療の文化人類学：各論	特定の地域の治療実践を、文化人類学の観点から紹介します。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
15	まとめ	講義全体のまとめ					総復習(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
さまざまな具体的事例を通して考えるという科目の特性からテキストは指定せず、プリントと資料を配布します。		定期試験：60% 課題：40% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「文化人類学」波平恵美子編(医学書院)		同一テーマで講義が続いている場合は欠席しないように心がけてください。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。								

科目名	音楽の歴史と鑑賞		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	UL33405	研究室	A-19
担当者	安藤 江里		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限、木曜日2限、金曜日4限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○		A	B	C					
授業概要										
西洋音楽史や日本の伝統音楽の歴史をたどりながら、西洋から影響を受けた日本の音楽の現状についても触れ、邦楽と洋楽の音律の違いや楽器の違いなどを通じて、様々な文化を理解し音楽の多様性を感じ取り、学んでいく授業です。										
学修到達目標										
それぞれの時代や地域を代表する楽曲をCDまたはDVDで鑑賞しながら、時代の流れと共に音楽がどのように発展してきたのか、また人間の生活との関わりについて捉え、レポートすることができること。										
授業の進め方										
西洋音楽史や日本の伝統文化を中心に、それぞれの時代を代表する楽曲をCDまたはDVDで鑑賞します。毎回テーマに沿って聴く観点を説明し特徴を捉えやすくし、ワークにまとめたり実際歌ったり楽器に触れたりもし能動的な活動を取り入れます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス 音楽の始まり	授業の進め方についての説明とアンケート、音楽の始まりとして古代ギリシャから中世、ルネッサンスの音楽を紹介します。グレゴリア聖歌を歌います。				自分の生活における音楽の意味について考えてくる。(4時間)				
2	バロックの音楽	楽器の発達や作曲技法について学び、ピバルディ、バッハ、ヘンデルの楽曲を鑑賞します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
3	古典派の音楽(1)	ハイドン、モーツァルトの器楽曲からソナタ形式について学びます。またオペラにも触れます。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
4	古典派の音楽(2)	ベートーベンの交響曲を鑑賞し、第九を歌います。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
5	ロマン派の音楽(1)	シューベルト、シューマン等の歌曲を中心に鑑賞します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
6	ロマン派の音楽(2)	ブラームス、ショパン等の器楽曲を中心に鑑賞します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
7	オペラ	イタリアオペラからワーグナーの楽劇までを概観します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
8	バレエ音楽	チャイコフスキーの3大バレエ曲を中心に鑑賞します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
9	国民楽派その他	様々な国を代表する作曲家と代表作を紹介します。標題音楽にも触れます。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
10	印象派 フランス音楽	ドビュッシーを中心に、フォーレ、ラベルの楽曲を絵画や文学と関連させて鑑賞します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
11	20世紀の音楽 無調音楽	新ウィーン学派やストラヴィンスキーなどから調性の崩壊と12音技法の音楽を紹介します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
12	アメリカ音楽	ジャズ、ポップ、ロック、ラテン音楽を鑑賞し体験します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
13	日本の伝統文化について(1)	雅楽、宗教や政治との関わり、能等について概観します。様々な楽器も体験します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
14	日本の伝統文化について(2)	琴、尺八などの楽器、歌舞伎について鑑賞します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
15	現代の音楽	明治以降の西洋音楽の影響を受けた日本の現代曲を鑑賞し、総括します。				課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
適宜プリントを配布します。				受講態度：50% レポート：50% S:意欲的に課題に取り組み、学習内容をすべて理解し文章表現できる。A:意欲的に課題に取り組み、学習内容を概ね理解し文章表現できる。B:意欲的に課題に取り組み、学習内容をまとめることができる。C:課題に取り組み学習内容をまとめることができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「はじめての音楽史 増補改訂版」久保田慶一 他著(音楽之友社) 「もう一度学みたいクラシック」西村理 監修著(西東社)				CDやDVDを鑑賞しながら、実際歌ったり演奏もします。私語を慎み、意欲的に読んでください。毎回プリントを配布しますので自己管理してください。						

科目名	海外研修	学年学期	1・2・3・4年通年	単位数	2	ナバリング	UL13406	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性	A B C	履修対象入学年度（読替科目）					
			○						
授業概要									
本授業は、事前学修、現地研修、事後学修から構成されています。事前学修では、シャイネスを克服するプログラム、研修先について発表するプログラム、英会話プログラムで構成されています。単位取得には現地研修に参加する必要があります。現地研修先は、オーストラリアのニューカッスル大学での語学学修とホームステイによる異文化体験を予定しています。また、この現地研修は神奈川の湘北短期大学との共催プログラムです。事後学修では、現地研修の成果について発表し、報告書を作成します。									
学修到達目標									
授業は、異文化対応力を向上させることを教育目的としています。本授業では、2～4週間、現地の家庭や大学寮に滞在して学修しますが、この異文化体験を通して生きた外国語力の向上と異文化理解を深めます。したがって、本授業の到達目標は、「言語と非言語により、異文化の相手を尊重しつつ自分の考えを明確に伝えることができる」ことであり、これをアクティブに学びます。									
授業の進め方									
事前学修と事後学修は、座学による授業と双方向型授業を組み合わせで行われます。また、授業日時は不規則で、外部講師による土曜日等にも開講されます。現地研修のプログラムや費用等は開講時に提示しますが、人数制限をする場合があります。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	グローバル社会	グローバル化する現代社会について理解し、そこで求められる能力について考える。				渡航先の政治・経済・社会について調べ、報告の準備をする。（1時間）			
2	渡航先の政治・経済・社会	各自が調べた渡航先の政治・経済・社会について、パワーポイントを用いて発表する。また、相互に評価を行い発表の改善をする。				発表した内容をレポートに整理する。現地研修の課題・目的についての報告を準備する。（1時間）			
3	現地研修に対する抱負	現地研修での各自の課題・目的について、パワーポイントを用いて発表する。また、発表について、相互に評価を行う。				発表した内容をレポートに整理する。（1時間）			
4	シャイネス克服	外部講師によるプログラム。役者になりきり、大きな声、動作で自分を表現し、コミュニケーションを図る。				グループで役割を決め、発表の準備をする（創作漫才、寸劇等）。（1時間）			
5	シャイネス克服	グループで役割を決め、発表の準備をする（創作漫才、寸劇等）。				グループでの発表を英語で発表出来るように準備をする。（1時間）			
6	サバイバルイングリッシュ	英語でのグループ発表（漫才、寸劇等）。相互に評価を行います。旅行等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。				決まった英語フレーズを暗唱し、旅行等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。（1時間）			
7	サバイバルイングリッシュ	英語でのグループ発表（漫才、寸劇等）。相互に評価を行います。買い物等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。				決まった英語フレーズを暗唱し、買い物等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。（1時間）			
8	渡航準備と研修目的の明確化	英語でのグループ発表。危機管理等、海外の状況や現地の状況について理解するとともに、再度各自の課題や目的意識を明確化する。				外務省等の渡航情報等により、危険な場所等を把握する。各自の研修目的を再確認する。（1時間）			
9	現地研修	クラス分け試験等。ホームステイ先ファミリーとの顔合わせ、学生寮での入寮プログラム。（1日～2日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間）			
10	現地研修	午前中は通常の語学授業。午後は各種アクティビティ参加。小旅行にも出かけます。（3日～4日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間）			
11	現地研修	午前中は通常の語学授業。午後は世界遺産、地域社会等見学。（5日～6日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する（4時間）			
12	現地研修	午前中は通常の語学授業。午後は伝統文化の見学、体験、並びに自然観察等。（7日～8日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間）			
13	現地研修	午前中は通常の英語授業。午後は買い物等で外国語の実践。（9日～10日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。報告書の準備をする。（6時間）			
14	体験報告	日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。相互に評価をおこない、発表力の向上を図ります。				日誌、報告書の提出準備と発表準備。体験報告を英語で準備する。（1時間）			
15	体験報告	前回の体験報告を改善し、研修先の外国語で発表する。また、ビデオ、DVDで保存するとともに、記念誌を作成する。				外国語原稿の準備。振り返りによる自己肯定感を涵養する。（1時間）			
テキスト		成績評価の方法・基準							
開講時に指示されます。また、適宜、プリント等の資料が配布されます。		受講態度：30% 定期試験：20% レポート：20% 実技：30% 「受講態度」には発表等、「定期試験」には小テスト、「レポート」には事前・事後学修のレポート、「実技」には現地研修の評価が含まれます。また、評価「S」は、外国語と日本語で円滑なコミュニケーションや発表ができる。評価「A」は、外国語と日本語で伝えたいことを明確に伝えることができる。評価「B」は、外国語と日本語で伝えたいことを伝えることができる。評価「C」は、外国語と日本語で簡単な内容を伝えることができる。以上が目安です。							
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）							
現地の教室で配付されるプリント、各種案内パンフレット		本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク（危険）が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、受講状況に加えて、必要に応じてゼミ担当教員や語学教員等の意見を参考に決定します。							

科目名	海外研修		学年学期	1年通年	単位数	2	ナパ`リッ`	UL13407	研究室	
担当者	各教員		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		○								
授業概要										
この授業における海外研修は、Self-planningを基軸としています。このSelf-planningとは、すでに決められたプログラム内容を享受するのではなく、参加学生は自ら研修内容を創造することから始めます。具体的には、学期初めに参加者を公募し、その後、参加学生と担当教員により、目的地、研修内容、費用等を議論して、単位付与に見合う一つの研修にまとめ上げ、手配旅行社の担当者と協議の上、海外研修を実施します。										
学修到達目標										
*積極的に議論に参加するスキルを身につける。 *目的を遂行する力、そして、他者との協働性を身につける。 *観光ホスピタリティ学科の学生にとっては、旅の企画力が身につく。また、総合経営学科の学生にとっては、企画立案や実施を通して、マネジメント力が身につく。 *異文化に接することにより、視野を広め、語学習得の良い刺激となる。										
授業の進め方										
参加学生が決まり次第、担当教員の指導の下、研修内容の議論に入る。定期的に集まり、企画をプランニングしていく。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	研修内容に関する議論	目的地に関する議論				研修の目的を自問自答する(4時間)				
2	研修内容に関する議論	目的地に関する議論				研修の目的を確認する(4時間)				
3	研修内容に関する議論	研修の具体的な内容に関する議論				目的に沿った研修内容を考える(4時間)				
4	研修内容に関する議論	研修の具体的な内容に関する議論				目的に沿った研修内容を考える(4時間)				
5	研修内容に関する議論	研修の具体的な内容に関する議論				目的に沿った研修内容を考える(4時間)				
6	費用等に関する議論	手配旅行社を交えての議論				費用対効果などを考える(4時間)				
7	費用等に関する議論	手配旅行社を交えての議論				費用対効果などを考える(4時間)				
8	研修先の事前学習	研修先の文化、社会情勢などの学習				インターネットや書物などにより下調べをしておくこと(4時間)				
9	研修先の事前学習	研修先の文化、社会情勢などの学習				インターネットや書物などにより下調べをしておくこと(4時間)				
10	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
11	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
12	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
13	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
14	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
15	体験報告	日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。				日誌、報告書の提出準備と発表準備。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
開講時に指示されます。また、適宜、プリント等の資料が配布されます。				レポート:20% 実技:60% 課題:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題を終了している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
適宜指示します				本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク(危険)が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、授業担当教員とゼミ担当教員等の所見などを参考に決定します。						

科目名	海外事情		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL13408	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	2017年度～				
		○								
授業概要										
本授業は、海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、中山大學(中華人民共和国)の先生と、東新大學(大韓民国)の先生が講義する予定です。現代社会は、他国との相互依存関係が政治的にも経済的にも、また文化的にも深化してきています。授業内容の詳細は開講時に提示します。										
学修到達目標										
本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について学ぶとともに、特に中国や韓国などのアジア地域における日本の立場について自分の意見を説明できる」ことです。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、文章力や表現力、「論理的思考」や「コミュニケーション力」の育成も図ります。										
授業の進め方										
授業は日本語による集中講義形式で行われます。また、時期は夏休みの1週間程度を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業の概要	授業の概要説明と講師紹介、中国の中山大學、協定校の嶺南師範学院と韓国の協定校の東新大學の紹介等を行います。				ICTを活用し、指示されたプリントで講義内容を予習すること。(4時間)				
2	中国の歴史	前半の7回は「中国の事情」を講義します。ここでは、中国の現状を歴史的な視点を含めて解説します。				配布プリント等を参考に中国近代史について把握する。(4時間)				
3	中国の現状	ここでは、中国の現状を説明します。特に、生活、流行、等、文化的な面を取りあげます。				配布プリントやインターネット等により授業内容の理解を深め、発表の準備する。(4時間)				
4	中国の経済(現状)	中国の経済状況について説明します。中国の経済は成長著しい状況にありますが、格差の問題等、様々な経済的な問題を抱えています。これらについて説明します。				配布プリントやインターネット等により授業内容を確認し、日本の状況も整理する。(4時間)				
5	中国の経済(将来)	中国の人口は今後減少に転じ、日本以上の少子高齢化社会になることが懸念されています。ここでは、中国の経済の将来について考えていきます。				現存する日中間の課題について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
6	中国の教育(制度)	中国の教育制度について解説します。また、中国の高等教育改革の現状について説明します。				わが国の高等教育についてその課題を調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
7	日中の教育比較	中国と日本の教育制度や教育内容の比較を通して、高等教育の在り方を考えます。また、受講者にも学生時代に何をしておくべきかを考えてもらいます。				受講者各自が、学生生活に関するレポートを作成する。(4時間)				
8	まとめ	これまでの講義のまとめを行います。また、質疑応答を通して中国の実情の理解を深めます。				中国について理解したこと、考えたことについてレポートにまとめる。(4時間)				
9	戦後の韓国社会(民主化)	戦後の韓国社会の民主化の過程について講義します。また、これを通して韓国社会についての理解を深めます。				配布プリント等で授業内容を確認し、理解を深める。(4時間)				
10	民主化と韓国社会	韓国の民主化に関するビデオを鑑賞し、韓国の民主化について理解を深めるとともに、民主化の意味を考えます。				韓国社会の歴史について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
11	韓国社会の現状と将来	韓国における民主化の現状と将来について考えていきます。また、日本の民主化や国際社会における民主化についても考えていきます。				世界の民主化運動について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
12	戦後の韓国経済	1990年代までの韓国経済の軌跡について解説すると共に、韓国の財閥が韓国の社会や経済に与える影響等について説明します。				世界の民主化問題についての報告の準備する。(4時間)				
13	韓国経済の現況	1997年のアジア通貨危機以降の韓国経済の状況に焦点を絞って説明します。				アジア通貨危機について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
14	韓国の高等教育	韓国の教育制度について説明するとともに、大学等の高等教育の現状について解説します。また、韓国の学生の就職についても言及します。				わが国の高等教育の状況について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
15	日中韓の諸問題	これまでの授業内容を参考にして、中国、韓国、日本の教員と学生諸君がいくつかのテーマを出し合い、議論をします。				議論内容をレポートとして提出する。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリント等を配布します。		出席レポート：40% レポート：30% 受講態度：30% 本授業での受講態度は、留学生等との積極的な意見交換や、自分の意見の発表を含みます。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べるができる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
プリント等を配布します。		本授業は海外の大学の教員との連携授業です。従って、本務校の事情や本学の学生の事情により、お願いする講師の変更や開校日の日程が変更になることもあります。日程変更等は掲示等で随時連絡します。								

科目名	海外事情		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバ'リング	UL13409	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C	2017年度~				
○										
授業概要										
本授業は、本学の教員と海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、本学の教員以外に、アジア諸国の教員や、欧米の教員にお願いする予定です。現代社会は、他国との相互依存関係が政治的にも経済的にも、また文化的にも深化してきています。本授業では、政治・経済・社会の変化を中心に講義しますが、授業内容の詳細は開講時に提示します。										
学修到達目標										
本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について理解することと、日本と国際社会の関係について自分の意見を持ち、これを表現できること」です。また、米国や欧州に対しての知識を深め、興味を持つことも目標としています。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、文章力や表現力、「論理的思考」の育成も図ります。										
授業の進め方										
授業は日本語や英語による集中講義形式で行われます。また、時期は冬休みの1週間程度を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業の概要	授業の概要説明と講師紹介。				講師が所属する国や大学等について調べ、整理する。(4時間)				
2	アジア・欧米の政治史	アジアや欧米の政治史について講義します。				事前に欧米の政治史について整理する。(4時間)				
3	アジア・欧米の経済史	アジア・欧米の経済史について講義します。				アジア、欧米の経済史について事前に整理する。(4時間)				
4	アジア、欧米の社会史	アジア、欧米の社会史について講義します。				アジア、欧米の社会史について事前に整理する。(4時間)				
5	アジア、欧米の文化史	アジア、欧米の文化について講義します。				欧米の文化史について事前に整理する。(4時間)				
6	アジア、欧米の学校制度	アジア、欧米の学校教育の歴史や制度について講義します。				ICT等を活用して欧米の学校制度について調べ、整理する。(4時間)				
7	アジア、欧米の高等教育制度	アジア、欧米の高等教育制度と教育改革について講義します。				ICT等を活用して欧米の高等教育制度について調べ、整理する。(4時間)				
8	アジア、欧米の高等教育改革	アジア、欧米の高等教育改革について、教育手法と評価手法の観点から講義します。				ICT等を活用してパフォーマンス評価等について調べ、整理する。(4時間)				
9	欧州の政治情勢()	欧州における難民問題について、現状を講義します。				ICT等を活用して難民問題、シリア問題等を調べ、整理する。(4時間)				
10	欧州の政治情勢()	英国のEU離脱問題とその影響について講義します。				ICT等を活用して、英国のEU離脱問題について調べ、整理する。(4時間)				
11	欧州の経済情勢	EU域内のインバランス問題とEU経済の現状について講義します。				インバランスについて調べ、整理する。(4時間)				
12	北米の政治情勢()	米国のトランプ政権下の政治情勢について講義します。				ICT等を活用してトランプ政権誕生による社会の変化について調べ、整理する。(4時間)				
13	北米の政治情勢()	米国とカナダ、メキシコの関係の変化について講義します。				ICT等を活用して北米での自由貿易圏について調べ、整理する。(4時間)				
14	欧米の政治・経済と日本	欧米の政治、経済的变化が日本経済、社会に与える影響について講義します。				これまで整理したレポートを参考に各自で日本への影響について整理する。(4時間)				
15	まとめ	これからの欧米社会の方向性と日本社会の今後について、受講者全員で議論します。				議論内容についてレポートに整理する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリント等を配布します。				出席レポート:40% レポート:30% 受講態度:30% 本授業での受講態度は、パワーポイント等による発表を含みます。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べるができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
プリント等を配布します。				本授業は、本学の教員とアジアと欧米を中心に外国の教員等が連携して実施する授業です。海外の大学の多くは9月新学期ですので、担当する教員、授業の日程が確定するのは9月以降です。また、英語による授業の場合もあります。						

科目名	自然と産業			学年学期	1年前期	単位数	2	ナバ'リング	UL13501	研究室	W-15
担当者	田開 寛太郎			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)、中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
授業概要											
私たちの暮らしは豊かな自然の上に成り立っています。祖先が自然とともにどのように暮らし、そしてどのように自然を開発してきたか。この先に高齢化や人口減少を迎える中、地域の産業発展には自然環境といった地域資源を活かした地域づくり人づくりが求められています。本講義では、自然の各循環と基本的なしくみ、そして産業との関わりを理解し、国内外の事例をみながら自然環境を取り巻く現代的課題について考えます。											
学修到達目標											
「自然と産業」とは何かを理解するとともに、自然資源の循環と廃棄や資源活用のしくみについて考え、それらの意義について論じることが出来るようになることを目指します。											
授業の進め方											
各回の講義は新聞記事などの事例を用い、課題を図式化したり、映像を投影したりして、想像を膨らませながら進めます。各回、課題をワークシートに記入しディスカッションする等の作業を併いながら、能動的に講義を展開します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標、授業の進め方、評価の仕方、履修上の注意などを説明します。					シラバスの理解と授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
2	自然のしくみ1 水と大気	水と大気の循環(水資源、浄化作用)と、それに関する身近な地域課題を学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
3	自然のしくみ2 岩石	岩石の循環と地質(道路、開発)と、それに関する身近な地域課題を学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
4	自然のしくみ3 生態系	生物の循環と生態系(生態系サービス)、それに関する身近な地域課題を学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
5	自然と産業の基礎1 里地里山の定義	里地里山は、農林水産業などの人間の営みにより長い年月にわたって維持されてきた二次的自然地域です。里地里山に関する基礎的なことを学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
6	自然と産業の基礎2 里地里山と新炭エネルギー	地域の自然資源の利用の歴史的変遷について学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
7	自然と産業の基礎3 里地里山と水辺	人間の暮らしのまわりの身近なところにある水辺・湿地環境について学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
8	自然と産業の展開1 自然と観光	地域の自然資源を活用した持続可能な観光などの新しい観光のあり方を探ります。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
9	自然と産業の展開2 人と自然の共生	「共生」の概念についての理解を深めるとともに、自然環境保全の視点から学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
10	自然と産業の展開3 グローバリゼーション	グローバリゼーションが生む産業が資源や環境、私たちの生活に与える影響について、環境問題の視点から学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
11	自然を活用する具体的な提案1 地方創生と持続可能性	地域づくりを進めるための自然資源の活力向上について考えるとともに、現状と課題を見つめます。					指定する参考書を読んでおき、授業を振り返りノートにまとめる(4時間)				
12	自然を活用する具体的な提案2 生物多様性保全と農業	具体的な事例(野生生物の野生復帰と環境創造型農業等)をもとに、自然環境を考える農業の取組について学ぶとともに、現状と課題を見つめます。					指定する参考書を読んでおき、授業を振り返りノートにまとめる(4時間)				
13	自然を活用する具体的な提案3 野生動物管理と産業	里地里山の衰退と急増する野生動物を踏まえて地域づくりにおける野生動物(管理)を考えるとともに、現状と課題を見つめます。					指定する参考書を読んでおき、授業を振り返りノートにまとめる(4時間)				
14	自然を活用する具体的な提案4 自然災害と復興	自然災害からの復興の事例をもとに、自然環境保全と市民参加を通じた地域産業の新たな構築を考えるとともに、現状と課題を見つめます。					指定する参考書を読んでおき、授業を振り返りノートにまとめる(4時間)				
15	総括と補論	自然の開発と保護の観点から持続可能な成長を志向した新たな産業のあり方を探ります。					自分の意見を小レポートとしてまとめる(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
教科書は指定しません。						受講態度：20% 課題：20% 定期試験：60% S:授業内容を自主学習から深く探求した上で、実際の社会現象に対して課題と解決の視点を明確かつ現実的に述べるができる。A:授業内容を理解し、社会現象に対する課題抽出および解決の意見を明確に述べるができる。B:授業のおよそを理解し、その課題と解決策を述べるができる。C:授業内容の6割を理解し、課題が何か述べるができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
必要に応じて本講義中に参考となる学術論文、書籍を紹介します。						1年生の皆さんにとって大学の講義は時間が長いうえ、内容も正解がひとつでなく複雑で深い学びとなります。身近な事例や時事問題を扱いますので、日頃より地理的理解を深め、普段からニュースを見ましょ。					

科目名	環境問題A (総経)			学年学期	1年後期	単位数	2	ナパリング	UL13502	研究室	W-15
担当者	田開 寛太郎			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
地球環境問題は全ての人々が被害者であり加害者である、とても複雑に絡み合った問題です。特に近年の地球温暖化、人口爆発、生物種の減少は、地球の歴史上類を見ないスピードで進んでおり、環境の急激な変化が人の生活へ与える影響がとても大きいとされます。本講義では、はじめに本来の自然の生態系のしくみを理解し、次にグローバルな視点からデータを基に環境の現状を捉えつつ、最後に組織や個人が何をすべきかという課題を取り上げます。											
学修到達目標											
さまざまな環境問題に対して私たちは今一体何をしたらよいかについて、自身の生活や経験と関連付けながら考えることができるようになることを目指します。											
授業の進め方											
テキストを横断的に使用し、補足としてレジュメ程度の配布資料(参考資料)、プレゼンテーションや映像動画などの各種教材を使いながら講義を進めます。環境問題は分野が横断的で情報量が多いため、試験学習はテキストを利用してください。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	今なぜ環境の時代か	環境問題が世界的なテーマとして議論され久しいですが、全ての人に関わる問題としてどのような視点から学ぶか説明します。					テキスト第1章を読む。配布資料を復習する(4時間)				
2	データから見る地球環境問題	21世紀になり地球環境問題に関するデータを多くの人が見ることができるようになりました。その傾向と課題について学びます。					テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
3	地球温暖化問題	急激な気候変動という不安定さをもたらす地球温暖化問題について、原因や対策を考えます。					テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
4	日本の公害の歴史	1970年代に日本が公害先進国として名をさせた事例に基づき、展開と結果を参考に、解決の方法について考えます。					テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
5	森林破壊、水大気循環	世界規模の森林破壊の問題と、国内の森林の質の低下の問題を合わせて考えます。また、水大気循環システムを学びます。					テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
6	生物多様性の減少	生物の循環システムを学ぶとともに、著しく生物多様性が減少している現代の問題についてデータをもとに考えます。					テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
7	廃棄物問題	日本の廃棄物処理の現状について、データをもとにその問題と解決方法について学びます。					テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
8	エネルギー問題	日本のエネルギー自給率は世界的にみると低く、エネルギーがもつ性質や問題点、対策について学びます。					テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
9	自然エネルギーと地域づくり	東日本大震災以降、新エネルギーや地域単位での取り組みについて注目が集まっています。その現状と課題を学びます。					テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
10	農と食糧、地球資源の枯渇	グローバルな時代において、安心安全の食への課題や、魚や植物などの資源の枯渇が課題となっていることを学びます。					テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
11	解決に向けて1 国際的な環境への取組み	1970年以降、世界会議が10年に1度行われるなど、国を超えた環境への取り組みがあることを学び、我が国の姿勢を考えます。					第3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
12	解決に向けて2 企業・社会の環境への取組み	産官学民が進める環境への対応について例を挙げ、知識を得るとともに、今後の課題について考えます。					第3章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
13	解決に向けて3 ライフスタイルの変換	個人でできる、家族で取り組む身近な環境対策のあり方について紹介し、取り組み方法を考えます。					第4章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
14	解決に向けて4 環境教育と持続可能な開発のための教育	環境問題を解決するための方法の一つとして教育がありますが、持続可能な開発のための教育とは何かを、環境教育と合わせて学びます。					第4章の該当部分を読む。配布資料を復習する(4時間)				
15	まとめ 地域固有の環境問題	日本および長野県における環境問題を再度整理し、地球環境問題との関連や今後の課題について学びます。					小レポートを作成する(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「ECO検定公式テキスト」東京商工会議所編著 ISBN:978-4-8207-4487-0 各自で購入してください。						定期試験:60% 出席レポート:30% 課題:10% 課題は小レポートとします。S:内容を高度に理解し、実社会での出来事と地球規模の課題を関連付け、批判的な視点をもちながら、正確に文章で表現することができる。A:探求姿勢を持って課題に取り組み、内容を正確に理解し、各要素を関連付けた視点で、正確に文章で表現することができる。B:内容をおおむね理解し、要素を関連付けた視点で、文章化できる。C:授業の内容を6割以上理解し、自分の意見を文章化できる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
必要に応じて本講義中に参考となる学術論文、書籍を紹介します。						受講する人は普段から新聞を読んだり、ニュースを見たりするよう心がけてください。					

科目名	自然地理		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	UL33503	研究室	
担当者	柳町 晴美		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C						
授業概要										
自然地理に関する知識を深めることを目的とします。気候に関連した内容を中心に、気候の地域差をもたらす要因、グローバルスケールの気候、日本の気候、長野県の気候、身近な松本平の気候へと気候の特徴を考察します。地域によって気候は多様であるとともに、共通性もあること、気候は人間生活にどのように影響するのか、逆に、人間活動が環境を改変し、ヒートアイランド現象や地球温暖化をもたらしたことが、気候と地形の関係について学びます。										
学修到達目標										
気候の地域差をもたらす要因、地球温暖化などの気候に関連した現在直面する環境問題、気候と地形との関係について説明できるようになること。										
授業の進め方										
自然地理に関する講義を展開します。自然と人間との関わりについてのレポートを作成し発表してもらいます。ほぼ毎回、授業内容に関する小テストを実施します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス、地図に関する基礎知識	自然地理に関する講義概要、学修到達目標、講義の進め方、授業計画、成績評価の方法などについて説明します。地理の学習上の基本ツールである地図について、様々な例を紹介しします。				関連の資料、Webサイトを紹介しします。内容を確認して予習して下さい。4時間				
2	気象、気候、風土	基本的な用語、気象、気候、風土などについて解説します。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
3	気候の地域差をもたらす要因	気候の地域差はどのようにして生じるのかを考えます。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
4	世界の気候1 大気大循環	世界の気候の特徴を大気大循環(風系)から見ていきます。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
5	世界の気候2 気候区分	同じ特徴を持つ地域に世界を区分する世界の気候区分について紹介しします。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
6	日本の気候1 日本の気候の特徴	日本の気候はどのような特徴を持っているのか解説します。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
7	日本の気候2 季節区分	日本の季節毎の特徴的な気圧配置と季節区分について解説します。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
8	日本の気候3 気候区分	同じ特徴を持つ地域に日本を区分する日本の気候区分について紹介しします。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
9	長野県の気候	長野県の気候はどのような特徴を持っているのか解説します。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
10	気候と地形1 古気候と地形	古気候、地形に古気候が反映されているのか解説します。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
11	気候と地形2 現在の気候と地形	現在の気候が地形に影響するのか解説します。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
12	地球温暖化とは	地球温暖化について気候データを用いて解説します。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
13	地球温暖化の影響	地球温暖化はどのような影響をもたらすのか解説します。				配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
14	ヒートアイランド現象	ヒートアイランド現象とは何かに関して解説します。				小テストの答で復習して下さい。レポート発表の準備をしてください。4時間				
15	レポート発表、補足、まとめ	作成したレポートを発表してもらいます。講義全体を再考します。				発表内容により各地の自然地理を復習してください。全体を振り返って要点を確認してください。4時間				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリントを配布します。8回目までの内容は、参考書「やさしい気候学」、10・11回目は、参考書「自然地理学」には含まれています。他の回は、気象庁、環境省、IPCCなどのサイトで公表されている資料を参考にしてください。				レポート:20% 定期試験:40% 小テスト:30% 発表10%。S:授業内容を高度に理解し、探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容について他分野でも十分活用できる。卓越した発表を行い授業に貢献している。A:授業内容を十分理解し、熱心に課題に取り組み、授業内容を援用した思考ができる。発表を行い授業に積極的に参加している。B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組んでいる。発表を行い理解を深める努力をしている。C:授業内容を60%程度理解し、課題に取り組んでいる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「やさしい気候学 第3版」仁科 淳司著(古今書院) 「自然地理学(第3版)」松原彰子著(慶應義塾大学出版会)				高校で地理を学ばなかった学生も理解できる内容としますが、高校レベルの地理は社会人として必要な常識的な内容を含んでいます。是非この機会に地理を勉強しましょう。						

科目名	基礎統計学 (総合経営学部)		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	UL23504	研究室	W-18
担当者	林 昌孝		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義は、データの客観的な分析手法について学ぶことを目的とします。はじめに、量的なデータおよび質的なデータを整理して検討する方法について講義します。次に、データを集約して全体像を把握する方法について学びます。また、集約された数値の見方と意味について考えます。さらに、サンプルデータを調べる事により全体像となる母集団を把握する手法について基本的な考え方と手法を学びます。										
学修到達目標										
対象となるデータの統計的な特性値を算出することができる。また、特性値をもとにデータの母集団の変化を検証する方法を修得する。										
授業の進め方										
データの整理検討をする分野では、データの分析手法の講義と演習を中心とした内容になります。電卓又はパソコンを利用しながら進めます。データから全体像を把握する手法については講義を中心に進め、実践的な問題を解きながら理解を深めます。										
授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	尺度とデータについての基礎知識を説明します。				シラバスとテキストのはじめページを読んでください(4時間)。				
2	量的データの整理	数値で表すことのできるデータの整理と表現方法を学びます。				テキスト(量的データの整理)を読んでください(4時間)。				
3	質的データの整理	数値で示すことのできないデータの整理と表現方法を学びます。				テキスト(質的データの整理)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
4	データを代表する値	データを集約して代表値として表す方法を学びます。				テキスト(統計学のキーワード・分布の特性値)を読んでください(4時間)。				
5	平均と標準偏差	平均と標準偏差の持つ意味と計算方法を学びます。				テキスト(統計量の計算)を読んでください(4時間)。				
6	統計量の計算練習	いろいろな統計量の計算方法の確認と練習をします。				テキスト(分布の特性値と計算練習・問題)を読んでください(4時間)。				
7	正規分布	データの持つ規則性を知ることによりデータの形式が変化することを説明します。				テキスト(確率と確率分布)を読んでください(4時間)。				
8	数値表の使い方	確率分布に従うデータの性質を数値表を用いながら学びます。				テキスト(一様分布と正規分布)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
9	信頼係数と有意水準	統計的有意性について説明して、信頼係数と有意水準の表し方を学びます。				テキスト(信頼係数と有意水準)を読んでください(4時間)。				
10	母集団と標本の定理	母集団と標本間の性質について定理をまじえて説明します。				テキスト(母集団と標本)を読んでください(4時間)。				
11	母平均の推定	標本平均から母平均を知る(推定する)方法について説明します。				テキスト(母平均の推定)を読んでください(4時間)。				
12	t分布を用いた推定	データに制約がある場合の推定方法について説明します。				テキスト(t分布と推定)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
13	仮説検定	統計的な仮説検定の原理と基本手順について説明します。				テキスト(仮説検定)を読んでください(4時間)。				
14	t分布を用いた仮説検定	データに制約がある場合の検定方法について説明します。				テキスト(検定の例題)を読んでください(4時間)。				
15	まとめ	よく使われる統計的仮説検定の方法について説明します。また、今後の発展分野についてまとめます。				テキスト(いろいろな統計的検定)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「基礎統計学テキスト」林昌孝編著(松本大学)(生協で購入してください。)				定期試験:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「はじめの統計学」鳥居康彦著(日本経済新聞社)ほか適時紹介します。				数学が苦手な人でも統計的な考え方は必要です。統計学のファンになりましょう。						

科目名	地域環境と生態			学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	UL33505	研究室	S-12
担当者	木藤 伸夫・丸山 文男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限、水曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この講義の前半では、環境を構成する要素など環境問題を考えるうえで必要な基礎知識や、環境問題を取り扱う際の方法論などを解説します。後半では、地球上のあらゆる環境で生活している微生物に焦点を当て、微生物の種類や性質などの基礎的なことから、地球環境と微生物の関わり、微生物を利用した環境改善など応用的な面まで分かりやすく概説します。											
学修到達目標											
前半では、天気や気候の変化における大気と海洋の役割を理解し、人間の活動と地球環境の変化の関係を理解することが目的です。後半では、地球全体の物質循環とそれに関わる微生物によって地球環境が維持されていることを理解することが目的です。											
授業の進め方											
配布資料に基づいて講義形式で授業を行います。講義内容を理解するには物理学、化学、生物学、地学などの理系基礎科目の知識が必要です。毎回小テストを行い、授業の理解度を確認します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	太陽系の中の地球	地球大気の起源と進化について学びます。					配布資料を復習します。課題を課し提出を求める場合があります。(第1回~7回まで)(4時間)				
2	大気の鉛直構造	対流圏、成層圏とオゾン層、中間圏、熱圏について学びます。					配布資料を復習します。(4時間)				
3	地球のエネルギー収支	地球のエネルギー収支を理解し温室効果について学びます。					配布資料を復習します。(4時間)				
4	地球をめぐる大気の流れ	風の吹き方を理解し大気の大循環を学びます。					配布資料を復習します。(4時間)				
5	海水の循環	海水の流れを理解し海洋と気候について学びます。					配布資料を復習します。(4時間)				
6	気候変動	エルニーニョ、異常気象について学びます。					配布資料を復習します。(4時間)				
7	地球環境	都市気候、酸性雨、地球温暖化について学びます。					配布資料を復習します。(4時間)				
8	確認テスト	第1回~7回までの内容の理解度を筆記試験で確認します。					これまでに配布された資料などに基づき、講義内容を振り返っておきます(6時間)				
9	環境微生物の進化と環境形成	46億年前に誕生した地球の環境がどのように変化して現在の環境になったかを解説します。「地球と生命の共進化」ともよばれる、地球環境の変化と生物進化の密接な関係を理解することが目的です。					配布資料を復習します。(4時間)				
10	環境微生物が行う各種物質変換の実際	地球レベルでの物質循環を知るために、炭素循環と窒素循環を取り上げて解説します。物質循環には生物が関与しない無機的な循環と、生物が関与するものがあります。違いを明確に理解する事が目的です。					配布資料を復習します。(4時間)				
11	極限環境微生物	微生物は地球上の様々な環境に生息していますが、特に変わった環境(高温、強酸・強アルカリなど)で生きている微生物がいること、私達の日常生活でこれらの微生物がどのように利用されているかを学びます。					配布資料を復習します。(4時間)				
12	地球環境の激変と環境微生物のかかわり	近年問題になっている地球環境の変化、すなわち地球温暖化や、水質、大気、土壌などの環境汚染の原因物質は何か、汚染はどのようにして起こるのかを学びます。					配布資料を復習します。(4時間)				
13	微生物による有害物質除去・分解の原理	微生物を使った環境浄化の方法、特に排水処理法、悪臭処理法、重金属汚染や有機塩素化合物などの除去、分解法などを理解することが目的です。					配布資料を復習します。(4時間)				
14	バイオレメディエーション	微生物による環境浄化(バイオレメディエーション)について学習します。原油や界面活性剤の汚染除去への応用、土壌や地下水の汚染除が実際どのように行われているかを学びます。					配布資料を復習します。(4時間)				
15	食糧生産への微生物利用とバイオエネルギー	人工的な肥料の代わりに微生物を使った農法の有用性を学びます。また、化石資源の代替エネルギーとして注目されているバイオエネルギーについて、メリット、デメリットを学習します。					配布資料を復習します。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
なし				定期試験：100% 地球環境を決める複数の要因をあげることができればC、それらが地球環境にどのような影響を与えるか説明できればB、地球における物質循環やエネルギー収支について説明できればA、現代起こっている様々な環境問題や環境保全、環境改善などについて、自分の考えを述べることであればS。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「地球環境46億年の大変動史」田近英一著(化学同人) ISBN: 978-4-7598-1324-1 「一般気象学」小倉義光著(東京大学出版会) ISBN: 978-4-13-062725-2				物理、化学、生物学、地学のどれか1科目でも良いので、高校で学んだ理系科目を復習しておいて下さい。							

科目名	ごみ処理と循環型社会		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	UL33506	研究室	非常勤
担当者	水橋 文雄		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
一番身近な環境問題がごみ問題です。快適なライフスタイルが、大量生産・大量消費・大量廃棄の悪循環の中で、ごみを増やし、地球を汚して来ました。地球のあらゆる資源は有限です。人々はその資源を惜しみなく使い、ごみとして捨てることで経済成長して来ました。今、まさに「成長の限界」(1972.ローマクラブ)が示すとおり社会になっています。そこで、松本市のごみ行政の取り組み状況を参考にして、将来に向かってこのごみ問題とどう向き合うべきかを考えます。										
学修到達目標										
各地で、廃棄物の中間・最終処分場が不足し、廃棄物の安全・安定な処理に支障をきたし、しかも、放射性廃棄物の処理も新たな大きな社会問題となっている中で、廃棄物問題に対する取組みと、その対策を考え、実践し、その成果を検証する能力(PCDAサイクル)を身につける。										
授業の進め方										
パワーポイントやDVD(BR)を利用して講義を進めます。資料はパワーポイントの主な内容をプリントして配ります。また、アウトキャンパスとして、「ごみ焼却場、最終処分場」の見学を予定します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ごみとは	廃棄物の処理及び清掃に関する法律で規定する「ごみ」について説明します。				法律で規定される「ごみ」について調査する。(4時間)				
2	ごみの分別について	ごみの分別(松本市を例に)の必要性と方法について説明します。				各自の出身自治体のごみの分別方法を調査する。(レポート1の提出)。(4時間)				
3	ごみの出し方について	ごみの出し方(ごみ袋・ごみステーション等松本市を例に)について説明します。				各自の出身自治体のごみの出し方を調査する。(4時間)				
4	ごみ処理施設について	一般廃棄物のごみ処理施設の種類と機能と問題点について説明します。				各自の出身自治体のごみ処理施設の種類と規模等について調査する。(4時間)				
5	施設見学(1)	松本市の一般廃棄物の最終処分場(エコトピア山田)を見学します。				見学後に最終処分施設の設置の目的と現状を整理する。(4時間)				
6	施設見学(2)	松本市の一般廃棄物の中間処理施設(松本クリーンセンター)を見学します。				見学後に中間処理施設の設置の目的と現状を整理する。(4時間)				
7	ごみ処理施設整備の課題について	ごみ処理施設整備の問題と課題(松本市を例に)について説明します。				ごみ処理施設整備に対する住民感情について調査する。(レポート2の提出)(4時間)				
8	循環型社会の構築について(1)	持続可能な社会の主要な要素である、循環型社会を構築するために必要な制度について説明します。				持続可能な社会を構築するために何が必要とされるのかを調査する。(4時間)				
9	循環型社会の構築について(2)	ごみ減量(リデュース)施策(松本市を例に)について説明します。				各自の出身自治体のごみ減量施策を調査する。(4時間)				
10	循環型社会の構築について(3)	ごみにしないように物を繰り返し使用(リユース)する施策(松本市を例に)について説明します。				日頃から「もったいない」と感じていることを整理する。(レポート3の提出)(4時間)				
11	循環型社会の構築について(4)	ゴミを減らす為、資源として再生利用(リサイクル)する制度(松本市を例に)について説明します。				日本のリサイクル法について内容と問題点を調査する。(4時間)				
12	廃プラスチック問題について	廃プラスチックが、世界の環境(マイクロプラスチックによる海洋汚染問題等)に与える影響について説明します。				廃プラスチックの回収の必要性と方法について調査する。(4時間)				
13	放射性廃棄物について	放射性廃棄物の処理と保管・埋立の問題点について説明します。				放射性廃棄物の現状と今後の処分方法について調査する。(4時間)				
14	不法投棄問題等について	ごみの不法投棄と有害廃棄物の放置等の状況と対策(松本市を例に)について説明します。				各自の出身自治体における、不法投棄の状況及びその対策について調査する。(4時間)				
15	ごみ処理と循環型社会について(整理)	ごみ処理の問題点(最終処分場等の施設の整備等)と循環型社会の構築(主にリサイクル法の問題点)について整理します。				循環型社会を構築するためには、何をすべきかを整理する。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
必要に応じて、パワーポイントを抜粋した資料を配布します。		受講態度:30% レポート:30% 定期試験:40% 受講態度は、講義毎に提出する受講票による講義への意見の内容を評価に加味します。レポートは3回以上の提出を予定します。提出期限を厳守して下さい。S評価は、成績評価の合計が100となり、レポート提出状況及び受講態度が優秀な場合です。A評価は、成績評価の合計が80以上の場合で、レポート提出状況及び受講態度が良好な場合です。B評価は、成績評価の合計が70以上80未満の場合で、C評価は、成績評価の合計が60以上70未満の場合です。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特にありません。		国は、循環型社会を構築するために、様々なリサイクル法を制定していますが、その多くを地方公共団体の事務としています。そこで、各地方公共団体の取り組みに関心を持つことがリサイクルを実施する上で大切です。								

科目名	環境社会学		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバ`リツ`	UL33507	研究室	非常勤
担当者	江成 康明		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
人々が生きて行くうえで欠かせないのは周囲の環境です。一番身近な家族や仲間、そして自治体や日本、世界、宇宙と環境は広がっていきます。それらと関連しながら生活するには、世の中の動向を意識しなければなりません。今の社会に何が起きているのか、どう対応しなければならないのかを考え、自分を高めていくことが求められています。殺伐とした事件の増加やネット社会にまつわる犯罪などを例に社会学を学び、多層的に研究、発表するのが目的です。										
学修到達目標										
社会を営む時代背景やその国の環境などに自分がどう対応したらいいのかを学び、その中で自らの立ち位置を心がける。みんなが心地よく生活し、生きていくためには一人一人の思いやりや気配りが必要なことを知ることで、社会構成員の一人であることを自覚する。										
授業の進め方										
講義は毎回配布するプリントを基に教室でのディスカッションを中心に進めます。グループ討論やクロスロード(分岐点)のほか、レポートの提出をしてもらいます。更にはフィールドワークや学外専門家を招いての講演会、討論会なども行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	環境社会学とは何か?	環境といっても、「地域」だけを考えるのではなく、それを支える「人間」や「自然」にまで興味を持って対応する必要があります。授業全体の基本となる環境社会学を幅広い視点で学びます。				あなたが思い浮かべる環境社会学のイメージを事前に考えて下さい。(4時間)				
2	地域環境と民度の関係性	第一回授業で提出したレポートから様々な意見や提案をピックアップし、学生自身が社会の一員として環境社会学をどう捉えているかを探ります。そのうえで、人間としての役割を考えていきます。				新聞のコピーを読んで、事後に感想を書いてもらいます。(4時間)				
3	ネット社会で変化する社会	日本人は思いやりや気配りのある人種と言われていました。しかし、ネット社会の到来で変化してきました。社会の動きに真剣に向き合わなければなりません。ネットで陥りやすい犯罪や危険性を学びます。				ネット関連の事件事故について、一番気になったものを考えてもらいます。(4時間)				
4	ネット社会の危険性についての研究	現状では、生活や仕事をするうえでネットは欠かせません。しかし、ネットを使った犯罪が増え、反面、人との直接対話が少なくなっています。過激派組織ISやネット犯罪の愚かさを研究します。				安易にネットを使ってないかを見直してもらいます。(4時間)				
5	それぞれ違う民度のあり方	グループに分かれ、クロスロード(分岐点)をそれぞれの班で討論します。それをもとに、全体でディスカッションします。				クロスロードでの自分の意見、考え方と人の意見の相違を改めて振り返ってください。(4時間)				
6	続クロスロード	社会は人それぞれの民度によって安全、安心な暮らしが保たれています。しかし、クロスロードで体験するように、考え方はまちまちです。幅広い民度の意識を持つために、前回に続き話し合いを継続します。				自分の考え方による民度が正しいのかどうかを推量してください。(4時間)				
7	学外専門家の特別講演	簡単で便利なネットには様々な落とし穴があります。著作権について詳しい学外専門家を招き、特別講演及び討論会を実施します。				事後に講演会の感想レポートを提出してもらいます。(4時間)				
8	(野外実習)場所は未定	地域全体が民度の高い場所を訪ね、地域環境を守るためにどのような戦略が図られているかを体験します。				事後にレポートを書く。9回目に提出。(4時間)				
9	新聞に見る社会の動き	社会で起きている出来事を新聞コピーを読んで考えます。その中から、環境社会学のあり方を自分なりに理解し、さらにグループ討論して仲間の意見も聞いていきます。				授業でのコピー以外のテーマに沿って、レポート提出。(4時間)				
10	ネット社会を生き抜くための10か条づくり	ネットが欠かせない現実の中で、自ら犯罪に巻き込まれたり、他人に迷惑をかけるためにはどうしたらいいのかをグループで話し合い、10か条を作成します。				授業終了と同時に、当日の担当はグループ10か条を書いて提出。(4時間)				
11	各グループの10か条発表	前回作ったグループ10か条を班の代表が発表。それをもとに、受講生全体の10か条を作り上げますので、各グループによるプレゼンが大事になってきます。				全員で作った10か条を自分なりに実践する意識を高めてください。(4時間)				
12	10か条の絞り込み	各グループから出てきた10か条は相当数に上ります。その中から、受講生による10か条を選択していきます。創作する難しさや楽しさを実感できるはずで。				10か条は常に心掛けておく必要があります。人にも言えるほど反復して覚えて下さい。(4時間)				
13	学外専門家の特別講義	受講生が作ったネット社会と民度10か条について、専門家の意見を聴きます。				感想をレポートにまとめて提出。(4時間)				
14	続々 クロスロード	地域環境と民度を学んできて、自分の考え方は変わったか、人とかわりながら生きていく中で何をなすべきかななどをグループ討論します。				これまで学んできた民度をもう一度復習しておき、自分の意見としてまとめてください。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返って総括します。				社会の中で生きていくために必要なテーマを自分なりに見つけてください。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
毎回プリントまたは資料を配布する。				受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30% S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかりと書ける。B:授業内容のおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
毎回プリントまたは資料を配布する。				講義ではグループ別に分けた学生の皆さんとのディスカッションを中心に進めますので積極的な参加を期待します。受講票には、名前だけでなくその日の感想や意見を必ず書いて下さい。						

科目名	地域社会		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	KL15001 TL15001	研究室	W-34
担当者	白戸 洋		必修選択	必修	科目種別	講義	オイスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
この講義は、総合経営学部の必修科目として、今後、経営、観光や福祉・地域などを学んでいくうえで、重要となる「地域」に対する、基本的な考え方や姿勢を育てていくことを目的とします。										
学修到達目標										
地域とは何かという基本的な概念や地域に対する理解を図る 地域と自らの関係について考え地域社会の主体者としての自分を自覚する 現在の地域の現状を理解するとともにそれを取り巻く国内、あるいは国際的な社会経済システムを明らかにする 今後の地域のあり方を考える										
授業の進め方										
本講義は、地域に関する基本的な内容に関する講義と事例研究などを組み合わせ配布したプリントに沿って進めます。またフィールドワークを行い、その成果のまとめ、地域の将来構想づくりをテーマにしたグループワークも行ないます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	なぜ学ぶ「地域」、なにを学ぶ「地域」、どう学ぶ「地域」				講義に対する学習目標を検討しレポート作成 2時間				
2	地域とは何か ~ 自分からはじめる「地域」	地域の概念を学ぶ				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
3	むらづくり、まちづくりの背景と求められること	むらづくり、まちづくりの背景と課題				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
4	新村と松本大学 ~ なぜ地域が元気になったのか	新村地区の地域づくりと松本大学とのかかわりを学ぶ				関連資料を収集 2時間 関連する事例を研究 2時間				
5	うるさいおじさん、おばさんはいるか? ~ 子ども・若者と地域	子どもや若者が抱える課題と地域における役割を考える				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
6	事例研究 ~ 松本のまちづくりを考える	松本駅アルプス口のまちづくり				関連資料を収集 2時間 関連する事例を研究 2時間				
7	事例研究 ~ 松本のまちづくりを考える	上土地域のまちづくりの事例研究				関連資料を収集 2時間 関連する事例を研究 2時間				
8	フィールドワーク・地域の宝物を探そう	対象地域を選定し地域の資源や課題を掘り起し				対象地域に関して事前に情報を収集・フィールドワークの結果を報告書にまとめる 4時間				
9	「豊かさ」の実態 ~ グルメは世界を食い潰す	食糧問題や食糧自給等の現状から豊かさを見直す				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
10	君たちは幸せだろうか ~ 子どもから考える豊かさとお金の構造	子どもをめぐる世界の問題を通じて豊かさとお金を考える				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
11	ソロモン諸島から学ぶ地域と豊かさ	ソロモン諸島の経済変容を通じて豊かさの意味を考える				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
12	グループワーク 1 ~ 地域の課題を把握する	フィールドワークの結果を踏まえ地域の資源や課題を整理する				フィールドワークの結果を検証 4時間 次回に向けての論点整理 2時間				
13	グループワーク 2 ~ 地域づくりを提案する	フィールドワークの結果を踏まえ地域づくりについて提言する				フィールドワークの結果を検証 2時間 フィールドワークの振り返り 2時間				
14	新しい経済のあり方を考えよう	地域の新しい経済循環やコミュニティビジネスの可能性				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
15	よそ者、ばか者、若者 ~ 地域は若者に期待する!!	若者が地域で果たす役割とは				試験に向けて今後自らが同地域にかかわるか検討 4時間				
テキスト		成績評価の方法・基準								
毎回プリントを配布します		出席レポート：50% レポート：40% 定期試験：10% S:講義内容を活かして地域社会に対して自らのビジョンにもとづき働きかけができる A:講義内容を十分に理解し地域社会に対する自分なりのビジョンを持つ B:講義内容を十分に理解し地域社会に関心を持つ C:講義内容をおおむね理解する								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「松本大生がかかわったまちづくり」白戸ゼミナール編(松本大学出版会) 「共生の大地~新しい経済がはじまる」内橋克人著(岩波新書) 「民が立つ」信濃毎日新聞社編集局編(信濃毎日新聞社)		地域社会の住民のひとりである自分自身の問題として主体的な意識と姿勢を持って講義に参加してほしい。常日頃地域の課題に関心を持って新聞などを読むことを心掛けてほしい。								

科目名	社会活動		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ'リング	KL25002 TL25002	研究室	W-20
担当者	向井 健		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	月曜日4限		
関連資格	社会福祉士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
授業概要										
本講義は、3年次からの専門研究への移行を見据え、社会活動に取り組む地域活動に関わる導入的な講義です。学生の関心に沿って「環境」「地域」「福祉」の3つのグループわけをしてすすめていきます。地域社会の中で実践的な活動を行い、地域や社会の在り方について学び考えることを目的とします。										
学修到達目標										
1、地域中の課題に対して、当事者性をもって考え、その課題の解決に向けた実践を組織できるようになる。 2、地域課題の実践的探求を通して、これから求められる地域のありようを見通すことができるようになる。										
授業の進め方										
本講義では、ワークショップや企画、運営などを中心として行います。「他者と協働しながら社会活動に取り組んでみること」(実践)と、「集団的に実践を振り返りみること」(省察)を往還しながら進めていきたいと思えます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	本講義の進め方について説明をします。また社会活動に取り組んでいく上で求められる事柄について説明をします。					当日配布するプリントを復習しておくこと(4時間)			
2	グループづくり	社会活動に取り組んでいくグループをつくります。この時にアイスブレーキングを取り入れながら、互いに打ち解けあうことのできる関係をつくっていきます。					配布したプリントを復習しておくこと(4時間)			
3	日常生活の中の「違和感」や「困りごと」に耳を傾けあう	「違和感」や「困りごと」は、人びとのニーズに根差した活動を生み出す「源泉」であり、「宝物」です。じっくりと、他者の声に耳を傾けあいたいと思えます。					講義後、リアクションペーパーを提出すること(4時間)			
4	地域の課題発見とその整理	聴き取ったことをもとにしながら、地域の課題を出し合って、それを整理しあいます。					講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)			
5	地域の課題が生じるメカニズムを読み解く	抽出された地域課題が、どのような構造をもって私たちの前に現象をしているのか。課題が生じているメカニズムを読み解きあいます。					講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)			
6	地域の課題解決のためのアイデアを出し合う	課題解決のためのアイデアを出し合います。					講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)			
7	課題解決に向けたプロジェクトのテーマ設定	課題解決のためのプロジェクトのテーマ設定を行います。					講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)			
8	課題解決に向けたプロジェクトの立案	専門家があるべき将来像(ブループリント)を描くような「計画」ではなく、多様なアクターが相互に学びあい課題解決の方向性を創造的に導き出していくプロセス重視の計画は如何にしたら可能かを考えます。					講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)			
9	実施計画の立案	具体的に取り組んでみる実践の実施計画を立ててみます。					講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)			
10	実践をしてみる	実際に実践をしてみます。実践は講義時間外の週末等に行うこともあります。担当の教員の指示に従ってください。					講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)			
11	実践に内在する「矛盾」の意識化とその省察	必ずしも取り組んだ実践のすべてがうまくいくとは限りません。壁に突き当たった時、実践に内在する「矛盾」を意識化してみて、自分たちが暗黙化してきた認識枠組みを、いま一度、問い直してみましよう。					実践を通じた感想を振り返り、実践の発展において求められることを考えておくこと(4時間)			
12	新たな実践モデルの再創造	そうした中で、これまで取り組んできた実践とは異なる質をもった新しい実践モデルが創造されることがあります。					実践を通じた感想の振り返りシート記入すること(4時間)			
13	新たな質の実践の展開	そのようにして新しく産み落された実践モデルの具現化は、新たな質をもった実践の展開をもたらしていきます。					振り返りを通してわかったことを意識し、再度、実践に取り組む準備をすること(4時間)			
14	自分たちが取り組んできた実践の展開過程を整理する	活動実践報告会に向けて、自分たちの取り組んできた実践がどのように展開してきたのか、その軌跡を活動ポートフォリオとしてまとめます。					講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)			
15	活動実践報告会：新しく創出された実践の意味を分かち合う	自分たちの取り組んできた実践をまとめて報告をします。そして実践の意味を色々な人と分かち合います。					講義中に終わらなかった作業を完了させて活動実践報告会に臨むこと(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリント・資料の配付をもってテキストに代えます。		レポート：50% 課題：50% S：地域活動の中心者として周囲を組織化し、探求姿勢をもって課題に取り組むことができている。A：地域活動の意義を理解して企画作りに参加しており、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。B：地域活動に積極的に参加し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：地域活動に参加し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
適時、必要な資料を紹介します。		後期の設置科目ですが、活動は前期から始まる場合があります。前期中にガイダンスを行いますので、履修希望者は必ず出席してください。ガイダンスに欠席した場合、原則、履修することができません。								

科目名	経営学総論 A (総経)		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	KL15003	研究室	W-11
担当者	葛西 和廣		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日4限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義については経営学の基礎について学習する。経営学の主な対象は企業です。企業が公正かつ効果的なマネジメントを行う上で、いかに戦略を立て、組織を作り、人を動かすかという経営学の基礎的な概念と理論について学び、企業のマネジメントについて考える基礎的な視点を身につけます。										
学修到達目標										
経営学の扱う様々な論点を理解し、これから経営学を学んでいくうえでの関心を広げていくことができるようになる。 経営学の基礎的な概念と理論を理解し、それらを用いて具体的な経営現象について議論できるようになる。 経営学の専門分野について知り、2年次以降に専門演習・専門科目として学習する内容を自覚的に選べるようになる。										
授業の進め方										
基本的には教科書を用いて授業を進める。しかし、教科書のみではなく、必要に応じて事例などのプリントも配布して使用する。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方についての説明と導入講義				テキストのpp.1-22を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
2	会社の経営とは何か	経営と経営学の違いについて説明し、会社を経営するとはどういうことかを学習する。				テキストのpp.23-52を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
3	会社はどのようにして社会に役立っているか	株式会社の仕組みを理解することにより、会社がどのようにして社会に役立っているのかを理解する。				テキストのpp.53-73を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
4	会社はどのようにしてモノを売るのか(1)	モノを売る機能について説明し、顧客を満足させるためにはどうすればよいのかを学習する。				テキストのpp.190-196を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
5	会社はどのようにしてモノを売るのか(2)	消費者の求めているニーズを分析し、新たな潜在需要や買い換え需要を呼び起こし、消費者を満足させるために行われる諸活動について学習する。				テキストのpp.197-203を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
6	会社はどのようにしてモノを作るのか	さまざまなモノの作り方について学習する。また、トヨタ自動車におけるクルマの作り方についても学習する。				テキストのpp.152-176を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
7	作られたモノはどのようにして顧客に届くのか	出来上がったモノが顧客の手に届くまでのさまざまなプロセスについて学習する。				テキストのpp.177-189を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
8	中間のまとめ	初回から前回まで行った講義を総括し、内容確認を行う。				初回から前回まで行った講義を復習しておくこと(4時間)。				
9	会社はどんな仕組みで動いているのか	会社の組織構造の特徴や組織構造の規定要因などについて学習する。				テキストのpp.91-100を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
10	社員は仕事をどのように分担しているのか	会社の中における複数の機能をどのように役割分担するのか、お互いが連携して持っている以上の力を発揮するにはどうすべきかを学習する。				テキストのpp.101-113を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
11	社員がやる気を出すにはどうしたらよいのか	モチベーションの定義を説明し、さまざまなモチベーション理論を学習する。				テキストのpp.114-132を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
12	会社はどのような方針で動いているのか	会社全体としての方向性を明らかにして、経営の各分野が有効に機能する指針を定めるにはどうすべきかを学習する。				テキストのpp.74-90を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
13	会社はどのように環境に配慮して活動を行っているのか	生産や消費の過程で環境負荷をできる限り減らすことを目指すシステムについて学習する。				テキストのpp.133-151を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
14	会社の社会的責任とは何か	会社に求められる社会的責任の考え方や、会社の社会的責任が注目されるようになった背景などについて学ぶ。				テキストのpp.204-220を予習し、講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
15	講義全体のまとめ	講義全体を総括し、内容確認を行う。				今回まで行った講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「やさしい経営学」海野博・所伸之編著(創成社) ISBN:9784794422606 (生協で購入してください。)				定期試験:80% レポート:20% S:基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。A:基本的な目標を十分に達成している。B:基本的な目標を達成している。C:基本的な目標を最低限度達成している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
必要に応じて指示します。				はじめて経営学に接する学生は、必ず基本的な専門用語とその意味を覚えておくようにして下さい。						

科目名	観光概論		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	KA15004 TL15004	研究室	W-26
担当者	山根 宏文		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
			総 観							
授業概要										
本講座では、観光を中心に学びを選択するうえで必要になる観光に関連する基礎的な知識や資源を学習します。旅行動機や観光・余暇の歴史、観光資源、観光に関係したさまざまな産業の実態や将来性、自然や環境の保全にふさわしい観光のあり方、地域づくりのための観光の利用などの学習の基礎となる項目を理解し、知識を拡大することがねらいです。観光に関連する多様な産業にいたるまで現代人のライフスタイルの多様化に伴う観光のあり方なども含みます。										
学修到達目標										
旅行動機などの理論やマーケティングなどの実践、自然と共生をめざした新しい観光の見方、経済効果など観光が社会に及ぼすさまざまな影響や効果、地域おこしに使われている観光的な考え方を理解してもらうことを目標としています。										
授業の進め方										
配布テキストやDVD、パワーポイントを多用した講義が中心になりますが、学生諸氏の意見や考え方などを多様な方法で提示してもらうことにより、積極的に授業参加してもらいます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、講義内容、観光の役割面を考えます				配布レジメを熟考すること(事前事後4時間)				
2	観光の歴史	観光の歴史的背景:さまざまな旅行動機から現代人の望む旅のかたちを考えます				配布レジメを熟考すること。自分の好きな旅のスタイルを考える。(事前事後4時間)				
3	観光資源	観光の要素:観光資源とその活かしかたを考えます				地域の観光資源について好きなものとその要因について考える。(事前事後4時間)				
4	観光資源	観光の要素:観光での食とその活かしかたを考えます				旅に出たときに、食べたくなるものの要因を考える。(事前事後4時間)				
5	観光地	観光地の評価と観光地の盛衰:温泉観光地から見た観光地のあるべき姿を考えます				好きな温泉地について考え、その要因を考える。(事前事後4時間)				
6	観光の企画	観光資源を活かしテーマのある旅、感動する旅の創り方を考えます				配布レジメを熟考すること。過去感動した旅があれば、その理由を感える。(事前事後4時間)				
7	観光と地域ブランド	観光による地域ブランド創造について考えます				配布レジメを熟考すること。ブランドとして思い浮かぶものの要因を考える。(事前事後4時間)				
8	観光と文化芸術	観光と文化芸術の関係を考えます				美術館、博物館を活かした観光振興について考える。(事前事後4時間)				
9	観光まちづくり	観光によるまちづくりについて事例を紹介し解説します				配布レジメを熟考すること。住んでみたくなるまちの要因を考える。(事前事後4時間)				
10	観光と産業	多様な宿泊産業を考えます				配布レジメを熟考すること。宿泊したい宿とその理由を考える。(事前事後4時間)				
11	観光と産業	旅行業入門(現状と課題について)				ネットで申し込まずに、旅行会社に依頼する場合はどんな場合が考える。(事前事後4時間)				
12	観光と産業	イベント、コンベンションなど新しい旅行産業のかたちです				行きたくなるイベントについてその要因を考える。(事前事後4時間)				
13	観光と産業	テーマパークなどエンタテインメントと観光の関係を探ります				配布レジメを熟考すること。ディズニーランドが好きな要因を考える。(事前事後4時間)				
14	観光と環境	エコツーリズムやグリーンツーリズムの本質や本来あるべき姿を考えます				配布レジメを熟考すること。自然が私たちに与えてくれるものを考える。(事前事後4時間)				
15	まとめ	まとめとして各テーマのポイントを再度解説します				配布すべてのレジメを熟考すること(事前事後4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
講義中にプリントを配布します。			出席レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A:授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B:授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C:授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特にありません。			本講座は、まず「観光とはなにか」という基本を理解することが目的です。観光をどのように地域に活かしていくのか、観光を利用して地域の幸福感を創出するためにはわれわれは何をなすべきなのか、という視点で考えます。							

科目名	社会福祉学入門		学年学期	1年前期	単位数	2	ナパ'リング	KB15005 TC15005	研究室	
担当者	田中 雄一郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
			総 観							
授業概要										
我々の日常生活に密着した社会福祉について基本的な知識を身近な課題として学習します。その上で、生活の視点で社会福祉の意義やその概念を理解することを目的とします。この科目は、教職課程の総合(福祉)の選択科目であり、社会福祉学の入門編として、原理原則を正確に理解し、さらに学びを深めていくきっかけとして位置付けます。本講義の概要は生活することは何か、生活する上で社会福祉はどのように関与しているか、基本的な考え方や原理、そこに包摂されている原則を明らかにします。										
学修到達目標										
社会福祉(福祉)について学び、私たちの生活に福祉がどのように関わっているかを説明できるようになる。										
授業の進め方										
講義では、テキストを中心としつつ、制度面など最新情報については、随時資料を配布しながらすすめます。また、視聴覚教材なども活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	社会福祉分野の動向				テキストを読んでおくこと(4時間)				
2	現代社会福祉の背景	近年の社会福祉の動向等				ニュース等で最近の動向をチェックしておくこと(4時間)				
3	社会福祉とは(1)	社会福祉の定義と概念				テキストP11~P18を読んでおくこと(4時間)				
4	社会福祉とは(2)	社会福祉の対象と主体				テキストP19~P26を読んでおくこと(4時間)				
5	社会保障と社会福祉の法財政(1)	社会保険の種類と内容				テキストP27~P38を読んでおくこと(4時間)				
6	社会保障と社会福祉の法財政(2)	社会福祉の法体系				テキストP38~P46を読んでおくこと(4時間)				
7	社会保障と社会福祉の法財政(3)	社会福祉の財政				テキストP46~P50を読んでおくこと(4時間)				
8	社会福祉の歴史(1)	わが国の社会福祉の歴史				テキストP51~P60を読んでおくこと(4時間)				
9	社会福祉の歴史(2)	欧米における社会福祉の歴史				テキストP60~P70を読んでおくこと(4時間)				
10	社会福祉の援助技術(1)	社会福祉援助技術の定義・体系				テキストP71~P82を読んでおくこと(4時間)				
11	社会福祉の援助技術(2)	専門職としての倫理・価値				テキストP82~P88を読んでおくこと(4時間)				
12	社会福祉の分野(1)	公的扶助				テキストP89~P112を読んでおくこと(4時間)				
13	社会福祉の分野(2)	子ども家庭福祉				テキストP113~P148を読んでおくこと(4時間)				
14	社会福祉の分野(3)	障害者福祉				テキストP149~P177を読んでおくこと(4時間)				
15	社会福祉の分野(4)	高齢者福祉・地域福祉				テキストP178~P230を読んでおくこと(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「増補版 現代社会福祉のすすめ(シリーズ福祉のすすめ)」馬場茂樹 和田光一 編著(学文社) ISBN:978-4-7620-2255-5(生協で購入してください。)		定期試験:60% 小テスト:40%				S:授業内容を高度に理解し、現代の福祉及びその課題について、自身の考えを述べる事ができる。A:授業内容を理解し、現代の福祉について説明できる。B:授業内容をほぼ理解し、授業で示した内容を正確に説明できる。C:授業内容の60%程度を理解し、授業で示した内容をほぼ説明できる。				
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「社会福祉の動向」(新日本法規) 「厚生労働白書」		必ず予習して受講して下さい。新聞など最近のニュースをチェックしてください。								

科目名	簿記（基礎）Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記処理能力の向上を目指します。										
学修到達目標										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通し、基本的な経理能力と高い計算能力を身に付けます。簿記や経営経済系の資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
授業の進め方										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記を学ぶにあたって	簿記の意義 種類 役割 会計期間				簿記とは何かを調査しておく 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
2	貸借対照表と損益計算書	資産 負債 費用 収益 財務諸表の形式 損益計算				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
3	取引と勘定	取引 勘定記入 取引要素の結合関係				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
4	仕訳と転記	仕訳 仕訳帳 総勘定元帳 記入方法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
5	試算表と決算	試算表の役割 種類 検証機能と限界 決算の意味 締切方法 精算表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
6	現金	現金 出納帳 現金過不足				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
7	当座預金	当座預金 出納帳 当座借越				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
8	小口現金	出納帳 仕訳				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
9	商品売買	分記法 三分法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
10	仕入売上1	仕入帳 売上帳 商品有高帳(先入先出法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
11	仕入売上2	商品有高帳(平均法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
12	売掛金 買掛金	売掛金元帳 買掛金元帳 売掛金明細表 買掛金明細表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
13	仕訳と計算	期中仕訳 間違えやすい勘定科目 計算ミスについて				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
14	期中取引と試算表	合計残高試算表の作成				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
15	総まとめ	簿記一巡 財務諸表の意義 主要科目の復習 試算表作成など				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 2時間				
テキスト				成績評価の方法・基準						
各クラスごとに指示します。				出席レポート：30% 小テスト：70% s授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。a：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。b：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。c：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				毎回、計算事例を使用します。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってください。講義終了後、課題として配布された問題プリントを各自解いて提出してください。また講義前に前週の復習を十分行ってください。						

科目名	簿記（基礎）Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	非常勤
担当者	吉澤 稔		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。簿記会計の入門知識がないことを前提に、簿記会計の全体像を初級レベルで講義します。										
学修到達目標										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。この講義と2年前期の簿記 展開を履修することにより日商簿記3級を目指します。										
授業の進め方										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	簿記を学ぶにあたって	簿記の意義 種類 役割 会計期間					テキスト第1章を読む。 練習プリントを解答し提出する。(1時間)			
2	貸借対照表と損益計算書	資産 負債 費用 収益 財務諸表の形式 損益計算					テキスト第2章を読み練習プリントを解答する。(1時間)			
3	取引と勘定	取引 勘定記入 取引要素の結合関係					テキスト第3章を読み練習プリントを解答する。(1時間)			
4	仕訳と転記	仕訳 仕訳帳 総勘定元帳 記入方法					テキスト第4章を読み練習プリントを解答する。(1時間)			
5	試算表と決算	試算表の役割 種類 検証機能と限界 決算の意味 締切方法 精算表					テキスト第5,6章を読み、練習プリントを解答する。(1時間)			
6	現金	現金 出納帳 現金過不足					テキスト第7章§1を読み練習プリントを解答する。(1時間)			
7	当座預金	当座預金 出納帳 当座借越					テキスト第7章§2を読み練習プリントを解答する。(1時間)			
8	小口現金	出納帳 仕訳					テキスト第7章§3を読み練習プリントを解答する。(1時間)			
9	商品売買	分記法 三分法					テキスト第8章§1を読み練習プリントを解答する。(1時間)			
10	仕入売上1	仕入帳 売上帳 商品有高帳(先入先出法)					テキスト第8章§2を読み練習プリントを解答する(1時間)			
11	仕入売上2	商品有高帳(移動平均法)					テキスト第8章§2を読み練習プリントを解答する。(1時間)			
12	売掛金 買掛金	売掛金元帳 買掛金元帳 売掛金明細表 買掛金明細表					テキスト第8章§3を読み練習プリントを解答する。(1時間)			
13	仕訳と計算	期中仕訳 間違えやすい勘定科目 計算ミスについて					これまでの仕訳を復習し練習プリントを解答する。(2時間)			
14	期中取引と試算表	合計残高試算表の作成と合致しない場合・ミスについて					試算表を作成し練習プリントを解答する。(1時間)			
15	帳簿記入	各種帳簿の記入と締切 頻発するミスについて					帳簿に記入し締切り練習プリントを解答する。(2時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「新版日商簿記3級テキスト」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32584-3(生協で購入してください。) 「新版日商簿記3級問題集」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32585-0(生協で購入してください。)					定期試験:70% 受講態度:15% 課題:15% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社) ISBN:978-4-502-29380-1					毎回、計算事例を使用します。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってください。計算能力を養うために、講義終了後、課題として配布された練習プリントを各自解いて提出してください。					

科目名	簿記（基礎）Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	非常勤
担当者	太田 聡		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることをねらう。簿記会計の全体像を入門レベルで講義する。基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入の原理を解説する。続いて、現金預金から全ての勘定項目について一つ一つ講義してゆく。ここでは実際に計算事例を解きながら講義を行なう。さらに日商および全経簿記3級レベルの問題を利用することで、資格取得に寄与し、実社会でも通用する簿記技法が修得できるよう導く。										
学修到達目標										
日商簿記3級取得を目指す。										
授業の進め方										
基礎用語や基礎概念、基本的な計算方法を解説し、あわせて計算事例を使用しながら進める。特に毎回の講義後半では、学生諸君が自ら計算を行なうことで、計算能力の向上につながるように配慮する。また、下記テキスト(代金概算額3,240円)購入する。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義計画、簿記学習上の心構え	講義計画や簿記の資格について				簿記概要の復習 課題問題(1時間)				
2	複式簿記の目的と基礎概念	簿記の目的や決算書の役割の学習				問題集対応範囲: 1-1~2 課題問題(1時間)				
3	資産・負債・資本とその分類	資産・負債・資本の性質の学習				問題集対応範囲: 2-1~6 課題問題(1時間)				
4	貸借対照表と損益計算書	費用と収益の性質。貸借対照表と損益計算書の関係の学習				問題集対応範囲: 2-7~9 課題問題(1時間)				
5	取引の意義と種類	取引の内容と仕訳の学習				問題集対応範囲: 3-1~4 課題問題(1時間)				
6	仕訳帳と総勘定元帳への記入	総勘定元帳の記入方法の学習				問題集対応範囲: 4-1~5 課題問題(1時間)				
7	帳簿の締切と決算手続	帳簿の締め切り方法と決算の意味・決算に必要な処理を学習				問題集対応範囲: 6-1~5 課題問題(1時間)				
8	試算表と6桁精算表の作成	試算表と精算表の作成方法を学習				問題集対応範囲: 5-1~3、6-8 課題問題(1時間)				
9	現金勘定、現金過不足勘定、当座預金勘定	現金・現金過不足・当座預金の内容と処理方法を学習				問題集対応範囲: 7-1~7 課題問題(1時間)				
10	小口現金勘定、有価証券勘定	小口現金の意味と小口現金出納帳、有価証券の学習				問題集対応範囲: 7-8~9 課題問題(1時間)				
11	商品売買取引(1)分記法と三分法	分記法と三分法の違い、及び三分法による仕訳の切り方を学習				問題集対応範囲: 8-1~2 課題問題(1時間)				
12	商品売買取引(2)仕入帳、売上帳、商品有高帳	補助簿である仕入帳・売上帳・商品有高帳の学習				問題集対応範囲: 8-3~5 課題問題(1時間)				
13	商品売買取引(3)売掛金明細表と買掛金明細表	補助簿である売掛金明細表と買掛金明細表の学習				問題集対応範囲: 8-6~7 課題問題(1時間)				
14	決算手続・試算表・精算表の作成	決算手続と試算表・精算表の作成方法を学習				問題集対応範囲: 6-6~7 課題問題(1時間)				
15	講義全体のまとめ	簿記一連の流れの復習				第1回~15回の内容を総復習 課題問題(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「新版日商簿記3級テキスト」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32584-3(生協で購入してください。) 「新版日商簿記3級問題集」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32585-0(生協で購入してください。)				定期試験:70% 小テスト:15% 課題:15% 定期試験(100点満点)を70点換算、毎回の授業で行う小テストの成績を15点換算、毎回の授業の課題提出状況を15点換算し評価する S:100点 A:80点~99点 B:70点~79点 C:60点~69点 D:60点未満						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考文献は後日指示する。				毎回、計算事例を使用する。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってみること。計算能力を養うために、講義終了後、課題として配布された問題プリントを各自解いて提出すること。						

科目名	簿記（基礎）Dクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記処理能力の向上を目指します。										
学修到達目標										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通し、基本的な経理能力と高い計算能力を身につけます。簿記や経営経済系の資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
授業の進め方										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記を学ぶにあたって	簿記の意義 種類 役割 会計期間				簿記とは何かを調査しておく 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
2	貸借対照表と損益計算書	資産 負債 費用 収益 財務諸表の形式 損益計算				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
3	取引と勘定	取引 勘定記入 取引要素の結合関係				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
4	仕訳と転記	仕訳 仕訳帳 総勘定元帳 記入方法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
5	試算表と決算	試算表の役割 種類 検証機能と限界 決算の意味 締切方法 精算表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
6	現金	現金 出納帳 現金過不足				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
7	当座預金	当座預金 出納帳 当座借越				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
8	小口現金	出納帳 仕訳				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
9	商品売買	分記法 三分法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
10	仕入売上1	仕入帳 売上帳 商品有高帳(先入先出法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
11	仕入売上2	商品有高帳(平均法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
12	売掛金 買掛金	売掛金元帳 買掛金元帳 売掛金明細表 買掛金明細表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
13	仕訳と計算	期中仕訳 間違えやすい勘定科目 計算ミスについて				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
14	期中取引と試算表	合計残高試算表の作成				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
15	総まとめ	簿記一巡 財務諸表の意義 主要科目の復習 試算表作成など				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 2時間				
テキスト				成績評価の方法・基準						
各クラスごとに指示します。				出席レポート：30% 小テスト：70% s授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。a：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。b：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。c：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				毎回、計算事例を使用します。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってください。講義終了後、課題として配布された問題プリントを各自解いて提出してください。また講義前に前週の復習を十分行ってください。						

科目名	簿記（基礎）Eクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記処理能力の向上を目指します。										
学修到達目標										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通し、基本的な経理能力と高い計算能力を身に着けます。簿記や経営経済系の資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
授業の進め方										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記を学ぶにあたって	簿記の意義 種類 役割 会計期間				簿記とは何かを調査しておく 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
2	貸借対照表と損益計算書	資産 負債 費用 収益 財務諸表の形式 損益計算				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
3	取引と勘定	取引 勘定記入 取引要素の結合関係				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
4	仕訳と転記	仕訳 仕訳帳 総勘定元帳 記入方法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
5	試算表と決算	試算表の役割 種類 検証機能と限界 決算の意味 締切方法 精算表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
6	現金	現金 出納帳 現金過不足				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
7	当座預金	当座預金 出納帳 当座借越				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
8	小口現金	出納帳 仕訳				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
9	商品売買	分記法 三分法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
10	仕入売上1	仕入帳 売上帳 商品有高帳(先入先出法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
11	仕入売上2	商品有高帳(平均法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
12	売掛金 買掛金	売掛金元帳 買掛金元帳 売掛金明細表 買掛金明細表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
13	仕訳と計算	期中仕訳 間違えやすい勘定科目 計算ミスについて				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
14	期中取引と試算表	合計残高試算表の作成				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
15	総まとめ	簿記一巡 財務諸表の意義 主要科目の復習 試算表作成など				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 2時間				
テキスト				成績評価の方法・基準						
各クラスごとに指示します。				出席レポート：30% 小テスト：70% s授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。a：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。b：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。c：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				毎回、計算事例を使用します。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってください。講義終了後、課題として配布された問題プリントを各自解いて提出してください。また講義前に前週の復習を十分行ってください。						

科目名	マーケティング基礎A(総経)		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	KL25007	研究室	W-28
担当者	清水 聡子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	月曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
マーケティングは、企業だけでなく、自治体、大学、病院、公共機関、各種団体などの組織においても重要になってきています。この講義では、マーケティングを「企業の対市場活動」と限定的に定義して、マーケティング基礎の習得を目標とします。										
学修到達目標										
マーケティングに関する知識を習得し、マーケティングの意義や役割について理解するとともに、自分の言葉で自分の考えをまとめる力や創造的思考の育成を目標とします。										
授業の進め方										
講義計画に従って、教科書と配布プリントを用いて教室にて授業を行います。それぞれの授業の構成は、前回の授業の復習、今回の授業のポイント、授業の中心部(メイン)、問題提起(来週の予告)と4部構成で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション	マーケティング基礎で学ぶ内容の全体像を示し、講義の進め方を説明します。					シラバスを読む。教科書第1章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
2	マーケティングとは何か?	マーケティング(Marketing)の概念と基本的役割について考察します。					教科書第2章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
3	マーケティング・コンセプト	マーケティングの発展とともに変化したマーケティング・コンセプト(Marketing concept)について考察します。					教科書第3章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
4	ニーズとは何か?	ニーズ(needs)の概念とマズロー(Maslow, A.H.)の欲求5段階説について考察します。					教科書第4章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
5	製品とサービス	有形財である製品と無形財であるサービスを考察します。					教科書第2章、第6章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
6	マーケティング・ミックス	マッカーシー(McCarthy, E.J.)のマーケティング・ミックス(Marketing mix)について考察します。					教科書第2章を読み、具体的な事例に当てはめて理解すること。(4時間)			
7	マーケティング目標の設定	企業の生存領域(domain)に基づくマーケティング目標の設定について考察します。					教科書第3章を読み、具体的な事例に当てはめて理解すること。(4時間)			
8	マーケティング計画の策定	マーケティング計画の策定方法を考察します。					目標達成のために計画の遂行(planning)を学び、自分の行動に結びつけること。(4時間)			
9	マーケティングと組織	継続的企業体(going concern)として企業が存続するために、マーケティングと組織について考察します。					職部門間や目標、役割の対立が起きた際の対処を考えること。(4時間)			
10	市場機会の分析	市場を定義し、企業を取り巻く外部環境分析、企業内部の分析について考察します。					具体的な事例に当てはめて理解すること。(4時間)			
11	競争構造の分析	ポーター(Porter, M.E.)の5つの競争要因について考察します。					教科書第3章を読み、具体的な事例に当てはめて理解すること。(4時間)			
12	標的市場と市場細分化	標的市場(Market targeting)と市場細分化(Market segmentation)について考察します。					具体的な事例に当てはめて理解すること。(4時間)			
13	ユニバーサル・デザイン	ユニバーサル・デザイン(Universal Design)について考察します。					ユニバーサル・デザインとバリアフリーとの違いを理解すること。(4時間)			
14	生産財市場と消費財市場	生産財市場(Business market)と消費財市場(Consumer market)について考察します。					生産財市場と消費財市場の違いを理解すること。(4時間)			
15	講義全体のまとめ	マーケティング基礎で学んだ全体像を示し、総まとめを行います。					今までの復習を行い、実践的な学びとすること。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「マーケティング概論」奥本勝彦・林田博光編著(中央大学出版部) ISBN:978-4-8057-3128-4(生協で購入してください。)					定期試験:80% 課題:20% 講義内容に沿った新聞記事を探し、発表することを課題とします。S:授業内容を高度に理解できる。A:授業内容を理解できる。B:授業内容をおおよそ理解できる。C:授業内容の60%を理解できる。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「基本流通用語辞典改訂版」宮澤永光監修編(白桃書房)					受講者は講義計画と講義の進み具合にあわせ、教科書を読み、新聞や雑誌などから関連した記事を探し出し、常に実際の企業行動との結びつきを考えてください。販売士検定に対応します。					

科目名	ミクロ経済学A(総経)		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KA25008	研究室	W-09
担当者	成 蒼政		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義では、まずミクロ経済理論の講義によりミクロ経済の基礎知識(原理と手法)について熟知してもらいます。その上、我々を取り巻く現実の経済現象についての分析と応用力を養います。現代経済における経済主体、すなわち家計、企業、そして政府の意思決定(経済活動)と役割に関する理論と手法、そして応用について講義を進めていきます。										
学修到達目標										
1.ミクロ経済学の基礎理論(原理と分析手法)を理解すること。 2.ミクロ経済学の理論と現実の経済との関係を理解すること。 3.これを通じて現実の経済問題(地域、国内、世界)を分析、応用する能力を身につけること。										
授業の進め方										
基本的にはテキストの内容を中心に、教員が作成した資料をプロジェクターで写しながら講義を進めていきます。またできる限り必要に新聞記事などのプリントも配布して使用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション(高度資本主義社会と経済学)	資本主義経済と民間部門、公共部門、経済主体と経済活動、経済学の方法、資源の希少性などの経済問題などについて講義します。				事前:資本主義と経済について調べること。事後:配布資料を熟知すること。(4時間)				
2	経済学の基本原理	経済主体のトレードオフ、機会費用の概念、限界原理、インセンティブ、交易と市場の役割、政府の機能、生産性、インフレーション、失業などについて講義します。				事前:テキスト1章のキーワードの意味を調べる。事後:1章の復習問題を解くこと。(4時間)				
3	需要と供給理論():市場の機能	市場と競争、需要の作用(需要表、需要曲線など)、供給の作用(供給曲線、市場の供給など)、市場の均衡などについて講義します。				事前:テキスト4章のキーワードの意味を調べる。事後:4章の問題を解くこと。(4時間)				
4	需要と供給理論():市場と厚生	市場における需要と供給の弾力性(価格弾力性、所得弾力性、交差弾力性)、そして弾力性の応用などについて講義します。				事前:テキスト第5章のキーワードの意味を調べる。事後:第5章の問題を解く。(4時間)				
5	消費者理論	消費者余剰、市場の効率性と市場の失敗、そして課税の費用などについて講義します。				事前:テキスト7章のキーワードの意味を調べる。事後:7章の問題を解く。(4時間)				
6	生産経済論	生産と費用、生産関数、短期と長期の費用などについて講義します。				事前:テキスト13章のキーワードの意味を調べる。事後:13章の復習問題を解くこと。(4時間)				
7	競争市場分析	競争市場の概念、利潤最大化と競争企業の供給曲線、競争市場における供給曲線などについて講義します。				事前:テキスト14章のキーワードの意味を調べる。事後:14章の問題を解く。(4時間)				
8	独占市場分析	独占市場の発生理由、独占企業における生産と価格決定の仕組み、独占による厚生面のコスト、価格差別、独占による公共政策などについて講義します。				事前:テキスト15章のキーワードの意味を調べる。事後:15章の問題を解くこと。(4時間)				
9	独占的競争と寡占市場分析	独占的競争の概念、差別化された製品の競争、広告をめぐる経済的論争、協調の経済学(囚人のジレンマ)、寡占に対する公共政策				事前:16,17章のキーワードの意味を調べる。事後:16,17章の問題を解くこと。(4時間)				
10	生産要素市場分析	企業の労働需要、労働の供給、労働市場の均衡、土地と資本市場などについて講義します。				事前:18章のキーワードの意味を調べる。事後:18章の復習問題を解くこと。(4時間)				
11	勤労所得と差別	勤労賃金の決定要因(補償格差、人的資本、技術の価値、能力、教育など)、労働市場における差別の測定、雇用主による差別、顧客と政府による差別などについて講義します。				事前:19章のキーワードの意味を調べる。事後:19章の問題を解くこと。(4時間)				
12	所得不平等と貧困問題	不平等の尺度(所得の不平等、貧困率、不平等を測定する際の問題点、所得階層間の移動)、所得再分配、貧困を減らすための経済政策などについて講義します。				事前:20章のキーワードの意味を調べる。事後:20章の復習問題を解くこと。(4時間)				
13	情報の非対称性と政治経済学	隠された行動(プリンシパル、エージェント、モラルハザード)、隠された性質、シグナリング、情報の非対称性と公共政策、アローの不可能性定理などについて講義します。				事前:22章のキーワードの意味を調べる。事後:22章の問題を解くこと。(4時間)				
14	行動経済学と実験経済学	行動経済学と実験経済学に関する最新の理論と研究成果などについて講義します。				事前:22章のキーワードの意味を調べる。事後:22章の問題を解くこと。(4時間)				
15	総まとめおよび経済学の未来	ミクロ経済学の総まとめ、期末試験の対策、経済理論で解決できない経済問題				事前:各章の要約を読んでくること。事後:総まとめの資料を熟知すること。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「マンキュー経済学【第3版】ミクロ編」グレゴリー・マンキュー著(東洋経済新報社) ISBN:1SDN978-4-492-31437-1(生協で購入してください。)テキストを中心に講義を進めていくので、必ずテキストは用意すること。		レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難解な応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「入門・ミクロ経済学」サルバトーレ著(CAP出版) ISBN:4-916092-14-7		この時間の前に、日本経済新聞を必ず読んでくること。そして、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べてくること。								

科目名	マクロ経済学(総経)			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KA25009	研究室	W-09
担当者	成 耆政			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
本講義では、まずマクロ経済理論の講義によりマクロ経済の基礎理論(原理と手法)について熟知してもらいます。その上、我々を取り巻く現実経済現象に分析と応用する力を養います。現代経済における経済主体、すなわち家計、企業、そして政府の意思決定(経済活動)と役割に関する理論と手法、特に財政政策と金融政策について、そしてその応用について講義を進めていきます。また、国際貿易理論についても講じて行きます。											
学修到達目標											
1.マクロ経済学の基礎理論(原理と分析手法)を理解すること。 2.マクロ経済学の理論と現実の経済との関係を理解すること。 3.これを通じて現実の経済問題(地域、国内、世界)を分析、応用する能力を身につけること。											
授業の進め方											
基本的にはテキストの内容を中心に、教員が作成した資料をプロジェクター等を活用し、講義を行います。またできる限り必要に新聞記事などのプリントも配布して使用します。東証アローズへのアウトキャンパス・スタディも予定しています。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション(高度資本主義社会と経済学)	この講義の受講に当たっての注意事項、資本主義経済と民間部門、公共部門、経済主体と経済活動、経済学の研究方法、資源の希少性などの経済問題などについて講義します。					事前:資本主義と経済について調べること。事後:配布資料を熟知すること。(4時間)				
2	経済学の基本原理	経済主体のトレードオフ、機会費用の概念、限界原理、インセンティブ、交易と市場の役割、政府の機能、生産性、インフレーション、失業などについて講義します。					事前:テキスト1章のキーワードの意味を調べる。事後:1章の復習問題を解くこと。(4時間)				
3	国民所得の測定(GDP)	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDPの構成要素、名目GDPと実質GDPなどについて講義します。					事前:テキスト5章のキーワードの意味を調べる。事後:5章の復習問題を解くこと。(4時間)				
4	生計費の測定	消費者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変数の補正などについて講義します。					事前:テキスト6章のキーワードの意味を調べる。事後:6章の復習問題を解くこと。(4時間)				
5	生産と成長	主要国の経済成長、生産性の役割と決定要因、生産関数、経済成長と公共政策、長期的成長の重要性などについて講義します。					事前:テキスト7章のキーワードの意味を調べる。事後:5章の用問題を解くこと。(4時間)				
6	金融システム	米国と日本経済における金融機関、国民所得勘定における貯蓄と投資、貸付資金市場などについて講義します。					事前:テキスト8章のキーワードの意味を調べる。事後:8章の問題を解くこと。(4時間)				
7	ファイナンスの分析手法	貨幣の現在価値の計算方法、リスクの概念と管理、保険市場の役割、資産評価、市場の合理性などについて講義します。					事前:テキスト9章のキーワードの意味を調べる。事後:9章の復習問題を解くこと。(4時間)				
8	失業と景気	失業の概念と識別、職探しと公共政策、最低賃金法、労働組合、効率賃金理論などについて講義します。					事前:テキスト10章のキーワードの意味を調べる。事後:10章の応用問題を解く。(4時間)				
9	貨幣システムと中央銀行	貨幣の意味と機能、貨幣の種類、中央銀行、銀行と貨幣供給、中央銀行による貨幣供給調節手段などについて講義します。					事前:テキスト11章のキーワードの意味を調べる。事後:11章の問題を解くこと。(4時間)				
10	インフレーション理論	インフレーションの古典派理論、インフレーションのコスト、インフレーションの現実経済への影響などについて講義します。					事前:テキスト12章のキーワードの意味を調べる。事後:12章の問題を解くこと。(4時間)				
11	為替市場	為替の概念、為替相場と為替市場、証券取引所の仕組み、為替相場決定理論などについて講義します。					事前:テキスト13章のキーワードの意味を調べる。事後:13章の問題を解くこと。(4時間)				
12	総需要と総供給	短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義します。					事前:テキスト15章のキーワードの意味を調べる。事後:15章の問題を解くこと。(4時間)				
13	財政政策と金融政策	財政政策と金融政策などの政策手段が市場(現実経済)に与える影響について詳しく説明します。					事前:テキスト16章のキーワードの意味を調べる。事後:16章の問題を解くこと。(4時間)				
14	マクロ経済政策	マクロ経済政策をめぐる6つの主要な論争(経済政策と経済の安定化、景気後退と減税、金融政策におけるルール、中央銀行の使命、財政均衡、貯蓄の促進)について講義します。					事前:テキスト18章のキーワードの意味を調べる。事後:18章の問題を解くこと。(4時間)				
15	総まとめと世界経済の未来	マクロ経済学の総まとめ、期末試験の対策、経済理論で解決できない経済問題などについて講義します。					事前:各章の要約を読んでくること。事後:総まとめの資料を熟知すること。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「マンキュー経済学(第3版)マクロ編」グレゴリーマンキュー著(東洋経済新報社) ISBN:978-4-492-31445-6(生協で購入してください。) テキストを中心に講義を進めていくので、必ずテキストを用意すること。						レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「岩波現代経済学事典」伊東光晴編(岩波書店) 2004年9月						この時間の前に、必ず日本経済新聞を読んでくること。そして、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べてくること。					

科目名	情報社会論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KL25010 TL25010	研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
スマホ、タブレット、インターネット、私たちの周りには便利な情報機器がたくさんあります。検索すれば必要な時に必要な情報が自由に得られる素晴らしい時代のように思えます。しかし、実際には、不確かで不必要な情報も一緒になって、あふれんばかりの大量の情報が私たちに襲いかかってきます。多種多様な情報システムが大量の情報を供給する現代社会を、よりよく生きていくために、“情報のあふれる現代社会”というものをしっかりと認識し、情報との正しい付き合い方を身につけましょう。										
学修到達目標										
現代社会の様々な局面を“情報”をキーワードにcriticalに考え、より深く理解しようとみずから行動できるようになる。										
授業の進め方										
講義型式で進めます。また授業理解度の確認のために、毎時間簡単な課題を提出してもらいます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	情報化された現代社会の概説と本授業全体のガイダンス。毎時間のレポート提出方法の説明。				自分を取り巻く情報環境を再確認してみる。(4時間)				
2	ユビキタスネットワーク社会	見守と監視---ユビキタスネットワーク社会。				見守と監視の視点からユビキタス社会の功罪を考える(4時間)				
3	インターネット古代史	インフラストラクチャーの整備---インターネット古代史。				自分の家のネット化の歴史を調べる。(4時間)				
4	暗号	プライバシーか治安維持か---ネットワーク社会における暗号の役割。				公開鍵暗号方式が解決した、暗号の2つの役割を考える(4時間)				
5	認証の技術	ご本人ですか?---なりすましとオレオレ詐欺。				詐欺サイトの例を調べる。(4時間)				
6	メメックス	メメックスは実現したのか---図書館 vs Wikipedia。				バネバー・ブッシュの理想と現在のネット社会を比較する。(4時間)				
7	情報の保管	記録の保管---思い出はいつまでとっておけるか。				自分の家の一番古い記録は何か調べてみる。(4時間)				
8	著作権	著作権と文化---青空文庫とgoogleブック。				TPPと著作権の問題を調べる。(4時間)				
9	情報検索	検索がすべてを決める---ネット検索を信用するか。				自分の情報が、ネット上にどう記載されているか調べる。(4時間)				
10	UD	バリアフリーとユニバーサルデザイン。				万人にやさしいデザインを考える。(4時間)				
11	アクセシビリティ	ユビキタスに格差はないか。				情報の平等化の度合いを考える。(4時間)				
12	ネット動画	Youtube、ニコニコ動画、ポーカロイド				ネット動画とテレビを比較する。(4時間)				
13	クラウド環境	クラウドコンピューティング				気付かずに使っているクラウド環境を明示的に意識し、安全性と危険性をまとめる。(4時間)				
14	BigData	ビッグデータの時代---あなたの好みは読まれています。				行動ターゲティング広告の例を調べる。(4時間)				
15	信じる	この話、あなたは信じますか? 沢山の情報の中で、何を根拠にその話を信じるのだろうか?				死後の世界やオカルトについて、自分自身が信じているかどうか考える。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
学内サーバ上に講義資料を置くので予復習の参考にしてください。				出席レポート:20% 定期試験:80% S:情報社会に関する発展的な問題を考察できる。 A:情報社会に関する応用的な問題を考察できる。 B:情報社会に関する標準的な問題を考察できる。 C:情報社会に関する基礎的な問題を考察できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
新聞、雑誌、インターネット等全て				情報は探す時代から選ぶ時代になりました。ネットを使えば大量の情報が簡単に手に入ります。でも、それが役に立つ正しい情報だとは限りません。価値のある情報だけを取り出し利用していくのはユーザーの責任です。						

科目名	中小企業論	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ'リング	KA25011 TB25011	研究室	W-10
担当者	兼村 智也	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日1限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
		総 観							
授業概要									
日本の企業のほとんどを占める中小企業について、その多様性、経済的・社会的役割についてみていくとともに、「小規模」であるであるがゆえに抱える経営上の問題や限界性、また可能性について解説します。									
学修到達目標									
主として大企業との比較から中小企業のもつ特性(強みや弱み)を通じて、卒業後、多くの学生が就職するであろう中小企業についての理解や認識を深める。									
授業の進め方									
下記テキストを参照しながら講義形式で行ないます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	日本経済を支える中小企業	日本経済に占める中小企業の大きさや役割・意義を紹介する。				指定したテキストの第1章を読んでおくこと(4時間)			
2	中小企業とは その概念と経営課題	中小企業の定義や経営課題について学習する。				指定したテキストの第2章を読んでおくこと(4時間)			
3	中小企業政策の変遷	これまでの中小企業政策の変遷をみることを通じて、各時代における中小企業の役割・意義、そして現在の中小企業に求められる方向性について解説する。				指定したテキストの第3章を読んでおくこと(4時間)			
4	戦後経済の高度化と中小企業の発展プロセス	戦後の経済発展のなかで中小企業がどのように成長・発展してきたかについて解説する。				指定したテキストの第4章を読んでおくこと(4時間)			
5	下請構造の変容と中小工業	大企業と中小企業の間の下請取引に焦点をあて、その機能と意味、近年の変容について学習する。				指定したテキストの第5章を読んでおくこと(4時間)			
6	中小商業の構造変化 ICTを活用した小売・卸売業の事業発展	近年、中小商業を取り巻く経営環境の変化とその対応について解説する。				指定したテキストの第6章を読んでおくこと(4時間)			
7	中小企業におけるコスト意識 原価管理の視点から	中小企業が取り組むべき課題の一つであるコスト低減に着目し、原価管理のあり方について解説する。				指定したテキストの第7章を読んでおくこと(4時間)			
8	中小企業の財務構造と経営分析	中小企業が抱える問題の一つである財務に着目し、その仕組みと分析方法について学習する。				指定したテキストの第8章を読んでおくこと(4時間)			
9	中小企業の経営と資金調達	中小企業にとって最も重要な課題である資金調達について、その現状と問題について解説する。				指定したテキストの第9章を読んでおくこと(4時間)			
10	中小企業における人材育成・能力開発と雇用の外部化	中小企業が直面する人材育成についてその現状と取り組みについて解説する。				指定したテキストの第10章を読んでおくこと(4時間)			
11	精密機械産業の集積と中小企業 長野・諏訪のケース	身近にある諏訪地域における中小企業を通じて地域の発展と産業集積のもつ機能・役割について学習する。				指定したテキストの第12章を読んでおくこと(4時間)			
12	地場産業の発展と中小企業 新潟・燕三条のケース	地場産業として発展する燕三条を取り上げ、その意味と今後について学習する。				指定したテキストの第13章を読んでおくこと(4時間)			
13	経済のグローバル化と中小企業	近年高まるグローバル化について解説し、中小企業の対応や課題について学習する。				指定したテキストの第14章を読んでおくこと(4時間)			
14	社会企業家と新たなベンチャー・ビジネス	経済活性化をもたらすベンチャー企業・ビジネスの役割や意義、問題点などについて解説する。				指定したテキストの第15章を読んでおくこと(4時間)			
15	イノベーションの孵化と中小企業の将来	中小企業であることの意味や可能性について学習する。				指定したテキストの第16章を読んでおくこと(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「現代中小企業経営要論」佐久間信夫・井上善博著(創成社) ISBN:978-4-7944-2459-4(生協で購入してください。) 第1回から使いますので各自事前購入しておくこと。		出席レポート:30% 定期試験:70% S:前記の合計が95点以上の受講者で、そのうち上位3名まで。A:前記の合計が85点以上。B:前記の合計が70点以上。C:前記の合計が60点以上。なお期間中レポート課題も予定しており、60点に数点満たない学生への加点措置として活用を予定。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「21世紀中小企業論」渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫著(有斐閣アルマ) ISBN:4-641-12304-7		講義計画に該当するテキストの章・内容を事前に読んでおいてください。							

科目名	簿記（展開）Aクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	KL25012 TL25012	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性	A B C		履修対象入学年度（読替科目）				
授業概要										
簿記 に引き続き、簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。										
学修到達目標										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
授業の進め方										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	手形1	種類 記帳方法				手形とは何かを調査しておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
2	手形2	裏書 割引 記入帳				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
3	その他の資産	有価証券 固定資産				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
4	その他の資産と負債1	貸付金 借入金 未収金 未払金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
5	その他の資産と負債2	立替金 預り金 仮払借受の処理 商品券				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
6	その他の取引	資本金 引出金 税金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
7	決算1	売上原価 貸し倒れ				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
8	決算2	減価償却				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
9	決算3	見越 繰延				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
10	決算4	現金過不足、引出金、消耗品、有価証券の期末処理				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
11	決算5	精算表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
12	決算6	財務諸表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
13	伝票	伝票制度 3伝票 5伝票				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
14	簿記一巡再論	開始仕訳、期中取引から試算表の作成、決算整理、精算表、財務諸表まで				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
15	帳簿記入再論 まとめ	総勘定元帳および各種帳簿の締め切り再論 全体像の確認				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
テキスト				成績評価の方法・基準						
別途指示します。				出席レポート：30% 小テスト：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「財務会計」広瀬義州著（中央経済社）				簿記 の履修終了者しか受講できません。電卓を持参してください。各自必ず自宅にて計算練習を行ってください。						

科目名	簿記（展開）Bクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	KL25012 TL25012	研究室	非常勤
担当者	吉澤 稔		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。入学時に、簿記会計の3級程度の知識があることを前提に、簿記会計の全体像を中級レベルで講義します。										
学修到達目標										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に一層精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
授業の進め方										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記一巡の手続きと財務諸表	簿記一巡の手続きと財務諸表のフォーマットの作成				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
2	現金預金と売掛金1	当座預金の銀行勘定調整表の作成				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
3	現金預金と売掛金2	クレジット売掛金の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
4	有価証券1	売買目的有価証券と満期保有目的債券の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
5	有価証券2	子会社株式・関連会社株式とその他有価証券の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
6	商品売買	3分法と売上原価対立法				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
7	有形固定資産	割賦購入・修繕と改良・減価償却など				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
8	引当金	貸倒引当金・商品保証引当金・退職給付引当金・売上割戻引当金など				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
9	収益と費用	サービス業における役務収益と役務費用				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
10	株式会社の純資産1	株式会社の設立と開業				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
11	株式会社の純資産2	剰余金の配当および処分・株主資本等変動計算書の作成				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
12	税金	法人税における課税所得の計算方法・消費税の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
13	リース会計	ファイナンスリース取引とオペレーティング取引				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
14	外貨建取引	外貨建ての営業取引、決済取引および決算日の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。(1時間)				
15	連結会計	資本連結における支配獲得時と支配獲得後の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、期末審査時に提出する。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「検定簿記講義」渡部裕旦・片山寛・北村敬子著渡部裕旦・片山寛・北村敬子編(株)中央経済社 ISBN:978-4-502-89543-2(生協で購入してください。) 講義開始時にプリントを配布します。				出席レポート:15% 課題:15% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社) ISBN:4-502-25980-2 「検定簿記講義」渡部裕旦・片山寛・北村敬子著渡部裕旦・片山寛・北村敬子編(株)中央経済社 ISBN:978-4-502-22491-1				高校在学中に商業簿記3級合格者またはそれと同等の実力者のしか受講できません。電卓を持参してください。各自必ず自宅にて計算練習を行ってください。						

科目名	簿記（展開）Cクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	KL25012 TL25012	研究室	非常勤
担当者	太田 聡		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスワ-			
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記論の全体像の知識を前提に、株式会社における会計処理を理解することをめざす。さらに実際の計算問題を解くことで、簿記経理処理の能力を向上させることをめざす。ある程度の規模をほこる株式会社を前提にし、そこでの会計のあり方、実際の会計処理について、計算プロセスを含めて講義する。さらに、必要に応じて日商および全経簿記検定の3級レベルの問題演習を行なうことで、資格取得に寄与し、実社会でも通用する簿記技法が修得できるよう導く。										
学修到達目標										
日商簿記3級取得を目指す。										
授業の進め方										
基礎用語や基礎概念、基本的な計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進める。特に、学生諸君が自ら計算を行なうことで、計算能力の向上につながるよう配慮する。また、下記テキスト(代金概算額3,240円)を購入する。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義計画	講義計画や簿記の資格について				簿記 範囲の見直し 課題問題(1時間)				
2	手形勘定(1)受取手形勘定と支払手形勘定	手形取引の内容と処理方法を学習				問題集対応範囲:9-1~2 課題問題(1時間)				
3	手形勘定(2)手形の割引と裏書譲渡	割引手形・裏書手形の内容と処理方法、手形記入帳を学習				問題集対応範囲:9-3~6 課題問題(1時間)				
4	その他の貸借取引	立替金・預り金などの処理方法を学習				問題集対応範囲:11-1~7 課題問題(1時間)				
5	固定資産取引	有形固定資産の購入時・売却時の処理方法を学習				問題集対応範囲:10-1~5 課題問題(1時間)				
6	資本取引	資本金・引出金の内容と処理方法を学習				問題集対応範囲:12-1~4 課題問題(1時間)				
7	決算(1)決算準備手続き	消耗品・現金過不足の決算処理を学習				問題集対応範囲:15-19、32 課題問題(1時間)				
8	決算(2)決算修正事項(棚卸資産)	売上原価の計算方法を学習				問題集対応範囲:15-1~5 課題問題(1時間)				
9	決算(3)決算修正事項(減価償却)	減価償却の計算と処理方法を学習				問題集対応範囲:15-12~15 課題問題(1時間)				
10	決算(4)決算修正事項(貸倒引当金)	貸倒引当金の計算と処理方法を学習				問題集対応範囲:15-6~11 課題問題(1時間)				
11	決算(5)決算修正事項(費用・収益の見越・繰延)	前払・前受・未払・未収の処理方法を学習				問題集対応範囲:15-20~31 課題問題(1時間)				
12	決算(6)8桁精算表の作成	8桁精算表への決算修正仕訳記入方法を学習				問題集対応範囲:16-1~2 課題問題(1時間)				
13	帳簿と伝票	伝票の記入方法を学習				問題集対応範囲:13-1~2 課題問題(1時間)				
14	これまでの知識の確認と練習問題	決算総合問題				問題集対応範囲:16-3~6 課題問題(1時間)				
15	講義全体のまとめ	簿記一連の流れの復習				総合問題の復習 課題問題(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「新版日商簿記3級テキスト」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32584-3(生協で購入してください。) 「新版日商簿記3級問題集」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32585-0(生協で購入してください。)				定期試験:70% 小テスト:15% 課題:15% 定期試験(100点満点)を70点換算、毎回の授業で行う小テストの成績を15点換算、毎回の授業の課題提出状況を15点換算し、評価する。 S:100点 A:80点~99点 B:70点~79点 C:60点~69点 D:60点未満						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考文献は後日指示する。				簿記の受講履修が終了した者しか受講できない。計算事例を使用する機会が多い。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってみること。						

科目名	簿記（展開）Dクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	KL25012 TL25012	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記 に引き続き、簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。										
学修到達目標										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
授業の進め方										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	手形1	種類 記帳方法				手形とは何かを調査しておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
2	手形2	裏書 割引 記入帳				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
3	その他の資産	有価証券 固定資産				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
4	その他の資産と負債1	貸付金 借入金 未収金 未払金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
5	その他の資産と負債2	立替金 預り金 仮払借受の処理 商品券				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
6	その他の取引	資本金 引出金 税金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
7	決算1	売上原価 貸し倒れ				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
8	決算2	減価償却				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
9	決算3	見越 繰延				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
10	決算4	現金過不足、引出金、消耗品、有価証券の期末処理				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
11	決算5	精算表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
12	決算6	財務諸表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
13	伝票	伝票制度 3伝票 5伝票				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
14	簿記一巡再論	開始仕訳、期中取引から試算表の作成、決算整理、精算表、財務諸表まで				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
15	帳簿記入再論 まとめ	総勘定元帳および各種帳簿の締め切り再論 全体像の確認				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
テキスト				成績評価の方法・基準						
別途指示します。				出席レポート：30% 小テスト：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				簿記 の履修終了者しか受講できません。電卓を持参してください。各自必ず自宅にて計算練習を行ってください。						

科目名	簿記（展開）Eクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	KL25012 TL25012	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記 に引き続き、簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。										
学修到達目標										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
授業の進め方										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	手形1	種類 記帳方法				手形とは何かを調査しておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
2	手形2	裏書 割引 記入帳				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
3	その他の資産	有価証券 固定資産				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
4	その他の資産と負債1	貸付金 借入金 未収金 未払金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
5	その他の資産と負債2	立替金 預り金 仮払借受の処理 商品券				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
6	その他の取引	資本金 引出金 税金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
7	決算1	売上原価 貸し倒れ				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
8	決算2	減価償却				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
9	決算3	見越 繰延				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
10	決算4	現金過不足、引出金、消耗品、有価証券の期末処理				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
11	決算5	精算表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
12	決算6	財務諸表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
13	伝票	伝票制度 3伝票 5伝票				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
14	簿記一巡再論	開始仕訳、期中取引から試算表の作成、決算整理、精算表、財務諸表まで				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
15	帳簿記入再論 まとめ	総勘定元帳および各種帳簿の締め切り再論 全体像の確認				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
テキスト					成績評価の方法・基準					
別途指示します。					課題：30% 小テスト：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)					簿記 の履修終了者しか受講できません。電卓を持参してください。各自必ず自宅にて計算練習を行ってください。					

科目名	経営管理論		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	KA16001	研究室	W-11
担当者	葛西 和廣		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	高一(商業)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
経営管理とは、組織が利用できる経営資源(人・モノ・金・情報など)を有効利用して経営計画を達成するための管理活動であり、企業の経営目的を実現するためのさまざまな業務プロセスを管理する活動のことです。本講義では、管理(マネジメント)をミッション・戦略へ向けて経営資源を統合することと定義し、組織において管理とはどのような機能や意味を持っているのかを解説し、経営管理の基本的な知識を習得します。										
学修到達目標										
(1)経営管理論の変遷と主要な学説を把握し、説明することができるようになる。 (2)授業で学んだことを、現実の経営問題の把握や解決に応用することができるようになる。										
授業の進め方										
基本的には教科書を用いて授業を進めます。しかし、教科書のみではなく、必要に応じて事例などのプリントも配布して使用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	経営管理では何を学ぶのか。				配布した資料を読んでおくこと。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
2	アメリカの管理論の変遷	アメリカにおける管理理論の変遷を概略的に説明する。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
3	古典派管理論	F.W. テーラーの「科学的管理法」やH.ファヨールの管理過程論について紹介する。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
4	フォーディズムの意義	フォーディズムの仕組みとその意義について紹介する。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
5	人間関係論	経営管理において「人間的側面の把握」をはじめ扱った人間関係論を紹介する。メイヨー&レスリスパーガーによるホーソン実験の紹介がメインとなる。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
6	行動科学的管理論(1)	「人はいかにして動機付けられるか」を考察対象とする動機付け(モチベーション)理論を紹介する。マズローの欲求階層説から期待理論までが講義内容となる。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
7	行動科学的管理論(2)	組織における人々の勤労意欲をいかに引き出すか、というリーダーシップ理論について説明する。リーダーシップの資質論・類型論・状況論などが主な内容となる。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
8	中間総括	初回から前回まで行った講義を総括し、内容確認を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
9	近代管理論	バーナードによる組織の定義・協働システム・組織均衡論などについて概説する。サイモンの意思決定論などについて概説する。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
10	企業の組織形態(1)	経営組織論について概説した後、ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織の特徴について説明する。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
11	企業の組織形態(2)	現代の企業において採用されている職能部門制組織、事業部制組織などについて紹介・説明する。また、マトリックス組織やネットワーク組織、分社化などについても触れる。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
12	ダイバーシティ・マネジメント	人々の多様性を大事にすべきという社会的規範の変化によるダイバーシティ・マネジメントの重要性について解説する。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
13	キャリア・マネジメント	バブル崩壊以後、注目されてきたキャリア・マネジメントについて説明する。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
14	組織ストレスのマネジメント	企業は社員のメンタルヘルスに関する関心を高めている。企業組織におけるストレスの問題とその管理について説明する。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
15	講義全体のまとめ	講義全体を総括し、内容確認を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
(別途、指示します。)なし				定期試験：80% レポート：20% S:基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。A:基本的な目標を十分に達成している。B:基本的な目標を達成している。C:基本的な目標を最低限度達成している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「企業行動にみる経営学」船越克己ほか著(創成社)				常に前後の週の講義と関連させながら講義を行うので、継続的に出席してください。						

科目名	リーダーシップ論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KA26002 TL26045	研究室	W-29
担当者	畑井 治文		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
リーダーシップとは、個人が他の人や集団に社会的影響を与えるプロセスのひとつです。本講義では、リーダーシップを行動特性や環境要因をもとにいくつかのタイプに分類し、それぞれのリーダーシップの特徴について解説していきます。またリーダーに従うメンバーの視点、リーダーがメンバーに対して行うコーチングの視点など、日常生活や学生生活においても活用可能な情報を提供していきます。										
学修到達目標										
代表的なリーダーシップ理論を理解するとともに、各種のケースを学ぶことによって、リーダーシップについての知識や関心を広げられるようになるのはもちろん、自分自身が優れたリーダーになる手がかりを得ることが目標です。										
授業の進め方										
基本的には講義用プリントを配布して授業を進めます。各回とも教室での講義となりますが、可能な限り、インタラクティブな授業を展開できるように心がけていきます。授業内で実施した小テスト・課題などについては、随時、返却・解説をする予定です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。またリーダーシップを学ぶ意義、リーダーシップを發揮する要素について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、リーダーシップを發揮した経験を整理してきて下さい。(4時間)				
2	リーダーシップ理論の展開	資質アプローチ、行動アプローチという2つの視点から、リーダーシップ研究の流れについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、PM理論について調べてきて下さい。(4時間)				
3	リーダーシップの類型	PM理論などの理論的背景を解説した上で、リーダーシップを行動特性や環境要因をもとにいくつかのタイプに整理します。				今回の内容を復習すると同時に、フィードバックの与え方について考えてきて下さい。(4時間)				
4	日常におけるリーダーシップ	指示を重視するリーダーの行動特性について解説した上で、メンバーに対するフィードバックの与え方、報酬の与え方などの具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、心理的満足度を高めるための手法を考えてきて下さい。(4時間)				
5	日常におけるリーダーシップ	コミュニケーションを重視するリーダーの行動特性について解説した上で、メンバーに対する心理面でのサポート、育成面でのサポートなどの具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、ビジョン型リーダーと思う人物を列挙してきて下さい。(4時間)				
6	変革期におけるリーダーシップ	変革ビジョンを示すリーダーの行動特性について解説した上で、シンボリック行動、変革に伴うメンバーの負担を軽減する方法などの具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、信頼関係を構築するための手法を考えてきて下さい。(4時間)				
7	変革期におけるリーダーシップ	メンバーの自発性を引き出すリーダーの行動特性について解説した上で、メンバーとの信頼関係の構築、組織文化の変革などの具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、自分がどのようなメンバーかを分析してきて下さい。(4時間)				
8	リーダーに従うメンバー(フォロワー)	リーダーとメンバーの関係性を解説した上で、批判的思考、積極的関与という2つの視点をもとに、メンバー(フォロワー)をいくつかのタイプに整理します。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
9	ケーススタディ(リーダーシップの実践)	映像資料を用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、相手の話を促す上で必要なポイントを考えてきて下さい。(4時間)				
10	コーチングマネジメント	コーチングのスキルのうち「聞き方の技法」について解説します。メンバーの話をうまく引き出すために、リーダーが取るべき具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、マズローの欲求5段階説について調べてきて下さい。(4時間)				
11	コーチングマネジメント	コーチングのスキルのうち「認め方の技法」について解説します。人々の欲求構造を整理した上で、メンバーの欲求を満たすために、リーダーが取るべき具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、質問と詰問の違いについて考えてきて下さい。(4時間)				
12	コーチングマネジメント	コーチングのスキルのうち「問い方の技法」について解説します。質問のタイプを整理した上で、メンバー自らが答えを見つけられるようになるために、リーダーが取るべき具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、指示・命令と提案の違いについて考えてきて下さい。(4時間)				
13	コーチングマネジメント	コーチングのスキルのうち「提案の技法」について解説します。メンバーが新しい視点を持てるようになるために、リーダーが取るべき具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、コーチングのスキルを実践してみてください。(4時間)				
14	ケーススタディ(コーチングの実践)	映像資料を用いながら、これまでの内容を振り返ります。また数名単位でコーチングのコミュニケーションを体感するためのグループワークを行います。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	定期試験対策プリントを用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、定期試験に備えて下さい。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
講義用プリントを配布します。				出席レポート：20% 小テスト：30% 定期試験：50% S：授業内容を高度に理解して発展問題・課題が解ける。A：授業内容を理解して応用問題・課題が解ける。B：授業内容をおおよそ理解して応用問題・課題がほぼ解ける。C：授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「[新版]グロービスMBAリーダーシップ」グロービス経営大学院編(ダイヤモンド社) 「リーダーシップ」小野善生著(ファーストプレス)				我々の身の回りでもリーダーシップを感じる場面は沢山あるはずですが、本講義で学んだ内容と普段の生活を関連付けるように努めて下さい。そうすることで講義への理解が深まります。						

科目名	人的資源管理（基礎）		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KL26003	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
関連資格	産業カウンセラー、高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
この講義では「企業の人事管理の現状と今後」、「人事管理に関連する法律」を経営と労働者の双方の視点から展開しています。特に人事管理の基盤となる「人事制度」、労働基準法で規定される「労働時間と休日・休暇」、「賃金」、さらには近年話題となっている「採用」、「ワークライフバランス」、「非正規雇用」といった人事管理における基礎事項を重点的に取り扱います。										
学修到達目標										
社会に出て人事管理を行う際に必要な基礎的な知識、さらには自らの身を企業から守るための基礎的な知識を身につけてもらうことが最終的な目標です。										
授業の進め方										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	人的資源管理とそのフレームワーク	人的資源管理とは何か、経営における位置づけはどうなっているのか、について説明します。				人事管理の話題について情報を収集して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
2	社員区分制度	人事制度の基盤システムである社員区分制度について解説します。				日本の学歴別賃金の違いについて報を収集して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
3	社員格付け制度 - その概念と職能資格制度 -	人事管理の基盤システムである社員格付け制度に関し、日本の代表的な職能資格制度を解説します。				職能資格制度について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
4	社員格付け制度 - 職務分類制度と人事制度の複線化 -	人事管理の基盤システムである社員格付け制度に関し、アメリカの代表的な職務分類制度を解説します。また人事制度の複線化についても解説します。				職務分類制度について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
5	労働時間管理 - 労働時間の現状と関連する法律・用語 -	労働時間管理に関し、労働基準法の解説や、専門用語を紹介します。				労働基準法の第4章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
6	労働時間管理 - 所定外労働とその手当 -	労働時間管理に関し、時間外労働のための手続と時間外労働の際の割増賃金について解説します。				36協定について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
7	労働時間管理 - 年次有給休暇 -	労働時間管理に関し、有給休暇に関する基礎的な事項とその課題について解説します。				日本の有給休暇に関する課題を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
8	労働時間管理 - その他の休日・休暇と新しい労働時間制度 -	労働時間管理に関し、多くの休暇制度や柔軟な労働時間制度について解説します。				初任給・インセンティブについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
9	賃金管理 - 労働費用と総額人件費管理 -	賃金管理に関し、総額人件費管理の観点から人件費を解説します。				総額人件費管理とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
10	賃金管理 - 個別賃金管理(昇給) -	賃金管理に関し、定期昇給とベースアップについて解説します。				定期昇給とベースアップの違いについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
11	賃金管理 - 個別賃金管理(手当と賞与) -	賃金管理に関し、基本給ではない付加給付、具体的には諸手当と賞与(ボーナス)について解説します。				日本における手当と賞与の動向について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
12	採用管理	企業の採用管理について解説するとともに、これを学生の就職活動と関連させて説明します。				大学生の就職状況について、その状況を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
13	仕事と生活の調和 - ワークライフバランス -	ワークライフバランスに関し、特に育児関連(育児休業・看護休暇等)に焦点を当てて解説します。				育児休業、短時間正社員制度について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
14	非正社員と外部人材の活用	正社員以外の人材(非正社員・外部人材等)の活用に関し、その背景や課題について解説します。				正社員以外の人材の活用の状況を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	これまでの講義全体をレビューします。				これまでの講義での質問事項がないか確認して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリントを配布します。		小テスト: 55% 出席レポート: 45% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「Management Text 人事管理入門」今野浩一郎・佐藤博樹著(日本経済新聞社)		労働を巡るトラブルが多く発生しており、もしかすると皆さんが当事者になるかもしれません。「自分で自分を守る」ことができるよう、積極的な姿勢で講義に臨んでください。なお、毎回の講義において小テストを実施します。								

科目名	人的資源管理（展開）		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36004	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
人的資源管理 では、人的資源管理 で扱った人事管理の基本事項以外にも展開し、細かく「企業の人事管理の現状と今後」「人事管理に関連する法律」などを学んでいきます。具体的には、「配置と異動」「教育訓練」「人事考課」「昇進管理」「福利厚生」「退職金」「企業年金」「退職と解雇」などをみていきます。										
学修到達目標										
社会に出て人事管理を行う際に必要な応用的な知識、さらには自らの身を企業から守るための応用的な知識を身につけてもらうことが最終的な目標です。										
授業の進め方										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	社員格付け制度の概要	人的資源管理 で扱った社員格付け制度をレビューします。				人的資源管理 の職能資格制度を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
2	配置・異動管理 - その狙いと「出向」「転籍」-	日本的な配置異動施策である出向と転籍について解説します。				出向と転籍について、それぞれ調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
3	配置・異動管理 - 新しい動きと関連する法律-	会社指令型ではなく、本人希望に基づく異動である社内公募制度等について解説します。				社内公募制度・社内FA制度について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
4	教育訓練管理	日本企業の教育訓練施策の実際について解説します。				OJTとOff-JTとは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
5	人事考課管理 - ルールと人事考課制度の実際-	日本企業における人事考課での特徴について説明します。				日本企業の人事考課における課題について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
6	人事考課管理 - 目標管理制度-	新しい評価制度である目標管理制度について説明します。				目標管理制度について、あらかじめ調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
7	昇進管理	日本企業の昇進管理の特徴について説明します。				日本企業の昇進管理における課題について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
8	福利厚生管理 - 法定福利と法定外福利-	社会保険・労働保険等の法定福利厚生と法定外福利厚生について説明します。				社会保険・労働保険について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
9	福利厚生管理 - 退職金の意義と退職一時金-	退職金制度について説明します。				日本企業の退職金制度について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
10	福利厚生管理 - 企業年金制度と確定拠出型年金-	企業年金制度を説明するとともに、これに関連して日本の年金制度全般を説明します。				401Kとは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
11	退職管理 - 雇用調整と解雇-	雇用調整や解雇といったいわゆるリストラ施策について説明します。				整理解雇の4原則とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
12	退職管理 - 定年退職と継続雇用-	定年退職や高齢者の継続雇用制度について解説します。				再雇用制度と勤務延長制度の違いについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
13	労働組合と労使関係	日本の労使関係の歴史を概説するとともに、経営者団体ならびに労働組合の組織について解説します。				ナショナルセンターとは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
14	労働市場の分析 - 失業率と有効求人倍率-	現状の雇用動向を把握する上で重要な指標となる完全失業率と有効求人倍率について説明します。				完全失業率と有効求人倍率の推移について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	これまでの講義を全体的にレビューします。				講義に関する質問がないか確認して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリントを配布します。				小テスト: 55% 出席レポート: 45% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Management Text 人事管理入門」今野浩一郎・佐藤博樹著(日本経済新聞社)				この講義で扱う内容は、人的資源管理 の講義内容をさらに発展させたものです。皆さんが将来働く上で不可欠の知識を扱いますので、積極的な姿勢で講義に臨んでください。毎回の講義で小テストを実施します。						

科目名	日本経済史		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバ'リツ	KA36005 TA36008	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
			A	B	C					
			総 観	○						
授業概要										
日本の歴史を振り返ってみて、経済はどのように発展して現在に至っているのか、言葉を換えると、現代の日本経済はどういう積み重ねの結果としてあるのか。この問いに答えようとするのが、日本経済史です。現代の日本は、世界トップレベルの規模を持つ経済大国になっていますが、そこには「日本的」としか表現のしようがない経済構造があります。細かな現象にとらわれず、長い間の日本経済の歴史を大きな流れで把握しようとしたときに、理解できるはずですよ。										
学修到達目標										
今年度は、戦後日本の経済を中心に話を進めるので、日本が戦後の混乱を経て高度経済成長を経験し、いわゆる経済大国になった過程、およびその後の低成長期からバブル経済・不況期へと転換する流れを大づかみに理解することが目標となります。										
授業の進め方										
基本的には教員からの説明を主体とした講義形式で進めます。アウトキャンパス等は計画していません。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義全体の概要説明	ガイダンスと講義に向けての基礎知識の説明				事前にテキスト1頁を熟読すること(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)				
2	財閥解体	戦後GHQが主導した経済改革の柱である財閥解体を詳述する				テキスト2~3頁を熟読する(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)				
3	集中排除と逆コース	集中排除が、米本国の政策転換で挫折する過程を詳述する				テキスト3~6頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
4	未曾有のインフレーション	戦争直後に日本が経験した驚異的なインフレとその原因を詳述する				テキスト6~8頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
5	金融資本集団の形成	経済復興が金融機関を核に進み、企業集団が形成される過程を詳述する				テキスト8~11頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
6	傾斜生産方式	経済復興の核と位置づけられた傾斜生産方式の内実を詳述する				テキスト11~13頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
7	ドッジライン	インフレを沈静化させるための荒療治、ドッジラインを詳述する				テキスト13~14頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
8	神武景気と高度経済成長	朝鮮戦争から高度経済成長へ、経済に弾みがつく過程を詳述する				テキスト15~19頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
9	好不況の波と岩戸景気	世界的に類例のない高度経済成長の中味を詳述する				テキスト19~22頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
10	いざなぎ景気と景気後退	最後の大型景気はいざなぎ景気とその後の経済原則について詳述する				テキスト22~25頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
11	ニクソンショックとオイルショック	高度経済成長の終焉を決定づけた二つの経済激変について詳述する				テキスト25~28頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
12	金融資本集団の形成	高度経済成長の過程で、どのように企業集団が形成されたかを詳述する				テキスト28~36頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
13	バブル経済と金融界	バブル経済の全貌と、金融界の対応について詳述する				テキスト42~50頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
14	日米経済摩擦	政治問題化した日米経済摩擦の経緯と大店法問題について詳述する				テキスト50~55頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
15	総括	戦後日本の経済動向を総括する				テキスト全体を通読しておくこと(2時間)。事後、授業での総括を復習(2時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「日本経済史」木村晴壽著松本大学総合経営学部編(生協で購入してください。)				レポート:20% 定期試験:80% S:授業内容を十分に理解し、日本の経済発展について解説できる。A:授業内容を理解している。B:授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容を6割程度理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「日本経済史」石井寛治著(東京大学出版会) 「経済史入門」塩澤君夫・近藤哲生著(有斐閣新書)等				期末の試験は、かなり難易度を高く設定しているため、普段の講義で集中して理解しようとする姿勢が必要です。						

科目名	生産管理論			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパリング	KA36006	研究室	W-23
担当者	田中 正敏			必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この講義では、まず、経営とは何かについて概観します。次に、生産管理の歴史を述べます。それに基づいて、モノやサービスの製造から販売までのサイクルについて説明します。モノやサービスの管理を行うための手法として、需要予測、在庫管理、生産計画を述べます。また、モノを作る生産計画、プロジェクトの管理、物流管理、サプライチェーン・マネジメントを説明し、さらに、生産管理と情報通信技術との関連について説明します。最後に、今後のオペレーティング・マネジメントの動向を説明します。											
学修到達目標											
オペレーションズの考え方、捉え方の習得											
授業の進め方											
基本的には自作ノートを用いて講義を進めます。但し、講義方法も受講生に対して興味が生じるようにPowerPointやプロジェクトなども使用します。講義が受講生に対して一方通行にならないように行うことを考えています。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習方法					生産管理位置付けと経営とは・まとめ(週に4時間必要)				
2	経営学の理解	経営学とは何か					経営とはの習得と生産管理の歴史の準備・まとめ(週に4時間必要)				
3	生産管理の歴史(1)	アメリカ フォード、GMの生産方式					海外の生産方式の習得と国内の生産方式の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
4	生産管理の歴史(2)	トヨタの生産方式およびリーン生産方式					国内の生産方式の習得と製販サイクルの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
5	製販サイクル	生産プロセスの形体、日程計画					製販サイクルの習得と需要予測の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
6	需要予測	移動平均法、指数平滑法など					需要予測の習得と在庫管理の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
7	在庫管理	2ピン方式、定期発注方式、定量発注方式など					在庫管理の習得と工程管理の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
8	工程管理	スケジューリング					工程管理の習得と生産管理の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
9	生産管理(1)	MRP(資材所要量計画)					MRPの習得とJITの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
10	生産管理(2)	JIT(ジャストインタイム)					JITの習得と制約条件の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
11	生産管理(3)	制約理論					制約条件の習得と物流管理の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
12	物流管理	物流の制度や取り決め					物流管理の習得とSCMの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
13	サプライチェーン・マネジメント	概念(定義や用語など)					SCMの習得とITと生産管理の関連性の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
14	生産管理と情報通信技術	IT(情報技術)を駆使した生産管理について					ITと生産管理の関連性の習得と将来像の見地について・まとめ(週に4時間必要)				
15	生産管理の今後の動向	オペレーションズの今後の動向と発展について					今後の動向と発展の習得・まとめ(週に4時間必要)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「データから読み解く経営学」田中正敏著(創成社) ISBN:978-4-7944-2442-6(生協で購入してください。)2005年 予習・復習を積極的に行うこと。						定期試験:60% 出席レポート:20% 受講態度:20% S:講義中に対して積極的に質問をし、到達目標値それ以上の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容を理解して正しく文章で表現することができる。B:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解して正しく文章で表現することができる。C:到達目標値を理解、各回の授業で学んだことを理解できる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
講義中に連絡する。						この科目は専門基礎科目であり、あとの「マネジメント」の専門応用領域に続くので、できるだけ履修してもらいたい。					

科目名	企業取引法		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36007 TB36053	研究室	W-33
担当者	増尾 均		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観	○							
授業概要										
仕事に関する法律として商法があり、特にその中でも商法総則と商行為法に重点を置いて学んでもらいます。これらは、広い商法領域の中で商売に関係した規定が多く、最も基本の部分でもあり、特にビジネス・観光・福祉・地域など、あらゆる職種に密接に関わってくるものです。将来社会人になる上で必ず修得して欲しい法律です。										
学修到達目標										
商法総則と商行為法には企業人のみならず福祉や地域・観光にも関わってくる規定がたくさんあります。仕事に関する法律は、社会人として社会活動をする上で必要不可欠なことです。これらの知識を修得することによって、社会に貢献できるようになることを目的としています。										
授業の進め方										
基本的には教科書と六法を用いて講義室で授業を進めます。しかし、本講義の内容は学生生活を送る上では身近なものとは言い難く、そのため必要に応じて新聞記事などを配り、どのような場面で利用される法律なのか理解してもらいながら進めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、商法の意義と商法総則と商行為法の位置づけを学ぶ				事前に商法の特徴を調べる。事後学修として、商法の領域を体系的にまとめる。(4時間)				
2	商人	商法の適用範囲・商人の概念・商行為概念・商人適格について学ぶ				事前学修として、商人について調べる。事後学修として、その法的規定についてまとめる。(4時間)				
3	営業の意義と態様	企業活動の中核とも言える営業に関する法律の規定				事前に、営利活動について調べる。事後学修として、授業内容を整理してまとめる。(4時間)				
4	商号	商号の意義・選定、商号の登記・譲渡、名板貸				事前学修として、商号の意義を学んでおく。事後学修として、商号の活用をまとめる。(4時間)				
5	商業使用人	商業使用人の種類と代理権との関係				事前に商業使用人について調べる。事後学修として、権限について理解する。(4時間)				
6	商業帳簿	商業帳簿の種類と意義および法的規制について				事前に商業帳簿の種類を調べる。授業後どのように規制されているかまとめる。(4時間)				
7	代理商	代理商の種類と役割				事前学修として、代理商とは何かを調べる。授業後、代理商の活用を理解する。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。				事前に今までの復習を行う。事後学修として、理解が不十分であった所を改めて学ぶ。(4時間)				
9	商行為通則	商行為通則の全体像と位置づけ				事前学修として、商行為の内容を調べる。事後学修として、授業内容をまとめる。(4時間)				
10	商人間売買	商法の売買に関する規定の意義と民法の規定との関係				事前に商法の売買規定を調べる。事後学修として、商法と民法を比較してまとめる。(4時間)				
11	消費者保護	消費者保護法を構成する法律、およびクーリング・オフなどの重要規定				事前に消費者問題について調べる。事後学修として、特徴を法律ごとにまとめる。(4時間)				
12	仲立人	他人間の商行為の媒介することの意義と利用形態				事前に仲立人について調べる。事後学修として、利用形態をまとめる。(4時間)				
13	問屋	問屋と準問屋の意義と規定				事前学修として、利用例を調る。事後学修として、問屋の義務と権利を整理する。(4時間)				
14	その他の営業	物品運送契約・旅客運送契約・運送取扱営業・倉庫取引・場屋取引の特徴と意義				事前学修として、特徴を調べておく。事後学修として特徴と規定を関連づける。(4時間)				
15	保険	保険の意義と損害保険・生命保険の仕組み				事前に保険の種類を調べる。事後学修としてさまざまな規制を保険ごとにまとめる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「新商法入門」國友順市・西尾幸夫ほか著國友順市・西尾幸夫編編(嵯峨野書院) ISBN:4782304455(生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158(生協で購入してください。)				定期試験:90% 出席レポート:10% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展の問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「商法総則・商行為法」田村諱之輔・平出慶道著(青林書院)				社会人として必要となる法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後に役立ててください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおいてください。						

科目名	会社法		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KA36008 TB36054	研究室	W-33
担当者	増尾 均		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観	○							
授業概要										
会社というものは、商売をする上で取引主体となるものです。それ故に法律は様々な条文を用いて厳格に規定しています。本講義では、株式会社を中心に会社法の骨組を学んでいただきます。最初は会社の種類などの基本的な事を学んでもらい、次いで株式会社の株式や機関について、そして会社が設立されてから解散・清算に至るまでを講義します。										
学修到達目標										
本講義を受けることによって、将来自分が就職したい会社がどのように規定されているのかを理解し、地域社会の貢献および企業への貢献に寄与できるようになることを目的としている。										
授業の進め方										
本講義では教科書と六法を中心に講義室で行いますが、必要に応じて判例・新聞記事などの補助教材を随時使用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、会社法の意義と商法上の位置づけ				事前に会社法とはどのような法律が調べる。講義後、位置づけを体系的にまとめる。(4時間)				
2	会社制度1	会社の法律上の意義として法人性・社団性・営利性				事前学修として、会社の意義について調べる。事後学修として、会社の特徴をまとめる。(4時間)				
3	会社制度2	株式会社・合名会社・合資会社・合同会社の特徴				事前学修として、会社の種類を調べる。事後学修として、違いについて比較検討する。(4時間)				
4	会社法総論	会社法の沿革と会社法総則として商号・商業使用人・営業・登記の規定				事前学修として、会社法の変遷を調べる。事後学修として、総則内の規定をまとめる。(4時間)				
5	株式会社の設立	株式会社の設立の仕方、定款の作成、設立の態様、設立についての責任				事前にどうしたら株式会社が作れるか調べる。講義後、手続きと諸規定をまとめる。(4時間)				
6	株主	株主の地位と権利、株主平等の原則				事前に株主とは何かを調べる。事後学修として、株主の諸権利についてまとめる。(4時間)				
7	株式	株式の意義、株式の種類、株式の消却・併合・分割・無償割当て				事前に株式の意義を調べる。事後学修として、個々の違いについて整理してまとめる。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。				事前に今までの復習を再度行う。講義後、理解が不十分であった所を改めて学ぶ。(4時間)				
9	株式会社の機関1	株主総会の意義と役割				事前に株主総会の事例を調べる。講義後、株主総会の権限についてまとめる。(4時間)				
10	株式会社の機関2	取締役会・監査役・会計監査人などの機関の意義				事前に株式会社にある機関を調べる。事後学修としてそれぞれの機関の役割をまとめる。(4時間)				
11	新株の発行	新株の発行のプロセスと目的、そして法的規制				事前に、会社の資金調達方法を調べる。講義後、多様化するプロセスをまとめる。(4時間)				
12	株式会社の計算	株式会社の計算として、計算規定の目的、計算書類の内容と手続きの詳細				事前に計算書類の内容を調べる。事後学修として、プロセスと規定をまとめる。(4時間)				
13	組織の再編・変更1	組織の再編・変更である事業譲渡と合併の意義・種類・制限・手続きの概要				事前学修として、組織の再編・変更の種類を調べる。事後学修として、規定を整理する。(4時間)				
14	組織の再編・変更2	組織の再編・変更である会社分割・株式交換・組織変更の意義・種類・制限・手続きの概要				事前学修として各制度の基礎をまとめる。事後学修として、比較検討してまとめる。(4時間)				
15	解散・清算	倒産後の処理についてどのような種類があるか学ぶ				事前学修として、倒産とは何かを調べる。事後学修として、各種制度の違いをまとめる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「会社法概論(近刊)」國友順市ほか著國友順市編編(嵯峨野書院)(生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158(生協で購入してください。)				定期試験:90% 出席レポート:10% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展的問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨んでください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおいてください。						

科目名	労働安全衛生法（総合経営学部）		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバ`リン`	KA36009 TL36055	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格	産業カウンセラー				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
<p>本講義では、まず日本の法体系の中での労働法体系の位置づけや性格について講義し、次に労働法体系の中での労働安全衛生法の位置づけや性格、労働安全衛生法と労働基準法など関連する法律との関係について解説します。また、労働災害の事前予防としての労働安全衛生法に対して、事後救済としての労働災害補償保険法についても講義します。</p>										
学修到達目標										
<p>労働者にとって安全で健康的な職場は当然に確保するために必要な労働者の安全衛生の確保を目的としている労働安全衛生法およびその関係法令の意義・役割・機能などの知識が身につく。</p>										
授業の進め方										
<p>講義は指定したテキストを用います。法律科目なので法律用語や専門用語が頻繁に出てきますが、講義の中ではそれらの意味や定義はテキストに示されたものを用います。</p>										
<p>授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	はじめに、法学入門				教養レベルの法学復習（4時間）				
2	労働法と労働安全衛生法	労働法の構成と労働安全衛生法の位置づけ				「労働と法」で使用したテキストを読み直す（4時間）				
3	労働安全衛生法の基礎概念	事業場、業種、事業者、労働者など				テキスト第1章を読むこと（4時間）				
4	安全衛生管理体制1	総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者など				テキスト第2章を読む（4時間）				
5	安全衛生管理体制2	下請混在事業場での安全管理体制				テキスト第2章を読む（4時間）				
6	危険と健康障害の防止	労働者の危険又は健康障害を防止するための措置				テキスト第3章を読む（4時間）				
7	危険な作業を必要とする機会と有害物質の規制	機械等及び有害物に関する規制				テキスト第4章を読む（4時間）				
8	派遣労働者の安全衛生	派遣契約、派遣労働、安全衛生				テキスト第6章を読む（4時間）				
9	就業環境の整備	安全衛生教育、就業制限など				テキスト第6章を読む（4時間）				
10	健康の保持増進のための施策	健康診断の意義としくみ				テキスト第7章を読む（4時間）				
11	監督、その他	安全衛生改善計画の作成、厚生労働大臣などへの届け出				テキスト第7章を読む（4時間）				
12	労働者災害補償保険法1	労働安全衛生法との関係、制度のしくみ				指示した文献を読む（4時間）				
13	労働者災害補償保険法2	業務災害				指示した文献を読む（4時間）				
14	労働者災害補償保険法3	過労死、過労自殺				指示した文献を読む（4時間）				
15	労働者災害補償保険法4	通勤災害				指示した文献を読む（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「ここからはじまる早わかり労働安全衛生法（新版）」近藤恵子・小林浩志・中山寛之著（東洋経済新報社） ISBN:978-449227058（生協で購入してください。）</p>				<p>定期試験：80％ 小テスト：20％ S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60％程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
なし				<p>まだ働いたことのない学生にとっては縁遠い世界のお話のように思えるかもしれませんが、実はアルバイトの場合も同じです。アルバイトでも就職してから身近で大事な問題を考えるために的に受講してください。</p>						

科目名	労働と法（総合経営学部）		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパリング	KA36010 TL36056	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
2年次前期の人的資源管理、3・4年次前期の人的資源管理の内容を、法律との関係から学びます。講義の中では必要に応じて判例や事例にも触れていきます。										
学修到達目標										
皆さんが社会に出て働く時はもちろん、現在のアルバイト先でも活用することができる、働く上で「自分を守る」ための知識を身につけてもらい、労働者の権利を深く理解してもらうことが目標です。										
授業の進め方										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。また毎回の講義において前回講義の理解度を測るために小テストを実施します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	はじめに - 憲法と労働の関係 -	憲法の労働基本権や労働法のタイプを紹介します。				労働法に分類法律にはどのようなもの調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
2	雇用契約・就業規則と法	採用、労働条件、退職（解雇）など雇用契約に関わる法律や就業規則について説明します。				人的資源管理 の第8章1～3を読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
3	労働時間と法	労働時間、休憩時間、残業など労働時間に関わる法律について説明します。				人的資源管理 のプリントの4章1～4、7を読んで下さい。プリントの復習して下さい。（4時間）				
4	休日・休暇と法	有給休暇など、休日・休暇に関わる法律について説明します。				人的資源管理 のプリントの4章5を読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
5	報酬と法	基本給や手当、賞与、退職金などの労働者に対する報酬に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の5章、の6章7章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
6	配置・異動と法	仕事の割り振りや転勤、出向、転籍など、配置と異動に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の2章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
7	安全衛生と法	労働者の安全や健康の維持に関わる法律について説明します。				労働者の健康が損なわれた事例について調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
8	ワークライフバランスと法	育児・介護休暇など、仕事と生活の調和に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の6章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
9	非正規従業員と法	均等均衡待遇などの非正規従業員の雇用に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の第章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
10	女性の労働と法	女性に対する差別廃止や女性優遇、さらには男女の均等待遇など、女性の労働に関する法律を紹介します。				女性活躍推進法について調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
11	高齢者・障害者の労働と法	継続雇用やアファーマティブアクションなど、高齢者と障害者の労働に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の8章4・5を読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
12	労使関係と法	労働組合や不当労働行為など、労使関係に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の9章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
13	手当・給付金と法	労働者が手にすることができる手当・給付金と法律の関係について説明します。				労働者に対する手当・給付金を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
14	働き方改革と法	現在進められている働き方改革とこれに伴う法律の改正について説明します。				働き方改革の議論について調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
15	講義全体のまとめ	これまでの講義全体を総括します。				これまでの講義での疑問点がないか確認して下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリントを配布します。				出席レポート：45% 小テスト：55% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「労働法入門」水町勇一郎著（岩波新書） ISBN：9784004313298				2年次前期の人的資源管理、3年次前期の人的資源管理（観光ホスピタリティ学科の学生は人的資源管理）の発展編のため、この二つの講義を履修していないと、本講義の理解は極めて難しいものになります。						

科目名	所得税法		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ [®] リング	KA26011	研究室	非常勤
担当者	太田 聡		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
「所得税」は個人の収入に対して課される税金です。これは、所得税が誰しもが避けて通ることができない税金であること意味しています。この講義は、所得税の専門用語や基本的な仕組みを理解し、自分自身で確定申告ができるようになること目的としています。ぜひ、将来必要となる所得税の基本知識習得を目指してください。										
学修到達目標										
所得税について学び、確定申告書を自分で作成することができるようになること。 全経所得税3級レベルの基本知識を身につけること。										
授業の進め方										
所得税の専門用語や基本概念、計算方法を講義しつつ、あわせて演習問題を解いていきます。また、実際に使用されている申告書を作成することで、自分自身で確定申告するための知識を身につけていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	所得税の大まかな流れを申告書を使いながら確認する				確定申告書の仕組みを復習 課題問題(4時間)				
2	所得税の概要	課税所得や計算期間、納税義務者など所得税の基本概要を学習する				課題問題(4時間)				
3	10種類の所得	10種類の所得の内容と特徴を学習する				課題問題(4時間)				
4	利子所得・配当所得・不動産所得	利子所得・配当所得・不動産所得の内容と計算方法を学習する				課題問題(4時間)				
5	事業所得	事業所得の内容と計算方法を学習する				課題問題(4時間)				
6	事業所得	事業所得の内容と計算方法を学習する				課題問題(4時間)				
7	給与所得	給与所得の内容と計算方法を学習する				課題問題(4時間)				
8	退職所得・山林所得・譲渡所得	退職所得・山林所得・譲渡所得の内容と計算方法				課題問題(4時間)				
9	一時所得・雑所得・課税標準	一時所得・雑所得の内容と計算方法、課税標準の求め方				課題問題(4時間)				
10	所得控除	雑損控除・医療費控除・社会保険料控除などの計算方法				課題問題(4時間)				
11	所得控除	寡婦控除・寄付金控除・基礎控除の計算方法				課題問題(4時間)				
12	所得控除	扶養控除の計算方法				課題問題(4時間)				
13	税率・税額控除・源泉徴収	税率・税額控除・源泉徴収の計算方法				課題問題(4時間)				
14	年末調整	年末調整の計算方法				扶養控除申告書・源泉徴収簿の書き方の復習 課題問題(4時間)				
15	確定申告	確定申告書の書き方				確定申告書の書き方の復習 課題問題(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「適宜レジュメ等を配布します」		定期試験：70% 小テスト：30% 定期試験(100点満点)を70点換算、小テストの成績(100点満点)を15点換算し、評価する。 S：100点 A：80点～99点 B：70点～79点 C：60点～69点 D：60点未満								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「所得税法テキスト」岩崎功・奥田よし子著(英光社) ISBN：978-4-88327-365-2		電卓・筆記具を持参してください。								

科目名	法人税法		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KA26012	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	水曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
法人税は企業にかかる税金であり、社会人として企業に就職した場合、職場で必ず必要となる税法です。また、国家の財政上も重要な位置を占めますし、国家の産業政策とも重要な関わりがあるため、国の財政や産業政策を知るためにも法人税法を学ぶ必要があります。本講義では、法人税法の基本的な仕組みを理解したうえで、実際の企業活動において、どのような法人税が課税されるのかを網羅的に取り上げ、法人税法に関する基礎的な知識を習得します。										
学修到達目標										
法人税の基礎的な仕組みを理解し、法人税の課税方法について、そのポイントを説明できるようになることが目標です。また、納税者、財源調達など様々な観点から自らの考えをまとめたり、より詳しい内容について調査するために税法や通達などに精通することも目指します。										
授業の進め方										
講義形式により、法人税法の仕組み、課税所得の計算を概観します。また必要に応じて、実際の計算や具体的な判決、ニュース記事等を取り上げます。さらに、各自でポイントを整理することで、明確な理解を得る機会を作ります										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ		内容				事前事後学修			
1	法人税法の基礎	その1	ガイダンスを行い、税金の根拠、意義と種類、徴税方式、課税原則など法人税法に必要な不可欠な基本事項を確認します。				身近にある税金について調べておくこと。基本用語の定義を復習しまとめておくこと。4時間			
2	法人税法の基礎	その2	法人税法の性格、納税義務者、事業年度、同族法人など法人税法の原則的な事項を学びます。				法人税法とはどのようなものか調査しておくこと。同族会社について調べる。4時間			
3	所得金額の算定		所得とは何か、益金、損金に算入される範囲はどのようなものか、所得金額の算出について学びます。				益金・損金と収益・費用の相違を調べておく。配布する計算問題を解く。4時間			
4	認識基準		収益の認識基準について、原則的思考方を学び、請負、資産の譲渡などを学びます。また費用についても原則と確定していない場合など特殊な案件について学びます。				収益の認識基準を調べておくこと。実務の問題点を調査する。4時間			
5	益金とその特例	資産関係 その1	割賦販売、工事収益、受取配当金、評価益、還付金など、特例およびその他の益金について学びます。また棚卸資産の評価について原則的方法を学びます。				棚卸資産の記帳方法を復習しておくこと。みなし配当について研究すること。4時間			
6	資産関係その2		有価証券について意義と範囲、譲渡損益等について学びます。また減価償却資産に関して、償却方法や耐用年数について学びます。				減価償却の意義を調べておくこと。除却に関して研究しておくこと。4時間			
7	資産関係その3		リース取引について原則と留意点について学びます。また、繰延資産について、その意義、損金算入額および限度額について学びます。				繰延資産とは何か調べおくこと。リースの区分について調べる。4時間			
8	損金について	その1	損金の具体的な内容について、役員賞与について使用人、役員、使用人兼役員の定義を学んだ上で、税法上の原則を学びます。				事前に配布するプリントを熟読しておくこと。計算事例を解いてみる。4時間			
9	損金について	その2	損金の具体的な内容について、寄付金と交際費を取り上げ、その意義、課税要件、基本的考え方、損金不算入の場合等について学びます。				寄付金とは何か調べておくこと。配布する課題プリントを解いておくこと。4時間			
10	損金について	その3	損金について、租税公課、評価損について棚卸資産、有価証券、固定資産、繰延資産、さらに貸倒れを取り上げ、それぞれについて原則的な方法を学びます。				貸倒れの計算方法を調べておくこと。有価証券の評価損について、調査すること。4時間			
11	損金について	その4	損金について、生命保険料、損害保険料等、諸会費や負担金、その他の営業費用、圧縮記帳などを取り上げ、それぞれについて原則的な方法を学びます。				保険の種類について調べておくこと。圧縮記帳について論述できるように整理しておくこと。4時間			
12	損金について	その5	引当金についての基本的考え方を踏まえた上で、特に貸倒引当金の計算方法を学びます。さらに有価証券の取り扱いを学びます。				貸倒引当金の事例を解けるようにし、有価証券に関する課税問題を整理しておくこと。4時間			
13	その他の課税問題	その1	特定同族会社、使途秘匿金への課税問題、さらに連結納税制度について範囲と適用手続き、個別規定との関わりを概観します。				連結会計制度について調べておくこと。税額計算の論点を整理しておくこと。4時間			
14	その他の課税問題	その2	国際取引について、外国法人、タックスヘイブン対策などを概観します。グループ法人課税については制度意義と中小企業の特例を、企業組織再編の課税問題として資産所と資産譲渡や未処理欠損の問題を学びます				タックスヘイブンとは何か調査しておくこと。合併等について整理しておくこと。4時間			
15	その他の問題	総まとめ	申告手続きとして、確定申告等、修正申告、不服申立て、納付、還付などを概観します。さらに、今日的課題として復興税制や投資促進税制などを学びます。法人税全体の復習を行います。				申告手続きについて調べ、今日的課題について一つを選び調査すること。4時間			
テキスト			成績評価の方法・基準							
講義時にオリジナルテキストを配布します。			出席レポート：30% 定期試験：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「法人税の理論と事務」山本守之著(中央経済社)			簿記で学んだ会計の用語を復習しておいてください。法令などを自分で調査し文言を読む機会をもってください。							

科目名	簿記原理		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KA26013	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
簿記の基本的なシステムと具体的な手続きについて、取引開始から期中取引、決算まで、すべての記帳・計算方法の原理を学びます。簿記 簿記 で学んだ内容を復習しつつ、より応用的な中身も含め学びます。										
学修到達目標										
簿記の典型的な事案について、その基本原理にさらに習熟し、その意味合いや利用方法をまなび、さらに短時間で処理する経験を積むことで、事務経理職に要求される基本的能力(会計リテラシー)を身に着けます。										
授業の進め方										
取引・計算事例の一つ一つを取り上げ、それに関する基本問題を計算方法、帳簿記入の仕方を解説し、簿記の原理を説明します。次により発展的な問題を、さらに例外的な事案等についても取り扱います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記の全体像	簿記の基本的な手続き全体を確認する				簿記 のテキストを読んでおく。配布する問題を解答し提出する。4時間				
2	当座資産の取引	現金 当座預金 有価証券				配布プリント問題を解いておく。キーワードを復習し、練習プリントを解答する。4時間				
3	その他の資産、負債の取引	固定資産 引当金 借入金・貸付金 未収入金・未払金 他				民法の規定を復習しておく。練習プリントのキーワードを問題を解答する。4時間				
4	収益 費用	商品売買 費用計上				基本的な仕訳について確認しておく。分記法と3分法の対比問題を解く。4時間				
5	帳簿記入	各種出納帳 商品有高帳 売上帳・仕入帳 手形記入帳など				配布プリント問題を解いておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
6	勘定記入	帳簿組織の再確認 転記 勘定の締切				帳簿組織について調査しておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
7	伝票	伝票制 3伝票 5伝票 日計表				配布プリント問題を解いておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
8	試算表1	日付別取引データからの試算表作成 売掛金明細表 買掛金明細表				配布プリント問題を解いておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
9	試算表2	取引項目別データからの試算表作成 2重取引				配布プリント問題を解いておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
10	決算	すべての決算取引の勘定、仕訳、計算方法				決算書を読んでみる。練習プリントを解答し提出する。4時間				
11	精算表1	6桁精算表 8桁精算表				配布プリント問題を解いておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
12	精算表2	付記事項の取り扱い 構造的な問題				配布プリント問題を解いておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
13	財務諸表1	決算整理前試算表と決算処理、財務諸表の作成				配布プリント問題を解いておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
14	財務諸表2	決算整理後の試算表と決算処理、財務諸表の作成				配布プリント問題を解いておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
15	簿記一巡	すべての取引の総復習 誤りやすい事項 より発展的な内容について				配布プリント問題を解いておく。練習プリントを解答し提出する。4時間				
テキスト				成績評価の方法・基準						
講義開始時にオリジナルテキストを配布します。				出席レポート：30% 定期試験：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				できるだけ電卓を持参してください。講義毎に練習プリントがあります。また「簿記受験対策」と関連性の高い科目ですので同時履修が望ましいです。						

科目名	会計学		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36014	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義では、株式会社の会計について、基本的な内容を学びます。特に3つの財務諸表の一つ一つについて全項目を扱うことで、財務諸表をすべてを知るとともに、それを分析する手法についても学びます。商法、金融商品取引法、法人税法、企業会計原則によってどのような規定があるかについて、具体的に学びます。										
学修到達目標										
講義を通じて、会計学の基礎用語の意味と現行法規を理解し、さらに財務諸表の概略が読み解けるようになります。										
授業の進め方										
基本的な用語・ルールをスライドを使って解説します。 また、選択式問題や正誤問題を使うことで理解を深めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	株式会社会計の全体像	株式会社会計について 簿記と会計学の関係 会計学の体系				会計学について調査しておく。 課題プリントを解く 4時間				
2	会計の有用性と法律	グローバル化と企業情報 会計情報の使用目的と法律 企業会計原則				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
3	財務諸表の体系	B/S P/L そのたの財務諸表の形式と意義				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
4	貸借対照表1	流動資産の定義、分類基準、細目				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
5	貸借対照表2	固定資産の定義、分類基準、細目				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
6	貸借対照表3	資産の評価、負債および株主資本の定義、分類基準、細目、評価				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
7	損益計算書1	形式、営業利益の意味、計算方法と費目				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
8	損益計算書2	経常利益の意味、純利益の種類、計算方法と費目				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
9	キャッシュフロー計算書1	キャッシュの意義と計算書の有用性、構造				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
10	キャッシュフロー計算書2	キャッシュフロー計算書の3区分と費目、株主資本変動計算書の構造				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
11	会計倫理	企業不祥事とその会計上の問題点、エンロン事件などの実例 諸法規				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
12	貸借対照表の読み方	流動比率、固定比率など経営分析指標の有効性				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
13	損益計算書の読み方	各種利益率 回転率など経営分析指標の有効性				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
14	その他の問題	合併 時価評価 国際会計、会計原則再論				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
15	全体のまとめと今後の課題	会計学の主要論点展望 管理会計の関わりなどの発展的内容				プリントの該当箇所を熟読する 課題プリントを解く 4時間				
テキスト		成績評価の方法・基準								
講義時においてオリジナルテキストを配布する。		出席レポート：30% 課題：10% 定期試験：60% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「財務諸表論」武田隆二著(中央経済社) 「新現代会計入門」伊藤邦雄著(日本経済新聞社)		経済関係のニュース等において会計学が関わる事柄が多くあります。常に関心を持つようになしてください。								

科目名	管理会計	学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36015	研究室	W-16
担当者	田中 浩	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)	履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
	A	B	C						
授業概要									
管理会計の基本的考え方と技法、基本用語、その意味を説明します。また、計算事例も使って、管理会計の実際の手続きを一つ一つ解説します。									
学修到達目標									
管理会計の基本的な事案を理解し、枠組みを掴むこと、さらに一つ一つの手続きをマスターすることを目的にします。									
授業の進め方									
基礎概念、基本的な用語を解説します。最も単純な計算事例から解説します。次に例示、穴埋め問題などを使用します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	会計学の体系				管理会計について調べておく 課題プリントを解答し提出する 4時間			
2	原価とは	原価の範囲、分類				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
3	受注企業の場合	個別原価計算				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
4	見込み生産の場合1	総合原価計算の基礎				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
5	見込み生産の場合2	さまざまな総合原価計算 ABC				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
6	原価管理	標準原価計算の基礎				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
7	予算と原価管理	標準原価計算と予算 差異分析				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
8	原価分類	コストビヘイビアとFV分解				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
9	利益計算の方法	直接原価計算の意義と実際				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
10	利益予測	損益分岐点分析 目標利益の算定 安全余裕率				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
11	その他の計算方法	品質原価計算 セグメント別業績評価				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
12	意思決定会計1	基礎概念 増分原価 計算方法				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
13	意思決定会計1	時間価値 意思決定の事例				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
14	企業全体との関わり	原価企画 バランススコアカード				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
15	まとめ	管理会計発達史				配布プリントを読んでおく 課題プリントを解答する 4時間			
テキスト		成績評価の方法・基準							
講義開始時に教材を配布します		出席レポート：30% 課題：20% 定期試験：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「管理会計・事例による解説と研究」伊藤博著(実教出版) 「コストマネジメント」伊藤嘉博著(日本経済新聞社) 「管理会計」岡本清他著(国元書房)		問題演習があります。常に自身で考えながら解答するように心がけてください。電卓はなるべく持参してください。							

科目名	ファイナンス		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36016	研究室	W-23
担当者	田中 正敏		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
ファイナンスとは、どのように資金を調達し、運営していくべきかについて、投資の立場から見たときの考え方を理論化したものである。特に、企業が行う資金調達や事業投資といった会社の流れを考える分野は、「コーポレートファイナンス」と呼ぶ。投資家を含め経営者の意思決定において重要なのは「投資をしたら、どれだけのリターン(収益)が得られるか」ということである。本講義では、ファイナンスの理論をできるだけ平易に解説します。										
学修到達目標										
合理的意思決定の素養を習得し、金融リテラシー(知識・判断力)を身につけることを目指します。										
授業の進め方										
原則としてテキストを用いて講義を行う。補足説明としてプリント(講演資料、パワーポイント資料等)を配布する。数値計算を行うため関数電卓を使用する場合がある。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、ファイナンスについて説明します。				会計・金融論で学んだ内容を復習し、ファイナンス問題を探す。(週に4時間必要)				
2	キャッシュフローの算出(フリー・キャッシュ・フロー)	投資の価値を正しく評価するための指標を学ぶ。				ファイナンスの用語や考え方に慣れるように復習する。(週に4時間必要)				
3	キャッシュフローの算出(埋没費用(サンクコスト))	投資の価値を正しく評価するための指標を学ぶ。				ファイナンスの定義の考え方について理解する。(週に4時間必要)				
4	キャッシュフローの算出(機会費用)	投資の価値を正しく評価するための指標を学ぶ。				ファイナンスの用語の考え方について理解する。(週に4時間必要)				
5	リスクとリターン	キャッシュフローの現在価値について説明する。				キャッシュフローが金銭の時間的価値をどのように反映させるかの理解。(週に4時間必要)				
6	現在価値と将来価値	キャッシュフローの現在価値と将来価値との関係について説明する。				キャッシュフローの金銭の時間的価値の理解(週に4時間必要)				
7	正味現在価値法	投資の価値は一般に、現在価値の大きさで測定する。その説明を行う。				事業投資と利益との関係の理解(週に4時間必要)				
8	内部収益率法	投資の価値は一般に、現在価値の大きさで測定する。その説明を行う。				設備投資と利益との関係の理解。(週に4時間必要)。				
9	回収期間法	投資の価値は一般に、現在価値の大きさで測定する。その説明を行う。				事業投資や設備投資と利益との関係の理解。(週に4時間必要)				
10	シナリオ分析	予測の不確実性の検討を説明する。				市場・競争他者・自社の施策への学習の理解。(週に4時間必要)				
11	感度分析	予測の不確実性の検討を説明する。				市場・競争他者・自社の施策への学習の理解。(週に4時間必要)				
12	事例研究I(練習問題)	事業採算性の事例問題を説明し、オペレーションズの会計情報の意思決定を行う。				これまでの内容を復習し、事例問題を習得する。(週に4時間必要)				
13	事例研究II(練習問題)	事業採算性の事例問題を説明し、回収期間判定を用いて意思決定を行う。				これまでの内容を復習し、事例問題を習得する。(週に4時間必要)				
14	事例研究III(練習問題)	事業採算性の事例問題を説明し、投資採算性の意思決定を行う。				これまでの内容を復習し、事例問題を習得する。(週に4時間必要)				
15	講義全体のまとめ	講義全体の総括として、ファイナンス理論の機能や役割、リスク管理の重要性について説明する。				講義全体を振り返って、内容を理解する。(週に4時間必要)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「データから読み解く経営学」田中正敏著(創成社) ISBN:978-4-7944-2442-6(生協で購入してください。)				定期試験:60% 出席レポート:20% 受講態度:20% S:講義中に対して積極的に質問をし、到達目標値それ以上の探求姿勢を持っている。意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容を理解して正しく文章で表現することができる。B:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解して正しく文章で表現することができる。C:到達目標値を理解、各回の授業で学んだことを理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義中に説明する。				「ファイナンス」は、「経済入門、ミクロ、マクロ、会計」を習得した後に履修するのが望ましい。						

科目名	流通総論		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	KA16017	研究室	W-28
担当者	清水 聡子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
私たちは日常生活の中で、近郊の田畑や工場で生産されるものだけではなく、国内各地、あるいは遠く外国から運ばれる商品などをスーパーマーケットやコンビニエンス・ストアで購入し、消費します。この生産と消費の間の流通について、仕組みや役割について学習します。										
学修到達目標										
現代の流通と取引に関する基礎的な知識を習得し、流通の意義や役割について理解するとともに、流通に関する課題や問題意識を持ち、自分の言葉で自分の考えをまとめる力や創造的思考の育成を目標とします。										
授業の進め方										
講義計画に従って、配布プリントを用いて教室にて授業を行います。それぞれの授業の構成は、前回の授業の復習、今回の授業のポイント、授業の中心部(メイン)、問題提起(来週の予告)と4部構成で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	流通総論で学ぶ内容の全体像を示し、講義の進め方を説明します。				シラバスを読み、流通に係る事例を研究すること。(4時間)				
2	流通とは何か	流通の概念と基本的役割について考察します。				流通とは何かを考察すること。(4時間)				
3	流通業者の役割	流通活動を担う流通業者の概念、卸売業者と小売業者の区分について考察します。				流通業者はどのような役割を担っているかを考察すること。(4時間)				
4	小売業の主要形態(1)	小売店舗の有無と販売形態について考察します。				小売業とはどのような役割を担うかを考察すること。(4時間)				
5	小売業の主要形態(2)	小売業の経営形態 - チェーンと商業集積 - について考察します。				小売業の経営形態について考察すること。(4時間)				
6	卸売業の位置づけ	卸売の社会的役割と機能、卸売機構の構造について考察します。				卸売業の役割について考察すること。(4時間)				
7	商品と流通	商品の概念と商品分類の意義について考察します。				具体的な商品を1つ取り上げ、商品の概念と商品分類について考察すること。(4時間)				
8	小売業の店頭活動	インスタ・マーチャンダイジングの諸要素について考察します。				インスタ・マーチャンダイジングについて調べること。(4時間)				
9	ブランドとは何か	小売業者の商品開発力とPB戦略について考察します。				具体的なブランドを1つ取り上げ、ブランドの役割について調べること。(4時間)				
10	小売業の販売・仕入・在庫管理	小売業の販売、仕入形態、品揃え計画、在庫管理について考察します。				小売業の販売・仕入・在庫管理について調べること。(4時間)				
11	販売員とは何か	小売業における販売員の現状と管理について考察します。				販売員の役割を考察すること。(4時間)				
12	消費者取引とは何か	消費者取引、消費者取引に関連する法律、諸課題を考察します。				消費者取引について調べること。(4時間)				
13	ネット・ショップの現状	ネットショップの現状と課題について考察します。				今までの復習を行い、流通の課題を考えること。(4時間)				
14	地域流通事情	地域流通の現状と課題について考察します。				今までの復習を行い、地域流通の課題を考えること。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	流通総論で学んだ全体像を示し、日本の流通の課題を考察します。				今までの復習を行い、日本の流通の課題を考えること。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリント・資料の配布をもってテキストに代えます。				定期試験：80% 課題：20% 講義内容に沿った新聞記事を探し、発表することを課題とします。S:授業内容を高度に理解できる。A:授業内容を理解できる。B:授業内容をおおよそ理解できる。C:授業内容の60%を理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「基本流通用語辞典改訂版」宮澤永光監修著(白桃書房)				受講者は講義計画と講義の進み具合にあわせ、新聞や雑誌などから関連した記事を探し出し、常に実際の企業行動との結びつきを考えてください。販売士検定に対応します。						

科目名	マーケティング戦略		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KA26018	研究室	W-28
担当者	清水 聡子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日2限		
関連資格	高一(商業)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性	A		B		C		
履修対象入学年度(読替科目)										
授業概要										
企業は多くの製品やサービスを市場に投入します。企業が成長し、存続し続けるためには、消費者に受け入れられ、購入される必要があります。本講義ではマーケティング基礎での学習をもとに、企業のマーケティング戦略について事例を交えながら学びます。										
学修到達目標										
マーケティング戦略に関する実践的、応用的な知識を習得し、マーケティング・マネジメントの意義や役割について理解するとともに、自分の言葉で自分の考えをまとめる力や創造的思考の育成を目標とします。										
授業の進め方										
講義計画に従って、教科書と配布プリントを用いて教室にて授業を行います。それぞれの授業の構成は、前回の授業の復習、今回の授業のポイント、授業の中心部(メイン)、問題提起(来週の予告)と4部構成で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション	マーケティング戦略で学ぶ内容の全体像を示し、講義の進め方を説明します。					シラバスを読み、マーケティング基礎の講義を復習すること。(4時間)			
2	マーケティング情報システム	マーケティング情報システムとマーケティング調査について考察します。					教科書第5章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
3	製品戦略	製品計画(product planning)について考察します。					教科書第6章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
4	製品開発	製品開発(product development)とアンソフ(Ansoff, H.I.)の製品市場マトリックスについて考察します。					教科書第3章、第6章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
5	製品ライフサイクル	製品ライフサイクル(product life cycle)とロジャース(Rogers, E.M.)の製品の普及過程と採用者類型について考察します。					採用者類型のうち自分自身はどれに当てはまるか考えること。(4時間)			
6	ブランド戦略	ブランド(Brand)戦略とブランドの果たす役割について考察します。					第6章を読み、具体的な事例に当てはめて理解すること。(4時間)			
7	価格戦略	価格(Price)決定に影響を与える要因について考察します。					教科書第7章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
8	価格決定	価格設定の方法について考察します。					計算方法を学び、数字を扱うことに慣れること。(4時間)			
9	新製品の価格設定戦略	上澄み吸収価格設定(Market-skimming pricing)と市場浸透価格設定(Market-penetration pricing)について考察します。					教科書第7章を読み、具体的な事例に当てはめて理解すること。(4時間)			
10	チャンネル戦略	マーケティング・チャンネル(Marketing channel)戦略について考察します。					教科書第8章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
11	チャンネルの機能	マーケティング・チャンネル(Marketing channel)の機能について考察します。					教科書第8章、第9章、第10章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
12	チャンネル政策	伝統的マーケティング・チャンネルと垂直的マーケティング・システムについて考察します。					教科書第8章、第9章、第10章を読み、具体的な事例に当てはめて理解すること。(4時間)			
13	プロモーション戦略	プロモーション(Promotion)戦略について考察します。					教科書第11章を読み、わからない用語は調べること。(4時間)			
14	プロモーション・ミックス	企業のトータル・マーケティング・コミュニケーション・プログラムであるプロモーション・ミックス(Promotion mix)について考察します。					教科書第11章を読み、具体的な事例に当てはめて理解すること。(4時間)			
15	講義全体のまとめ	マーケティング戦略で学んだ全体像を示し、総まとめを行います。					今までの復習を行い、実践的な学びとすること。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「マーケティング概論」奥本勝彦・林田博光編著(中央大学出版部) ISBN:978-4-8057-3128-4(生協で購入してください。)					定期試験:100% S:授業内容を高度に理解できる。A:授業内容を理解できる。B:授業内容をおおよそ理解できる。C:授業内容の60%を理解できる。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「基本流通用語辞典改訂版」宮澤永光監修著(白桃書房)					マーケティング基礎を受講した学生を対象に、講義を展開します。講義計画と講義の進み具合にあわせ、教科書を読みましょう。また実際の企業行動との結びつきを考えてください。販売士検定に対応します。					

科目名	経営組織論		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KA26019	研究室	W-11
担当者	葛西 和廣		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
企業の経営において組織は不可欠である。1人の人間の力ではなしえない大きなことを組織という集団の力で行います。組織は単なる人々の集まりではなく、目的を達成するために組織化された集団です。本講義では組織の今日的課題である変革を目指すにあたり、組織をそもそもどのように考えればよいかに焦点を当て、理論やいくつかの枠組みについて説明します。さらには、グローバル化とIT化の中で、組織は具体的にどのように考察されるのかを解説し、現代企業の組織について理解を深めます。										
学修到達目標										
経営組織論の概念枠組と用語を用いて、組織における個人と集団の行動や、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を理解し、説明することができる。組織における個人と集団の活動や、現代社会における経営組織の活動を深く理解するための本質的な「問い」を、主体的に見いだすことができる。										
授業の進め方										
各講義に関連した資料を配布する。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方についての説明と導入講義。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
2	経営組織とは何か	経営組織に関する様々な基礎概念について説明する。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
3	時代の変遷と組織変革	戦後から現在までの日本における経済的变化を4つに区分し、区分別に組織がどのように変化してきたかを学ぶ。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
4	ITの発達と組織制度	ITの発達による組織の変化とその対応策について学ぶ。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
5	現代の組織戦略(1): フラット型組織	「組織のフラット化」に関する事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
6	現代の組織戦略(2): カンパニー制組織、持株会社	「カンパニー制組織や持株会社」に関する事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
7	M&A	「M&A」に関する事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
8	中間総括	初回から前回まで行った講義を総括し、内容確認を行う				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
9	アウトソーシング	「アウトソーシング」に関する事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
10	ERPシステム	「組織におけるERP導入」に関する事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
11	役員制度の改革	「役員制度の変革」に関する事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
12	ネットワーク型ビジネスシステム	「ネットワーク型ビジネスシステム」に関する事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
13	ネットワーク型組織	「ネットワーク型組織」に関する事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
14	人事システムの変革	「組織における人事システムの変革」に関する事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
15	講義全体のまとめ	講義全体を総括し、内容確認を行う。				配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
(講義にて配布します。) なし		定期試験: 80% レポート: 20% S: 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。A: 基本的な目標を十分に達成している。B: 基本的な目標を達成している。C: 基本的な目標を最低限度達成している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「ネットワーク社会の情報と戦略」金山茂雄ほか著(創成社) ISBN: 4794421788		言葉や知識は現実を明確に表現する道具なので、経営組織論を学ぶ場合も、企業経営の現実や事例と結びつけて言葉や知識を身につけることが大事である。								

科目名	ビジネスコミュニケーション		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	KL36020	研究室	W-12
担当者	八木 雅子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
ITを中心とした技術革新がめざましい今日となり、パソコン、携帯電話があれば、あらゆる情報収集も人との交流もできてしまう時代となりました。しかし、社会に出ると初対面の人や幅広い年齢層の人とコミュニケーションを取ることが求められるようになります。この時求められるコミュニケーション能力の基本を、日常のマナー、職場のマナーを学んで習得します。										
学修到達目標										
人との相互理解が瞬時にでき、円滑な人間関係を結ぶために必要な基礎的なマナーと社会人としての心構え、職場でのマナーを学び周囲への気配りができる人間、社会に出て恥をかかずに活躍する人間、社会で必要とされる人材となる。										
授業の進め方										
講義は座学とロールプレーを取り入れ進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンス・学生と社会人生活の違い・社会人としての心構えを学びます。				配布資料を読んでください。(4時間)				
2	社会人の人間関係	組織の中の人間関係について学びます。				資料の振り返りと小テストの準備をしてください。(4時間)				
3	挨拶と身だしなみ	挨拶と身だしなみの基本と、人間関係づくりに及ぼす、影響力について学びます。				事前配布資料を読んできてください。(4時間)				
4	コミュニケーション技法 声の出し方・活舌の練習	映像を使い聞く人を意識した声の出し方、言葉の発音を学びます。				資料を基に滑舌の練習を続けてください。小テストの振り返りをしてください。(4時間)				
5	コミュニケーション技法 表情	感情と脳波と表情の関係について学びます。自分の表情の研究をします。				自分の表情づくりを研究してください。(4時間)				
6	立ち居振る舞い	正しい姿勢・お辞儀・歩き方を学びます。				正しい姿勢、歩き方を実践してください。(4時間)				
7	言葉使い	正しい敬語を学びます。				事前配布の演習問題をしてください。次回実施の小テストの準備をしてください。(4時間)				
8	言葉使い	職場の言葉使いについて学びます。				事前資料を読んでください。(4時間)				
9	言葉使い	人と話をするときの話し方・聞き方を学びます。				小テストの振り返りと次回実施の小テストの準備をしてください。(4時間)				
10	職場の対人マナー	接遇とは何かを学びます。正しい席次を学びます。				小テストの振り返りをしてください。(4時間)				
11	職場の対人マナー	名刺の取扱い・案内の要領を学びます。				授業の復習、次回小テストの準備をしてください。(4時間)				
12	電話応対	電話の基本対応を学びます。				事前配布資料を読んできてください。(4時間)				
13	電話応対	電話の応用対応(苦情電話・道案内・間違い電話など)を学びます。				事前配布資料を読んできてください。(4時間)				
14	食事のマナー	和食のテーブルマナーを学びます。				事前配布資料を読んできてください。(4時間)				
15	食事のマナー	洋食のテーブルマナーを学びます。				事前配布資料を読んできてください。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
適宜プリントを配布します。				定期試験：70% 小テスト：30% S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。 A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。 B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がおおよそ解ける。 C:授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「実践ビジネスマナー」(株)ウィネット ビジネスマナー研究会 「コミュニケーション」(株)ウィネット プレゼンテーション学研究会				学生から社会人、企業人の常識へとシフトチェンジする授業です。基本的なマナーを身につけることで人間関係を円滑に結び、自信を持って社会で活躍できる人材となるように学びましょう。						

科目名	経営戦略論		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KL36021	研究室	W-11	
担当者	葛西 和廣		必修選択	必修	科目種別	講義	オイスア-	火曜日4限			
関連資格	高一(商業)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)								
		A	B	C							
授業概要											
<p>会社は経営環境の変化に応じて会社の行動を変更し、時々の方針のもとで、機敏に行動しなければなりません。経営理念は会社がゴーイング・コンサーンとして長期的に存続するための、いわばバックボーンのようなものです。そして、5年、10年の期間では、その時々経営条件に対応した戦略が必要になります。本講義では、数多くある経営戦略手法の中から、基本パターンをピックアップして、環境分析、成長戦略、競争戦略などの流れに沿って説明し、経営戦略の知識を習得します。</p>											
学修到達目標											
<p>経営戦略論の基礎概念をしっかりと身につけその後の専門科目の学習に生かせるようになること、具体的なケーススタディを基にしてそこから経営戦略論の基礎理論に整理して理解出来るようになることを学習達成目標とします。</p>											
授業の進め方											
各講義に関連した資料を配布する。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方についての説明と経営戦略の概略に関する講義					配布した資料を読んでおくこと。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
2	経営戦略とは何か	経営戦略とはいかなるプロセスを経て作成されるのかを学ぶ。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
3	業界環境分析、内部環境分析、市場調査手法	「業界環境分析と内環境分析」に関する手法と「市場調査」に関する手法」に関する説明および事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
4	企業ドメイン	「企業ドメイン」の概念に関する説明と事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
5	企業の成長ベクトル	「企業の成長ベクトル」の概念に関する説明と事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
6	多角化戦略	「多角化戦略」の概念に関する説明と事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
7	PPM	「PPM」の概念に関する説明と事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
8	中間総括	初回から前回まで行った講義を総括し、内容確認を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
9	ビジネススクリーン、撤退戦略	「ビジネススクリーン」および「撤退戦略」の概念に関する説明と事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
10	成長戦略の具体的展開	「成長戦略」の具体的事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
11	競争5要因分析	「競争5要因分析」の概念に関する説明と事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
12	市場細分化、ポジショニングマップ	「市場細分化」および「ポジショニングマップ」の概念に関する説明と事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
13	競争3基本戦略	「競争3基本戦略」の概念に関する説明と事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
14	競争地位別4戦略	「競争地位別4戦略」の概念に関する説明と事例検討を通じた現代的意義と課題の考察を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
15	講義全体のまとめ	講義全体を総括し、内容確認を行う。					配布した資料を読んでくること。講義後はノートを見直して要点を整理すること(4時間)。				
テキスト			成績評価の方法・基準								
(講義にて配布します。)なし			<p>定期試験：80% レポート：20% S: 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。A: 基本的な目標を十分に達成している。B: 基本的な目標を達成している。C: 基本的な目標を最低限度達成している。</p>								
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「ネットワーク社会の情報と戦略」金山茂雄ほか著(創成社) ISBN: 9784794421784			言葉や知識は現実を明確に表現する道具です。経営戦略を学ぶ場合も、経営の現実や事例と結びつけて言葉や知識を身につけることが大事です。								

科目名	サービスマーケティング		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36022 TA36007	研究室	W-17
担当者	益山 代利子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観○								
授業概要										
今、世界経済成長の牽引力がサービス部門にシフトし、GNPや労働人口に占めるサービス分野の割合は拡大しているにもかかわらず、日本のサービスビジネスは、製造業との比較において生産性の低さやグローバル化の遅れが目立っているとされています。本講義では、サービス企業の成功例を吟味しながら、サービス産業に求められるマーケティング理論を体系的に学び、身近なサービスの現場に照らし合わせて考える能力を養います。										
学修到達目標										
サービスの特徴を理解した上で、サービスの経営を体系立てて考えるための一般的な理論と方法を習得すること。										
授業の進め方										
テキストと参考資料を基にすすめます。講義の形式は主にスライドを使用しますが、内容に応じてビデオも併用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	サービス・マーケティングの概要	サービスの経営や販売に関して、サービス・マーケティングの学問領域ではどのような課題を扱うかを説明します。				テキスト第1章、第2章を読む。(4時間)				
2	サービスとは何か	商品としてのサービス、サービス商品の特徴をモノ製品と比較して考えます。				テキスト第3章、第4章を読む。(4時間)				
3	サービスの分類と構成要素	サービス商品の構成要素と分類の仕方について学びます。				テキスト第5章、第8章を読む。(4時間)				
4	サービス・エンカウンター設計	サービス商品の特徴を理解した上で、サービス・エンカウンター(接遇)の設計方法について整理します。				テキスト第6章、第7章を読む。(4時間)				
5	サービスの品質	サービスの品質の重要性、特徴、基準、顧客満足と顧客価値の関係について学びます。				テキスト第9章を読む。(4時間)				
6	サービス・マーケティング・ミックス	サービス・マーケティング・ミックスの特徴、内容、顧客価値の実現とサービス組織についての考え方を整理します。				テキスト第10章、第11章を読む。(4時間)				
7	サービス・マーケティング・ミックス: サービス商品開発	サービス商品開発について学びます。グループワークを用いて、実在企業のサービス商品について考えます。				企業のサービス商品について事前に調査する。(4時間)				
8	サービス・マーケティング・ミックス: 流通	サービス商品の流通、立地条件について学びます。				企業のサービス商品の流通について調査する。(4時間)				
9	サービス・マーケティング・ミックス: 販売促進	サービス商品のプロモーション手法について学びます。				企業のサービス商品の販売促進方法について調査する。(4時間)				
10	サービス・マーケティング・ミックス: 価格	サービス商品の価格設定の手法について説明します。				企業のサービス商品の価格について調査する。(4時間)				
11	サービス・マーケティング・ミックス: 人材	人材育成やモチベーション理論などを踏まえたインターナル・マーケティングについて説明します。				企業の従業員研修や労働意欲維持に関する取組について調査する。(4時間)				
12	サービス・マーケティング・ミックス: 物的環境・サービス・デリバリー・シス	サービスの空間デザインとサービスを提供する過程について説明します。				テキスト第12章を読む。(4時間)				
13	サービス・プロフィット・チェーン	サービスの利益構造、顧客満足度、顧客ロイヤルティの関係について説明します。				テキスト第13章を読む。(4時間)				
14	苦情対応と顧客ロイヤルティ	苦情対策と顧客ロイヤルティ、リレーションシップ・マーケティングについて学びます。				テキスト第14章を読む。(4時間)				
15	サービス・マーケティングと顧客価値創造	まとめ				資料確認、試験対策 (4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「サービスマーケティング第2版」近藤隆雄著(生産性出版) ISBN:978-4-8201-1949-4(生協で購入してください。)				課題:30% 定期試験:70% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解け、他の学生の前で発表できる。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって内容に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおよるを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「コトラーのプロフェッショナル・サービス・マーケティング」フィリップ・コトラー他著(ピアソン・エデュケーション)				「マーケティング基礎」の単位を修得していることが望ましい。						

科目名	ITビジネス論			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36023	研究室	W-32
担当者	小林 俊一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限		
関連資格	高一(情報)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
ITビジネスの発展は、非常にめざましいものがあります。「インターネットで買えないものはない」「インターネットで出来ないことはない」と言われるようになってきています。ITビジネスで利用されているサービスや、技術について学習することを目的とします。アフィリエイト、ドロップショッピングなど、現状で誰でも手軽にできるITビジネスについても学習します。また、ITビジネスに不可欠な独自ドメインの取得やレンタルサーバーの利用、キーワード連動型広告、SEO対策などについても学習を行います。											
学修到達目標											
ITビジネスを理解することが目標です。ITビジネスのサービスや技術を理解することが目標となります。また、ドロップショッピングを使った簡単なネットショップを作成できるようになることも目標としています。											
授業の進め方											
ITビジネスを、コンピュータとインターネットを使いながら学習します。ITビジネスを体験的に理解するために、コンピュータ教室を利用して授業を行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンスを行います。	ITビジネス論の授業内容について説明します。電子商取引とは何か、電子マネーについても説明します。					電子商取引、電子マネーを復習します。(4時間)				
2	eマーケットプレイス、インターネット調達など	eマーケットプレイス、インターネット調達、インターネットマーケティングなどについて解説します。					配付資料を復習して下さい。(4時間)				
3	ネット広告に関する学習	インターネット広告、Yahooリスティング広告、googleアドワーズ広告、google AdSenseなどについて学習します。					ネット広告について、復習します。(4時間)				
4	ネットショップについて説明します。	ネットショップとドロップショッピングについて説明します。					ネットショップについて、復習します。(4時間)				
5	ネットショップを作成してみます。	ドロップショッピングを使って、簡単なネットショップを作成してみます。					ネットショップについて、復習します。(4時間)				
6	レンタルサーバについて	レンタルサーバについて説明します。無料レンタルサーバを借りて、前に作成した自分のお店をサーバにアップロードしてテストしてみます。					レンタルサーバについて復習します。(4時間)				
7	ネットショップと独自ドメインについて説明します。	ネットショップと独自ドメインについて説明します。独自ドメインの取得の仕方について、体験的に学習します。					独自ドメインについて、復習します。(4時間)				
8	セカンドライフ、アフィリエイトとブログなどについて	セカンドライフ、アフィリエイトとブログなどについて説明します。セカンドライフのビデオを見ます。アフィリエイトについて、体験的に学習します。					アフィリエイトについて復習します。(4時間)				
9	アクセス解析、SEO対策について	Webアクセス解析とは何かについて説明します。また、SEO対策について説明します。googleについてのSEOに関するビデオを見ます。					アクセス解析、SEO対策について、復習します。(4時間)				
10	インターネットショップで成功している会社	amazon、楽天、Yahooショッピングなどについて、説明します。amazonについてのビデオを見ます。					配布資料を復習します。(4時間)				
11	トレーサビリティ、RFID、FMSについて	トレーサビリティ、RFID、FMSについて説明します。					配布資料を復習します。(4時間)				
12	クリック・アンド・モルタル、POSシステム、FSPなどについて	クリック・アンド・モルタル、POSシステム、FSPなどについて説明します。					配布資料を復習します。(4時間)				
13	データマイニングなどについて	データマイニングと、ネットビジネスについて説明します。					配布資料を復習します。(4時間)				
14	クラウドコンピューティング、EDIなどについて	クラウドコンピューティング、システムインテグレーション、EDIなどについて、説明します。					配布資料を復習します。(4時間)				
15	講義のまとめ	ITビジネス論の授業のまとめを行います。					配布資料を復習します。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
プリントを配布します。				課題：30% 定期試験：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「ITビジネスの原理」尾原 和啓著(NHK出版) ISBN:4140816244				企業にとって、ITビジネスは重要になってきています。ITビジネスを理解しておくことは必要だと思います。授業以外でも、どのようなITビジネスがあるのかを自分なりに調べてみて、理解を深めるように努めてください。							

科目名	オペレーションズリサーチ		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36024	研究室	W-23
担当者	田中 正敏		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
経営・経済は複雑な問題が絡んでいるので、いろいろな考えを考慮に入れて対処していかなければなりません。このとき、経営者や意思決定者は勘や過去の経験で意思決定を行うと、多大な被害を被る可能性が大きくなります。そこで、この授業では、それらの問題を経営科学の問題として、モデルの定式化およびその解法を教授します。具体的な題材をテーマにモデルの構築、解析、評価を行います。										
学修到達目標										
モデル化と定量的評価の習得。										
授業の進め方										
基本的には教科書を用いて講義を進めます。但し、講義方法も受講生に対して興味が生じるようにPowerPointやプロジェクトなども使用します。講義が受講生に対して一方通行にならないように行うことを考えています。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	経営科学の歴史および学問の位置付け				経営科学の歴史の習得と算数・数学の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
2	グラフ, 数学	グラフ, 数学関連の定義と用語説明				グラフ, 数学の習得と情報関連の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
3	情報関連	情報関連の定義と用語説明				情報関連の習得と経済・経営関連の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
4	経済・経営関連	経済・経営関連の定義と用語説明				経済・経営関連の習得と意思決定の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
5	意思決定	静的な場合の意思決定(最適化理論)				静的な意思決定の習得と意思決定の応用の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
6	意思決定の応用(1)	線形計画法, 輸送計画法, PERT法など				LP, PERTの習得と意思決定の応用の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
7	意思決定の応用(2)	在庫管理法, MRP, スケジューリング法				MRP, SK法の習得とゲーム理論の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
8	戦略的意思決定	動的な場合の意思決定(ゲーム理論)				ゲーム理論の習得と生産・消費関数の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
9	戦略的意思決定の応用(1)	消費者行動・生産者行動				生産・消費関数の習得と情報の非対称性の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
10	戦略的意思決定の応用(2)	情報の非対称性(保険の場合)				情報の非対称性の習得と資格の非対称性の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
11	戦略的意思決定の応用(3)	情報の非対称性(資格の場合)				資格の非対称性の習得とSCMの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
12	戦略的意思決定の応用(4)	サプライチェーン・マネジメント(契約理論)				SCMの習得とSCMコーディネーションの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
13	戦略的意思決定の応用(5)	サプライチェーン・コーディネーション				SCMコーディネーションの習得とWin-Win関係の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
14	戦略的意思決定の応用(6)	消費者と販売者のWin-Win関係				Win-Win関係の習得と将来像の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
15	ORの将来展望	オペレーションズリサーチの将来展望				将来像の習得・まとめ(週に4時間必要)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「データから読み解く経営学」田中正敏著(創成社) ISBN:978-4-7944-2442-6(生協で購入してください。) 予習・復習をしっかりと行うこと				定期試験:60% 出席レポート:20% 受講態度:20% S:講義中に対して積極的に質問をし、到達目標値それ以上の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容を理解して正しく文章で表現することができる。B:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解して正しく文章で表現することができる。C:到達目標値を理解、各回の授業で学んだことを理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「サプライチェーンマネジメント入門」松川、中島、武田、田中著 ISBN:978-4-254-27016-7C3050				ものごとを論理的思考で考えてもらいたい。						

科目名	社会調査論		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KL36025 TL36009	研究室	W-18
担当者	林 昌孝		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義は、社会現象をデータの収集と分析により明らかにする、社会調査について学びます。調査研究しようとする対象の設定や調査方法、得られたデータの整理と検討についての基礎理論を説明し、分析・検討の方法について学びます。基礎統計学の続編に位置します。										
学修到達目標										
アンケートの調査により得られたデータを適切な方法で表現したり、仮説検定ができる。										
授業の進め方										
講義用テキストを配布して授業を進めます。教室での講義とパソコン(エクセル)での実習・演習をおこないながらすすめます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	受講条件の確認をおこない、進め方について説明をします。				シラバスを読んで質問等をまとめてきてください。資料を配布します(4時間)。				
2	社会調査の目的と種類	社会調査の目的と種類について説明します。				テキスト(社会調査の目的と種類)を読んできてください(4時間)。				
3	数値データ表現	量的調査とデータ表現について説明します。				テキスト(数値データ表現)を読んできてください(4時間)。				
4	カテゴリデータ表現	質的調査とデータ表現について説明します。				テキスト(カテゴリデータ表現)を読んできてください(4時間)。				
5	社会調査の進め方	社会調査の進め方と整理の方法について説明します。				テキスト(社会調査の進め方と整理)を読んできてください(4時間)。				
6	データ表現演習	いろいろなデータの表現方法について演習形式で学びます。				テキスト(データ表現演習)を読んできてください。確認問題があります(4時間)。				
7	標本調査に関する理論	母集団と標本調査に関する理論について説明します。				テキスト(母集団と標本調査に関する理論)を読んできてください(4時間)。				
8	推定と検定の基礎理論	推定と検定の基礎理論について説明します。				テキスト(推定と検定の基礎理論)を読んできてください。確認問題があります(4時間)。				
9	確率分布と検定理論	いろいろな確率分布と検定の対応について説明します。				テキスト(確率分布と検定理論)を読んできてください(4時間)。				
10	t分布による検定	t分布による検定方法について説明します。				テキスト(t分布による検定)を読んできてください(4時間)。				
11	カイ二乗分布による検定	カイ二乗分布による検定について説明します。				テキスト(カイ二乗分布による検定)を読んできてください(4時間)。				
12	標本数が異なる異なる場合の検定	標本数が異なる異なる場合の検定について説明します。				テキスト(標本数が異なる異なる場合の検定)を読んできてください(4時間)。				
13	分散分析とF分布の理論	分散分析とF分布の理論について説明します。				テキスト(分散分析とF分布の理論)を読んできてください。確認問題があります(4時間)。				
14	発展分野	社会調査の発展分野について説明します。				資料配布しますので読んできてください(4時間)。				
15	課題とまとめ	各自が社会調査を実際に行って結果の検討をおこないます。				課題と確認問題があります(4時間)。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
講義用テキスト及びプリントを配布します。		定期試験：70% 出席レポート：30% S：授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。A：授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。B：授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。C：授業内容の6割程度を理解している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
2年配当科目「基礎統計学テキスト」林昌孝編著(松本大学)適時紹介します。		本科目は「基礎統計学」「情報処理」の知識を基礎にしています。また、パソコン教室を利用するため履修者制限する場合があります。								

科目名	アグリビジネス経済学		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KA36026	研究室	W-09
担当者	成 蒼政		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義では、理論的なベースが大切ですのでアグリビジネス経済の基礎理論(原理と手法)について熟知してもらいます。その上、私たちを取り巻くアグリビジネス経済とその関連産業(部門)の実態を分析する力を養います。アグリビジネス経済学は、1つの産業としての農業、農業者が居住し、農地がある農村地域社会、そして実際農業を営む農業者を研究対象にする経済学の応用学問です。できる限り、この3つの要素を講義の中で取り入れて進めていきます。										
学修到達目標										
1.アグリビジネス経済学の基礎理論(原理と分析手法)を理解すること。 2.アグリビジネス経済学の理論と現実の経済との関係を理解すること。 3.これを通じて現実のアグリビジネスに関わる諸問題を分析、応用・考察する能力を身につけること。										
授業の進め方										
基本的にはテキストの内容を中心に、教員が作成した資料をプロジェクター等を活用し、講義を行います。また、できる限り必要に新聞記事などのプリントも配布して使用します。植物工場などへのアウトキャンパス・スタディも1回行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション(高度資本主義社会における農業の役割と機能)	資本主義の成立と農業問題、アグリビジネスの特徴、農業問題の成立と展開、農業の多面的機能などについて講義します。				事前：資本主義と農業の特徴について調べる。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
2	地域社会とアグリビジネス経済	農村コミュニティの役割と機能、地域活性化のためのアグリビジネスの役割と実態などについて講義します。				事前：信州地域農業の実態について調べる。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
3	アグリビジネスの動向と食料の需給	日本農業の動向、アグリビジネスと法人化、日本の食料の需要と供給の実態などについて講義します。				事前：日本農業の動向について調べる。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
4	アグリビジネス組織論	グローバリゼーション下の農家・農業・アグリビジネス組織、農政の展開と農家・農業・アグリビジネス組織などについて講義します。				事前：農業関連組織の概要について調べる。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
5	アグリビジネスの経営管理	アグリビジネス経営管理の基礎理論、商品開発、販路開拓、財務管理、そして経営革新などについて講義します。				事前：経営管理の基礎理論について熟知すること。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
6	生産経済学の基礎理論	生産と費用、生産関数、短期と長期の費用などについて講義します。				事前：生産経済の基礎理論について熟知すること。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
7	アグリビジネス市場分析	アグリビジネス市場の規模、構造、特性、そして市場分析の理論と手法などについて講義します。				事前：市場分析の基礎理論について熟知すること。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
8	アグリビジネス政策	日本におけるアグリビジネスの政策(支援事業と政策的取り組み)について講義します。				事前：アグリビジネス政策の概要を調べる。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
9	アグリビジネス流通	農産物の加工・流通から農業に関連した農業・肥料・農業資材・農業機械などの流通について講義します。				事前：流通の基礎理論について熟知すること。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
10	アグリビジネス貿易	日本における農産物貿易の現状、多国籍アグリビジネスの展開、穀物メジャーの戦略、TPPの現状と課題などについて講義します。				事前：TPPについて調べる。事後：授業で配布した資料を熟知すること。(4時間)				
11	アグリビジネス戦略	アグリビジネスの新たな企業戦略(環境分析から戦略の構築まで)などについて講義します。				事前：経営戦略の基礎理論について調べる。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
12	アグリビジネスの経営分析と診断	経営分析と経営診断の手法をふまえ、実際にアグリビジネス企業のデータを用いて経営分析と経営診断を行います。				事前：経営分析の基礎理論について調べる。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
13	食料安全保障と植物工場	食料安全保障の現状、日本における植物工場の現状、課題などについて講義します。アウトキャンパス・スタディを開催します。				事前：日本の植物工場について調べる。事後：配布した資料を熟知すること。(4時間)				
14	農業協同組合論	日本の農業協同組合の形成、農協の組織形態、農協の事業と経営、農協の改革、そして農協の課題などについて講義します。				事前：日本の農協について調べる。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
15	総まとめと定期試験対策	14回までの講義の要点、定期試験対策などを行います。				事前：14回までの講義資料を熟知すること。事後：資料を熟知すること。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリント・資料の配布。		レポート：50% 定期試験：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「法人農業経営の経営戦略と診断」成蒼政著(松本大学出版会) ISBN: 4-902915-01-4 2004年12月		現代産業社会における農業(アグリビジネス)の多面的機能の重要性を認識し、積極的な態度で授業に臨み、最大限の知識を身につけて欲しい。								

科目名	ビジネスシミュレーション		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパリング	KA36027	研究室	W-23	
担当者	田中 正敏		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限			
関連資格	高一(情報)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
マネジメントゲーム(MG)というビジネスシミュレーションゲームを習得することで、戦略的意思決定能力、データ分析能力、レポート作成能力を養うことを目的としています。このマネジメントゲーム(MG)では、製造業における戦略的意思決定能力(交渉、駆け引きなど)を育てます。実習を行うために、まず、準備段階として、人事管理、組織・戦略、オペレーションズ、マーケティング、ファイナンス・会計、意思決定の各々の演習を机上で行います。											
学修到達目標											
意思決定の習得(代替案と意思決定)											
授業の進め方											
シミュレーション実験を行う前に、机上での演習の講義を7、8回行います。その後、マネジメントゲーム(MG)を行います。最後に、シミュレーション実験・演習後のレポート作成を行う指導をします。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	ビジネスシミュレーションのねらい・進め方					シミュレーションの習得とMGゲームの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
2	ビジネスシミュレーションの構成、評価	マネジメントゲームの説明					MGゲームの習得と意思決定の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
3	人事管理	アンケート調査の演習問題およびその解決方法					アンケート調査法の習得とグループマッピングの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
4	組織・戦略	戦略グループ・マップの演習問題およびその解決方法					グループマッピングの習得とTOCの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
5	オペレーションズ(1)	TOCの演習問題およびその解決方法					TOCの習得とMRPの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
6	オペレーションズ(2)	MRPの演習問題およびその解決方法					MRPの習得と利益拡大の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
7	マーケティング	利益拡大の演習問題およびその解決方法					利益拡大の習得と設備投資の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
8	会計	設備更新の演習問題およびその解決方法					設備投資の習得と投資の可否の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
9	ファイナンス	投資の可否の演習問題およびその解決方法					投資の可否の習得と確率論的な意思決定の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
10	意思決定(1)	テーマパークの天候の演習問題およびその解決方法					確率論的な意思決定の習得と決定論的な意思決定の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
11	意思決定(2)	医療機器の販売計画の演習問題およびその解決方法					決定論的な意思決定の習得とMGの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
12	マネジメントゲーム(1)	経営シミュレーションの実習(1-2期のデータの取得)					MGの習得とデータ収集法の考え方・まとめ(週に4時間必要)				
13	マネジメントゲーム(2)	経営シミュレーションの実習(3-4期のデータの取得)					MGの習得とデータ収集法の考え方・まとめ(週に4時間必要)				
14	マネジメントゲーム(3)	経営シミュレーションの実習(5-6期のデータの取得)					MGの習得とデータ収集法の考え方・まとめ(週に4時間必要)				
15	レポート作成	損益分岐点の求め方、それに基づいての意思決定					レポートのまとめ方の習得(週に4時間以上必要)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「データから読み解く経営学」田中正敏著(創成社) ISBN:978-4-7944-2442-6(生協で購入してください。)				定期試験:60% 出席レポート:20% 受講態度:20% S:講義中に対して積極的に質問をし、到達目標値それ以上の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容を理解して正しく文章で表現することができる。B:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解して正しく文章で表現することができる。C:到達目標値を理解、各回の授業で学んだことを理解できる。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
講義中に連絡する。				ものごとを論理的思考で考えてもらいたい。この科目は経営学の総合的な科目であるので、できるだけ経営全般の基礎および応用の科目を修得しておくことが望ましい。							

科目名	情報倫理		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	KL16028	研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	水曜日2限		
関連資格	高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 情報倫理と法					
授業概要										
皆さんはネットワークに囲まれた情報化社会に暮らしています。この情報にあふれた社会で、便利にそして安全に暮らしていく方法を考えます。										
学修到達目標										
情報にあふれたネットワーク社会の利便性と危険性を理解し、安全かつ便利に暮らしていくことを考えられるようになる。										
授業の進め方										
"情報"の絡んだ現代的な話題をとりあげ、特徴と問題点を解説します。便利で安全な使い方を一緒に考えて行きましょう。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	ガイダンス 情報倫理では何を問題とするか				身の回りのネット問題を拾い出す。(4時間)				
2	スマホはコミュニケーションを変えたか	生活の中でのスマホの働きを改めて考えて見ましょう				生活の中での、スマホとSNSの役割を考える。(4時間)				
3	SNS	ラインやツイッターについて考えてみよう				ラインやツイッターがなかった場合の生活を考える。(4時間)				
4	ネット上の犯罪	これをやったら犯罪になる。皆さんはいくつわかるでしょうか?				ネットが絡んだ意外な犯罪の記事を探す。(4時間)				
5	詐欺のしかけかた	オレオレ詐欺の手口を学びましょう				オレオレ詐欺の具体的手口を調べる。(4時間)				
6	ネット情報は正しいか(1)	災害時のデマの例				災害時のデマの実例を調べる。(4時間)				
7	ネット情報は正しいか(2)	健康をめぐる怪しい話				怪しい健康情報の具体例を調べる。(4時間)				
8	ネット情報は正しいか(3)	ヘイトとネットウヨ				ネットウヨの具体例を調べる。(4時間)				
9	ネット情報は正しいか(4)	ウィキペディアやブログを信じるか				怪しいブログを探す。(4時間)				
10	著作権	コピーと論文作成作法				盗作事件の実例を調べる。(4時間)				
11	プライバシー	インターネット社会における表現の自由とプライバシー				自分のプライバシーがネット上にないか調べてみる。(4時間)				
12	ビッグデータ	インターネットとビッグデータの活用				ビッグデータを使っているデータ活用例を調べてみる。(4時間)				
13	インターネットが悪いのか?	通信技術の歴史とインターネット				インターネットの歴史を調べてみる。(4時間)				
14	インターネット社会の倫理	倫理的視点からのインターネット社会の諸問題				インターネット固有の倫理的な問題を考えてみる。(4時間)				
15	まとめ	全体の講義のまとめ				第1回から第14回の講義までの復習(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
指定テキストはありません。適宜プリントや資料を配布します。授業にあわせて、インターネットや図書館で調べてください。				定期試験：90% 出席レポート：10% S:情報社会における倫理に関する発展的な問題を考察できる。 A:情報社会における倫理に関する応用的な問題を考察できる。 B:情報社会における倫理に関する標準的な問題を考察できる。 C:情報社会における倫理に関する基礎的な問題を考察できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				インターネットという身近なメディアに、どのような可能性や危険性が伴うのかを意識しながら受講してください。						

科目名	コンピュータ概論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KL26029	研究室	W-23
担当者	田中 正敏		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日3限		
関連資格	高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
インターネットが発達してきている現代においては、文字だけでなく、音声、画像もデジタル化されて、それらの情報がインターネットを通じて世界中とやり取りされています。この授業では、情報の表現方法、コンピュータの仕組み(ハードウェアとソフトウェア)、データベース、ネットワークおよび通信のセキュリティなどの基本的なことを理解できるようになることを目指します。特に、計算問題から理解度を高めていきます。										
学修到達目標										
コンピュータ基礎理論および計算法										
授業の進め方										
授業は講義を中心に行う。できるだけプリントを配布します。理解度を深めるために、計算の演習問題を中心に解く。進捗度に応じて小テストを行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方、ねらい				計算法の習得とデータ・表記の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
2	データ・情報の表記	データ変換やP進数の計算方法				データ・情報の表記の習得と論理計算の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
3	論理計算	和、差、積、商など				論理計算の習得と論理式・集合演算の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
4	論理式と集合演算	利用方法				論理式と集合演算の習得とCPU性能の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
5	CPU性能(1)	MIPS値と平均命令実行時間の計算方法				MIPS値と平均命令実行時間の習得とクロック周波数の考え方の準備				
6	CPU性能(2)	クロック周波数を用いた計算方法				クロック周波数の習得と実行メモリアクセスの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
7	実行メモリアクセス	実行メモリアクセス時間の計算方法				実行メモリアクセスの習得と磁気ディスクの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
8	磁気ディスク(1)	磁気ディスクの記憶容量の計算方法				磁気ディスクの記憶容量の習得とアクセス時間の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
9	磁気ディスク(2)	アクセス時間の計算方法				アクセス時間の習得とマルチプログラミングの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
10	マルチプログラミング	マルチプログラミングの処理時間の計算方法				マルチプログラミングの習得とコンピュータ処理時間の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
11	コンピュータ処理時間	レスポンスタイム、ターンアラウンドタイム				コンピュータ処理時間の習得と信頼性の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
12	信頼度計算と意味	MTBFとMTTRおよびシステム稼働率				信頼度計算と意味の習得と非同期方式の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
13	非同期方式の利用率	非同期方式の利用率の計算方法				非同期方式の利用率の習得と符号化の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
14	符号化	符号化の意味、使い方				符号化の習得と日程計画の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
15	日程計画	スケジューリング、PERT				日程計画の習得・まとめ(週に4時間必要)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
自作テキストを使用する。				定期試験：60% 出席レポート：20% 受講態度：20% S:講義中に対して積極的に質問をし、到達目標値それ以上の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容を理解して正しく文章で表現することができる。B:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解して正しく文章で表現することができる。C:到達目標値を理解、各回の授業で学んだことを理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業中に連絡する。				コンピュータ計算は基本的には加減乗除ですので地道に計算してください。ITパスポート試験に対応します。						

科目名	情報とビジネス		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KL26030	研究室	W-23
担当者	田中 正敏		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日3限		
関連資格	高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
21世紀を迎え、IT(Information Technology:情報技術)は企業のみならず、社会全般にますます大きな影響を及ぼしつつあります。ここ数年、インターネットに代表されるITの発展とその活用は、さまざまな局面において変化の速さを演出しています。これに対応するためには、まず、ITの知識や動向を把握し、さらに、それがビジネスでどのように生かされ、人間社会にどのような影響を与えるのか検討していくことを教授します。										
学修到達目標										
社会におけるコンピュータの位置付けの習得										
授業の進め方										
基本的には教科書を用いて講義を進めます。但し、講義方法も受講生に対して興味が生じるようにPowerPointやプロジェクトなども使用します。講義が受講生に対して一方通行にならないように行うことを考えています。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業ののねらい・進め方(情報化社会とその特徴)				情報処理の考え方の習得と企業活動の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
2	企業活動	財務諸表、損益分岐点、作業計画、パレート図、業務フロー				企業活動の習得と法務の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
3	法務	知的財産権、個人情報保護法、労働基準法、企業の規範など				法務の習得と経営戦略マネジメントの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
4	経営戦略マネジメント	SWOT分析、PPM、顧客満足度、CRM、SCMなど				経営戦略マネジメントの習得と技術戦略マネジメントの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
5	技術戦略マネジメント	技術開発戦略の意義、目的など				技術開発戦略の習得とビジネスインダストリーの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
6	ビジネスインダストリー	電子商取引、POSシステム、情報家電や組込みシステムの特徴・動向				ビジネスインダストリーの習得とシステム戦略の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
7	システム戦略	意義と目的および目標、作業改善、問題解決の考え方				システム戦略の習得とシステム企画の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
8	システム企画	業務条件定義、見積書、RFP、提案書の流れ				システム企画の習得とシステム開発技術の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
9	システム開発技術	要求定義、設計、レビュー、開発、テストおよび保守				システム企画の習得とソフトウェア開発管理技術の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
10	ソフトウェア開発管理技術	ウォーターフォールモデル、スパイラルモデルなど				ソフトウェア開発管理技術の習得とソフトウェアマネジメントの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
11	プロジェクトマネジメント	意義、目的、考え方、プロセス、手法				プロジェクトマネジメントの習得とサービスマネジメントの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
12	サービスマネジメント	ITSMの意義、目的、考え方				サービスマネジメントの習得とシステム監査の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
13	システム監査	内部統制、ITガバナンスの意義、目的、考え方				システム監査の習得とコンピュータ構成要素の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
14	コンピュータ構成要素	構成、記憶媒体の種類と特徴、入出力インターフェースの種類と特徴				コンピュータ構成要素の習得とマルチメディアの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
15	マルチメディア	JPEG、MPEG、MP3など、符号化の特徴、情報の圧縮と伸長、メディアの特徴				マルチメディアの習得・まとめ(週に4時間必要)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「ITパスポート合格教本 CBT対応(情報処理技術者試験)[単行本](ソフトカバー)」岡崎裕史著(技術評論社)(生協で購入してください。)				定期試験：60% 出席レポート：20% 受講態度：20% S:講義中に対して積極的に質問をし、到達目標値それ以上の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容を理解して正しく文章で表現することができる。B:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解して正しく文章で表現することができる。C:到達目標値を理解、各回の授業で学んだことを理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義中に連絡する。				この科目は「情報システム論」「コンピュータ概論」を合わせて履修してもらいたい。国家試験の「ITパスポート」の受験範囲をこの3科目で網羅しています。						

科目名	マルチメディア論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	KL26031	研究室	W-31	
担当者	室谷 心		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限			
関連資格	高一(情報)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>コンピュータは絵や音、動画など多彩な形式のデータのプレイヤーであり、マルチメディアデータを使ったコミュニケーションツールです。この授業では、人間同士のコミュニケーションの媒体であるマルチメディアデータの基礎知識を学びます。情報の受け手である人間のセンサー性能や分析能力を意識しながら、パソコンで絵や音楽、動画データなどマルチメディアデータを扱う代表的なアプリケーションを体験し、基本的な知識と技能を身につけましょう。</p>											
学修到達目標											
マルチメディアデータを使ったコミュニケーションの特徴を理解する。											
授業の進め方											
パソコンでの具体的なデータの扱いを実演しながら講義を進めます。皆さんも実際にパソコン上のアプリケーションを使いながら、いろいろな種類のマルチメディアデータの取り扱いに慣れていってください。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	情報とは	ガイダンス：コミュニケーションと人間の五感の限界。					人間の五感とそれを使ったコミュニケーションを復習する。(4時間)				
2	情報量	情報の量を測る、数える。					ビットやバイトの計算練習。(4時間)				
3	光と色	色度図と光の三原色の関係、人間の限界。					三原色の関係を作図する。(4時間)				
4	画像のデジタル化	画像データの基本、標準化と量子化。					画像データのファイルサイズの計算練習。(4時間)				
5	ドロー系とペイント系	いろいろなデータ形式、ドロー系とペイント系の違いとデジタル画像データの一般論。					画像データの違いをまとめる。(4時間)				
6	jpeg vs gif	jpeg vs gif と Animation GIF の作成。					GIF animation を作る。(4時間)				
7	音	音とは、その正体と人間の限界について。振動と波動について理解する。					うなりや木霊の実例を探す。(4時間)				
8	サウンドデータ	パソコンでの音データの取り扱いとサウンドエディターでの実際。					お気に入りの曲のサビの部分を取り出す。(4時間)				
9	MIDI	MIDIデータ入門。MIDIは音ではなく演奏である。					MIDIのデータを作ってみる。(4時間)				
10	Vocaloidの歌声	Vocaloid 初音ミクを例に、MIDIの新しい流れを考える。					お気に入りのVocaloidを探す。(4時間)				
11	データ圧縮	データ圧縮の基本を理解する。					データ圧縮と展開の練習。(4時間)				
12	動画データ	動画データ入門。					動画の編集練習。(4時間)				
13	5感の残り	触覚の利用、嗅覚、味覚は？					触覚や味覚、嗅覚を使ったコミュニケーションを考える。(4時間)				
14	情報弱者	情報弱者とデジタルデバイド。					身の回りのデジタルデバイドの例を見つける。(4時間)				
15	まとめ	情報理論はコミュニケーションである。					授業全体を見直し試験に備える。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準									
なし。シラバスや講義の予告を参考に各自図書館やインターネットで補いながら予習し、講義内容をよく復習すること。学内LAN上に置いてある講義資料を参考にすること。		課題：20% 定期試験：80% S:マルチメディアコミュニケーションに関する発展的な問題を考察できる A:マルチメディアコミュニケーションに関する応用的な問題を考察できる B:マルチメディアコミュニケーションに関する標準的な問題を考察できる C:マルチメディアコミュニケーションに関する基礎的な問題を考察できる									
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)									
なし		実演を交えながらの講義です。手書きノートのみ持ち込み可の試験を行います。教室の前の方に座り、しっかりノートを取ってください。									

科目名	プログラミング論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ`リン`	KL26032	研究室	W-32
担当者	小林 俊一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`	水曜日3限		
関連資格	高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>小規模なプログラムを作成することで、実際にプログラミングができるようになることを目標にします。身の回りにある色々なものが、プログラムを使って動く時代になっています。この講義では、プログラムの基本的な事項について学びます。工業製品などの広い分野で、開発用に利用されているプログラミング言語のC言語を利用して、プログラミングについて学習を行います。プログラミングの基礎を、しっかりと身につけることを目標とします。また、代表的なアルゴリズムについても、学習を行います。</p>										
学修到達目標										
<p>サンプルプログラムを作成することで、実際に小さい規模のプログラムが作成できるようになることを目標とします。プログラムとは何か、プログラミングとは何かについて基礎から学び理解することを目標とします。これからの時代を生き抜くのに必要といわれているプログラミングの基礎知識を身につけることを目標とします。</p>										
授業の進め方										
<p>コンピュータを利用しながら、C言語のプログラムを自分で入力しながら学習を行います。プログラム作成に必要な基本的なことからを中心に学習を進めます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンスを行います。	ガイダンスを行います。プログラムとは何かを説明します。プログラミングについても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
2	プログラムの基本を学習します。	プログラムの基本的なことを学習します。授業で利用するC言語についても解説します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
3	アルゴリズムの考え方について学習します。	アルゴリズムの考え方と、具体的な処理系の使い方を学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
4	コンパイラの使い方を学習します。	C言語コンパイラの使い方を学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
5	変数と型、式と演算について学習します。	変数と型、式と演算について学習します。実際に動く小さなサンプルプログラムをテキストエディタを使って入力して、プログラムを動かしてみます。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
6	条件分岐、繰り返しについて学習します。	条件分岐、繰り返しについて学習します。実際に動く小さなサンプルプログラムをテキストエディタを使って入力して、プログラムを動かしてみます。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
7	配列について学習します。	配列について学習します。サンプルプログラムの作成をしながら、体験的に学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
8	ループと配列を使ったプログラムを作成します。	ループと配列を使ったサンプルプログラムを入力して、動かしながら学習を行います。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
9	プログラム作法や書法について学習します。	プログラム作法や、プログラム書法について学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
10	データ構造とアルゴリズムについて学習します。	データ構造とアルゴリズムとは何かについて学習します。実際にサンプルプログラムを作成しながら学びます。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
11	ソートについて学習します。	ソートについて、サンプルプログラムを使いながら学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
12	お店で使えるような簡単なプログラムを学習します。	お店で使えるような簡単なプログラムを学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
13	条件処理を使った簡単なプログラムの作成します。	条件処理を使った簡単なプログラムの作成します。if文の使い方を学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
14	配列とループと条件処理を使ったプログラムを作成します。	配列とループと条件処理を使ったプログラムを作成します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
15	講義のまとめをします。	プログラミング論の講義のまとめを行います。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリントを配布します。必要に応じて、参考書やインターネットなどで補って下さい。		<p>課題：25% 定期試験：75%</p> <p>S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
<p>「やさしいC 第5版」高橋麻奈著(ソフトバンククリエイティブ) ISBN: 978-4797392586 「新・明解C言語 入門編」柴田望洋著(ソフトバンククリエイティブ)</p>		<p>人の書いたプログラムを読んで理解し、それをまねることが大切です。まずは、自分で小さいプログラムを書いて動かして、試してみるのがプログラム上達の近道です。プログラムを書いて、試すことをお勧めします。</p>								

科目名	CGの基礎			学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	KL26033	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子・永田 綾子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格	高一(情報)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
近年、情報媒体を用いて企業等は様々な戦略を展開しており、Webなどにその工夫が凝らされています。この講義では、そうした経営戦略上欠かせなくっている情報伝達手段のひとつであるCGの活用方法を学びます。前半はPhotoshop Elementsを用いて2次元画像の合成や補正などの基本技法を学び、次にShadeを用いた3次元CGのモデリング(形状作成)について学んでいきます。											
学修到達目標											
2次元CGソフトの「Photoshop Elements」を使ったコンテンツ制作、および、3次元CGソフトの「Shade」を用いた3D画像の生成の両方ができるようになることを目指します。											
授業の進め方											
本講義はコンピュータ教室での実習となります。毎回、新しい機能を紹介し、サンプルファイルを用いた操作方法の演習を行います。その後、それらを組み合わせた総合的な課題に取り組んでもらい、オリジナルの作品を完成させてもらいます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法について CG画像の種類、CGソフトの特徴について					シラバスの内容を確認し、講義全体の流れを理解すること(1時間)				
2	PhotoshopElements フォトレタッチ	PhotoshopElementsの基本操作、およびデジタル写真の画質調整や修正に関する演習を行います。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
3	PhotoshopElements 画像の合成、フィルター	デジタル写真のトリミングや合成方法に関する演習を行います。また、写真にさまざまな特殊効果を設定する方法を紹介します。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
4	PhotoshopElements 描画ツール	PhotoshopElementsの豊富な描画ツール(ブラシ、グラデーション、シェイプ)などに関する演習を行います。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
5	PhotoshopElements 文字、GIFアニメーション	画像と文字を組み合わせたり、マスク処理について紹介します。また、Web用コンテンツとして利用可能なGIFアニメーションに関する演習を行います。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
6	PhotoshopElements アートワーク実践演習	これまで学んだ様々な機能を駆使して本格的な2次元CG作品を仕上げます。					これまで学んだ内容に関する総合課題が出ます。作品の準備を始めること(2時間)				
7	PhotoshopElements アートワーク実践演習	PhotoshopElementsの最終回です。これまで学んだ様々な機能を駆使してオリジナルの2次元CG作品を仕上げます。					2次元CG総合課題を指定期日までに提出すること(2時間)				
8	Shade モデリング体験	Shadeの起動と画面構成、ウィンドウ操作、オブジェクト操作について確認します。次に実際に立体物を作成し、それをイメージ画像として生成していくまでの各ステップを体験します。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
9	Shade 平面形状の作成と立体化	モデリングの基本となる平面形状の作成方法を学びます。特にコントロールポイントを作成しながら描く曲線の描画方法をしっかりと把握しましょう。そして、それを立体化する2つの方法を学びます。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
10	Shade ブーリアン・モデリング	平面から立体を作成しますが、複数の立体同士を組み合わせることでさらに別の形状を作成するのがブーリアンモデリングです。形状同士で穴を開けたり、埋めたりする演習を行います。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
11	Shade 自由曲面の作成	より複雑なモデリングを行うための方法として用意されている自由曲面を利用したモデリング方法の演習を行います。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
12	Shade 表面材質・背景設定	形状に色や反射、屈折などリアルな質感を与える作業が表面材質の設定です。また、形状に背景を設定するなどの演習を行います。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
13	Shade カメラ・ライティング設定	作成した形状をイメージ画像として出力する前に、カメラアングルやどんな照明を利用するかを決める必要があります。カメラの調整や様々な光源を使い分ける演習を行います。					実習内容に関する応用課題が出ます。指示通り加工し期日までに提出すること(1時間)				
14	Shade 3Dモデリング実践演習	これまで学んだ様々な機能を駆使して本格的な3次元CG作品を仕上げます。					これまで学んだ内容に関する総合課題が出ます。作品の準備を始めること(2時間)				
15	Shade 3Dモデリング実践演習	Shadeの最終回です。これまで学んだ様々な機能を駆使してオリジナルの3次元CG作品を仕上げます。					3次元総合課題を指定期日までに提出すること(2時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
講義ごとに、プリントを配布します。				課題:100% 授業内50%、2次元CG課題・3次元CG課題50% A:指示された最終課題の提出と授業内課題の提出率が80%程度ある B:指示された最終課題の提出と授業内課題の提出率70%程度ある C:指示された最終課題の提出と授業内課題の提出率60%程度ある							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「できるPhotoshop Elements 10」樋口 泰行著できるシリーズ編集部編編(インプレスジャパン) ISBN:978-4-8443-3111-7 「Shade 13 ガイドブック」shadewriters著(株式会社BNN新社)				CGソフトごとに操作の癖があり、慣れるまでは苦労すると思いますが、クリエイティブな作業に興味があればとても楽しい実習となります。過去に配布されたプリントも毎回すべて持参の上、講義に臨んでください。							

科目名	マルチメディア活用論		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KA26034	研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	水曜日2限		
関連資格	高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
マルチメディアデータを作成して、情報発信できるようになる。 マルチメディア論で学んだ知識を生かし、実際にマルチメディアデータの作成を行う。音楽入りの動画をつくり、マウスによる切り替え動作などの技術を駆使し、表現豊かな動画を作りましょう。										
学修到達目標										
自分で考えたシナリオに従って、音が出てユーザーのボタンに反応するような動画を作成できる。										
授業の進め方										
個別の表現技法や、効果についての講義を行い、さらに具体的な応用演習を行う。 Action Script もしくは JavaScript を使ってユーザーの動作に反応する動画を作ります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	本授業のガイダンスとマルチメディア論の復習。					マルチメディア論の復習。(4時間)			
2	静止画	動画のキーフレームと静止画の扱い方について。					静止画と動画の関係を復習する。(4時間)			
3	写真とカメラ	写真表現とカメラの技法について。絞り、スピード、チルドについて。					本城直季氏のミニチュア風写真の技法を確認する。(4時間)			
4	キーフレーム	動画の作成1: キーフレームに使う原画の作成。					動画作成のためのキーフレームの使い方を復習。(4時間)			
5	トイーン	動画の作成2: キーフレーム画像間を自動でつなくトイーンのコントロールを学ぶ。					ばらばら漫画を作ってみる。(4時間)			
6	タイムライン	スクリプトを使った、タイムラインの複雑なコントロールを学ぶ。					練習問題でスクリプトに慣れる。(4時間)			
7	ボタン	ボタンを使ったタイムラインのコントロール技法を学ぶ。					ボタンコントロールの練習。(4時間)			
8	地球防衛	乱数の効果的な使い方と接触判定。					インベーダーゲームの作成。(4時間)			
9	迷路	迷路の自動生成とそれを解くネズミをスクリプトで記述する。					迷路の自動生成。(4時間)			
10	錯覚	認知と錯視の問題。					錯視図を書いてみる。(4時間)			
11	ヴォーカロイド	声と音の効果: ヴォーカロイドと読み上げソフト。					読み上げソフトを使ってみる。(4時間)			
12	ストーリー	物語、ストーリー、シナリオ、夢中にさせるゲームのための物語。					自分のゲームのシナリオを作ってみる。(4時間)			
13	スクリプトコントロール	スクリプトコントロールの色々な技法を練習する。					スクリプトコントロールを使ってみる。(4時間)			
14	インターネットの制約	動画をインターネット上に公開するにあたっての色々な制約を議論する。					ネット動画の実際を調べる。(4時間)			
15	まとめ	自分で考えたシナリオに従って、音が出て、ユーザーのボタンに反応する動画を作成提出する。					他の人の作ったゲームを試してみる。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
プリントを配布します。 授業で使うスライドを、学内サーバー上においておきます。					定期試験: 80% 課題: 20% S: マルチメディアデータの扱いに関する発展的な問題を考察できる。 A: マルチメディアデータの扱いに関する応用的な問題を考察できる。 B: マルチメディアデータの扱いに関する標準的な問題を考察できる。 C: マルチメディアデータの扱いに関する基礎的な問題を考察できる。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし					色々な形式のデータを使った自由な表現法を身に着け、クリエイティブな"作者"になりましょう。					

科目名	情報システム論		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KA26035	研究室	W-23
担当者	田中 正敏		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格	高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
情報技術の進歩によって、社会がコンピュータとの依存度がますます高くなってきています。そのとき、コンピュータ同士の情報がどのようにネットワークで結ばれているのでしょうか、また、効率よくデータを送るためには、データの構造がどのようにすれば良いのでしょうか。この講義では、ネットワークおよびデータベースについて習得させることを目的としています。										
学修到達目標										
データベースおよびネットワークの習得										
授業の進め方										
基本的には自作ノートを用いて講義を進めます。但し、講義方法も受講生に対して興味が生じるようにPowerPointやプロジェクトなども使用します。講義が受講生に対して一方通行にならないように行うことを考えています。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	講義の進め方・ねらい				情報システムの考え方の習得とネットワークの基本的準備・まとめ(週に4時間必要)				
2	ネットワーク(1)	通信の基本(プロトコル・OSI参照モデル)				プロトコル・OSI参照モデルの習得と回線交換・蓄積交換の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
3	ネットワーク(2)	通信の基本(回線交換・蓄積交換、コネクションとコネクションレス)				回線交換・蓄積交換の習得とIPアドレス、ホストアドレスの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
4	ネットワーク(3)	通信とIPアドレス、ネットワークアドレスとホストアドレス				通信とIPアドレスの習得とサブネットマスクの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
5	ネットワーク(4)	サブネットマスク、ARP、ブリッジ・ルータ・リピータ				サブネットマスク、ブリッジ、ルータ等の習得、UDP・TCPの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
6	ネットワーク(5)	コンピュータ内の通信、ポート番号、UDP・TCP				ポート、UDP・TCPの習得とルーティングの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
7	ネットワーク(6)	ルーティング、プロトコル、テーブル				ルーティングの習得とデータベースの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
8	データベース(1)	概念、定義と基本用語				概念、定義の習得とE-Rの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
9	データベース(2)	E-Rモデル				E-Rモデルの習得と正規化の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
10	データベース(3)	正規化の意味と作成方法				正規化の習得とSQLの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
11	データベース(4)	SQL[設計]				SQLの習得と更新・追加・削除の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
12	データベース(5)	SQL[更新・追加・削除]				更新・追加・削除の習得・まとめ(週に4時間必要)				
13	ネットワーク(7)	ネットワークの演習問題と解説				ネットワークの演習問題の習得・まとめ(週に4時間必要)				
14	データベース(6)	データベースの演習問題と解説				データベースの演習問題の習得・まとめ(週に4時間必要)				
15	情報化社会	コンピュータの将来的な技術				コンピュータの将来的な技術の習得・まとめ(週に4時間必要)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「ITパスポート合格教本(情報処理技術者試験)[単行本](ソフトカバー)」岡崎裕史著(技術評論社)(生協で購入してください。)				定期試験：60% 出席レポート：20% 受講態度：20% S:講義中に対して積極的に質問をし、到達目標値それ以上の探求姿勢を持っている。各回の授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容を理解して正しく文章で表現することができる。B:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解して正しく文章で表現することができる。C:到達目標値を理解、各回の授業で学んだことを理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義中に連絡する。				この科目は「情報システム論」「コンピュータ概論」を合わせて履修してもらいたい。国家試験の「ITパスポート」の受験範囲をこの3科目で網羅しています。						

科目名	ホームページ実践		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	KL26036 TL26006	研究室	W-18
担当者	林 昌孝・松澤 みわ子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	高一(情報)				履修条件	ホームページ作成受講者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
ホームページは情報の取得と発信の強力なツールであり、高度情報社会における重要な情報メディアといえます。本講義ではホームページ作成における上級レベルの技術を習得することを目的とします。ホームページの基礎知識の確認をおこない、スタイルシート、フォーム、イメージマップ等の活用について習得し、ホームページ作成のスキルアップを目指します。										
学修到達目標										
情報処理検定協会ホームページ作成検定試験の1級に合格できる。										
授業の進め方										
コンピュータ教室での実習を中心にすすめます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義概要とクラス分け	講義全体の概要、目標の確認、成績評価の方法、注意事項について説明します。また、クラス分けを行います。				シラバスを読んで質問等をまとめてきてください。資料を配布します(1時間)。				
2	ホームページビルダーの基本操作3級レベル	ホームページビルダーの基本操作のうち3級レベルの確認を行います。				配布資料の初期設定、事前準備を読んできてください(1時間)。				
3	ホームページビルダーの基本操作2級レベル	ホームページビルダーの基本操作2級レベル				配布資料(HTMLの基礎等)を読んできてください(1時間)。				
4	スタイルシート	スタイルシートについて説明してリンク等を確認します。				スタイルシートとリンクについて読んできてください(1時間)。				
5	ID・クラス	ID・クラスの設定について説明します。				ID・クラスの設定について読んできてください(1時間)。				
6	ページタイトル	ページタイトルの設定方法について説明します。				ページタイトルの設定方法について読んできてください。復習問題があります(1時間)。				
7	イメージマップ	イメージマップの設定と編集方法について説明します。				イメージマップの設定方法について読んできてください。復習問題があります(1時間)。				
8	フォーム	フォーム・入力部品の挿入について説明します。				いろいろな入力部品について読んできてください(1時間)。				
9	外部ファイルの挿入	外部ファイルの挿入(JavaScriptほか)について説明します。				JavaScriptについて読んできてください。復習問題があります(1時間)。				
10	スタイルシート設定問題	検定試験1級模擬問題からスタイルシートの設定とリンクについて演習します。				検定試験1級模擬問題(スタイルシート)を読んできてください(1時間)。				
11	スタイルシートのプロパティ編集	検定試験1級模擬問題からスタイルシートのプロパティ編集問題の演習を行います。				検定試験1級模擬問題(スタイルシートのプロパティ)を読んできてください(1時間)。				
12	検定試験1級模擬問題演習(イメージマップほか)	検定試験1級模擬問題演習(イメージマップほか)を行います。				指定した検定試験1級模擬問題を読んできてください(1時間)。				
13	検定試験1級模擬問題演習(フォーム・JavaScriptの挿入ほか)	検定試験1級模擬問題演習(フォーム・JavaScriptの挿入ほか)を行います。				指定した検定試験1級模擬問題を読んできてください(1時間)。				
14	検定試験1級過去問題ポイント解説	検定試験1級模擬問題演習(過去問題のポイント解説)				指定した検定試験1級模擬問題を読んできてください(1時間)。				
15	まとめと検定試験1級模擬問題演習	まとめと検定試験1級模擬問題演習を行います。				指定した検定試験1級模擬問題を読んできてください(1時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「ホームページ作成検定試験模擬問題集1級」(日本情報処理検定協会)(生協で購入してください。) ISBN指定なし 適時、プリント資料を配布します。				定期試験:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
適時紹介します。				ホームページ作成検定試験合格が目標です。						

科目名	情報ネットワーク論		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KL36037	研究室	W-32
担当者	小林 俊一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限		
関連資格	高一(情報)		履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>絵・図・写真・動画などを使いながら、楽しくわかりやすくインターネットの仕組みや技術を学びます。スマホ・タブレット・パソコンなどで、毎日ネットを使いこなしているにもかかわらず、その中身がどうなっているのかは、わからないことだらけです。もちろん、仕組みがわからなくても使えますが、仕組みを知ることによって、もっとうまく使い方、楽しい使い方、効率的な使い方などができるようになります。現代人にネットは不可欠です。ネットをより深く知ることは、今後の生活をより豊かにしてくれるはずです。</p>										
学修到達目標										
<p>インターネットなどのネットワークの基本を、理解することを目標とします。YouTubeなどの動画の仕組み、メールが届く仕組み、SNSの仕組み、ネットショップの仕組みなど、ネットワークに関係する様々な身の回りにある便利な技術を理解することも目標とします。ネットに関するコンピュータ技術についても理解することを目標としています。</p>										
授業の進め方										
<p>基本的には、教科書を用いて授業を進めます。教科書のみではなく、毎回プリントも配布して使用します。情報ネットワーク技術の理解を深めるためコンピュータ教室を利用します。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンスを行います。	情報ネットワーク論のガイダンスを行います。ネットワークの学習とは何かについて解説します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
2	ネットワークの基礎知識を学習します。	プロトコルとは何かについて学習します。LANとインターネットについても学習します。さらに、サーバとネットワークサービスについても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
3	インターネットに接続するにはどうするかを学習します。	インターネットに接続するには、どうすればいいかを学習します。回線業者とISPの役割についても学習します。さらに、ADSLの仕組み、FTTHの仕組み、インターネットの歴史についても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
4	TCP/IPについて学習します。	ネットワークアーキテクチャとOSI参照モデルについて学習します。回線交換方式と、パケット交換方式についても学習します。さらに、TCP/IPのプロトコルについても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
5	TCP/IPでコンピュータや機器を認識する仕組みを学習します。	TCP/IPの各レイヤについて学習します。ポート番号についても学習します。さらに、IPアドレス、グローバルIP、プライベートIPについても学習します。IPアドレスのクラスについても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
6	LANで使われる技術について学習します。	ネットワークトポロジとは何かについて学習します。LANとWANについても学習します。ゲートウェイとは何かについて学習します。ルーティングについても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
7	LANで使われるネットワークサービスについて学習します。	ファイル共有、プリンタ共有、グループウェアについて学習します。DHCPサービス、ディレクトリサービス、NATについて学習します。VPN、無線LANの仕組みを学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
8	ネットワークサービスの仕組みについて学習します。	ウェブサービスの仕組みを学習します。メールを届けるSMTPや、メールを受け取るためのPOPサービスについても学習します。ファイル転送サービスFTPについても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
9	ネットワークサービスについて学習します。	時刻を合わせるための仕組みのNTPサービスを学習します。ウェブの仕組みとウェブアプリケーションについて学習します。また、ウェブページを自動生成するためのCMSについても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
10	ネットワークで使われるサービスについて学習します。	検索サイトの仕組みを学習します。動画配信サービスについても学習します。さらに、ブログの仕組みを学習します。クラウドコンピューティングについても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
11	ネットワークセキュリティについて学習します。	ネットワークセキュリティについて学習します。ファイアウォールについて学習します。DNSについても学習します。ウイルスとウイルス対策システムについても学習します。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
12	ネットワークを守るための技術を学習します。	コンテンツフィルタリングについて学習します。ユーザの情報漏洩を防ぐための方法についても学習します。さらにSSLについても学習を行います。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
13	ネットワークの構築と管理について学習します。	ルーティングについて具体例を示しながら、学習を行います。ネットワーク構築に必要な機器についても学習を行います。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
14	ネットワーク用のサーバや機器、ケーブルなどについて学習を行います。	実際にネットワークを作成する場合に必要なサーバや、機器、ケーブルなどについての学習を行います。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめを行います。	講義全体のまとめを行います。				配布資料を復習して下さい。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
<p>「図解 ネットワーク 仕事で使える基本の知識」増田若奈著(技術評論社) ISBN:978-4774138800 (生協で購入してください。)</p>		<p>課題:20% 定期試験:80%</p> <p>S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
<p>講義の中で、適宜指示します。</p>		<p>情報ネットワーク技術は抽象的でわかりにくい点がありますが、図や絵を使って理解できるようにします。将来システムエンジニアなどをを目指す学生にも、役に立つような内容も盛り込みます。</p>								

科目名	C A D演習		学年学期	3・4年前期	単位数	1	ナバリング	KA36038	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスワ-			
関連資格	高一(情報)				履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
建築、機械、土木、電気・電子、アパレルなど様々な分野で利用されているCAD(Computer Aided Design)は、簡略なイメージ図を作成するものではなく、尺度を設定して精密な図面を作成するためのアプリケーション・ソフトです。本講義ではCADソフトの特徴を理解するとともに、代表的なCADソフト「AutoCAD」を用いた図面作成の方法を学びます。										
学修到達目標										
CADソフトに備わる様々な基本機能を知り、適切な尺度で図面を描けるようになることが目標です。小さな1つ1つの図面を何層にも積み重ねるレイヤー構造によって、最終的に複雑な図面ができあがるプロセスを体感してください。										
授業の進め方										
講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。作図、画層(レイヤー)、寸法記入などCAD独特の機能を実際に操作しながら進めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	CADの概要やCADシステムの特徴の紹介、JISによる製図の基本要件などについて解説を行います。				授業時に配布するプリントを見ながら、次回までに復習を行うこと(1時間)				
2	AutoCadによる作図法	AutoCadの画面構成や画面表示の変更方法について操作しながら確認します。				授業時に配布するプリントを見ながら、次回までに復習を行うこと(1時間)				
3	AutoCadによる作図法(続き)	作図コマンドを使った基本オブジェクトの作成方法や、座標指定、ポリラインなどについて学びます。				授業時に配布するプリントを見ながら、次回までに復習を行うこと(1時間)				
4	AutoCadによる作図法(続き)	修正コマンドを使ったオブジェクトの削除・移動・複写、オフセット、フィレットなどについて学びます。				授業時に配布するプリントを見ながら、次回までに復習を行うこと(1時間)				
5	AutoCadによる作図法	CADソフトの特徴でもある画層(レイヤー)の作成、コントロール方法について学びます。				授業時に配布するプリントを見ながら、次回までに復習を行うこと(1時間)				
6	AutoCadによる作図法(続き)	図面に対する文字記入や寸法線の記入方法について学びます。				授業時に配布するプリントを見ながら、次回までに復習を行うこと(1時間)				
7	AutoCadによる作図法(続き)	新規図面作成の手順を確認し、図枠や尺度設定の方法を学びます。				授業時に配布するプリントを見ながら、次回までに復習を行うこと(1時間)				
8	AutoCadによる作図(続き)	家具の「椅子」を題材にここまで学んだ様々な機能を復習しながら、2次元図面を各自で完成させます。				この図面は中間課題のため、完成できない場合は時間外に作業を行うこと(2時間)				
9	図面作成・コマンド演習	線分作成、絶対座標入力、相対座標入力など				スムーズな操作ができるよう第1回～第8回までの復習を行うこと(1時間)				
10	図面作成・コマンド演習(続き)	円、円弧、楕円、オブジェクトスナップなど				スムーズな操作ができるよう第1回～第8回までの復習を行うこと(1時間)				
11	図面作成・コマンド演習(続き)	スプライン、ポリゴン、文字記入、寸法記入など				スムーズな操作ができるよう第1回～第8回までの復習を行うこと(1時間)				
12	図面作成・コマンド演習(続き)	ハッチング、複写、オフセット、配列複写、ミラー、フィレットなど				スムーズな操作ができるよう第1回～第8回までの復習を行うこと(1時間)				
13	CAD課題制作演習	住宅の「平面図」を題材にここまで学んだ様々な機能を復習しながら、2次元図面を各自で完成させます。				この図面は最終課題のため、完成できない場合は時間外に作業を行うこと(1時間)				
14	CAD課題制作演習(続き)	課題制作の続きの作業を行います。				この図面は最終課題のため、完成できない場合は時間外に作業を行うこと(1時間)				
15	CAD利用のまとめと今後の展開について	各自が作成した図面の課題について考えます。また、今後のCAD利用の方向性についても学習します。				印刷結果を見ながら、課題抽出を行うこと(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
講義内で、プリントを配布します。				出席レポート：40% 課題：60% A:課題図面が正確に作成でき、授業内容や操作方法を80%程度理解している B:課題図面がほぼ正確に作成でき、授業内容や操作方法を70%程度理解している C:課題図面が作成でき、授業内容や操作方法を60%程度理解している						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「はじめて学ぶAutoCAD LT 作図・操作ガイド」鈴木孝子著(株式会社ソーテック社) ISBN: 978-4-88166-792-7				Atucocadは現在、学生であれば無償で入手できるソフトです。操作に精通するには長い時間が必要となりますので、興味のある方はぜひダウンロードをお勧めします。						

科目名	データベース論		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KA36039	研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	水曜日2限		
関連資格	高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
会社に入るときと使う"リレーショナルデータベース"の基礎概念を理解し、アクセスの基本操作とSQLを使ったデータベース操作を自在にできるようになりましょう。アクセスを使った関係データベース取り扱いの具体例から始め、関係データベースの基本的な操作に慣れた後にSQL命令とリレーショナルデータベースの基礎概念についての講義を行います。データベースの構築、更新、運用、管理に必要な知識と技術を身に付けましょう。										
学修到達目標										
マイクロソフトのアクセスを使って、一連のデータベース管理作業ができるようになる										
授業の進め方										
現場の例題を多く扱いながら講義を進めていく。さらにパソコンを使っての具体的な演習も適宜行う。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	データベースの概要と本授業の進め方について。アクセスの使い方。				アクセスの例題。(4時間)				
2	データベースって何	データベースとDMSの概要。				身近なデータベースの例を考える。(4時間)				
3	アクセス入門1	代表的なデータベース管理システム(DMS)であるマイクロソフト社のアクセスを使った表の関連付けと抽出。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
4	アクセス入門2	代表的なデータベース管理システム(DMS)であるマイクロソフト社のアクセスを使った表の関連付けとレポートの作成。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
5	SQL1	SQLの基本文法と、SQLを使ったクエリーの作成法。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
6	SQL2	表の定義とビュー定義。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
7	SQL3	Where句で条件を付ける。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
8	SQL4	複数の表からデータを取り出す。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
9	SQL5	集約関数とGroup by、Order by。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
10	SQL6	副問い合わせ。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
11	SQL7	データの更新、挿入、削除。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
12	データの正規化	関係演算と正規化について学び、データを第三正規型に分解にできるようになりましょう。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
13	正規化の実際	アクセスを使った正規化演習。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
14	データベースのスキーマ	データベースの3スキーマを学びます。				授業の例題を復習し、演習問題を自分でやってみる。(4時間)				
15	まとめ	総合演習とまとめ。				授業全体を復習し試験に備える。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
特にありません。必要に応じてプリントを配布するので適宜各人で補ってください。学内サーバ上に講義資料を置くので、予復習に利用してください。				レポート：20% 定期試験：80% S:データベースに関する発展的な問題を考察できる。 A:データベースに関する応用的な問題を考察できる。 B:データベースに関する標準的な問題を考察できる。 C:データベースに関する基礎的な問題を考察できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「やさしく学ぶデータベース」高橋麻奈著(翔泳社) 「60時間でエキスパートAccess」(実教出版)				データベースは会社に入るときと使います。松本大学は、学生なら誰でも自分のパソコンにアクセスをインストールできるライセンスを持っています。自分のパソコンでも練習しましょう。						

科目名	応用プログラミング論		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KA36040	研究室	W-32
担当者	小林 俊一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限		
関連資格	高一(情報)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性	A		B		C		
履修対象入学年度(読替科目)										
授業概要										
プログラミングの基礎と応用を、楽しく学びます。自分でプログラムを入力しながら自然に知識が身につきます。パソコンやスマートフォンだけでなく、私たちの生活を快適にしてくれる便利な機械には、今ではプログラムが組み込まれていることが一般的になっています。自分が使っているアプリやソフトの中身がどうなっているかを知ることができます。この講義では、プログラミング言語としてC言語とC++言語を利用します。ソフトウェア開発の分業化や大規模化に対応できる素養を養います。										
学修到達目標										
簡単なプログラムを自分で楽しく作って、実行できるようになることを目的とします。プログラミングの基本的な作り方を学びます。オブジェクト指向の考え方の基本を学び、オブジェクト指向言語で書かれた簡単なプログラムを理解することも目的とします。										
授業の進め方										
C言語とC++言語を使って、プログラムを作っていきます。サンプルプログラムを用いて講義を行い、パソコンを使いながらプログラムを作成します。プリントのサンプルプログラムの動作を自分で確認した後、発展的に練習課題を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス。プログラム、プログラミングとは何かを解説します。	応用プログラミング論の講義で、どのような内容を学ぶのかについて解説します。プログラムとは何か、どのように使われているか、プログラミングとは何かについて解説します。				講義で配布した資料を復習してください。(4時間)				
2	授業で利用するC言語、C++言語の基本的な使い方を解説します。	授業で利用するプログラミング言語のC言語、C++言語の基本的な使い方を解説します。なぜ、C言語、C++言語を使うのか、どのようなメリットがあるのかについても解説します。				講義で配布した資料を読み、C言語、C++言語の基本について復習して下さい。(4時間)				
3	C言語、C++言語の変数、式と演算、制御構造について解説します。	C言語、C++言語の変数、式と演算、制御構造について解説します。実際にC言語、C++言語のサンプルプログラムをテキストエディタで入力して、変数とは何か、式と演算、基本的な制御構造を解説します。				講義で配布した資料を読み、変数、式と演算、制御構造を復習して下さい。(4時間)				
4	C言語、C++言語の配列、関数について	C言語、C++言語の配列、関数について解説します。実際にC言語、C++言語のサンプルプログラムをテキストエディタで入力して、配列と関数に関して解説します。				講義で配布した資料を読み、配列、関数を復習して下さい。(4時間)				
5	C言語、C++言語のデータ構造とアルゴリズムについて	C言語、C++言語のデータ構造とアルゴリズムについて解説します。実際にC言語、C++言語のサンプルプログラムをテキストエディタで入力して、データ構造とアルゴリズムに関して解説します。				講義で配布した資料を読み、データ構造とアルゴリズムを復習して下さい。(4時間)				
6	サンプルプログラムの作成	5回目までに学習した内容を復習するために、簡単なサンプルプログラムの作成します。コンパイラの使い方、デバッグの仕方についても学びます。				課題として、簡単なプログラムの作成をして頂きます。(4時間)				
7	構造体とポインタ、動的メモリー管理、リスト構造について	構造体とポインタ、動的メモリー管理に関して、解説します。また、その応用としてリスト構造についても解説します。				講義で配布した資料を読み、構造体とポインタを復習して下さい。(4時間)				
8	構造体とポインタを使ったサンプルプログラムの作成	7回目の講義で学習した内容を理解するために、サンプルプログラムを提示して、実際にテキストエディタを使って入力し、コンパイラでコンパイルして動かしてみます。				講義で作成したサンプルプログラムについて復習して下さい。(4時間)				
9	リスト構造を使ったサンプルプログラムの作成	リスト構造を理解するために、小さなサンプルプログラムを作成してみます。				講義で作成したサンプルプログラムについて復習して下さい。(4時間)				
10	C++言語を使って、オブジェクト指向を説明します。	オブジェクト指向クラスの作り方と使い方を説明します。				講義で配布した資料を復習して下さい。(4時間)				
11	クラスを利用したサンプルプログラムの作成をします。	オブジェクト指向クラスの使い方を理解するために、サンプルプログラムを入力して、コンパイルし動かしてみます。				講義で配布したプログラムを復習して下さい。(4時間)				
12	C++言語のオブジェクト指向の機能を解説します。	C++言語のオブジェクト指向の機能であるコンストラクタ、オーバーローディング、メッセージ、ポリモルフィズムを解説します。				講義で配布した資料を復習して下さい。(4時間)				
13	サンプルプログラムの作成を行います。	12回目の講義で学習した内容を理解するために、サンプルプログラムを提示して、実際にテキストエディタを使って入力し、コンパイラでコンパイルして動かしてみます。				講義で配布したプログラムを復習して下さい。(4時間)				
14	プログラミングに関する書法、作法を学習します。	プログラミングに関する書法や作法について学習します。実際に、サンプルプログラムを入力して、プログラム作法の重要性について解説します。				講義で配布したプログラムを復習して下さい。(4時間)				
15	講義のまとめを行います。	応用プログラミング論の講義で学習した内容をまとめます。まとめとしてのサンプルプログラムを入力し、理解を深める予定です。				講義で配布したプログラムを復習して下さい。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリントを配布します。必要に応じて、各自参考書やインターネットなどで補って下さい。		課題：25% 定期試験：75% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「新版 明解C++ 入門編」柴田 望洋著(ソフトバンククリエイティブ) ISBN：978-4797394634		シンプルで分かりやすいサンプルプログラムを、多数使いながら学習を進めます。難しいと思わず、楽しみながらプログラムの作り方の基本を身につけて下さい。自分で色々試す気持ちを忘れないようにしてください。								

科目名	カウンセリング理論と技法		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	KL16041	研究室	W-19
担当者	矢崎 久		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日2限、火曜日3限、木曜日2限、木曜日3限		
関連資格	産業カウンセラー、高一(商業)、高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
授業概要										
カウンセリングとはなにか、その基本姿勢、主要な理論と技法の概要を学びます。										
学修到達目標										
カウンセラーに求められる基本姿勢、カウンセリングと相談・アドバイス・コンサルテーションの違い、対象範囲、効果、主要な理論と技法、来談者中心療法の理論と方法、人間性心理学の概要を理解している。										
授業の進め方										
講義ごとに課す記述式の課題は次回の講義冒頭で回収します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	対人援助	カウンセリングとはなにか(相談・アドバイス・コンサルテーションとの違い)				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、課題レポート作成(2時間)				
2	自己成長	カウンセリングとはなにか(指示的・非指示的、心理療法との違い)				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、課題レポート作成(2時間)				
3	カウンセリングの原理	カウンセリングの原理(適用範囲、効果、限界、カウンセリングプロセス)				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、課題レポート作成(2時間)				
4	傾聴の姿勢	傾聴する				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、課題レポート作成(2時間)				
5	共感的理解	カウンセリングの基本姿勢(傾聴・共感的理解・ラポールの形成)				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、課題レポート作成(2時間)				
6	人間性心理学とは	クライアントの尊重と来談者中心療法				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、課題レポート作成(2時間)				
7	精神力動とは	精神分析理論によるカウンセリング				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、課題レポート作成(2時間)				
8	パーソナリティとは	特性因子論によるカウンセリング				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、課題レポート作成(2時間)				
9	学習理論と行動主義とは	学習理論と行動主義、学習・行動理論によるカウンセリング				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、レポート課題作成(2時間)				
10	自己理論とは	自己理論、自己理論によるカウンセリング				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、レポート課題作成(2時間)				
11	集団のちから	グループダイナミクス、グループカウンセリング				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、レポート課題作成(2時間)				
12	家族システム	家族システム、家族カウンセリング				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、レポート課題作成(2時間)				
13	技法を統合する	技法の統合、統合的カウンセリング				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、レポート課題作成(2時間)				
14	人生と仕事	キャリアカウンセリング、産業カウンセリング				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、レポート課題作成(2時間)				
15	クライアントの尊重と支援	カウンセリング理論と技法のまとめ				事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、まとめ(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「カウンセリングの話」平木典子著(朝日新聞社) ISBN:978-4-02-259844-8(生協で購入してください。)		課題:20% 小テスト:30% 定期試験:50% 課題レポート提出(14回)、小テスト(中間試験)および期末試験を総合して成績を判定します。出席しているだけでは単位取得はできません。 成績評価基準 「S」:課題レポート提出、中間試験成績のすべてが95%以上 「A」: " 80%以上 「B」: " 70%以上 「C」: " 60%以上								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「臨床心理学入門」岩壁茂・福島哲雄・伊藤絵美著(有斐閣) ISBN:978-4-641-22003-4		課題を通して適性(カウンセリング心理学の学修姿勢および意欲)を問います。								

科目名	臨床心理学		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	KL16042	研究室	W-19
担当者	矢崎 久		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日4限、火曜日5限、木曜日2限、木曜日5限		
関連資格	産業カウンセラー				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
心理臨床とはなにか、パーソナリティ理論の基礎、障害と疾患、診断と治療、臨床の課題について学びます。										
学修到達目標										
カウンセリング初学者として身につけて欲しいパーソナリティ理論、発達と課題、精神の障害および疾患、見立てと治療の概要を理解している。										
授業の進め方										
1. レポート形式の課題(理解状況を確認するため)を適宜課します。 2. 1年前期開講科目「カウンセリング理論と技法」を一定以上の成績で履修終了していることが本講義の履修要件となります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	社会と心理学、臨床心理学	ガイダンス、社会と心理学、臨床心理学				事前: テキスト序章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
2	臨床心理学とはなにか	臨床心理学の歴史、社会とこころの問題、臨床心理学の役割				事前: テキスト1章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
3	心理的問題の理解と方法	こころのアセスメント、アセスメント方法				事前: テキスト2章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
4	心理的問題の理解と方法	正常と異常、主要な精神疾患				事前: テキスト2章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
5	心理的問題の理解と方法	主要な精神疾患、診断、治療、回復				事前: テキスト2章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
6	ヒューマンスティックアプローチ	心理学への疑問、来談者中心療法、ゲシュタルト療法、実存療法				事前: テキスト5章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
7	ヒューマンスティックアプローチ	各療法のプロセス、新たな展開と今後の課題				事前: テキスト6章講読、ノート読み返し(2時間) 事後: 前半まとめ(4時間)				
8	精神力動的アプローチ	精神分析とはなにか、精神分析的アプローチのプロセス				事前: テキスト4章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
9	認知行動アプローチ	行動心理学と行動療法、認知療法と認知行動療法				事前: テキスト7章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
10	認知行動アプローチ	外的・内的相互作用、自動思考、認知と行動の変容、現状と今後の展望				事前: テキスト8章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
11	統合的アプローチ	心理療法と学派、心理療法の統合、生物-心理-社会的アプローチ				事前: テキスト9章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
12	サイコセラピー	ケース(事例)とアプローチ、3つのアプローチを比較する				事前: テキスト10章講読、ノート読み返し(2時間) 事後: ノートまとめ(2時間)				
13	臨床心理学の研究	臨床と科学的研究、研究方法				事前: テキスト11章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
14	資質と成長のプロセス	心理療法家を目指す、求められる資質と成長のプロセス				事前: テキスト12章講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
15	臨床心理学と関連資格	学習と経験、専門家としての訓練、関連する資格				事前: テキスト12章講読(2時間) 事後: ノートまとめ、全体読み返し(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「臨床心理学入門」岩壁茂・福島哲夫、伊藤絵美著(有斐閣) ISBN: 978-4-641-22003-4 (生協で購入してください。)				レポート: 30% 定期試験: 70% 出席状況、参加姿勢、中間試験および期末試験を総合して成績を判定します。ただ出席しているだけでは単位取得はできません。 成績評価基準 「S」: 中間試験、期末試験成績のすべてが95%以上 「A」: " 80%以上 「B」: " 70%以上 「C」: " 60%以上						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「パーソナリティの心理学」岡田康伸・藤原勝紀ほか著(有斐閣) ISBN: 978-4-641-07244-2				事例や映像教材を併用してわかりやすい講義を目指します。						

科目名	パーソナリティ理論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KL26043	研究室	W-19
担当者	矢崎 久			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日2限、火曜日3限、木曜日2限、木曜日3限		
関連資格	産業カウンセラー					履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
パーソナリティの定義、遺伝と環境、類型論、特性論、力動・構造論、学習理論、行動理論、自己理論、システム論、認知論、発達と変化について学びます。											
学修到達目標											
パーソナリティとはなにか、社会への適応と不適応について、葛藤とクライアントの生きづらさについて、さらにパーソナリティの主要理論を理解している。											
授業の進め方											
受講者全員のレジュメ作成と発表、および他の受講者からの質疑に対する応答など全員参加で進める講義となります。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	パーソナリティとは何か	ガイダンス、担当箇所の割り振り				事前：テキスト全体講読(6時間) 事後：担当箇所講読、レジュメ作成(4時間)					
2	パーソナリティとは何か	パーソナリティとは				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
3	パーソナリティとは何か	パーソナリティ形成に働く要因				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
4	パーソナリティとは何か	パーソナリティの理解				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
5	理論を学ぶ	類型論				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
6	理論を学ぶ	精神分析理論				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
7	理論を学ぶ	ロジャーズ				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
8	理論を学ぶ	トランスパーソナル心理学				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
9	発達とパーソナリティ	発達の現代的意義(ライフサイクル)				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
10	発達とパーソナリティ	自我形成の過程(乳児期、幼児期、児童期、青年期)				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
11	発達とパーソナリティ	自己実現(成人期、老年期)				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
12	パーソナリティと心理療法	パーソナリティと心理療法の目標				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
13	パーソナリティと心理療法	心理アセスメント				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
14	パーソナリティと心理検査	心理検査と臨床活用(検査の概要、知能検査、精神症状検査)				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、配布レジュメ整理(2時間)					
15	攻撃性と甘えのパーソナリティ	攻撃性と甘え、境界例、障害				事前：テキスト講読(2時間) 事後：テキスト再読、全配布レジュメ再読(2時間)					
テキスト					成績評価の方法・基準						
「パーソナリティの心理学」岡田康伸・藤原勝紀ほか著(有斐閣) ISBN:978-4-641-07244-2(生協で購入してください。)					課題：70% 定期試験：30% 成績評価基準 「S」：レジュメ作成、発表と質疑への応答、期末試験のすべてが95%以上 「A」：80%以上 「B」：70%以上 「C」：60%以上						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「心理療法ハンドブック」乾吉佑・氏原寛ほか編(創元社) ISBN:4-422-11326-7 講義「心理療法」のテキストです。 なし					発表用レジュメを作成する過程から、調べる、まとめる、発表するといった力が涵養されてゆくと考えています。						

科目名	産業・組織心理学		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KL26044	研究室	
担当者	小林 健洋		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	産業カウンセラー				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性	A B C		履修対象入学年度(読替科目)				
授業概要										
この講義は、一般社団法人日本産業カウンセラー協会が主催する「産業カウンセラー養成講座」に準拠した内容になっています。産業・組織心理学を中心に、産業カウンセラーの役割と活動や倫理、産業界における働く人のメンタルヘルスやキャリアについて集中講義形式で学びます。										
学修到達目標										
産業カウンセラー資格取得を目指し、産業カウンセラーに求められる知識習得を目標とします。										
授業の進め方										
講義形式を基本としてすすめ、適宜グループ討議等を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス/産業カウンセラーの歴史と発展	【テキスト第1章】産業カウンセラーとは何か、について学び、産業カウンセリングの源流から、米国や日本でどのように発展してきたかを学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
2	産業カウンセラーの役割と活動	【テキスト第2章】産業カウンセラーが産業界で果たす役割、産業界から期待されている役割、産業カウンセラーに必要なこと、3つの活動領域について学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
3	産業カウンセラーの倫理	【テキスト第2章】産業カウンセラー倫理綱領に沿って、実際に起こりうるエピソードをもとに、専門職として目指すべき理想と、守るべきルールについて学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
4	職場のメンタルヘルス・ケア 職場におけるメンタルヘルス対策とは	【テキスト第10章】働く人をとりまく環境や、事業主の法的な責任、働く人の心の健康を保持増進するために国が示している指針について学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
5	職場のメンタルヘルス・ケア 職場におけるメンタルヘルス対策の実践	【テキスト第10章】メンタルヘルス対策の4つのケア、退職した方の職場復帰、自殺対策や守秘義務・プライバシーの保護など、メンタルヘルスケアの実務について学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
6	職場のメンタルヘルス・ケア 職場のストレスとストレス対処	【テキスト第10章】ストレスとは何か、ストレスは人間にどのような影響を及ぼすか、ストレスに対処し元気に働くためにはどのような方法があるかについて学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
7	職場のメンタルヘルス・ケア 事例検討	【テキスト第10章】職場で起こりうる事例を通して、産業カウンセラーとしてどのように職場のメンタルヘルスケアについてかかわっていくかについて学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
8	産業・組織心理学 産業・組織心理学とは	【テキスト第12章】産業や組織の定義、産業・組織心理学の定義、産業・組織心理学がどのように発展してきたかについて学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
9	産業・組織心理学 産業・組織で働く人の行動	【テキスト第12章】組織の中で人はどのように行動するか、リーダーシップとフォロワーシップ論、問題解決行動、個人が集団からのどのような影響を受けるのか、について学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
10	産業・組織心理学 働く人の意欲と意識	【テキスト第12章】産業組織で働く人のモチベーションについて学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
11	産業・組織心理学 働く人をめぐる環境	【テキスト第12章】働く人をめぐる複雑な環境を理解し、産業カウンセラーとして働く環境にどのようにかかわっていくかを学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
12	キャリア・カウンセリングの基本 キャリアとは何か	【テキスト第15章】キャリア、キャリア・ガイダンス、キャリア・カウンセリングの定義と、どのような領域で行われているかを学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
13	キャリア・カウンセリングの基本 キャリア・カウンセリングの理論	【テキスト第15章】キャリア・カウンセリングが拠りどころにしている理論について学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
14	キャリア・カウンセリングの基本 キャリア・カウンセリングの実践	【テキスト第15章】働く人のキャリアに関する悩みや相談について、事例を通してどのように対応していくかを学びます				指定テキストの該当箇所を、事前に目を通し、事後は復習してください(4時間)				
15	まとめ	この講義で学んだことを活かしながら、企業内での事例を通して、産業組織の中で働く人をどのようにサポートしていくかを学びます				今まで講義で学んだ内容を復習してから臨んでください(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「産業カウンセリング 産業カウンセラー養成講座テキスト」一般社団法人日本産業カウンセラー協会編(別途、指示します。)				小テスト:40% レポート:60% 小テストはテキストをしっかりと読めば回答できる問題です。集中講義中に、計4回出題します。それぞれの正答率から点数を出します。レポートは具体性(=自分の頭で考えた内容)を重視します。テキストやWebコンテンツからの引用が多い場合は評価が低くなります。レポートは最終回に出題します。それぞれの合計点で評価します。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「新版 カウンセリングの話(朝日選書)」平木典子著(朝日新聞社) ISBN:978-4022598448 「よくわかるカウンセリング倫理」水野修次郎著(河出書房新社)				産業カウンセラー資格取得を希望する学生は、この講義のほか、指定科目の履修が必要です。事例を使った演習が多いので、テキストは事前に目を通してください。						

科目名	心理療法	学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KL26045	研究室	W-19	
担当者	矢崎 久	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日4限、火曜日5限、木曜日2限、木曜日5限			
関連資格	産業カウンセラー			履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
		A	B	C						
授業概要										
心理療法とは、「来談者からの依頼・要請に応じて、一定の構造化された枠組みに基づいて、ある治療理論と技法を使って、来談者の問題点の修正・改善・解決・解消などに導く職業的な役割関係や方法」(心理療法ハンドブック、創元社、2005年)と定義されています。本講義では、臨床場面で用いられる療法についての歴史、理論と技法の基礎、および対象と実践領域について学びます。										
学修到達目標										
カウンセリングにおいて、あるいは心理療法としてのカウンセリングにおいて外すことのできな理論および技法を理解している。										
授業の進め方										
理解を助けるための映像教材を適宜併用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	心理療法の歴史	ガイダンス、心理療法総論(心理療法の歴史・教育と訓練・倫理・現状と課題)					事前:テキスト講読(4時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
2	来談者中心療法	人間の尊重とヒューマニスティックアプローチ					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
3	来談者中心療法	共感的理解、自己一致(純粋性)、受容(尊重、配慮)					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
4	精神分析	抑圧と症状、精神の発達、防衛機制、自由連想法					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
5	交流分析	ストローク理論、時間の構造化理論、人生態度、構造分析と構え、分析					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
6	行動療法	新行動S-R理論、応用行動分析理論、社会学習理論、認知行動療法理論					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
7	認知療法	自動思考とスキーマ、認知モデル(ABCモデル)					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
8	認知行動療法	症状と認知変数、自動思考とスキーマ、推論の誤り					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
9	催眠療法	暗示催眠、リラックス催眠、イメージ催眠					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
10	自律訓練法	標準練習と公式、ストレスとリラクゼーション					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
11	内観療法	集中内観と日常内観、外面的治療構造と内面的治療構造					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
12	家族療法	家族というシステム、学派とアプローチ					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
13	エンカウンター・グループ	非構成的グループ、構成的グループ、具体的方法					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
14	グループ療法	グループダイナミクス、グループの目的・進め方・サイズ・形態・構成					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト再読、ノートまとめ(2時間)			
15	箱庭療法	自らの力で精神内界の調整をはかる、解釈					事前:テキスト講読(2時間) 事後:テキスト全体再読、まとめ(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
「心理療法ハンドブック」乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕編(創元社) ISBN:4-422-11326-7(生協で購入してください。)		小テスト:50% 定期試験:50% 小テスト(中間試験)と定期試験を総合して成績を判定します。 成績評価基準 「S」:小テスト、期末試験のすべてが95%以上 「A」: 80%以上 「B」: 70%以上 「C」: 60%以上								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
なし		積極的な質疑を歓迎します。								

科目名	心理学	学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KL26046	研究室	A-16
担当者	守 一雄	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
心理学は科学であることを中心テーマに、心理学の基礎について実習を通して学びます。関連する心理学についての課題図書を読み、ディベートをすることで内容の深い理解を目指します。一般に考えられている心理学に対する誤解を解くことが授業の目的です。									
学修到達目標									
心理学が科学的な学問であることを知り、その基本的な研究手法を理解する。決められた期間内に新書レベルの本を3冊読み、その内容の要約と、関連する意見文を書けるようになる。									
授業の進め方									
実習とディベートを中心とする授業とします。知識の習得は、各自が教科書と課題図書を読むことで、行なうこととして、その理解を深めるために授業では実習を行ないます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション	授業のやり方について説明します。				シラバスをよく読んでください。(4時間)			
2	心って不思議	客観的に存在を証明できない「人間の心」について、科学的に研究しようとする心理学という学問について学びます。次回提出する「読後レポート」の書き方について実習を通して学びます				教科書の第0章第1章を読んで内容をまとめる。(4時間)			
3	ディベートの実習	批判的思考力を育てるためにディベートについて実習で学びます。				課題図書『ザ・ディベート』を読み、要約と意見文を書いた読後レポートを提出する。(4時間)			
4	実験で試す	目の錯覚について実験を通して学びます。				教科書の第2章を読んで内容をまとめる。(4時間)			
5	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。				課題図書『ザ・ディベート』読後レポートの最終締め切り。(4時間)			
6	行動を調べる	「こめかみ鏡映書字」について実験を通して学びます。				教科書の第3章を読んで内容をまとめる。(4時間)			
7	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。				課題図書『チビクロこころ』を読み、要約と意見文を書いた読後レポートを提出する。(4時間)			
8	中間試験	講義前半について理解度を調べ、理解の足りないところを補います。				教科書第3章までと課題図書について復習する。(4時間)			
9	計算して確かめる	統計的検定法を使って超能力があるかどうかを確認します。				教科書第4章を読み、内容をまとめる。(4時間)			
10	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。				課題図書『チビクロこころ』読後レポートの最終締め切り。(4時間)			
11	対人関係を学ぶ	囚人のジレンマゲームによって対人関係について学びます。				教科書第5章を読み、内容をまとめる。(4時間)			
12	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。				課題図書『おどろきの心理学』を読み、要約と意見文を書いた読後レポートを提出する。(4時間)			
13	公共心を学ぶ	寄付ゲームによって公共心について学びます。				教科書「付録」を読み、まとめる。(4時間)			
14	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。				課題図書『おどろきの心理学』読後レポートの最終締め切り。(4時間)			
15	まとめ	まとめと後半の理解度テストを行ない、理解不足について補講します。				教科書後半と課題図書 について復習する。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準				
「チビクロこころ：中学生高校生のための心理学入門」森まりも著(北大路書房) ISBN:978-4762821400(生協で購入してください。)レポート課題対象となる図書は別途指示する。					定期試験：100% S：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C：課題すべてを基準レベルで達成した。				
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)				
「ザ・ディベート」茂木秀昭著(ちくま新書) ISBN:978-4480058928 読後レポート課題図書とします。必ず購入してください。 「おどろきの心理学」妹尾武治著(光文社新書) ISBN:978-4334039042					本を読んだレポートとディベートがあります。レポート提出者のみディベート参加を認めます。				

科目名	カウンセリング演習			学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	KL36047	研究室	
担当者	窪田 明美			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格	産業カウンセラー				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
授業概要											
産業カウンセラーの資格取得を目的とし、産業カウンセラー養成講座に準拠した内容になっています。カウンセリングという行為は、専門的で高度なコミュニケーションの一形態です。社会の中で、人と関わって生きていく私たちは「コミュニケーション」を欠かすことができません。この講義では、カウンセリングにおいて絶対要件となる「傾聴」と、お互いを尊重し対等な関係づくりに必要な「コミュニケーション」について学び、一人の人間として他者との良好な関係性を築いていくために必要な知識とスキルを学びます。											
学修到達目標											
次の5つを目標とします。 カウンセリングにおけるコミュニケーションとその活用を理解する。 傾聴の基本的態度を理解する。 カウンセラーの基本的態度を理解する。 傾聴技法を理解する。 カウンセリング・プロセス理論を理解する。 カウンセリング・プロセスの各段階におけるクライアントの状態とカウンセラーの関わりを理解する。											
授業の進め方											
講義形式を基本として進め、併せて、個人/グループ演習を行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	カウンセラーに必要なコミュニケーション	コミュニケーションとはなにか。カウンセラーに必要なコミュニケーションのありかたを学びます。				テキスト191から200ページを事前に読む。(4時間)					
2	アサーション	ソーシャルスキルとしてのコミュニケーションのありかた。自他ともに尊重し合い、率直に表現しあえる関係づくりのコミュニケーションのありかたを学びます。				テキスト201から212ページを事前に読む。(4時間)					
3	人間関係づくりのためのコミュニケーション	自己開示、他者理解、自己への気づきと人間関係の発展といった、人間関係を形成し調整するためのコミュニケーションのありかたを学びます。				テキスト213から221ページを事前に読む。(4時間)					
4	コミュニケーションの影響	他者に影響を与えるコミュニケーション、異文化におけるコミュニケーションとはどのようなかを学びます。				テキスト221から228ページを事前に読みコミュニケーションについてのレポートを在宅学習。(4時					
5	傾聴とは	傾聴の意義、傾聴がもたらすものを学びます。				テキスト39から41ページを事前に読む。(4時間)					
6	傾聴の基本的態度	カウンセラーに必要な人間観と、基本的態度(受容、共感、自己一致)とはどのようなかを学びます。				テキスト41から42ページを事前に読む。(4時間)					
7	傾聴の基本的態度	カウンセラーの心構えを学びます。				テキスト42から44ページを事前に読む。(4時間)					
8	傾聴の効果	傾聴がカウンセリングに及ぼす効果を学びます。				テキスト45から47ページを事前に読む。(4時間)					
9	傾聴技法	カウンセリングにおける技法の意義を学びます。				テキスト47ページを事前に読む。(4時間)					
10	傾聴技法	8つの傾聴技法を学びます。				テキスト47から57ページを事前に読む。(4時間)					
11	傾聴技法	傾聴技法をグループワークにより体験学習します。				傾聴についてのミニレポートを在宅学習。(4時間)					
12	カウンセリング・プロセスと傾聴	カウンセリング・プロセスの構成。各段階の特徴。カウンセラーの対応とクライアントの状況を学びます。				テキスト57から64ページを事前に読む。(4時間)					
13	カウンセリング・プロセスと傾聴	カウンセリング・プロセスの実際を教材映像にて学びます。				カウンセリング・プロセスについてのミニレポートを在宅学習。(4時間)					
14	カウンセリング・プロセスと傾聴	カウンセリング・プロセス面接をグループワークにより体験学習します。				体験学習のまとめに取り組む(4時間)					
15	まとめ	学習のふりかえりとまとめを行ないます。				テキストや資料を使い授業全体の振り返りとまとめを行うこと。(4時間)					
テキスト					成績評価の方法・基準						
「産業カウンセラー養成講座テキスト」一般社団法人日本産業カウンセラー協会編(別途、指示します。)					受講態度：50% レポート：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「新版 カウンセリングの話」平木典子著(朝日新聞社) 「新版 カウンセリング心理学」渡辺三枝子著(ナカニシヤ出版)					レポート提出の期限厳守し、理由なき遅刻・欠席が270分未満であることが授業の条件です。						

科目名	心理アセスメント		学年学期	4年前期	単位数	1	ナバリング	KL46048	研究室	W-19
担当者	矢崎 久		必修選択	選択	科目種別	実験 実習	ワイスアー	火曜日2限、火曜日3限、木曜日2限、木曜日3限		
関連資格	産業カウンセラー				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】（集中講義となります）				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
「産業カウンセリング特講 B」として、精神医学の基本、心理アセスメント、こころのメカニズムの基本について集中講義形式で授業をおこないます。										
学修到達目標										
来談者（クライアント）のこころの状態を測定する方法、ストレスとストレッサー、心身反応、正常と異常、精神疾患・精神障害の基礎知識、メンタルヘルスの確保と増進に関する基礎知識を理解している。										
授業の進め方										
座学（理論）および体験（技法）を適宜組み合わせる授業を進めます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	人間の身体とこころ	ガイダンス，人間の生物学的側面と心理的側面、神経系の基礎知識				事後：配付資料講読（4時間）				
2	人間の身体とこころ	脳の構造と機能、こころと身体の危機				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
3	外界の認知	感覚器官と認知、認知の機能、認知の一致と不一致、防衛機制				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
4	ストレスと回復性	ストレスとストレッサー、ストレス障害、回復性				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
5	正常と異常	正常とはどのような状態か、異常とはどのような状態か				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
6	こころの適応と不適応	精神障害の基礎知識				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
7	メンタルヘルス相談の知識	来談者に関する留意点、対応能力、休職と復職、精神疾患・精神障害の知識 1（精神科講師講義）				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
8	精神疾患・精神障害の知識	精神疾患・精神障害の知識 2、こころの健康と職場のメンタルヘルス活動（精神科講師講義）				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料作成、ノートまとめ（2時間）				
9	観察法	自然観察法、組織的観察法、実験的観察法				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料作成、ノートまとめ（2時間）				
10	面接法	訪問面接と来談面接、個人面接と集団面接、非構造化・半構造化・構造化面接				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
11	心理検査法	質問紙法とは何か、種類と特徴、検査の実際（エゴグラム）				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
12	心理検査法	投影法よは何か、種類と特徴、検査の実際（パウムテスト）				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
13	心理検査法	作業検査法とは何か、種類と特徴、検査の実際（クレペリン）				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
14	心理検査法	その他の検査法、種類と特徴、検査の実際（箱庭）				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料再読、ノートまとめ（2時間）				
15	心理検査法	その他の検査法、種類と特徴、検査の実際（コラージュ）				事前：配付資料講読（2時間） 事後：資料全体再読、まとめ（4時間）				
テキスト					成績評価の方法・基準					
適宜、プリントを配布します。					レポート：50% 定期試験：50% レポート提出、定期試験を総合して成績を判定します。 成績判定基準 「S」：レポート提出、定期試験のすべてが95%以上 「A」： " 80%以上 「B」： " 70%以上 「C」： " 60%以上					
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）					
なし					一つでこころのすべてが測定できるテストなどありません。テストの実施、解釈、判定には慎重でなければなりません。					

科目名	法学A(総経)		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	KL16049	研究室	W-33
担当者	増尾 均		必修選択	必修	科目種別	講義	オイスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 法律の基礎					
授業概要										
現代社会は多くの法律によって規律されていますが、個々の法領域ではさまざまな問題が生じています。本講義では、特に身近な法律を取り上げ、その法律の果たす役割と機能だけでなく、それぞれの法領域が抱えている諸問題を学んでもらいます。										
学修到達目標										
社会のさまざまな問題の現状と法律を学び、問題を法的に解決できる能力を身につけ社会の発展に寄与できるようになることを目的としています。										
授業の進め方										
本講義は、テキストを中心に講義室で行いますが、必要に応じてプリントを配布したり、その時々で話題となっている事件を講義材料として扱うこともあります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、法律を学ぶ意義、各種法律の位置づけ				事前に法律の種類を調べ、事後には位置づけを理解する(4時間)				
2	法律とは	法律と似ている自然法則・宗教・道徳との違いを学ぶ。				事前にルールとは何かを考えてまとめる。事後学修として、違いを整理して理解する。(4時間)				
3	法源	成文法と不文法の種類と特徴				事前学修として、法源の種類を調べる。事後学修として、それぞれの特徴を体系的に学ぶ。(4時間)				
4	法の適用	法律をどのように適用するか、どのように解釈するか				事前に適用する上での問題点を考えてまとめる。事後学修として、法的対応を理解する。(4時間)				
5	契約の自由	契約自由の原則と契約の種類				事前に使用したことのある契約をリスト化する。事後に各契約の違いを整理する。(4時間)				
6	損害賠償	損害賠償の範囲・手続きなどを具体的に学ぶ				事前にどのような場面で利用できるか考えておく。事後に法制度を整理してまとめる。(4時間)				
7	カードの仕組み	我が国のカードの種類と仕組み・法律上の問題点				事前学修として、カードの種類を調べる。事後学修として、現行法制度を理解する。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。				事前に今までの復習を再度行う。事後学修として、理解が不十分であった所を学ぶ。(4時間)				
9	自己破産制度	自己破産の意義と手続き				事前に人はどうして自己破産するか調べる。事後学修として、制度についてまとめる。(4時間)				
10	夫婦と法	結婚と離婚を中心に夫婦に関する法律を学ぶ				事前に夫婦間で起きるトラブルをまとめておく。事後にはさまざまな法制度を理解する。(4時間)				
11	親子と法	親子に関する法律を学ぶ				事前に親子間で起きるトラブルをまとめておく。事後学修として、法的規制を整理する。(4時間)				
12	交通事故	交通事故における刑事上の責任・民事上の責任・行政上の責任について				事前にどのような責任がかかるか考えておく。講義後、整理して理解する。(4時間)				
13	我が国の裁判制度	刑事裁判と民事裁判の特徴と手続き				事前に両者について調べる。事後学修として、特徴や違いなどを整理してまとめる。(4時間)				
14	裁判員制度	国民が参加する裁判員制度の内容と国民の行うこと				事前に裁判員制度を調べる。事後学修として、裁判員の仕事を理解する。(4時間)				
15	国際法の基礎	国際慣習法と条約の役割について実例をもとに学ぶ				事前学修として、国際法とは何かを調べる。事後学修として、具体例を調べて理解する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「フンステップ法学」目崎哲久ほか著目崎哲久・國友順市編(嵯峨野書院) ISBN:978-4-7823-0551-5(生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158(生協で購入してください。)				出席レポート:10% 定期試験:90% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展の問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「法律学への誘い」伊藤眞著(有斐閣) ISBN:4-641-02784-6				身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後の大学生活および社会生活に役立ててください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、事前に読んでおいてください。						

科目名	生活マネジメント入門		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	KL16050	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
社会の構造が複雑化するに伴い、我々は生活において様々なリスクと直面しています。知っているか、知らないか、が皆さんの生活の質に大きな影響を与えることでしょうか。社会においては当たり前の常識であっても、大学生にとっては未知の常識というものも多々あることと思います。そこでこの講義では2年次以降に展開される「生活マネジメント」の様々な講義の入門編として、広く浅く、社会の当たり前の常識について説明します。										
学修到達目標										
社会人として生活をする上で知っておくべき基礎的な事項を修得するとともに、生活における自らの関心を認識し、履修の一助として頂くことが最終的な目標です。										
授業の進め方										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション - 生活マネジメントとは -	講義の内容や履修上の注意点について説明します。				これからの生活における不安について考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
2	契約の基礎知識 - トラブルの事例 -	契約をめぐるトラブルについて、事例を紹介します。				契約上のトラブルについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
3	契約の基礎知識 - クーリングオフ -	クーリングオフ制度について説明します。				クーリングオフ制度について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
4	家族の基礎知識	民法を中心に、家族に関わる様々な問題を紹介します。				家族と民法の関係を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
5	セーフティネットの基礎知識 - 社会保険と労働保険 -	年金保険、健康保険、雇用保険、労働災害保険を説明します。				社会保険と労働保険とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
6	セーフティネットの基礎知識 - 生活保護と自己破産 -	生活保護制度と自己破産制度について説明します。				生活保護制度と自己破産制度とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
7	インターネットの危険性の基礎知識	インターネットの利用上におけるメリットとデメリットについて説明します。				インターネットを利用した犯罪等について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
8	金融の基礎知識	資産形成の一助となる金融商品について説明します。				金融商品にはどのようなものがあるか調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
9	保険の基礎知識	生活上のリスク低減に必要な保険商品について説明します。				保険商品にはどのようなものがあるか調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
10	食生活の基礎知識	日本人に不足しているといわれる栄養素や食の安全性について説明します。				食の安全性をめぐる事件等について情報を収集して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
11	結婚の基礎知識	結婚の現状、結婚式の流れ、費用等について説明します。				日本での婚姻数の推移や現況を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
12	出産の基礎知識	出産の現状やその費用等について説明します。				日本での出生数の推移や現況を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
13	育児の基礎知識	育児の現状や子どもの病気、さらにはその費用等について説明します。				子どもの予防接種やその課題について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
14	暮らしと仕事の両立のための基礎知識	仕事と生活のバランスに関して説明するとともに、国の取り組みについても説明します。				ワークライフバランス実現の障害は何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	これまでの講義を全体的に振り返ります。				講義に関する質問がないか確認して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリントを配布します。		小テスト：55% 出席レポート：45% 小テストと出席レポートの合計点が100点の場合にS、80点以上の場合にA、70点以上の場合にB、60点以上の場合にC、59点以下の場合にDとなります。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「くらしの豆知識」(独立行政法人国民生活センター)		賢い生活者になるために必要な最低限の知識を扱います。皆さんの今後の生活に大きな影響を与える内容はありますので、積極的に講義に臨んで下さい。なお、毎回の講義において小テストを実施します。								

科目名	契約法			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KL26051	研究室	W-33
担当者	増尾 均			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
本講義では債権法総論を中心に授業をし、各論の不法行為も合わせて行います。民法は大別すると財産法と家族法に分けることができます。財産法には、民法総則・物権法・債権法総論・債権法各論があります。この中で債権法総論には契約・保証・損害賠償など社会生活の中で多用されている制度があることから、これを重点的に行います。											
学修到達目標											
本講義を受けることにより、トラブルに遭わないための予防策、ならびにトラブルに遭ってしまった場合の速やかな解決方法を学び、企業人として社会の発展に寄与することができるようになることを目的とします。											
授業の進め方											
基本的には教科書と六法を用いて講義室で授業を行います。しかし、教科書と六法のみではなく、必要に応じて判例・新聞記事などのプリントも配布して使用します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方・契約法を学ぶ意義					事前に民法の中の契約法の位置づけを調べる。事後学修として、体系的にまとめる。(4時間)				
2	特定物債権と不特定物債権	特定物債権と不特定物債権の特徴					事前に両債権の外郭を理解しておくこと。事後学修として、詳細に比較検討すること。(4時間)				
3	危険負担	特定物債権と不特定物債権の危険負担の違い					事前に危険負担の意味を調べて理解すること。講義後、両者の違いを把握すること。(4時間)				
4	金銭債権と利息債権	金銭債権と利息債権の問題点と法的諸規制					事前学修として、変遷を調べておく。事後学修として、法的規制をまとめる。(4時間)				
5	強制履行	直接強制・代替執行・間接強制の要件と効果					事前に履行を強制するかまとめる。事後学修として各強制的利用限界をまとめる。(4時間)				
6	債務不履行の種類	債務不履行の意義・要件					事前に債務不履行が生じる場面を調べる。事後学修として、体系的に整理して理解する。(4時間)				
7	債務不履行の効果	債務不履行の手続きと損害賠償					事前に損害賠償の内容を調べておくこと。事後学修として、整理してまとめること。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。					事前に今までの復習を再度行う。事後学修として、理解が不十分であった所を学ぶ。(4時間)				
9	債権者代位権と債権者取消権	責任財産の保全という視点から債権者代位権と債権者取消権を学ぶ					事前に2制度の概要を理解しておく。事後学修として、制度の要件と効果をまとめる。(4時間)				
10	分割・不可分債権関係・連帯債務	多数当事者の債権関係として、分割・不可分債権関係・連帯債務の制度を学ぶ					事前に各制度の概要を理解する。事後学修として、担保的機能を中心に理解を深める。(4時間)				
11	保証債務・連帯保証	担保的機能の強い保証債務と連帯保証の特徴と留意点					事前に担保的機能を調べる。事後学修として、制度の違いを整理する。(4時間)				
12	弁済・代物弁済・供託	債権の消滅原因としての弁済・代物弁済・供託の機能					事前に各制度の特徴を調べる。事後学修として、各制度の違いを比較しまとめる。(4時間)				
13	相殺・更改・免除・混同	債権の消滅原因としての相殺・更改・免除・混同の機能					事前に各制度の特徴を調べる。事後学修として、各制度の違いを比較しまとめる。(4時間)				
14	一般の不法行為	民法709条の要件と効果					事前に損害賠償について調べる。事後学修として、債務不履行の効果と比較する。(4時間)				
15	特殊な不法行為	特殊な不法行為として位置づけられている諸制度の要件と効果					事前に条文に従い種類を整理しておくこと。事後学修として、効果をまとめる。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「プリメール民法3債権総論」大島和夫・高橋眞・玉樹智文・山田希著 著(法律文化社) ISBN:978-4-589-03625-4 (生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158 (生協で購入してください。)						出席レポート:10% 定期試験:90% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展的問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「債権総論」水辺芳郎著(法律文化社)						身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後の大学生活および社会生活に役立ててください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおいてください。					

科目名	金融論		学年学期	2年前期		単位数	2		ナバリング	KB26052		研究室	
担当者	各教員		必修選択	選択		科目種別	講義		オフィスアワー				
関連資格					履修条件								
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)								
		A	B	C									
授業概要													
本講義は、金融の仕組みについて、理論面のみならず、現実の動きを念頭におきながら「生きた知識」として習得し、日本の金融面の特徴について理解を深めることを目的とします。日本の金融システムは、近年、大きく変貌してきました。とりわけ、2013年以降は、アベノミクス(安倍内閣の経済政策)の下での金融緩和政策が内外の注目を集めています。こうした動きを踏まえ、家計(消費者)や投資家の視点に立つて資産運用や資金調達の方法を説明した後、日本の金融システムや金融政策などについて解説します。													
学修到達目標													
新聞・ネットの金融関連記事が理解できる程度の金融動向や考え方を習得し、それを活用して賢く生きるために必要な判断力(金融リテラシー)を身につけることを目指します。													
授業の進め方													
教室での講義を原則とし、プロジェクターや配布資料等に基づいて講義を行います。また、必要に応じて講義内容に関連したその時々のトピック(金融常識と思われる時事問題)も取り上げます。													
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。													
回	テーマ	内容		事前事後学修									
1	授業ガイダンス	授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、総合経営学と金融との関係について説明します。授業外学修は週に4時間必要。		経済入門で金融について学んだ内容を復習し、自分が関心のある金融問題を探します。(4時間)									
2	金融の仕組み:金融取引と金融システム	金融取引の内容や資金の流れの仕組みを概説した後、家計の視点に立つて、金融資産(商品)の種類と特徴について説明し、そのうえで金融システムの課題を明らかにします。		金融資産と金融システムについて理解します。授業外学修は週に4時間必要。									
3	株式会社制度と証券市場の仕組み	リスクのある金融商品である株式や社債について理解するために、わたしたちの生活と会社、株式会社の資金の集め方、株式会社のしくみについて概説した後、証券市場の役割について説明します。		証券市場の仕組みや役割について理解します。授業外学修は週に4時間必要。									
4	家計の金融資産選択	家計の金融資産選択にとつて必要な金利、債券価格、株価、円相場について解説します。そのうえで、金融資産運用の基本原則について説明します。		金融資産運用の基本原則を理解します。授業外学修は週に4時間必要。									
5	生命保険の仕組みと役割	保険業界の専門家を招き、保険を利用する家計の視点に立つて、保険の役割、生活保障ニーズと生活保障手段、生命保険の仕組み、生命保険の種類と役割、といった内容について特別講義をしていただきます。		自分の生活と保険との関係について、レポートを作成します。授業外学修は週に4時間必要。									
6	日本の企業金融	日本の企業金融に関して、従来の特徴、企業金融の変容、世界的な金融経済危機後の変化について説明します。		企業金融の大枠を理解できるよう復習します。授業外学修は週に4時間必要。									
7	日本の資金循環構造:資金の流れ方	日本の資金循環統計を利用して、家計、企業、政府、海外といった経済部門別の金融資産・負債残高、部門別にみた資金過不足の構造変化、資金仲介構造の特徴とその変化、について説明します。		資金循環統計の見方や資金の流れ方の特徴を理解します。授業外学修は週に4時間必要。									
8	中間総括:金融と実体経済	中間総括として、金融と実体経済に関するビデオを見ながら、金融の仕組み、実体経済・景気と金融の関係、について確認します。		これまでの内容を復習し、疑問点を解消します。授業外学修は週に4時間必要。									
9	地域金融機関の監督行政	金融監督規制の実践編。金融監督当局者を招き、金融行政の目的、金融監督行政の具体的な手法や評価基準等、最新の金融情勢と金融監督面の課題、といった内容について特別講義をしていただきます。		大まかな内容が理解できるように復習しレポートを作成します。授業外学修は週に4時間必要。									
10	政府の役割と金融規制	金融監督規制の理論編。ミクロ経済学的なフレームワークを使って、金融活動への政府関与の目的、モラルハザードと政府の失敗、新しい金融規制の概要、について説明します。		金融専門用語を復習し、理論的な考え方を理解します。授業外学修は週に4時間必要。									
11	金融の仕組みと金融政策運営	経済の潤滑油である通貨供給のメカニズムと中央銀行の役割、金融政策の枠組み、近年の金融政策運営の特徴、について解説します。		最近の新聞・ネット等で、金融政策運営について確認します。授業外学修は週に4時間必要。									
12	財政と金融	財政当局者を招き、財政と金融との関係(国債発行と金融政策運営など)を念頭において、財政(予算)の基礎知識、財政の課題、課題解決に向けた方法、といった内容について特別講義をしていただきます。		財政と金融の関係について理解し、レポートを作成します。授業外学修は週に4時間必要。									
13	決済の仕組みと中央銀行の役割	経済取引で発生した債権・債務を解消するための決済について、決済の目的、決済の道具、決済の方法、決済と信用、決済と銀行、決済の実際、決済の安定のための中央銀行の役割と課題、の順で説明します。		決済の仕組みや決済の安定の必要性について理解します。授業外学修は週に4時間必要。									
14	グローバル危機以降の金融政策と金融システム改革	グローバル危機以降の金融政策の国際比較、金融危機の類型と金融システム改革について解説した後、日本経済の中長期的な課題を説明します。		金融政策運営や金融システム改革の動きを確認し理解します。授業外学修は週に4時間必要。									
15	講義全体のまとめ	講義全体の総括として、賢い消費者になるための金融リテラシー(知識・判断力)について整理し、説明します。		講義全体を振り返って、内容を理解する。授業外学修は週に4時間必要。									
テキスト				成績評価の方法・基準									
この授業はテキストを使用しませんが、下記の参考書や新聞・ネット等の金融経済記事を読むことを薦めます。				定期試験:40% 出席レポート:30% レポート:30% S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組みレポートを作成できる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組みレポートを作成できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組みレポートを作成できる。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に取り組みレポートを作成できる。									
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)									
「図説 わが国の銀行」全国銀行協会金融調査部著(財経詳報社) 「金融読本(第29版)」島村高嘉・中島真志著(東洋経済新報社)				日頃から金融経済の動きに関心を持ち、新聞・ネット等の金融経済関連記事を読む習慣を身につけてください。 質問には、オフィスアワーで回答します。									

科目名	家族法		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ'リング	KB26053 TB26047	研究室	W-33
担当者	増尾 均		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日2限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
我が国には非常に多くの法律がありますが、その中でも民法は社会生活をする上で最も身近な暮らしに関することを規律した法律です。本講義では民法の中の家族法を学んでいただきます。具体的には夫婦や親子の関係を規定する親族法と相続や遺言を規定する相続法です。いずれも社会生活のみならず家庭生活の中でも多用されています。										
学修到達目標										
家族法の諸制度を学び、家庭内でのトラブルを回避するための法的予防策ならびにトラブルに遭遇してしまった場合の法的早期解決方法を習得し、地域人として家庭の平穏と地域の発展に寄与することを目的とします。										
授業の進め方										
基本的には教科書と六法を用いて授業を進めます。しかし、教科書と六法のみではなく、必要に応じて判例・新聞記事などのプリントも配布して使用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、家族法の意義と民法の中の位置づけ				事前に民法とはどのような法律か調べる。講義後、家族法の位置づけをまとめる。(4時間)				
2	親族法総説	親族法の沿革、親族法の特徴				事前学修として、身分法について調べる。事後学修として、現親族法との比較検討をする。(4時間)				
3	婚姻の成立と効果	婚姻成立のための実質的要件と形式的要件、地位と財産上の効果について				事前学修として、婚姻の条件を調べる。事後学修として、各規定を整理する。(4時間)				
4	離婚の成立	離婚制度の沿革、離婚の種類と要件、有責主義と破綻主義について学ぶ				事前に離婚の条件を調べる。事後学修として、有責主義と破綻主義についてまとめる。(4時間)				
5	離婚の効果	離婚による財産上の効果と子に関する効果				事前に離婚によって夫婦はどうか調べる。講義後、財産と法的効果を整理する。(4時間)				
6	親子	実親子と養親子、それぞれの問題点と法規制				事前に親子間の問題を調べる。事後学修としてそれぞれの問題と規制を整理する。(4時間)				
7	親権	親権および身上監護と財産管理の意義と内容				事前に親権について調べる。事後学修として、親権と監護権との関係についてまとめる。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。				事前に今までの復習を再度行う。講義後、理解が不十分であった所を改めて学ぶ。(4時間)				
9	後見制度	未成年後見、成年後見・補佐・補助の意義と制度の概要				事前学修として、後見とは何かを調べる。事後学修として、各制度の違いをまとめる。(4時間)				
10	相続法総説	相続法の沿革旧法との比較				事前に昔の相続はどうであったか調べる。事後学修として、現行法との比較検討をする。(4時間)				
11	相続人	相続人の範囲と順位、相続権の剥奪、代襲相続				事前に誰が相続できるか調べる。事後学修として、各制度を整理してまとめる。(4時間)				
12	相続の効力	相続分と遺産分割				事前に遺産をどう分けるか考える。講義後、相続分について整理する。(4時間)				
13	相続の承認と放棄	単純承認・限定承認・相続の放棄について手続きと規定を学ぶ				事前学修として、相続の種類を調べる。事後学修として、それぞれの特徴をまとめる。(4時間)				
14	遺言	遺言の各種方式と遺贈の意義と要件				事前学修として、遺言の種類を調べる。事後学修として、各制度の特徴を整理する。(4時間)				
15	遺留分	遺留分の概要と算定				事前に遺留分の意義を調べる。事後学修として、計算ができるように練習する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「ブリエール民法5家族法」千藤洋三・床谷文雄・田中通裕・辻朗著(法律文化社) ISBN:978-4-589-03595-0(生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158(生協で購入してください。)				出席レポート:10% 定期試験:90% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展の問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「ハイブリッド民法5 家族法」半田吉信・鹿野菜穂子・佐藤啓子・青竹美佳著(法律文化社) ISBN:9784641009158				身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後の大学生活および社会生活に役立ててください。講義計画に該当する内容を読んでください。						

科目名	生活環境論		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KB26054 TB26046	研究室	非常勤
担当者	水橋 文雄		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワー			
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
「生活環境論」では、良好な生活環境を維持する為、持続可能な社会を構築する基本三原則とされる低炭素社会、循環型社会及び自然共生社会の中に潜む様々な問題点を整理し、問題解決の為に具体的な実践方法について共に考えてみる授業です。										
学修到達目標										
良好な生活環境の持続可能な社会を構築するために、様々な生活環境問題に対し、その対策は何かを考え、実践し、その成果を検証する能力(PDCAサイクル)を身につける。										
授業の進め方										
パワーポイントやDVD(BR)を利用して講義を進めます。資料はパワーポイントの主な内容をプリントして配ります。また、アウトキャンパスとして、「最終処分場」の見学を予定します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	生活環境論とは	良好な生活環境を維持する為に、低炭素社会、循環型社会及び自然共生社会の中に潜む様々な問題点の概要を説明する事で、生活環境論とは何かを説明します。				受講生の過去(小学生時代)と現在の生活環境の違いについて調査し、整理する。(4時間)				
2	生活環境の現状について	持続可能な社会の構築を阻害している様々な生活環境の異変について説明します。				身の回りで起きている生活環境の異変について調査する。(4時間)				
3	循環型社会の構築について。(1)	循環型社会を構築する為の基礎となる日本の廃棄物処理に関する法制度について説明します。				日本の廃棄物処理に関する法制度について調査し、廃棄物の定義等を理解する。(4時間)				
4	循環型社会の構築について。(2)	循環型社会を構築する為の、日本の各種リサイクル法制度について説明します。				日本のリサイクルに関する法制度について調査し、リサイクルの方法について理解する。(4時間)				
5	循環型社会の構築について。(3)	循環型社会を構築するための廃棄物処理施設について説明します。				受講生の出身自治体の一般廃棄物処理施設の状況について調査する。(4時間)				
6	施設見学	松本市の一般廃棄物の最終処理施設(エコトピア山田)を見学します。				受講生の出身自治体の一般廃棄物の最終処理施設の現状について調査する。(4時間)				
7	低炭素社会の構築について。(1)	日本における、地球温暖化によるとされる異常気象の現状と、それに伴う生活環境への影響について説明します。				日本における異常気象の発生状況について調査する。(4時間)				
8	低炭素社会の構築について。(2)	パリ協定に基づく地球温暖化に対する日本の取り組み内容について説明します。				京都議定書及びパリ協定の内容を比較して、国際的取り組み状況について調査する。(4時間)				
9	低炭素社会の構築について。(3)	日本のエネルギー政策の問題点(原子力発電所再稼働問題等)について説明します。				日本のエネルギー政策と、電力自由化に伴う石炭火力発電所の建設状況について調査する。(4時間)				
10	低炭素社会の構築について。(4)	松本平の再生可能エネルギーの開発の可能性と問題点について説明します。				再生可能エネルギーの種類と特性について調査する。(4時間)				
11	自然共生社会の構築について。(1)	現在の日本雷鳥に代表されるような、様々な野生生物種の減少問題について説明します。				身近に発生している野生生物(動物・植物・昆虫等)の減少について調査する。(4時間)				
12	自然共生社会の構築について。(2)	現在のニホンジカに代表されるような、様々な野生生物の生息数の増加及び被害状況(鳥獣被害)について説明します。				身近に発生している野生生物の増加による被害(カラス・ムクドリ等)の状況を調査する。(4時間)				
13	自然共生社会の構築について。(3)	里山の荒廃(松がれ等)、外来種による在来種の駆逐、人為的種交配の状況等の問題点について説明します。				桜の名所、ホテルの里等の街づくり事業や、白鳥や野良猫への餌やり等の問題を調査する。(4時間)				
14	自然共生社会の構築について。(4)	農業(の空中散布)等の化学物質の飛散が、動物や昆虫等の生息環境に与えている影響等について説明します。				松がれ対策の農業散布に伴う化学物質過敏症や環境ホルモン禍との関係等について調査する。(4時間)				
15	持続可能な社会の構築について(整理)	持続可能な社会とする、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を構築する為の問題点を再整理します。				持続可能な社会を構築する為に、今何をすべきかを考察し、実践する方法を整理する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
必要に応じてパワーポイントを要約した資料を配布します。				受講態度:30% レポート:30% 定期試験:40% 受講態度は、講義毎に提出する受講票による講義への意見の内容を評価に加味します。レポートは3回以上の提出を予定します。提出期限を厳守して下さい。S評価は、成績評価の合計が100となり、しかもレポート提出状況及び受講態度が優秀な場合です。A評価は、成績評価の合計が80以上の場合で、レポート提出状況及び受講態度が良好な場合です。B評価は、成績評価の合計が70以上80未満の場合で、C評価は、成績評価の合計が60以上70未満の場合です。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特にありません				持続可能な社会を構築する為に、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会だけではなく、生活の中にある様々な環境問題に関心をもつ事が重要です。そこで今ある環境問題をどう対処すべきかを常に考える事が大切です。						

科目名	ワークライフバランス		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KB36055	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
この講義ではワークライフバランスの必要性や歴史、その考え方をまず紹介し、次に法律や国・企業の取り組みについて紹介します。またワークライフバランスの中でもっとも重点が置かれている女性の育児と仕事の両立を理解するために、女性の労働についても扱います。										
学修到達目標										
将来、社会人として仕事をする中で、皆さんが有する子育てや介護に関する休業や働き方の選択に対する権利について基礎的な知識を身につけるとともに、日本経済の活性化のためにワークライフバランス施策がいかに重要かを理解してもらうことが最終的な目標です。										
授業の進め方										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション - ワークライフバランスとは -	ワークライフバランスとは何かを説明します。				ワークライフバランスとは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
2	ワークライフバランスの背景	なぜ日本においてワークライフバランスが必要なのか、その理由について説明します。				日本経済にはなぜ女性の活用が必要なのか調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
3	日本におけるワークライフバランスの現状	日本におけるワークライフバランスの現状をデータを用いて説明します。				日本のワークライフバランスの現状を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
4	日本における女性の労働	日本における女性の働き方について説明します。				日本の女性の働き方の特徴を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
5	企業に課されたワークライフバランス - 育児・介護休業 -	育児休業・介護休業について解説します。				育児・介護休業法を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
6	企業に課されたワークライフバランス - 休業以外の義務 -	短時間勤務制度や時間外労働の制限等について解説します。				短時間勤務制度について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
7	先進国におけるワークライフバランス	欧米諸国のワークライフバランスの現状について、データを用いて解説します。				育児休業取得率の国際比較を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
8	ワークライフバランスに対する国や県の取り組み	政府や長野県のワークライフバランスに対する取り組みについて説明します。				政府や長野県の取り組みについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
9	企業のワークライフバランスへの取り組み事例	企業のワークライフバランス施策について、法定以上の取り組み事例を紹介します。				育児に関して興味深い取り組み事例を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
10	企業のワークライフバランスへの取り組み事例	企業のワークライフバランス施策について、法定以上の取り組み事例を紹介します。				治療と仕事の両立に組み込み企業の事例を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
11	企業のワークライフバランスへの取り組み事例	企業のワークライフバランス施策について、法定以上の取り組み事例を紹介します。				ボランティアと仕事の両立の事例を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
12	ワークライフバランスと労働時間制度の関係	ワークライフバランス施策において労働時間管理の柔軟化が有用であることを説明します。				WLBに適した労働時間制度について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
13	企業のワークライフバランスと生産性	ワークライフバランス施策は企業はもちろん、労働者にとっても有用であることを説明します。				ワークライフバランスの有用性について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
14	ワークライフバランスを巡る課題	ワークライフバランス施策の普及拡大における問題点を明らかにし、その解決策について考えます。				ワークライフバランス施策の課題について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	講義全体のレビューを行います。				講義全般に対する質問がないか確認して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリントを配布します。		小テスト：55% 出席レポート：45% 小テストと出席レポートの合計点が100点の場合にS、80点以上の場合にA、70点以上の場合にB、60点以上の場合にC、59点以下の場合にDとなります。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス」学習院大学経済経営研究所編(第一法規出版)		皆さんが今後働く上で、すべての方が子育てや介護など、「ワークライフバランス」の問題に必ず直面します。ぜひ積極的に講義に臨んで下さい。なお、毎回の講義で小テストを実施します。								

科目名	消費者行動論			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KB36056	研究室	W-28
担当者	清水 聡子			必修選択	選択	科目種別	講義	オイスター	月曜日2限		
関連資格	高一(商業)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
私たちは消費者として、さまざまな製品やサービスを選択し、購入します。消費者行動論では、消費者行動の内容を把握し、消費者の意思決定の過程について学びます。											
学修到達目標											
消費者行動に関する基礎的、発展的な知識を習得し、自らの消費者行動を理解するとともに、消費者行動に関する課題や問題意識を持ち、自分の言葉で自分の考えをまとめる力や創造的思考の育成を目標とします。											
授業の進め方											
講義計画に従って、配布プリントを用いて教室にて授業を行います。それぞれの授業の構成は、前回の授業の復習、今回の授業のポイント、授業の中心部(メイン)、問題提起(来週の予告)と4部構成で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	消費者行動論で学ぶ内容の全体像を示し、講義の進め方を説明します。					シラバスを読む。消費者行動論の全体像を把握する。(4時間)				
2	消費者とは何か	消費者の概念を理解し、消費者行動について考察します。					自らの消費者行動に対する課題を見つける。(4時間)				
3	消費者ニーズと消費者の反応	消費者ニーズの考え方を理解し、自らの消費者ニーズを考察します。					自らの消費者ニーズに対する反応を考える。(4時間)				
4	マーケティング・リサーチ(1)	マーケティング・リサーチの機能を理解し、企業の視点から消費者行動を考察します。					事例研究を行う。(4時間)				
5	マーケティング・リサーチ(2)	マーケティング・リサーチの種類とデータの収集方法を考察します。					事例研究を行う。(4時間)				
6	消費者行動分析(1)	ライフサイクル分析を理解し、自らのライフサイクルと製品ライフサイクルを比較します。					自らのライフサイクルを考察し、まとめる。(4時間)				
7	消費者行動分析(2)	社会的側面の分析を理解し、影響因子を考察します。					消費者行動で影響を受けている社会的因子を考える。(4時間)				
8	消費者行動分析(3)	ライフスタイル分析を理解し、自らのライフスタイルを考察します。					自らのライフスタイルを考察し、まとめる。(4時間)				
9	消費者問題と消費者政策	消費者問題の推移と消費者政策を考察します。					自らの消費者行動の中から消費者問題を考える。(4時間)				
10	消費者の権利と責任	消費者が消費生活をするうえでの基本的権利と責任を考察します。					消費者の権利と責任を意識し、自らの消費者行動を考える。(4時間)				
11	コンシューマリズムとは何か	コンシューマリズム(消費者主義)とコンシューマムーブメント(消費者運動)の概念を考察します。					消費者としての主体的立場を自覚し、消費者行動を考える。(4時間)				
12	消費者教育とは何か	必要される消費者教育はどのようなものかを考察します。					賢い消費者となるために必要な教育とは何かを考える。(4時間)				
13	消費者満足とは何か	商品やサービスの消費によって形成される消費者満足の概念を理解し、自らの消費者行動を考察します。					満足、不満足の体験をまとめ、消費者満足について考える。(4時間)				
14	消費者と法	消費者に関係する法律として消費者基本法を中心に考察します。					受動的な消費者から主体的な消費者になるために必要なことを考える。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	消費者行動論で学んだ全体像を示し、消費者行動の課題を考察します。					今までの復習を行い、消費者行動の課題を考える。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
プリント・資料の配布をもってテキストに代えます。						定期試験：100% S:授業内容を高度に理解できる。A:授業内容を理解できる。B:授業内容をおおよそ理解できる。C:授業内容の60%を理解できる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「消費者行動論体系」田中洋著(中央経済社) 「消費者行動論」平久保伸人著(ダイヤモンド社)						マーケティング基礎、マーケティング戦略を受講した学生を対象に、講義を展開します。受講者は講義計画と講義の進み具合にあわせ、新聞や雑誌などから関連した記事を探し出し、常に自らの消費者行動を考えてください。					

科目名	住環境論		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバ'リング	KB36057	研究室	
担当者	鈴木 芳彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
私たちが取り巻く自然環境を大切に、安全・安心で快適に生活することができる住環境を創り上げていくための知識を実例を通して学びます。										
学修到達目標										
こころ豊かな空間づくりについての基本的な事項を学び、家づくり、まちづくりについて自ら考えることができるようになること。										
授業の進め方										
実在、もしくは実在した住宅、集合住宅、まちなみの資料及びスライド等を用いて心地よい空間について考えながら講義を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・軍艦島を考える	ガイダンス・廃墟となった軍艦島の映像を見て、そこでの生活を考えてみる。				前期の間に住宅もしくはまちづくりに関する書籍を1冊読んでください。(書籍は紹介します)(4時間)				
2	同潤会アパート	同潤会アパートの映像を見て集って暮らすということを考えてみる。				前期の間に住宅もしくはまちづくりに関する書籍を1冊読んでください。(書籍は紹介します)(4時間)				
3	住まいのしくみ	住宅建築の構造としくみ				前期の間に住宅もしくはまちづくりに関する書籍を1冊読んでください。(書籍は紹介します)(4時間)				
4	住まいの歴史	住まいが時代とともにどのように変化してきたか				前期の間に住宅もしくはまちづくりに関する書籍を1冊読んでください。(書籍は紹介します)(4時間)				
5	落水荘	気持ちの良い空間とは				前期の間に住宅もしくはまちづくりに関する書籍を1冊読んでください。(書籍は紹介します)(4時間)				
6	ルイス・バラガン邸	気持ちの良い空間とは				前期の間に住宅もしくはまちづくりに関する書籍を1冊読んでください。(書籍は紹介します)(4時間)				
7	住吉の長屋	気持ちの良い空間とは				前期の間に住宅もしくはまちづくりに関する書籍を1冊読んでください。(書籍は紹介します)(4時間)				
8	小さな森の家	気持ちの良い空間とは				前期の間に住宅もしくはまちづくりに関する書籍を1冊読んでください。(書籍は紹介します)(4時間)				
9	若槻の家・西尾張部の家	気持ちの良い空間とは				前期の間に住宅もしくはまちづくりに関する書籍を1冊読んでください。(書籍は紹介します)(4時間)				
10	建築にかかわる法律	建築基準法、都市計画法等の概要について				どのような法律があるのか調べる				
11	住まいのエネルギー	住宅ではどのようなエネルギーが使われているか				住んでいく上で必要なエネルギーを考えてみる(4時間)				
12	住まいの設計方法	何を考え、どのように設計するのか				自宅の調査(4時間)				
13	住まいをデザインする-1	自分の家を設計してみよう				家を考える(4時間)				
14	住まいをデザインする-2	自分の家を設計してみよう				家を考える(4時間)				
15	発表	まとめ。設計した家をプレゼンテーションする。				プレゼンテーションを考える(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
適時プリントを配布します。		定期試験：40% レポート：30% 受講態度：30% S：授業内容を高度に理解して発展的な課題に対応できる。A：授業内容を理解して応用的な課題に対応できる。B：授業内容をおおよそ理解して応用的な課題にはほぼ対応できる。C：授業内容の6割程度を理解している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
その都度紹介します。		住環境は住宅そのものから近隣環境、地域コミュニティ、ランドスケープまで広範囲にわたり、それらとの関係からどのように計画、設計、実施していけばよいか実例を参考に考えます。								

科目名	生活福祉論	学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバ`リング	KB36058	研究室	
担当者	亀井 智泉	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)							
	A	B	C						
授業概要									
福祉は高齢者介護だけではありません。福祉制度の背景にある歴史的背景や社会的要因理念を学び、その制度が目指す社会の在り方について考えます。一方で、私たちひとりひとりが生活の当事者として、家族・近隣・地域・社会とどのようにつながり、支えあっていくのか、また、社会は私たちの生活とどのようにつながっているのかを理解します。今後我が国の基幹産業ともなる福祉についての学びです。学生諸君のキャリア形成にも生かせる内容にしていきたいと思います。									
学修到達目標									
生活の当事者としての視点から大きな意味での「福祉」を理解すること。基本的人権と「生活の中の福祉」について理解し、しあわせな生活とよりよいまちづくりのために福祉が果たす役割について、自分の言葉で論じることができるようになること。									
授業の進め方									
ICF(国際生活機能分類)をモノサシに、自分たちの生活を測っていきましょう。スライドや動画、グループワーク等を取り入れて、「聞くだけ」ではない講義を進めます。講義後のミニレポートをもって出席表とします。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	「しあわせな生活」とは何かを一緒に考えながら、講義の目指すところを共有します。				自らの子ども時代・成人期・老年期におけるリスクを三つずつリストアップする。4時間			
2	私たちの生活と福祉	生活とは何かを考え、ライフサイクル(生活周期)と福祉について考えます。				自分の卒業後の人生を描いてくること。4時間			
3	社会福祉とは一理念と歴史	社会福祉の理念と歴史を学びます				前回講義にて配布する事例に基づき、過去と現在の福祉の理念の差異の表に記入してください。4時			
4	社会福祉とは一法体系と制度	社会福祉の法体系と実際の制度について学びます				レポート 障がい者差別解消法の設立経緯と理念について1000字程度にま止める。4時間			
5	社会福祉の担い手 行政と実施機関	前回学んだ制度を支える社会福祉の担い手がどこにいてどんな仕事をしているのかを学びます				福祉に携わる職種にはどんなものがあるかをリストアップしてきてください。4時間			
6	社会福祉の担い手 施設と専門職・市民	社会福祉の担い手の専門分化と、一般の市民が担う福祉の在り方について学びます。				レポート ボランティア体験について。4時間			
7	社会福祉の財政と費用負担	社会福祉にかかるコストとその負担の仕組みと、「ソーシャルキャピタル」をキーワードに社会福祉の費用対効果について考えます。				レポート 社会福祉の職場とそこで働く職種についてのレポート。4時間			
8	自助・互助・共助・公助	よりよい生活を継続して行うために自分がやるべきこと・家族がやるべきこと・近所の人とやるべきこと・社会でやるべきことを考えます。できればグループワークで考えてみましょう。				7回目講義終了時に配布する事例に基づき、支援マップを作成する。4時間			
9	地域生活と福祉 こども・貧困・女性	実際の事例を基に身近な生活の問題としてICFの図をもとにこどもと女性、貧困を考えます。				8回目講義終了時に配布する事例を読み、支援マップを作成する。4時間			
10	地域生活と福祉 障害児者	障がいを持つこどもと家族、成人した障害者の生活を支える福祉について複数の事例を基に学びます。				ICFの図と解説について熟読理解しておくこと。4時間			
11	地域生活と福祉 高齢者	高齢者福祉は現在の社会福祉の中で大きなウエイトを占めています。身近な高齢者の事例を基に、この地域ならではの高齢者福祉をも考えましょう。				レポート 時分はどんな高齢者になりたいか。4時間			
12	医療・教育・福祉・地域住民の連携	地域の医療、教育、地域住民と福祉の連携について、事例を通して学び、多職種の役割と関係を図示する方法(支援マップ)を学びます。				レポート 講義後に配布する事例について、支援マップと人権についてのレポートを作成する4時間			
13	社会福祉と人権	社会福祉の果たす大きな役割の一つに社会的に弱い立場にある人の人権擁護があります。支援する「優しい」福祉と同時にある「たたかう」福祉の在り方について考えます。				「児童虐待防止法」「障害者虐待防止法」についての事例を自分で探してくる。4時間			
14	地域福祉計画と私たちの生活	松本市の福祉の現状に「自分なら何ができるか」を具体的に考えます。				自分の住む市町村の福祉の課題を探してくる。4時間			
15	まとめ 自分を取り巻く社会と福祉	自分の「しあわせな生活」のために必要なことと、それを守るために誰が何をしてくれるのか。自助・互助・共助・公助と人権擁護の視点から整理して、自分のしあわせな生活とよりよいまちづくりをつなげよう。				この講義で行うグループワークに振り返ってのレポートを課します。4時間。			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「はじめて学ぶ社会福祉」遠藤康人・中島健一郎・田家英二ほか共著著松本峰雄・小野沢昇編(建帛社) ISBN:978-4-7679-5018-1(生協で購入してください。)適時プリントも配布します。		受講態度:20% 課題:30% レポート:30% 出席レポート:20% 受講態度は「真面目に出席して静かに聴く」だけでなく、授業初めの質問票への記入、グループワークでの積極性も評価します。S:人権・当事者意識・福祉の関連性の把握ができ、グループワークでも的確な発言ができる。A:積極的な授業態度と、学習内容について自分の言葉に置き換えて正しく表現できる。B:各回の目標達成のために真摯に臨み、授業での学びについて正しく表現できる。C:到達目標について真摯に取り組み、各回の授業での学びを表現できる。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「子ども白書(毎年刊行)」(本の泉社) ISBN:978-4-7807-1233-9 その他その都度紹介します。		生活マネジメントの科目として位置づけられています。諸君のキャリア形成についても考える内容なので、医療・福祉・教育に興味がある学生はとくに当事者意識を持って受講すること。							

科目名	生活文化論		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパ・リソグ	KB36059 TA36037	研究室	W-12
担当者	八木 雅子		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
総 観○		総 観○	総 観							
授業概要										
<p>私たちは「社会」という生活集団を多くの人と築いて生きています。その中で快適な人生を送るためには相手を尊重し、大切に思う気持ちが大切です。日本では自然や神仏を尊び、様々な伝統行事を執り行ってきました。これらは先人たちが生活の中から形に残した冠婚葬祭のしきたりや贈答、手紙のマナーとなり近親者、近隣の人、上司、友人への尊重の気持ち表現する文化として残されています。この講義では、このような日本の伝統文化を学び、それらを通して人との関わり合いの尊さを学びます。</p>										
学修到達目標										
<p>古来からの伝統文化を通し、その意味を理解し、身近なものとする。節目節目の行事により家族、地域の人との絆を深める尊さを理解する。</p>										
授業の進め方										
テキストと映像を使用し講義形式で進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンス 「生活とマナー」概要と進め方を説明します。				テキストを用意してください。(4時間)				
2	「冠」とは何か	「冠」のしきたりとマナーについて学びます。				テキストの当該ページを読んでください。(4時間)				
3	地域にみる「冠」の変遷	「冠」のしきたりとマナーについてその地位色と変遷を学びます。				テキストを読んでください。次回実施の小テストの準備をしてください。(4時間)				
4	「婚」とは何か	「婚」のしきたりと変遷を学びます。				小テストを行います。テキストを読んでください。(4時間)				
5	「葬」とは何か	「葬」の歴史、しきたりについて学びます。				小テストの振り返りを行ってください。テキストを読んでください。(4時間)				
6	「祭」訪問のマナー	「祭」の歴史、しきたりについて学びます。				小テストを行います。テキストを読んでください。(4時間)				
7	訪問、手紙のマナー	訪問、手紙、メールについて心得おきたいマナーを学びます。				小テストの振り返りを行ってください。テキストを読んで課題の手紙を書いてください。(4時間)				
8	社会常識	ことわざとその意味、慣用句を学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
9	社会のマナー	地域生活について学びます。				小テストの準備をしてください。テキストを読んでください。(4時間)				
10	社会のマナー	円滑な人間関係について学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
11	社会のマナー	社会人の心得について学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
12	職場生活の基礎知識	円滑な人間関係を構築するために必要なことは何かを学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
13	職場生活の基礎知識	職場のルールについて学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
14	職場生活の基礎知識	職場外でのマナー、円滑な社会人、企業人として活躍するために求められることを学びます。				。テキストを読んでください。(4時間)				
15	まとめ	全体のまとめ				全授業の振り返りをしてください。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「生活文化論」八木雅子著松本大学編(松本大学) ISBN:ISBNコードなし(生協で購入してください。)				<p>小テスト:80% レポート:20%</p> <p>S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。</p> <p>A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。</p> <p>B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。</p> <p>C:授業内容の6割程度を理解している。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				<p>お互いが尊重しあい人との関わり合いを豊かにして生活するためだけではなく、社会人として職場でもビジネスをスムーズに進めるために求められる日本の生活文化を習得してください。</p>						

科目名	ファッションビジネス		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KB36060	研究室	非常勤
担当者	荒井 利江		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスワ-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
この講義では、ファッション商品の流通経路をたどることで、業界というものの構造を知り、物が商品としての価値をもっていく過程を学びます。ファッション商品を一例に、経済活動の実態を知ること、わたくしたちの生活との関わりを理解することを目的といたします。										
学修到達目標										
ファッションビジネス業界の仕組みと専門用語について知る。様々な職種を理解する。テキスト各章末の復習問題にて、理解度をチェックすることができます。6月にファッションビジネス能力検定試験を受験することも可能です。(希望者)										
授業の進め方										
テキストとサブノートを配布します。授業中はプロジェクター画面にサブノートの記入例を示し解説しますので、内容について、自分で吟味することが授業中の中心となります。適宜、学生理解補助のための質問を出します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	「ファッションビジネス」の定義と特性	ファッションビジネスについて学ぶ際に「ファッション」という言葉は人によってまちまちにわかれています。これでは、今後、学習をすすめていけません。この章では、まずファッションを定義します。				サブノート配布します。テキストにより学習します(4時間)				
2	繊維ファッション産業の流れ	アパレルの製造過程を糸・原料の段階から消費者までの流れ図として提示します。今後何回もこの図を使用することになります。				繊維ファッション産業の流れ図を描く(2時間)				
3	消費者行動とファッション表現	「消費」について考えてみます。しかし、ファッションは物がけではなく、消費をする人の気持ちにおおいに関係します。ここでは、消費者の気持ちをあれこれ想像してみます。				テキストP1~38精読とサブノート記入(4時間)				
4	ライフスタイルとファッション	実は「服」を売るのでなく、ライフスタイルを提案するのだ、ということを強調します。				テキストP39~55精読とサブノート記入(4時間)				
5	アパレル産業と小売産業	FB産業の流れの中でも主となる2つの産業について学びます。アパレルの製造業と卸の種類。小売り業(お店)にも業態、業種別に色々な種類があることを学びます。				テキストP58~77精読とサブノート記入(4時間)				
6	ファッションマーケティング	マーケティングの4P、ターゲット、コンセプト、アイデンティティ、ブランドなど、マーケティングの用語を解説します。FB用語Iの授業と連携して理解を深めます				テキストP80~104精読とサブノート記入(4時間)				
7	ファッションマーチャングイジング	マーケティング調査結果は「品」として生産、陳列されなければなりません。その「商品化」計画と「品揃え」計画と日本に固有のシーズンについて解説します。				テキストP106~120精読とサブノート記入(4時間)				
8	ファッション流通	「流通」とは物が移動するだけではありません。最適な商品の流れや、情報の流れをつくるのがファッションという情報産業に求められています。また、日本の流通業界の慣習を知ります。				テキストP122~131精読とサブノート記入(4時間)				
9	ビジネス基礎知識	ここで学ぶビジネスは「ファッション」ではありません。がファッション業界は、当然日本のビジネス慣行の中にありますので、ビジネス基礎知識のおさらいです。章末の計算問題を授業中に解いてみます。				テキストP134~147精読とサブノート記入(4時間)				
10	デザインの定義と特性	ここから造形分野に入ります。商品としての「服」について知識を深めます。「服」のデザインってなんでしょう。歴史やデザインの4要素から考えます。				テキストP150~161精読とサブノート記入(4時間)				
11	デザインの定義と特性	販売方法やグレードによってデザインもかわります。オートクチュールとプレタポルテについて映像をみながらデザインを楽しみます。				テキストP150~161精読とサブノート記入(4時間)				
12	ファッションコーディネート	ブランドは常にコーディネートで提案されますし、店舗での販売、ショーでもコーディネート力が問われます。服とコーディネートはほぼ同義と考えられます。企業はスタイリング提案をします。				テキストP164~174精読とサブノート記入(4時間)				
13	ファッション商品知識	テキストの一番最後になってしまいましたが、アイテムの名前を知りません。ジャケットとかパンツとか、袖の名前とかカフスの名前。。。				サブノート1冊提出締切り				
14	ファッション商品知識	繊維名やサイズ表示、組成表示について学びます。販売職につかない人にとっても、商品のJIS規格などについて、知ることは消費社会を理解することにつながります。				ノート返却後の再チェック要(4時間)				
15	総論	ファッションビジネスを学んで、私達の暮らしが、より理解しやすくなったでしょうか。1点の衣服の中にこめられた、様々な人の思いをくみ取れるようになったでしょうか。				定期試験問題の勉強を(無制限)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「ファッションビジネス能力検定3級準拠」(財)日本ファッション教育振興協会著 ISBN:978-4-931378-28-5(講義にて配布します。)				レポート:20% 課題:60% 定期試験:20% レポートとは、15回のうち3回において映像もしくは図像をみせて質問を出しますので、それに答えて提出をすることです。また課題とはサブノート1冊を期限内に提出することです。自由記述部分の充実度でランクがつけます。(ここまではCもしくはD)さらに、定期試験の点数により成績がつけます。(BもしくはA)						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「ファッションビジネス用語辞典」(財)日本ファッション教育振興協会著				ファッションビジネス用語の授業と組み合わせることで履修すること。テキストを精読し、サブノート(書式あり)を事前作成すること。提出課題となります。						

科目名	フードマーケティング論		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバ'リ'ング	KL36061	研究室	W-09
担当者	成 蒼政		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	水曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義では、フードマーケティングについて、マーケティング論の理論(主要概念)と分析手法をふまえ、具体的な実例を取り上げながら理解を深めていきます。										
学修到達目標										
1. フードマーケティングに関するニュースや情報について理解・熟知し、説明できること。 2. フードマーケティングの基本的な理論と手法について理解・熟知し、説明できること。 3. 食料品のマーケティングシステムについて説明できること。										
授業の進め方										
基本的にはテキストの内容を中心に、教員が作成した資料をプロジェクター等を活用し、講義を行います。また、必要により動画の視聴および新聞記事などのプリントも配布して使用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション(農業経営とフードマーケティング)	受講に際しての注意する事項、農業とフードマーケティングなどについて講義します。				マーケティングの概念について熟知していただくこと。(4時間)				
2	フードマーケティングの仕組み	フードマーケティングの概念と目的、仕組みなどについて講義します。				テキスト第1章を読み、熟知すること。(4時間)				
3	フードマーケティングの機能・役割	フードマーケティングのミクロ経済的機能と役割、マクロ経済的機能と役割、マーケティング計画などについて講義します。				テキスト第2章を読み、熟知すること。(4時間)				
4	日本のフードマーケティング	日本における現在の食品の消費と流通の実態について講義します。				日本の食品の流通について調べてくると講義の内容を熟知すること。(4時間)				
5	米のマーケティングシステム	日本の稲作農業経営の現状、米の流通段階別価格形成、米の消費などについて講義します。				テキスト第3章を読み、熟知すること。(4時間)				
6	野菜と青果物のマーケティングシステム	日本の野菜と青果物農業経営の現状と実態、野菜の市場分析、青果物の市場分析などについて講義します。				テキスト第4章を読み、熟知すること。(4時間)				
7	畜産物のマーケティングシステム	牛肉・豚肉・鶏肉・鶏卵のマーケティングシステムについて講義します。				テキスト第5章を読み、熟知すること。(4時間)				
8	海産物のマーケティングシステム	日本における海産物の食生活の実態、海産物の市場と流通分析などについて講義します。				日本における海産物の消費実態を調べ、熟知すること。(4時間)				
9	食品の放射能汚染問題と対応策	食品の放射能汚染の実態、これに対する政府の対応策などについて講義します。				日本における食品の放射能汚染の実態を調べ、熟知すること。(4時間)				
10	残留農薬問題とポジティブリスト	基準値を超えた残留農薬、ポジティブリスト制度 - 暫定基準、一律基準、対象外物質などについて講義します。				テキスト第11章を読み、熟知すること。(4時間)				
11	食品の偽装問題	食品偽装の種類、実態、主な偽装事件の分析、関連する法令などについて講義します。				テキスト第12章を読み、熟知すること。(4時間)				
12	フードシステム	フードシステム概念、フードシステムの変化、フードシステムと6次産業化などについて講義します。				前回配布した資料を読んでいただくこと。(4時間)				
13	食品の輸入増大と自給率低下問題	食品の輸入事情と実態、食料自給率の推移、日本の食糧危機、食料安全保障などについて講義します。				テキスト第13章を読み、熟知すること。(4時間)				
14	日本の食品産業	食品産業の現状、食品製造業の構造、食品流通業と外食産業の実態、食品産業をめぐる環境変化などについて講義します。				前回配布した資料を読んでいただくこと。(4時間)				
15	総まとめと定期試験対策	今までの講義の総まとめを行い、また定期試験の対策講義を行います。				前回配布した資料を読んでいただくこと。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「新版食料・農産物流通論」藤島廣二ほか著(筑波書房) ISBN:978-4-8119-0407-8(生協で購入してください。)				レポート:50% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「食品産業と農業の提携条件」斎藤修著(農林統計協会)				現代社会におけるフードマーケティングの重要性を認識し、積極的な態度で授業に臨み、最大限の知識を身につけて欲しい。						

科目名	フードマネジメント			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KB36062	研究室	S-06
担当者	矢内 和博			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	金曜日1限		
関連資格				履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
現代社会では、食糧不足と肥満問題といった相矛盾する問題を抱えています。そして食料に関する格差はますます広がりがつづきます。本講義では、食に関する基礎的な知識と食をめぐる環境の変化について学びます。そのうえで今後の食のマネジメントについて考えます。											
学修到達目標											
食に関心、興味を持ってもらうことを目的とします。また、文系系系を問わず食にかかわる仕事はたくさんありますので、そのあたりも踏まえて講義をしていきます。また、15回の講義を通じ、最後は商品開発の企画をたててもらいます。											
授業の進め方											
配布プリントを用いて講義を行います。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	後期試験にプレゼンテーションを実施します。プレゼンテーションの課題に沿って、必要な項目について講義します。講義内容、進め方についてガイダンスを行います。					プリントを配布します。今後、これを教科書として使用します。予習復習をしてください。（4時間）				
2	世界の食糧事情	日本の食糧事情は豊かだと思われませんが、食糧不足の危機も近づいているともいわれています。日本における食糧事情と海外からの食品の輸入について講義します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
3	フードマネジメントとは	フードマネジメントの意義について講義します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
4	食と栄養の科学	食品が消化吸収され栄養素としてどのような働きをするかを解説します。また、健康に寄与する食と栄養の関係について講義します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
5	世の中に流通する食品	食品はどのように流通され、消費者へ届くのか？農産物、畜産物、水産物等に分けて解説します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
6	食品製造の現状	調理加工品の需要は今後ますます増加すると思われれます。よって、簡便に利用できる食品においしさを付加させ、価格も安いことが売れる条件になります。日本の食品製造の現状について解説します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
7	商品開発	おやきをテーマに、商品開発を行います。おやきについてその歴史、作り方について解説します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
8	商品開発	各自で開発したいおやきを考え、商品設計を行います。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
9	商品開発	おやきを試作します。おやきを包む作業を習得します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
10	商品開発	おやきを試作します。具材、生地を変えて包む作業を習得します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
11	商品開発	商品設計したおやきが具体的に作れるかを再検討し、商品の見直しを行います。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
12	商品開発	前回の見直しに基づき、自分で考えたおやきの試作を行います。作業工程、材料の配合、出来上がりについて検討します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
13	商品開発	販売促進用の媒体(ポップ)を作成します。媒体の書き方について学びます。また、アンケート調査の準備を行います。大学内で需要のあるおやきについて調査します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
14	商品開発	ポップを完成させます。また、アンケート調査の集計を行い、その結果に基づき、必要であれば商品設計を再度見直します。					ノートをしっかり取り、授業後にまとめる作業をしてください。（4時間）				
15	まとめ	プレゼンテーションの準備をします。					ノート、テキストのチェックを行い、試験に備えてください。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
プリントを配布します。				出席レポート：50% 課題：30% 定期試験：20% 定期試験はプレゼンテーションを実施します。プレゼンテーションのための資料作り、課題内容の評価、プレゼンテーションの内容について評価します。評価は80～100点をA、70～79点をB評価、60～69点をCとし、60点未満をD評価とします。総合評価で最もよかった学生をSとします。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
その都度提示します。				生活マネジメントの科目として位置づけられています。食品をプロデュースするための実践的な学びも取り入れて行きたいと思っています。							

科目名	健康マネジメント		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KB36063	研究室	S-19
担当者	中島 節子		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
健康寿命延伸への関心が高まる中で、社会や環境、人間の日常行動やライフスタイルが健康に大きな影響を与えることが明らかになってきています。本講義では、身体的・精神的・社会的な健康についてライフステージに視点を当てて考えます。そのうえでバランスのとれた健康的な生活、健康の保持や健康づくりといった健康マネジメントについて考えます。										
学修到達目標										
健康に関連する要因や健康の保持増進にとって必要なことを説明することができる。 自分の健康について関心を持ち、日常生活を振り返り健康な生活を実践しようとする事ができる。 健康づくりや健康寿命延伸について説明することができる。										
授業の進め方										
講義と演習を交えて進めます。またグループワークで意見交換を行ったり、レポートに自分の意見を整理しながら様々な価値観を共有し、深めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス 健康とは保健・医療・福祉制度	ガイダンスを行い、健康の概念について考えます。健康格差社会の現状や医療費の現状と医療保険制度、福祉制度について学び課題を考えます。				健康の概念、保健医療制度について復習する。(4時間)				
2	生活習慣病の予防	生活習慣病と現代社会における生活習慣の問題点とそこから引き起こされる主な疾患について学び、生活習慣病予防に必要なことを考えます。				現代社会の生活習慣の問題点と対策についてまとめる。(4時間)				
3	がんの予防	がんとは、がんの予防と早期発見、がんの治療法と予後について学びます。がん予防で身近にできることを考え、PRの方法を検討します。				がんについて復習し、整理する。事例についてレポートを作成する。(4時間)				
4	セルフヘルスケア	健康観察の方法を学び、観察結果の対応の仕方を考えます。セルフケアが不足した人への対応を考えます。				自分の健康状態について分析しレポートする。(4時間)				
5	食事と健康	食事と健康の関係について学びます。現代社会の食に関する課題や自己の食事チェックを行い、健康な食生活について考えます。				自分の食生活について分析してレポートする。(4時間)				
6	運動と健康	運動と健康の関係について学びます。現代社会における運動のありかたや課題について検討します。自分の体力測定した結果について分析します。				自分の日常の活動量を測定し、分析する。(4時間)				
7	休養・睡眠と健康	休養と睡眠が健康に及ぼす影響について学びます。現代社会における休養について討議します。				休養と睡眠について予習、復習する。(4時間)				
8	感染症の予防	感染症の種類と感染経路、感染予防について学びます。HIV、エボラ出血熱などの感染の現状や課題について討議します。				感染症についてまとめ、自分の感染症の既往を確認する。(4時間)				
9	ライフステージの各段階における健康課題	乳幼児、学童期、思春期、成人期の発達の特徴と健康課題について考えます。大学生の健康課題と対応策を考え、発表します。				新聞記事より現代の健康課題について取り上げレポートする。(4時間)				
10	妊娠、出産と遺伝疾患	妊娠の成り立ちと出産の経過と母体と胎児の変化、日常生活の注意事項について学びます。また、遺伝性疾患について学び、出生前診断の現状と課題について検討します。				妊娠、出産について復習する。遺伝についてレポートを作成します。(4時間)				
11	加齢と健康、高齢社会	加齢が及ぼす身体、精神、社会的特徴と高齢者の疾病について学びます。介護保険制度や高齢者を取り巻く社会問題を考察します。				高齢社会について復習する。高齢者の課題レポートを作成する。(4時間)				
12	人の死について	終末期医療、尊厳死、延命治療、脳死からの臓器提供などを含め人の死について考える。				人の死についてレポートを作成する。(4時間)				
13	依存症と健康	飲酒、喫煙の健康や社会への影響について学びます。禁煙についての方策について討議します。薬物乱用の社会問題とその予防について学びます。				飲酒、喫煙、薬物中毒の健康被害と予防について予習、復習する。(4時間)				
14	心の健康	ストレスとは、健康との関係、ストレス解消法について考えます。また、主な精神疾患の症状や治療について学びます。自殺の現状を学び予防について考えます。				精神疾患についてまとめ、自殺予防策を考える。(4時間)				
15	健康に関する課題解決にむけて	学習した内容を復習し、健康に関する課題解決方法についてマネジメントし、発表する。				発表用プレゼンテーションの作成する。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
必要時プリントを配布します。		レポート：30% 定期試験：70% S：授業内容を理解し、レポートに自己の意見を明確に記載している。健康課題を解決する方法に応用することができる。A：授業内容を理解し、自己の健康課題を明確にし、解決する方法を見出すことができる。B：授業内容のおおよそを理解し、自己の健康課題を明確にすることができる。C：授業内容の60%は理解でき、健康の重要性を説明できる。レポートは確実に提出している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか」近藤克則著(医学書院) 「命の格差は止められるか」カワチ イチロー著(小学館) 必要な場合は紹介します。		生活マネジメントの科目として位置づけられています。健康課題は日々変化しているため、日頃からニュースなどの情報に関心を持ちながら自己の健康管理にも取り組みましょう。								

科目名	地域産業論			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KL26064	研究室	W-10
担当者	兼村 智也			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
地域で生活する人々の雇用や所得を生み、また税金を通じて公共サービスを行う財源にもなる地域産業の重要性、その仕組みや現状、問題などについて皆さんが生活する長野県の産業、具体的には製造業、建設業、サービス業などを個別産業を取り上げながら解説していきます。											
学修到達目標											
授業を通じて地域における各産業への理解を深めるとともに、新聞やニュースで取り上げられる経済・産業指標や用語についての理解を深める。											
授業の進め方											
配布資料をもとに、必要に応じてスライドを活用しながら講義形式で行いますが、ビデオ視聴やゲスト講演者による授業（終了後にレポートを作成・提出）する授業も各1回ずつ行います。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス及び産業、経済の基礎知識・用語	代表的な経済、産業指標の紹介とその読み方について解説します。					授業の復習（4時間）				
2	建設業	地域のなかで果たしてきた建設業の役割と現在、取り巻く環境と今後の課題について解説します。					授業の復習（4時間）				
3	製造業の特徴と食料品製造業	製造業とは何か、そのなかで食料品製造業を取り上げ、地域における同産業の現状と課題について解説します。					授業の復習（4時間）				
4	製造業（加工組立産業）	製造業の中心である加工組立産業を取り上げ、その内容、また地域における同産業の現状と課題について解説します。					授業の復習（4時間）				
5	製造業（グローバル化とニッチ化）	加工組立産業にみられるグローバル化とニッチ化の動向について、その背景と意味について解説します。					授業の復習（4時間）				
6	流通業（卸売業）	流通業とは何か、そのなかで卸売業について取り上げ、地域における同産業の現状と課題について解説します。					授業の復習（4時間）				
7	流通業（小売業）	我々の日常生活に密接する小売業を取り上げ、その内容、また地域における同産業の現状と課題について解説します。					授業の復習（4時間）				
8	流通業の実態	激しい競争が続く流通業に関するビデオを視聴することで、その実態に対する認識を高める。					レポート作成と提出（4時間）				
9	サービス業	第三次産業のなかの流通業を除くサービス業を取り上げ、地域における同産業の現状と課題について解説します。					授業の復習（4時間）				
10	サービス業（飲食業）	サービス業のなかでも特に日常生活の市場と密接につながり、また出店・閉店の激しい飲食業を取り上げ、地域における同産業の現状と課題について解説します。					授業の復習（4時間）				
11	成長産業の現状と課題	高齢化社会到来に伴い注目・期待が集まる介護産業・医療機器産業を取り上げ、地域における同産業の現状と参入にむけての課題について解説します。					授業の復習（4時間）				
12	成長産業の現状と課題	再生可能エネルギーへの注目・期待が集まるなか、地域における環境・エネルギー産業を取り上げ、同産業の現状と参入にむけての課題について解説します。					授業の復習（4時間）				
13	ゲスト講師による講演	地域産業を担う中核的企業の経営者、業界団体の関係者をお招きし、当該産業の実態について、お話を伺う。					レポート作成と提出（4時間）				
14	長野県企業の現況と今後の方向性	各産業を担う長野県企業の現況をみることで、企業経営の視点から今後の産業の方向性についてみてみる。					授業の復習（4時間）				
15	本講義の総括	これまでの講義内容をレビューしながら、補足説明などを加え、本講義の総括とする。					試験対策を含めた、重要事項の確認（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特にありません。毎回の授業時にプリント・資料を配布します。						出席レポート：70% 受講態度：30% S：前記の合計が95点以上を満了上上位3名。A：前記の合計が85点以上。B：前記の合計が70点以上。C：前記の合計が60点以上。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「創生 長野経済」長野経済研究所著（信濃毎日新聞社） 「ながの経済」東京商工リサーチ著						多くの学生が希望する県内就職にも役立つ知識・理解を深める機会になると思っていますので前向きに受講して下さい。					

科目名	コミュニティビジネス		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KC26065 TB26043	研究室	W-34
担当者	白戸 洋		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
コミュニティ・ビジネスとは、住民の行なう事業にビジネスの手法を取り入れることで、事業の継続性を図り、地域の課題を解決するものです。講義では、コミュニティ・ビジネスを理解し、実際のコミュニティ・ビジネスの事業について、事例研究を行います。特に近年課題とされている高齢者の買い物支援問題についてもとりあげます。講義の後半ではグループ別に実際のコミュニティ・ビジネスの構想を行うために、ディスカッションやフィールドワークなどを行います										
学修到達目標										
コミュニティ・ビジネスの意義や理論的な枠組みなど基本的な概念について理解するとともに、地域の課題を踏まえたコミュニティ・ビジネスの事業の提案を行うことができる										
授業の進め方										
講義は毎回配布したプリントに沿って進め、毎回課題について自分の意見を提起する小レポートを作成してもらいます。様々なテーマについて課題レポートを作成し、修了レポートとしてコミュニティ・ビジネスを提案してもらいます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	講義の概要と進め方・コミュニティ・ビジネスを学ぶとは				講義において何を学びたいかについて検討 2時間				
2	コミュニティ・ビジネスの基礎を学ぶ	コミュニティ・ビジネスの背景				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
3	コミュニティ・ビジネスの基礎を学ぶ	コミュニティ・ビジネスの定義				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
4	コミュニティ・ビジネスの基礎を学ぶ	コミュニティ・ビジネスの意義				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
5	コミュニティビジネスとは何か	コミュニティビジネスとは何かについてワークショップで考える				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
6	コミュニティ・ビジネスの現状	コミュニティ・ビジネスの現状について				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
7	コミュニティ・ビジネスの課題	コミュニティビジネスをめぐる課題を学ぶ				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
8	コミュニティ・ビジネスの種を見つける	コミュニティビジネスのプロセスを学ぶ				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
9	コミュニティ・ビジネスの事例研究	コミュニティ・ビジネスの具体的な事例の紹介				講義のテーマに沿った事例を探しコミュニティ・ビジネスの意義を整理する 4時間				
10	コミュニティ・ビジネスを構想する コミュニティ・ビジネスのアイデア	コミュニティビジネスのアイデアをグループ・ディスカッションで検討				ディスカッション結果を整理し次回のディスカッションに向けての提案等を検討する 4時間				
11	コミュニティ・ビジネスを構想する フィールドワーク	コミュニティビジネスの構想に向け地域に出て地域課題や資源を調査する				対象となる地域について資料収集を行いフィールドワークの結果を整理する 6時間				
12	コミュニティ・ビジネスを構想する 課題を考える	コミュニティビジネスの構想に向け地域の課題を明らかにする				講義内容を踏まえて提案シートの作成 4時間				
13	コミュニティ・ビジネスを構想する 事業の提案	事業企画書を作成する				講義内容を踏まえて提案シートを見直し修正して作成 4時間				
14	コミュニティ・ビジネスを構想する 事業の提案	事業を提案する				関連する地域社会の課題について調べ結果を整理する 4時間				
15	未来を創造するコミュニティ・ビジネス	今後の地域社会でコミュニティビジネスが果たすべき役割を考える				講義全体を振り返り定期試験や修了レポート作成に向け自分の考え方を整理する 4時間				
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリントを配付します。		レポート：40% 出席レポート：50% 定期試験：10% S:講義内容を活かして具体的なコミュニティ・ビジネスを実行できる A:講義内容を十分に理解し実現性のあるコミュニティ・ビジネスを提案できる B:講義内容を十分に理解しコミュニティ・ビジネスを提案できる C:講義内容を概ね理解し要件を満たしたコミュニティ・ビジネスを提案								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「実践コミュニティ・ビジネス」細野助博編(中央大学出版) 細野助博監修 「松本大生がかかわったまちづくり」白戸ゼミナール編(松本大学出版会)		受け身で講義に参加することは不可能で、自分が考えること、そして日常の中でできるだけ社会に目を向けること、そして実践につなげることが講義では問われます。								

科目名	地域産業史		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリウグ	KC26066 TB26040	研究室	W-22	
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	ワイスアワ	月曜日4限、金曜日2限			
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)								
		A	B	C							
授業概要											
この地域産業史という講義は、日本の地域産業、特に長野県に展開した産業を歴史的にたどり、それらが現在の地域でみられる産業とどのような関係にあるのかを把握し、同時にそれら地域産業が日本全体の経済とどのような関係にあるのかを理解することを目的としています。特に長野県で展開した産業を詳しく知れば、実は日本経済の発展過程をほぼそっくり理解することができるのです。まず自国のことを知らなければ、国際化をはかることなどできないし、地域での産業発展を具体的に考えることもできません。											
学修到達目標											
ここでは、明治以降の日本がたどった歴史を、地域産業を通じて理解し、最終的には地域産業の持つ強さ・弱さ、そしてその将来像を把握しようとしています。まずは、地域に展開した産業(特に長野県では製糸業)がどのような発展の仕方をしてきたか、そしてそれがいま地域で展開する産業とどのような関係にあるかを理解することができます。											
授業の進め方											
基本的には教員からの説明を主体とした講義形式で進めます。アウトキャンパス等は計画していません。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	ガイダンス	ガイダンスと講義に向けての基礎知識の説明				事前、テキスト1～5頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
2	繊維産業と日本経済	繊維産業、特に製糸業が日本経済にどのように位置づけられるかを詳述				事前、テキスト6～13頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
3	地主制と製糸業	器械製糸の中心地は長野県				テキスト13～18頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
4	器械製糸業	長野県が器械製糸の中心になったわけについて詳述する				テキスト20～23頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
5	田中組	長野県にも大きな政商が(小野組と田中組)関わっていたことを詳述				テキスト23～26頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
6	洋銀取引	「金の国」日本(小判とドル銀貨)と銀貨の関係				テキスト26～29頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
7	外国為替相場の出現	日本初の相場師が長野県出身の商人である事実を詳述する				テキスト29～32頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
8	片倉製糸	日本最大の生糸メーカー、片倉製糸の成長過程について詳述する				テキスト34～35頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
9	片倉製糸の経営戦略	片倉工業の株価が高水準を保っている事情(特異な経営戦略)を詳述				テキスト35～39頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
10	戦時下の製糸業	戦時下で切り捨てられる製糸業の姿を詳述する				テキスト40～42頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
11	戦時下の地域産業	戦時下で銀行も電気も戦時体制へ移行する過程を詳述する				テキスト48～53頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
12	戦後の農地改革	戦争直後の混乱を経て日本の農業はどう変わったかを詳述する				テキスト55～58頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
13	戦後の軽工業と重工業	戦後、地域産業として何が製糸業に取って代わったかを詳述する				テキスト58～60頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
14	地域産業の転換	地域に定着した製糸業からの系譜について詳述する				テキスト60～61頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。					
15	総括	信州の地域産業が軽工業から精密工業へと転換するまでの流れを詳述				テキスト全体を通読のこと(2時間)。事後、授業での総括を復習すること(2時間)。					
テキスト			成績評価の方法・基準								
「地域産業史」木村晴壽著松本大学総合経営学部編(生協で購入してください。)			レポート:20% 定期試験:80% S:授業内容を十分に理解し、地域産業について解説ができる。A:授業内容を理解している。B:授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容を6割程度理解している。								
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「長野県史(各巻)」長野県編 「松本市史(各巻)」松本市編 等			期末の試験は、難易度がかなり高く設定されているので、普通の講義で集中して理解しようとする姿勢が必要です。								

科目名	観光産業論			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KC26067	研究室	W-15
担当者	田開 寛太郎			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
観光関連企業が経営していく上での現状や課題について観光関連企業や観光地から具体的に把握し、各観光業界と観光地の経営戦略を考えます。前半に観光関連産業の経営を学び、後半は観光地に焦点を当て地域での観光産業について学びます。様々な観光産業、観光地の経営戦略を理解することが到達目標です。											
学修到達目標											
観光産業、観光地における顧客満足度を高めてリピーターを増やすための取組や経営戦略を理解するとともに、経営戦略を考えることが出来るようになることを目指します。											
授業の進め方											
独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義のみになります。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要、学修到達目標、授業の進め方、評価の仕方、履修上の注意などを説明します。					自分自身で体験した観光施設について感動した要因を整理する(4時間)				
2	観光経営の状況と動向	「観光をめぐる経営状況と現在の動向について」および「観光関連産業の経営状況と戦略」について解説します。					観光経営の状況と動向について学修する(4時間)				
3	旅行会社 競争激化する業界での経営戦略について	競争激化する業界での経営戦略について、人気のある旅行会社の事例を説明し、今後の業界の経営戦略について解説します。					人気のある旅行会社についてその要因を調べる(4時間)				
4	宿泊関連施設1 旅館と民宿	人気のある旅館とは、今後の旅館経営戦略について効果ある施策を解説します。					人気のある旅館についてその要因を調べる(4時間)				
5	宿泊関連施設2 ホテル	リッツカールトンのホスピタリティ経営とは。人気NO.1のホテルの顧客満足度を高めるための施策を解説します。					人気のあるホテルの要因を調べる(4時間)				
6	テーマパーク	ディズニーランドの顧客満足戦略について50の実践例を紹介し、説明します。					ディズニーランド訪問時に体験した顧客満足についてまとめておく(4時間)				
7	動物園	旭山動物園がなぜ上野動物園より人気があるのか。具体例を解説し顧客満足度を高めるための施策を学びます。					旭山動物園の行動展示について復習する(4時間)				
8	美術館・博物館	美術館・博物館が地域を活性化するための10のポイントと経営戦略を解説します。					美術館・博物館が地域を活性化させるための施策について学修する(4時間)				
9	空港・航空会社	地方空港の経営戦略について。格安航空会社の経営戦略について解説します。					地方空港の経営戦略とLCCについて学修する(4時間)				
10	スポーツマネジメント	日本プロ野球とメジャーリーグの経営について双方を比較しながら解説します。					メジャーリーグの高収益確保のための施策を学修する(4時間)				
11	温泉観光地	観光地における産業の経営状況と戦略について。温泉地・温泉街の活性化に向けての地域経営戦略について解説します。					温泉観光地における地域観光振興策と経営戦略を学修する(4時間)				
12	スキー場	スキー場の振興策について歴史・現状を紹介し、今後の施策を解説します。					スキー場の振興策について学修する(4時間)				
13	中心市街地の活性化	中心市街地活性化のための10の戦略を事例を参考にしながら紹介します。					学修市街地活性化のための施策を復習する(4時間)				
14	観光まちづくり	観光(産業)とまちづくりについて5つのポイントと事例を紹介し、解説します。					観光まちづくりについての5つのポイントを学修する(4時間)				
15	まとめ	講義全体のまとめをします。					観光産業における顧客満足度を高めるための施策を学修する(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
講義ごとに概要を説明したレジメを配ります。						出席レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A:授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B:授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C:授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし						授業中に発表してもらった場合もあるので常に問題意識を持って授業に出席して欲しい。講義計画に該当する内容を、新聞、ニュース、書物などから探し読んで下さい。					

科目名	NPO			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KC36068 TB36049	研究室	W-34
担当者	白戸 洋			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
		総 観○		総 観							
授業概要											
本講義ではNPOについて、基礎理論、歴史や社会経済的背景、現状と課題を学習し、NPOを通じて社会や地域に対して参画する意義や問題意識を育てることを目的とします。またNPOの経済や雇用への影響、地域通貨、コミュニティの創造、住民参画、行政とのパートナーシップ、マネジメント、国際比較など今日的課題を取り上げる。具体的な事例を取り上げ、理論と実践の両面から学習します。またNPOの設立申請書の一部を作成することによってより理解を深めることをめざします。											
学修到達目標											
基礎理論、歴史や社会経済的な背景、現状と課題を理解する				NPOを通じて社会や地域に対して参画する意義や問題意識を持つ				地域や社会に対する関心を育て主体的に関わっていく意識を持つ			
授業の進め方											
講義は教科書とプリントに沿って進め、毎回課題について小レポートを作成してもらいます。自分でNPOについて資料を収集し調査を行う体験プログラムやNPOの設立申請書の作成シミュレーションを行い、課題レポートして提出してもらいます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	非営利組織とは、NPOとは何?					講義において自分の学習目標を検討する 2時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
2	NPOの基礎理論	非営利組織の制度					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
3	NPOの基礎理論	NPOらしさとはなにか					関教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
4	NPOの基礎理論	非営利組織の歴史と現状					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
5	NPOの基礎理論	NPOの存在価値は					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
6	NPOの現状と課題	世界の非営利セクター					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
7	NNPOの現状と課題	NPOと行政のパートナーシップ					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
8	NPOの現状と課題	企業とNPO・コミュニティ・ビジネス					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
9	NPOの経営	非営利組織のマネジメント					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
10	NPOの経営	経営資源の開発					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
11	NPOの設立シミュレーション	NPOを設立しよう その1 種を探そう グループづくり					講義で検討した事項に関するレポート作成し次回に向けて検討課題を整理 4時間				
12	NPOの経営	NPOの組織運営・定款					定款の事例研究を行う 4時間				
13	NPOの設立シミュレーション	NPOを設立しよう その2 NPOの組織作り ワークショップ					講義で検討した事項に関するレポート作成し次回に向けて検討課題を整理 4時間				
14	NPOの設立シミュレーション	フィールドワーク(NPO設立のための種探し)					講義で検討した事項に関するレポート作成 4時間				
15	今後のNPOの課題	NPOの発展戦略 ~ NPO支援・アカウンタビリティと評価・寄付税制					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「テキストブック NPO - 非営利組織の制度・活動・マネジメント」雨森孝悦 著(東洋経済新報社) ISBN:978-4492100196 (生協で購入してください。)						出席レポート:50% レポート:40% 定期試験:10% S:講義内容を踏まえてNPOにかかわる具体的な活動を行う A:講義内容を十分理解し自らの問題意識に基づいたNPOを提言できる B:講義内容を十分理解し要件を満たしたNPOを提言できる C:講義内容を概ね理解できている					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし						住民のひとりである自分自身の問題として主体的な意識と姿勢を持って講義に参加してほしい。NPOを受講する学生はコミュニティ・ビジネスについても履修することが望ましい。					

科目名	国際経営論		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KC36069	研究室	W-10
担当者	兼村 智也		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日1限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
長野県には海外に拠点を持つ企業が実に300社にのぼります。もはや経営は国内にとどまらず海外まで拡大していますが、そこには「国境」があるため国の仕組み・制度も違えば、その国の優位点も違えば、従業員の行動も違ってきます。本講義では、企業が海外で経営する際に生じる違いと、その背景、求められる経営のあり方などについて解説します。										
学修到達目標										
日本国内での経営と対比させながら、国際経営のユニークな点についての理解・関心を深める。										
授業の進め方										
毎回プリントは配布、それを参照しながら講義形式で行います。また毎回、講義の最後にその日の内容を確認する簡単な「確認テスト」を行い、理解の定着・確認に役立ててもらいます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	国際経営とは何か、国際経営を学ぶ意義について解説します。					履修有無の検討(4時間)			
2	多国籍企業	国際経営のプレイヤー・主体である多国籍企業概念について解説します。					確認テストの復習(4時間)			
3	国際経営戦略	国際経営戦略とは何か、またその主役である輸出、海外進出(生産・販売)の歴史的経緯、役割について解説する。					確認テストの復習(4時間)			
4	国際マーケティングと国際調達	ビジネスに必要な仕入れと販売について日本と異なり、どのような困難・課題があるのかについて解説する。					確認テストの復習(4時間)			
5	海外生産	国際経営の中心的事業活動である海外生産について、その目的と歴史的変遷、近年の動向などについて解説する。					確認テストの復習(4時間)			
6	技術移転と海外研究開発	技術移転の内容・パターンについて解説するとともに、その難しさや研究開発とのつながりについて解説する。					確認テストの復習(4時間)			
7	国際経営組織と所有政策	国際経営の組織について組織図を用いながら本社との関係を理解するとともに、出資関係と経営の関係について解説する。					確認テストの復習(4時間)			
8	海外子会社の経営	海外子会社の経営について、とりわけ日系企業の特徴について解説する。					確認テストの復習(4時間)			
9	国際経営と言語	顧客、仕入先、従業員とのコミュニケーションにとって重要な言語について日系企業が抱える問題について解説する。					確認テストの復習(4時間)			
10	北米・欧州のなかの日本企業	早くから日本企業の国際経営が始まった北米・欧州を取り上げ、その現状や問題点・課題について解説する。					確認テストの復習(4時間)			
11	アジアのなかの日本企業	今や国際経営の中心地域となったアジアを取り上げ、その現状や問題点・課題について解説する。					確認テストの復習(4時間)			
12	国際経営と国内空洞化	国際事業が日本事業にもたらす好影響・悪影響について明らかにし、「空洞化問題」といわれる現象について解説する。					確認テストの復習(4時間)			
13	外資系企業	外資系企業とは何か、またその経営上の特徴について解説する。					確認テストの復習(4時間)			
14	国際経営戦略の今後の展開	多国籍企業のもつ優位性を踏まえたマネジメントのあり方について解説する。					確認テストの復習(4時間)			
15	本講義の総括	これまでの講義内容をレビューしながら、補足説明などを加え、本講義の総括を行う。					試験対策を含め、確認テストの総復習(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
特にありません。必要に応じて、授業時にプリントを配布します。					出席レポート:30% 定期試験:70% S:前記の合計が95点以上の上位2名以内。A:前記の合計が85点以上。B:前記の合計が70点以上。C:前記の合計が60点以上。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「国際経営論」佐藤憲正編(学文社)					応用科目ですので関連基礎科目の履修を踏まえた学生を望みます。					

科目名	文化産業論（総経）		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナパ'リング	KC36070	研究室	W-21	
担当者	古川 智史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限			
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
本講義では、まず、文化産業が注目されるようになった背景を概観した上で、文化産業の経済的な特徴などを整理します。次に、個別の産業を取り上げ、その成り立ちや構造、近年の動向をみていきます。そして、文化やコンテンツを活用した地域活性化の試みを紹介し、その可能性について考えます。											
学修到達目標											
文化産業の経済的な特徴について説明できる。 文化産業に含まれる個別の産業の構造、動向について理解する。											
授業の進め方											
レジュメをもとに講義を進めますが、数回グループワークを実施する予定です。受講者には、毎回コメントシートの提出を求めます。また簡単な調べ学習や小テストを予定しているので、予習・復習の上、講義に臨んでください。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション	本講義の概要等について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
2	文化産業の特徴（1）	文化産業の概念について整理するとともに、それを巡る議論を概観します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
3	文化産業の特徴（2）	文化産業の経済的な特性について理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
4	文化産業の特徴（3）	文化産業にかかる制度について理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
5	アニメーション産業（1）	日本のアニメーション産業の成り立ち、構造について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
6	アニメーション産業（2）	近年のアニメーション産業の動向について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
7	映画産業（1）	日本の映画産業の成り立ち、構造について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
8	映画産業（2）	近年の映画産業の動向について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
9	テレビ放送業（1）	日本のテレビ放送業の成り立ち、構造について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
10	テレビ放送業（2）	近年のテレビ放送業の動向について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
11	広告産業（1）	日本の広告産業の成り立ち、構造について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
12	広告産業（2）	近年の広告産業の動向について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
13	文化・コンテンツと地域活性化（1）	「文化」を活用した地域振興の展開について、事例をもとに理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
14	文化・コンテンツと地域活性化（2）	「コンテンツ」を活用した地域活性化の試みを紹介し、その可能性について考えます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
15	総括	これまでの内容を振り返り、講義全体の総括をします。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
テキスト		成績評価の方法・基準									
毎回レジュメを配付します。		受講態度：30％ 定期試験：70％ 「受講態度」では、調べ学習などの事前学習、コメントシートの提出状況およびその内容、小テストの結果を総合的に評価します。 S：積極的な探求心、批判的な思考力を持って課題に取り組み、授業内容を高度に理解している。A：積極的な探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容を十分に理解している。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容のおおよそを理解している。C：与えられた課題に取り組み、授業内容の60％程度を理解している。									
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）									
講義中に紹介します。		質問には、講義終了後やオフィスアワーで対応します。									

科目名	地域経済論（総経）			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KC36071	研究室	W-21
担当者	古川 智史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格	高一(商業)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
グローバル化や人口減少、少子高齢化など、地域経済を取り巻く環境は大きく変化しています。本講義では、まず地域経済を巡る現状を概観した上で、具体的な事例に基づいて地域経済の実態にアプローチします。そして、地域経済を巡る政策の展開を概観します。以上のステップを通じて、地域経済に対する理解を深めます。											
学修到達目標											
地域経済へのアプローチの仕方、そのための基礎的な概念を説明できる。 地域経済で起きている現象、課題を的確に捉えるとともに、より広域的な視点から位置づけることができる。											
授業の進め方											
レジュメをもとに講義を進めますが、数回グループワークを実施する予定です。受講者には、毎回コメントシートの提出を求めます。また簡単な調べ学習や小テストを予定しているため、予習・復習の上、講義に臨んでください。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション	地域経済の捉え方を概説するとともに、本講義の概要について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
2	地域経済へのアプローチ	松本を事例に地域経済へのアプローチ方法について考えます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
3	地域経済を巡る現状	マクロ的な視点に立って地域経済の動向を把握します。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
4	大都市経済	東京の産業構造の変化、東京一極集中などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
5	地方都市のいま	具体的な事例を取り上げながら、地方都市の産業構造の変化などについて理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
6	モノづくりと地域経済（1）	製造業の立地調整と地域経済の関係などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
7	モノづくりと地域経済（2）	グローバル化の中で産業集積地域がどのように変化してきたのか、具体的な事例をもとに理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
8	モノづくりと地域経済（3）	地場産業地域の実態について、事例を取り上げながら理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
9	商業と地域経済（1）	地域経済における商業の動向、大型小売店舗の店舗展開などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
10	商業と地域経済（2）	商店街の衰退問題と活性化に向けた取り組みなどについて理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
11	農業と地域経済（1）	農業のグローバル化と農産物産地の変容を取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
12	農業の地域経済（2）	農村地域がどのように変化してきたのか、また近年の新たな動きについて取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
13	観光と地域経済	観光地域を取り上げ、その形成過程と現状について理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
14	地域経済と政策展開	日本における地域政策の展開などを概観します。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
15	総括	これまでの内容を振り返りながら、本講義を総括します。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
毎回、資料を配付します。				受講態度：30％ 定期試験：70％ 「受講態度」では、調べ学習などの事前学習、コメントシートの提出状況およびその内容、小テストの結果を総合的に評価します。 S：積極的な探求心、批判的な思考力を持って課題に取り組み、授業内容を高度に理解している。A：積極的な探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容を十分に理解している。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容のおおよそを理解している。C：与えられた課題に取り組み、授業内容の60％程度を理解している。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
講義中に適宜紹介します。				質問には、講義終了後やオフィスアワーで対応します。							

科目名	アジア経済論			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KC36072	研究室	W-10
担当者	兼村 智也			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日5限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
			A	B	C						
授業概要											
多くの日本企業や長野県企業がビジネスチャンスを求めて進出するアジアの経済について、その基本知識と世界経済のなかで位置づけ、発展の歴史・背景についてみていき、日本の企業とアジアがどのように結びつき、それが日本やアジアの発展につながっているのかを解説します。											
学修到達目標											
今後、ますます関係が強くなるのが確実なアジア諸国について経済面での基礎知識や関心を深める。											
授業の進め方											
配布資料を参照しながら講義形式で行ないますが、時間中にビデオをみて終了後にレポート作成・提出する授業も4回程度行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス なぜアジア経済を学ぶのか、その意義は?	日本(経済)の発展にとってアジアの重要性について解説します。					授業の復習(4時間)				
2	アジア諸国の概略	地図と写真を使って、アジア諸国の概要を説明し、そのイメージをつかんでもらいます。					授業の復習(4時間)				
3	アジアはなぜ発展できたのか?	もともと欧米列強の植民地、農業国が多かったアジア諸国がなぜ発展したのかについて解説します。					授業の復習(4時間)				
4	発展プロセスとその担い手	前回みたアジア諸国の発展がどのように進んだのか、またその発展を担ったのは誰なのかについて解説します。					授業の復習(4時間)				
5	日本企業の国際分業	主としてアジア経済を牽引してきた日本企業を取り上げ、その国際分業の実態をビデオを通じて学習する。					レポート作成・提出(4時間)				
6	中国の発展	2000年代に入り、アジアのなかでとりわけ発展した中国を取り上げ、その発展の歴史と問題点を解説する。					授業の復習(4時間)				
7	中国にみる格差問題	中国の急発展の副産物としてもたらされた格差問題の実態をビデオを通じて学習する。					レポート作成・提出(4時間)				
8	アジアの消費力	日本企業など多くの外資系企業が進出する背景にあるアジアの消費力について解説する。					授業の復習(4時間)				
9	アジア消費力の実態把握	前回みたアジアの消費力に関して、その大きさとそれを喚起する日系企業の取り組みをビデオを通じて学習する。					レポート作成・提出(4時間)				
10	アジアはなぜ成長軌道に乗ったのか?	1990年代、2000年代を通じてアジア諸国を成長軌道にのせた大きな背景に経済のグローバル化があるが、なぜグローバル化が起きたのかその要因について解説する。					授業の復習(4時間)				
11	インドの発展	中国とならぶ、アジアのもう一つの大国であるインドについて、その発展要因・プロセスを中国との比較のなかで解説する。					授業の復習(4時間)				
12	インドの自動車産業	インド経済発展の象徴的存在である自動車産業を取り上げ、以下に低所得者向け市場を掘り起こしたのかについてビデオを通じて学習する。					授業の復習(4時間)				
13	アジアの貿易・経済連携	WTOから始まりFTA、そしてTPPなどアジア諸国を舞台とした貿易や経済連携が進展する背景、問題点について解説する。					授業の復習(4時間)				
14	アジアの成長と長野県企業	これまでみたアジア市場の成長を日本、長野県企業はどのように取り込んでいるのか、問題点・課題は何かについて解説する。					授業の復習(4時間)				
15	本講義の総括	これまでの講義内容をレビューしながら、補足説明などを加え、本講義の総括を行う。					試験対策を含めた、重要事項の確認(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特にありません。毎回の授業時にプリント・資料を配布します。						定期試験：100% S：試験の得点が95点以上を満了す上位2名以内。A：85点以上。B：70点以上。 C：60点以上。50点以上60点未満の学生については日常の出席状況、レポート提出状況を加味して評価する。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「開発経済学入門」渡辺利夫著(東洋経済新報社)						授業時に学んだ一般常識にもつながる知識(用語)や考え方をしっかり身につけてください。					

科目名	防災総論		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	KA16073	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスカー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	防災士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2017年度～					
			○							
授業概要										
近年、全国的にいずれの地域社会でも大きな関心を集め、地域行政上の重要な政策課題となっている防災問題について、特に基礎的知識を習得することを目標としている。日本防災士機構が実施する防災士認定資格試験の受験資格を得るための必須科目である。										
学修到達目標										
防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、授業においては、毎回、かなり幅広い内容を簡潔に解説せざるを得ないので、教本の内容を各自が確実に理解することが目標となる。										
授業の進め方										
動画・画像等を用いて、判りやすく授業を進め、図上シミュレーション等の演習も取り入れる。防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、基本的に欠席は認められていないので、注意すること。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	耐震診断と補強	主に建造物に関する、耐震問題と実際の補強について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
2	災害とライフライン	災害発生時に必ず問題となるライフラインの確保について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
3	災害と交通インフラ	災害救助とも密接な関連を持つ、交通インフラ問題について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
4	都市防災	極めて複雑な構造を持つようになった都市での防災について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
5	災害医療	災害時の特殊な環境で行われる医療行為について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
6	避難所運営と仮設住宅の暮らし	災害後の復興とも関係する、避難所・仮設住宅の問題について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
7	災害とボランティア活動	近年の激甚災害における必須の要素となったボランティア活動について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
8	公的機関による予報・警報	大規模災害時に必ず取り上げられる、公的機関の動きについて詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
9	災害と流言・風評	災害時に多かれ少なかれ流れる風評等について、災害心理も含めて詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
10	災害情報の発信と入手	災害時に的確に行動する基礎となる情報について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
11	災害と応急対策	災害発生時に重要視されている、当面の応急対策のあり方について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
12	災害と損害保険	災害後の生活再検討と密接に関連する保険について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
13	災害と危機管理	災害を含めた危機管理についての考え方を詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
14	災害と企業活動	近年、災害時に企業活動が停止することによる社会的損失が大きくクローズアップされており、災害と企業との関係について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
15	企業防災と事業継続計画	近年、災害時に企業活動が停止することによる社会的損失が大きくクローズアップされており、災害と企業との関係について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「防災士教本」日本防災士機構編(日本防災士機構)(別途、指示します。)				定期試験：50% レポート：50% S:授業内容を十分に理解し、防災士資格の認定試験に高成績で合格する水準にある。A:授業内容を理解し、防災士資格の認定試験の合格には問題ないと判断される水準にある。B:授業内容を概ね理解し、防災士資格の認定試験に合格可能な水準にある。C:授業内容を6割程度理解し、防災士資格の認定試験の合格に近い水準にある。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「防災ハンドブック」防災教育を考える会著防災教育を考える会編(日本標準)				この授業は日本防災士機構が実施する防災士資格認定試験の受験資格と連動しているため、やむを得ない理由で欠席した場合は、必ずレポートが課される。しかも、欠席は2回を限度とし、それ以上の欠席は単位不認定となる。						

科目名	防災各論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KA26074	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	防災士				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C	2017年度～						
			○								
授業概要											
近年、全国的にいずれの地域社会でも大きな関心を集め、地域行政上の重要な政策課題となっている防災問題について、各分野の視点から捉えた各論について修得することを目標としている。日本防災士機構が実施する防災士認定資格試験の受験資格を得るための必須科目である。											
学修到達目標											
防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、授業においては、毎回、かなり幅広い内容を簡潔に解説せざるを得ないので、教本の内容を各自が確実に理解することが目標となる。											
授業の進め方											
動画・画像等を用いて、判りやすく授業を進め、図上シミュレーション等の演習も取り入れる。防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、基本的に欠席は認められていないので、注意すること。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	緊急救助技術を身につける	救助技術の基礎知識を学ぶ。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
2	防災訓練	防災訓練について、テキストに沿って基礎知識を学ぶ。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
3	近年の自然災害に学ぶ	過去の自然災害のうち、特に戦後に発生した災害について基礎的に詳述する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
4	近年の自然災害に学ぶ	過去の自然災害のうち、特に戦後に発生した災害について基礎的に詳述する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
5	地震に関する知見・情報	地震全般について総論的に解説する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
6	地震のしくみ	地震が発生するメカニズムについて、近年の研究成果をもとに詳述する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
7	地震の被害	地震によって引き起こされる被害は多方面に及ぶ。その実態と対処方法について詳述する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
8	津波のしくみ	海に囲まれたわが国にとって津波は常に念頭に置かれるべき災害であり、そのメカニズムを詳述する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
9	津波の被害	ひとたび発生すれば計り知れない被害をもたらす津波の被害について、近年の研究成果を踏まえて詳述する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
10	火山噴火のしくみ	日本において頻発する可能性がある火山噴火について、一般的な知識が身につくように解説する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
11	火山噴火の被害	近年、頻発する火山噴火によって詳細が明らかになってきた噴火被害について詳述する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
12	風水害と対策	毎年、必ず被害をもたらす風水害について、その対策を中心に解説する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
13	土砂災害と対策	風水害とともに必ず被害をもたらす土砂災害は、わが国にとって極めて身近にある災害である。そのことを念頭に、対策を詳述する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
14	火災と防火対策	災害に限らず、我々の身近で常に起こっている火災について、あらゆる角度から対策を検討する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
15	火災と防火対策	災害に限らず、我々の身近で常に起こっている火災について、あらゆる角度から対策を検討する。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「防災士教本」日本防災士機構編(日本防災士機構)」「日本防災士機構編(日本防災士機構)(別途、指示します。)				定期試験：50% レポート：50% S:授業内容を十分に理解し、防災士資格の認定試験に高成績で合格する水準にある。A:授業内容を理解し、防災士資格の認定試験の合格には問題ないと判断される水準にある。B:授業内容を概ね理解し、防災士資格の認定試験に合格可能な水準にある。C:授業内容を6割程度理解し、防災士資格の認定試験の合格に近い水準にある。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「防災ハンドブック」防災教育を考える会編(日本標準)				この授業は日本防災士機構が実施する防災士資格認定試験の受験資格と連動しているため、やむを得ない理由で欠席した場合は、必ずレポートが課される。しかも、欠席は2回を限度とし、それ以上の欠席は単位不認定となる。							

科目名	地域の防災		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KA26075	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	防災士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2017年度～					
			○							
授業概要										
近年、全国的にいずれの地域社会でも大きな関心を集め、地域行政上の重要な政策課題となっている防災問題について、各分野の視点から捉えた各論について修得することを目標としている。日本防災士機構が実施する防災士認定資格試験の受験資格を得るための必須科目である。										
学修到達目標										
防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、授業においては、毎回、かなり幅広い内容を簡潔に解説せざるを得ないので、教本の内容を各自が確実に理解することが目標となる。										
授業の進め方										
動画・画像等を用いて、判りやすく授業を進め、図上シミュレーション等の演習も取り入れる。防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、基本的に欠席は認められていないので、注意すること。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	防災士の役割	近年、注目され始めた防災士について、その基本的な活動・役割を詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
2	身近でできる防災対策	防災対策は、各自が常日頃から身近で最大限の備えをすることが基本となる。その実際について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
3	地域の自主防災活動	個々人での備えを基礎とし、防災は地域単位で考えておくことが肝要である。地域で可能な自主防災活動について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
4	避難と避難行動	個々人あるいは地域の防災を、災害発生後段階で考える場合、効率のよい避難方法に習熟している必要があり、その具体的知識が身につくよう詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
5	行政の災害対応	過度な期待はできないものの、災害発生時の行政対応は、その後の復旧・復興との関連で重要な意味を持っている。その点について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
6	地域の復旧と復興	災害後の復旧と復興をめぐる諸問題について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
7	被害想定とハザードマップ	被害想定にもとづいたハザードマップは、地域ごとに詳細に作成されることが望ましい。実際のハザードマップづくりを含め、演習形式で学ぶ。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
8	防災訓練	実際の防災訓練に参加するための、計画確認作業。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、指摘された事項を調べる(2時間)。				
9	防災訓練	防災訓練のシミュレーション作業。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。指摘された項目を調べる(2時間)。				
10	防災訓練	防災訓練に実際に参加し、消火訓練の実習。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、訓練内容のレポート(2時間)。				
11	防災訓練	防災訓練に実際に参加し、避難誘導の実習。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、訓練内容のレポート(2時間)。				
12	緊急救助技術を身につける	救急救命講習に参加する前のガイダンスと準備作業。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。指摘された項目を調べる(2時間)。				
13	緊急救助技術を身につける	救急救命講習に参加し、即席担架の作り方実習。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、訓練内容のレポート(2時間)。				
14	救急救命技術を身につける	救急救命講習に参加し、心肺蘇生の実習。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、訓練内容のレポート(2時間)。				
15	地域防災の総括	地域社会の特性や実態を踏まえた防災体制について総括する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。指摘された項目を調べる(2時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「防災士教本」日本防災士機構編(日本防災士機構)(別途、指示します。)				定期試験：50% レポート：50% S:授業内容を十分に理解し、防災士資格の認定試験に高成績で合格する水準にある。A:授業内容を理解し、防災士資格の認定試験の合格には問題ないと判断される水準にある。B:授業内容を概ね理解し、防災士資格の認定試験に合格可能な水準にある。C:授業内容を6割程度理解し、防災士資格の認定試験の合格に近い水準にある。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「防災ハンドブック」防災教育を考える会著防災教育を考える会編(日本標準)				この授業は日本防災士機構が実施する防災士資格認定試験の受験資格と連動しているため、やむを得ない理由で欠席した場合は、必ずレポートが課される。しかも、欠席は2回を限度とし、それ以上の欠席は単位不認定となる。						

科目名	専門研究		学年学期	3年通年	単位数	4	ナバ`リング	KL36076	研究室	W-28
担当者	清水 聡子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日2限 後期：火曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
本専門研究ではマーケティングに関する専門研究を行います。マーケティングに関する基礎的、応用的な知識と技術を習得し、就職に対する意識を高め、マーケティングの諸活動に適切に対応する能力を育てます。										
学修到達目標										
マーケティング、流通総論、消費者行動論に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合的な能力を高めるとともに、問題解決能力や主体的、自発的な学習と創造的思考の育成を目標とします。										
授業の進め方										
マーケティング、流通総論、消費者行動論に関する課題を設定し、課題解決のため、先行研究、事例研究、アウトキャンパスによる企業見学、グループディスカッション、レポート作成、プレゼンテーションを行います。主体的、自発的な学習姿勢を望みます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通した専門研究について考察します。				シラバスを読み、マーケティング基礎、マーケティング戦略の講義を復習すること。（4時間）				
2	マーケティングに関する課題研究(1)	マーケティング・ミックス(Marketing mix)の観点から課題研究を行います。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（4時間）				
3	マーケティングに関する課題研究(2)	製品(Product)の観点から課題研究を行います。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（4時間）				
4	マーケティングに関する課題研究(3)	価格(Price)の観点から課題研究を行います。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（4時間）				
5	マーケティングに関する課題研究(4)	流通経路(Place)の観点から課題研究を行います。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（4時間）				
6	マーケティングに関する課題研究(5)	プロモーション(Promotion)の観点から課題研究を行います。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（4時間）				
7	事例研究(1)	アウトキャンパススタディに向けた作業を行います。（資料収集）				情報収集を行う。（4時間）				
8	事例研究(2)	アウトキャンパススタディに向けた作業を行います。（ディスカッション）				質問項目をまとめる。（4時間）				
9	事例研究(3)	アウトキャンパススタディの実習授業を行います。				実習授業から習得できた内容をまとめ、レポートを作成する。（4時間）				
10	事例研究(4)	作成したレポートをもとにディスカッションを行います。				ディスカッションにより指摘された内容を修正する。（4時間）				
11	先行研究や文献の利用(1)	自己の課題に関する先行研究や文献の探し方を理解して、実際に読み、まとめていきます。				作成したレポートを補完する。（4時間）				
12	先行研究や文献の利用(2)	自己の課題に関する先行研究や文献について、まとめていきます。				作成したレポートを補完する。（4時間）				
13	課題発表会(1)	修正したレポートをもとにプレゼンテーションを行います。				質疑応答で答えることができなかった部分を補強する。（4時間）				
14	課題発表会(2)	修正したレポートをもとにプレゼンテーションを行います。				質疑応答で答えることができなかった部分を補強する。（4時間）				
15	前期のまとめ	前期の専門研究のまとめを行い、自分自身の課題を考察します。				前期の専門研究で達成できたこと、できなかったことをまとめ、後期の課題を考える。（4時間）				
16	マーケティング・リサーチに関する課題研究(1)	マーケティング・リサーチの種類とデータの収集方法を考察します。				マーケティング・リサーチの手法を身につける。（4時間）				
17	マーケティング・リサーチに関する課題研究(2)	マーケティング・リサーチの実施準備を行います。				マーケティング・リサーチの手法を身につける。（4時間）				
18	マーケティング・リサーチに関する課題研究(3)	マーケティング・リサーチの実施を行います。				マーケティング・リサーチの手法を身につける。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	マーケティング・リサーチに関する課題研究(4)	マーケティング・リサーチの実施結果をまとめます。	マーケティング・リサーチの手法を身につける。(4時間)
20	マーケティング・リサーチに関する課題研究(5)	マーケティング・リサーチの実施結果を発表します。	プレゼンテーションの練習を行い、発表することに慣れる。(4時間)
21	消費者行動論に関する課題研究(1)	ライフサイクル分析を理解し、自らのライフサイクルを考察します。	消費者行動論の講義を復習すること。(4時間)
22	消費者行動論に関する課題研究(2)	社会的側面の分析を理解し、影響因子を考察します。	テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(4時間)
23	消費者行動論に関する課題研究(3)	ライフスタイル分析を理解し、自らのライフスタイルを考察します。	テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(4時間)
24	先行研究や文献の利用(3)	自己の課題に関する先行研究や文献の探し方を理解して、実際に読み、まとめていきます。	レポートを作成する。(4時間)
25	先行研究や文献の利用(4)	自己の課題に関する先行研究や文献について、まとめていきます。	レポートを作成する。(4時間)
26	課題発表会(3)	作成したレポートをもとにプレゼンテーションを行います。	質疑応答で答えることができなかった部分を補強する。(4時間)
27	課題発表会(4)	作成したレポートをもとにプレゼンテーションを行います。	質疑応答で答えることができなかった部分を補強する。(4時間)
28	卒業研究のテーマを探す(1)	これまでの学習や討議を元に、卒業研究のテーマを決めていきます。	卒業研究にテーマを考え、それに関する資料を収集する。(4時間)
29	卒業研究のテーマを探す(2)	これまでの学習や討議を元に、卒業研究のテーマを決めていきます。	卒業研究にテーマを考え、それに関する資料を収集する。(4時間)
30	テーマ発表	卒業研究のテーマについて、発表・検討します。	発表資料を用意する。テーマについてレポートをまとめる。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
専門研究の内容に応じて資料をその都度配布します。		レポート：50% 受講態度：50% ディスカッション、プレゼンテーションなどの受講態度を50%として評価します。 S：独自性のあるレポート A：批判的思考に基づくレポート B：誠実に取り組んだレポート C：完成できたレポート	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
テーマに応じた参考図書を示します。		マーケティング基礎、マーケティング戦略、消費者行動論、流通総論を受講した学生を対象に専門研究を展開します。自ら問題意識を持ち、問題解決に向けて主体的、自発的に取り組む姿勢を求めます。	

科目名	専門研究		学年学期	3年通年	単位数	4	ナバ'リング	KL36076	研究室	W-32
担当者	小林 俊一		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	前期：水曜日3限 後期：木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
常に勝ち続ける【株式投資】に必要な【投資技術】を理解し、練習して習得することを目的とします。また、株式投資で必要となる基礎知識の学習も行います。さらに、株式投資に関連する経済についても学ぶ予定です。江戸時代の米相場のプロが行った「うねり取り」というプロ技術を株式投資に応用して練習することで、常に勝ち続ける投資技術を練習して身につけることを目的とします。株式投資のチャート分析技術も勉強します。投資技術の習得を目的とします。投資の勧誘ではありません。										
学修到達目標										
コンピュータのシミュレーショントレードで徹底的に投資練習することで、株式投資で常に勝ち続けるための本物の実力をつけることを目標とします。株式投資に関する「うねり取り技術」を習得することを目標とします。また、株式投資の基礎知識を習得することも目的です。株価チャートの規則性を徹底的に分析して勉強することで、株価チャートの動きに慣れることも目標です。										
授業の進め方										
株式投資に関する「うねり取り技術」を、実際にパソコンを使ってシミュレーショントレードすることで練習します。各種のチャート分析技術についても、コンピュータを用いて学習します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	専門研究の進め方についてガイダンスを行います。				配付資料や参考文献などをよく読み、予習復習を行って下さい。(4時間)				
2	株式投資に必要な基礎技術(1)	株式投資に必要な技術について学びます。パソコン教室を利用して、学習を行っていきます。				株式投資に必要な技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
3	株式投資に必要な基礎技術(2)	株式投資に必要な技術について学びます。パソコン教室を利用して、学習を行っていきます。				株式投資に必要な技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
4	株式投資に必要な基礎技術(3)	株式投資に必要な技術について学びます。パソコン教室を利用して、学習を行っていきます。				株式投資に必要な技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
5	株式投資に必要な基礎技術(4)	株式投資に必要な技術について学びます。パソコン教室を利用して、学習を行っていきます。				株式投資に必要な技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
6	株式投資に必要な基礎技術(5)	株式投資に必要な技術について学びます。パソコン教室を利用して、学習を行っていきます。				株式投資に必要な技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
7	うねり取り技術の学習(1)	うねり取りを活用して、株式投資を行う際に必要となる技術について学びます。				うねり取り技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
8	うねり取り技術の学習(2)	うねり取りを活用して、株式投資を行う際に必要となる技術について学びます。				うねり取り技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
9	うねり取り技術の学習(3)	うねり取りを活用して、株式投資を行う際に必要となる技術について学びます。				うねり取り技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
10	うねり取り技術の学習(4)	うねり取りを活用して、株式投資を行う際に必要となる技術について学びます。				うねり取り技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
11	うねり取り技術の学習(5)	うねり取りを活用して、株式投資を行う際に必要となる技術について学びます。				うねり取り技術について、予習復習を行って下さい。(4時間)				
12	株式投資練習(1)	コンピュータによるシミュレーショントレードソフトを利用して、株式投資を練習します。				シミュレーショントレードソフトを使って練習をして下さい。(4時間)				
13	株式投資練習(2)	コンピュータによるシミュレーショントレードソフトを利用して、株式投資を練習します。				シミュレーショントレードソフトを使って練習をして下さい。(4時間)				
14	株式投資練習(3)	コンピュータによるシミュレーショントレードソフトを利用して、株式投資を練習します。				シミュレーショントレードソフトを使って練習をして下さい。(4時間)				
15	株式投資練習(4)	コンピュータによるシミュレーショントレードソフトを利用して、株式投資を練習します。				シミュレーショントレードソフトを使って練習をして下さい。(4時間)				
16	株式投資練習(5)	コンピュータによるシミュレーショントレードソフトを利用して、株式投資を練習します。				シミュレーショントレードソフトを使って練習をして下さい。(4時間)				
17	株式投資練習(6)	コンピュータによるシミュレーショントレードソフトを利用して、株式投資を練習します。				シミュレーショントレードソフトを使って練習をして下さい。(4時間)				
18	株式投資練習(7)	コンピュータによるシミュレーショントレードソフトを利用して、株式投資を練習します。				シミュレーショントレードソフトを使って練習をして下さい。(4時間)				

授業計画（各回のテーマ等）		事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。	
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	上昇相場の株式投資練習(1)	上昇相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	上昇相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
20	上昇相場の株式投資練習(2)	上昇相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	上昇相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
21	上昇相場の株式投資練習(3)	上昇相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	上昇相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
22	上昇相場の株式投資練習(4)	上昇相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	上昇相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
23	上昇相場の株式投資練習(5)	上昇相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	上昇相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
24	下降相場の株式投資練習(1)	下降相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	下降相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
25	下降相場の株式投資練習(2)	下降相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	下降相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
26	下降相場の株式投資練習(3)	下降相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	下降相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
27	下降相場の株式投資練習(4)	下降相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	下降相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
28	下降相場の株式投資練習(5)	下降相場における株式投資についてコンピュータによる仮装トレードを利用して練習します。	下降相場の株式投資を練習して下さい。(4時間)
29	論文の書き方	論文の書き方について学びます。	論文の書き方について、予習復習を行って下さい。(4時間)
30	まとめ	専門研究のまとめを行います。	配付資料や参考文献などをよく読み、予習復習を行って下さい。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
適時、必要な資料を配付します。		レポート：50% 課題：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「株は技術だ！倍々で勝ち続ける究極のチャート授業」相場師朗著（ばる出版） ISBN：9784827210064 適時、必要な資料を配付します。		過去の実際の東京株式市場の株価データを利用して、徹底的に株式投資の練習をします。どの銘柄のいつの時代の株式データで練習しても、いつでも勝てるという実感がわくまで、徹底的に練習してもらいます。	

科目名	専門研究		学年学期	3年通年	単位数	4	ナパリング	KL36076	研究室	W-11
担当者	葛西 和廣		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日4限 後期：火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
経営学の基礎的な概念と方法論を理解し、身につけてもらうことを目的とします。また、論文執筆のための基本的なマナーについても修得して下さい。										
学修到達目標										
1. 各自の問題意識に、経営学の概念、理論、枠組みを用いて答えることができるようになる。 2. 論理構成力を身につけることができるようになる。										
授業の進め方										
資料を配付し、担当者がパワーポイントを使って発表し、その後皆でディスカッションを行います。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	専門研究の説明	専門研究の概要や進め方等の説明を行い、次回発表する資料を配付する。				配布した資料を熟読し、今回の授業内容を復習しておくこと（4時間）。				
2	経営学はなぜ必要か(1)	経営学における理論の特徴などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
3	経営学はなぜ必要か(2)	経営学が想定する人間像などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
4	経営学はなぜ必要か(3)	組織における意思決定などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
5	経営学はなぜ必要か(4)	経営理論などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
6	企業とは何か(1)	企業と社員の関係などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
7	企業とは何か(2)	大企業の誕生などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
8	企業とは何か(3)	日本企業の歴史などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
9	企業とは何か(4)	日本の企業観などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
10	モチベーション理論(1)	イノベーションとモチベーションなどについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
11	モチベーション理論(2)	外発的モチベーション理論などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
12	モチベーション理論(3)	成果主義や目標管理制度などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
13	モチベーション理論(4)	内発的動機づけなどについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
14	優れたリーダーの条件(1)	リーダーシップの概念などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
15	中間総括	半年間の反省をするとともに後期の計画について議論する				反省内容と後期計画について考えておくこと（4時間）。				
16	優れたリーダーの条件(2)	リーダーシップの状況適合理論などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
17	優れたリーダーの条件(3)	ピーターの法則などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				
18	優れたリーダーの条件(4)	サーバント・リーダーシップなどについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。				文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。				

授業計画（各回のテーマ等）			事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	企業組織(1)	組織における人間行動などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
20	企業組織(2)	バーナードの組織理論などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
21	企業組織(3)	組織デザインなどについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
22	企業組織(4)	組織の環境適応などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
23	経営戦略(1)	経営戦略の概念などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
24	経営戦略(2)	経営戦略策定のプロセスなどについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
25	経営戦略(3)	経営戦略の特質などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
26	経営戦略(4)	日本型経営略などについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
27	経営理論の活用方法	リフレクティブ・プラクティショナーなどについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
28	経営環境の変化	IT革命とイノベーションなどについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
29	経営学パラダイム	ナレッジ・マネジメントなどについて、担当者が発表し、全員によるディスカッションを行う。	文献・論文の熟読。事前の予習、復習をしっかりとやっておくこと（4時間）。
30	全体総括	1年間の反省をするとともに来年の計画について議論する	反省内容と次年度の計画について考えておくこと（4時間）。
テキスト		成績評価の方法・基準	
(講義にて配布します。)		出席レポート：50% 受講態度：50% S:基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。A:基本的な目標を十分に達成している。B:基本的な目標を達成している。C:基本的な目標を最低限度達成している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
講義の中で適宜紹介します。		各人の研究報告を毎回、順次行うのでレジメ等の準備をしておくこと 討議内容を整理しておくこと。	

科目名	専門研究			学年学期	3年通年	単位数	4	ナバリング	KL36076	研究室	W-10
担当者	兼村 智也			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日1限 後期：月曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
この授業では、これまで勉強した、これから勉強する経営学の知識をつかって、実際にある企業を事例（前期はテキスト等から、後期は県内企業から）として取り上げながら、その強みやユニークな点、そして問題点や改善点について考えてもらいます。											
学修到達目標											
こうした「ケース・スタディ」を積み重ねることを通じて、経営学の知識を実際の企業をつかって再確認するとともに、企業をみる目を養う。また4年生の卒業論文のテーマ発掘に役立てることを目標とする。											
授業の進め方											
この授業は少人数のため、先生の話を一方向的に聞く授業ではなく、毎回出題される課題について受講生に考えてもらい、その成果を発表してもらいます。実際の企業訪問も数回行いたく思っています。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	前期ガイダンス	これから1年間の授業の進め方と受講生の取り組み方を指示し、自己紹介を行ってもらいます。					次回課題の作成（4時間）				
2	モデル企業分析	前回課題として出題したモデル企業についての分析報告					次回課題の作成（4時間）				
3	モデル企業分析	前回課題として出題したモデル企業についての分析報告					次回課題の作成（4時間）				
4	モデル企業分析	前回課題として出題したモデル企業についての分析報告					次回課題の作成（4時間）				
5	モデル企業分析	前回課題として出題したモデル企業についての分析報告					次回課題の作成（4時間）				
6	企業訪問調査の事前学習	訪問先の県内企業について情報、問題意識を共有し、訪問時の質問について考える。					質問内容の検討（4時間）				
7	県内企業訪問調査	県内企業訪問とインタビュー調査					企業訪問レポートの作成（4時間）				
8	企業訪問調査の事後学習	県内企業訪問調査についてのレポート報告と討論を行う。					次回課題の作成（4時間）				
9	モデル企業分析	前回課題として出題したモデル企業についての分析報告					次回課題の作成（4時間）				
10	モデル企業分析	前回課題として出題したモデル企業についての分析報告					次回課題の作成（4時間）				
11	モデル企業分析	前回課題として出題したモデル企業についての分析報告					次回課題の作成（4時間）				
12	モデル企業分析	前回課題として出題したモデル企業についての分析報告					次回課題の作成（4時間）				
13	企業訪問調査の事前学習	訪問先の県内企業について情報、問題意識を共有し、訪問時の質問について考える。					質問内容の検討（4時間）				
14	県内企業訪問調査	県内企業訪問とインタビュー調査					企業訪問レポートの作成（4時間）				
15	企業訪問調査の事後学習	県内企業訪問調査についてのレポート報告と討論を行う。					前期事例学習のまとめ（4時間）				
16	後期ガイダンス	次回以降に向けた課題指示と役割担当の分担					次回課題の作成（4時間）				
17	県内優良企業分析	前回課題として出題した県内優良企業の分析報告					次回課題の作成（4時間）				
18	県内優良企業分析	前回課題として出題した県内優良企業の分析報告					次回課題の作成（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	県内優良企業分析	前回課題として出題した県内優良企業の分析報告	次回課題の作成（4時間）
20	県内優良企業分析	前回課題として出題した県内優良企業の分析報告	次回課題の作成（4時間）
21	企業訪問調査の事前学習	訪問先の県内企業について情報、問題意識を共有し、訪問時の質問について考える。	質問内容の検討（4時間）
22	県内企業訪問調査	県内企業訪問とインタビュー調査	企業訪問レポートの作成（4時間）
23	企業訪問調査の事後学習	県内企業訪問調査についてのレポート報告と討論を行う。	次回課題の作成（4時間）
24	県内優良企業分析	前回課題として出題した県内優良企業の分析報告	次回課題の作成（4時間）
25	県内優良企業分析	前回課題として出題した県内優良企業の分析報告	次回課題の作成（4時間）
26	県内優良企業分析	前回課題として出題した県内優良企業の分析報告	次回課題の作成（4時間）
27	県内優良企業分析	前回課題として出題した県内優良企業の分析報告	次回課題の作成（4時間）
28	企業訪問調査の事前学習	訪問先の県内企業について情報、問題意識を共有し、訪問時の質問について考える。	質問内容の検討（4時間）
29	県内企業訪問調査	県内企業訪問とインタビュー調査	企業訪問レポートの作成（4時間）
30	企業訪問調査の事後学習	県内企業訪問調査についてのレポート報告と討論を行う。	事例企業のなかで印象に残る企業についての整理・報告（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
必要に応じて配布、指示します。		出席レポート：30% レポート：70% A：優れた課題提出や質問項目の検討・設定はもちろん、企業のもつ優位性の発見に興味をもって取り組み自身の見解を付加することができる。B：優れた課題提出や質問項目の検討・設定ができる。C：課題提出や質問項目の検討・設定ができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
長野が世界に誇りたいものづくりの会社 信州の中堅100社		この授業は単に出席していれば単位が取得できる授業ではありません。また必修授業でもなく、ほぼ毎週課題が出題されるので、真面目に勉強したい人だけ履修してください。	

科目名	専門研究		学年学期	3年通年	単位数	4	ナバリング	KL36076	研究室	W-09
担当者	成 耆政		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：水曜日3限 後期：水曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
本授業では、まず現代経済学の基礎知識（原理と手法）について熟知してもらいます。その上、我々を取り巻く現実の経済現象についての分析と応用力を養います。現代経済における経済主体、すなわち家計、企業、そして政府の意思決定（経済活動）と役割、そして国際貿易に関する理論と手法、そして応用について議論を進めていきます。										
学修到達目標										
1.ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論（原理と分析手法）を理解と熟知すること。 2.現代経済学の理論と現実の経済との関係を理解と熟知すること。 3.これを通じて現実の経済問題（地域、国内、世界）を分析、応用する能力を身につけること。										
授業の進め方										
基本的にテキストの内容を事前学修し、パワーポイントを用いて資料を作成し、発表を行います。その後、質疑・応答があり、担当教員がコメントし、まとめを行います。アウトキャンパス・スタディとアンケート調査も実施します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション - 経済と経済学	経済の概念、経済制度と機構、現代経済社会の特徴、経済学の正確と方法などについて議論します。				事前：テキスト1章を読んでくること。事後：第1章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
2	経済学の歴史	古典経済学、マルクス経済学、一般均衡理論、ケインズ革命、そして経済学の新潮流などについて議論します。				事前：テキスト2章を読んでくること。事後：第2章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
3	現代経済学の方法と性格	現実・理論・政策、実証分析と規範分析、ミクロ経済分析とマクロ経済分析、経済分析に諸概念、そしてマルクス経済学の方法などについて議論します。				事前：テキスト3章を読んでくること。事後：第3章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
4	経済体制	資本主義と社会主義、現代の社会主義思想、両体制の直面する諸問題などについて議論します。				事前：テキスト4章を読んでくること。事後：第4章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
5	需要・供給と価格	需要曲線、供給曲線、需要と供給の均衡、需要曲線の移動と均衡の変化、供給曲線の移動と均衡の変化などについて議論します。				事前：テキスト5章を読んでくること。事後：第5章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
6	家計の理論	家計の経済行動、効用と限界効用、無差別曲線と予算制約、消費の決定、所得・価格の変化と消費などについて議論します。				事前：テキスト6章を読んでくること。事後：第6章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
7	企業の理論	企業と生産、生産と費用、企業の短期的行動、企業の長期的行動などについて議論します。				事前：テキスト7章を読んでくること。事後：第7章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
8	市場と価格決定	市場構造の分類、完全競争市場の価格決定、完全競争と余剰、一般均衡と部分均衡などについて議論します。				事前：テキスト8章を読んでくること。事後：第8章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
9	独占・不完全競争・寡占	独占の理論、複占の理論、独占的競争に理論、寡占の理論などについて議論します。				事前：テキスト9章を読んでくること。事後：第9章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
10	パレート最適と市場の失敗	パレート最適、市場の失敗、公共財、外部性、費用逓減産業などについて議論します。				事前：テキスト10章を読んでくること。事後：第10章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
11	政府活動	市場機構と政治機構、政府の経済活動、公的意識決定などについて議論します。				事前：テキスト11章を読んでくること。事後：第11章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
12	経済循環と国民経済計算	経済循環のとらえ方、GDPと三面等価の原則、国民所得の諸概念、貯蓄と投資、名目GDPと実質GDPなどについて議論します。				事前：テキスト12章を読んでくること。事後：第12章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
13	GDPの決定	有効需要の原理、GDPの決定、乗数、総重要管理政策、デフレ・ギャップとインフレ・ギャップなどについて議論します。				事前：テキスト13章を読んでくること。事後：第13章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
14	消費と貯蓄	消費は何に依存しているのか、消費と所得、限界消費性向と平均消費性向などについて議論します。				事前：テキスト14章を読んでくること。事後：第14章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
15	前期総まとめ	今までの内容を再確認し、足りない部分を補います。				事前：各自、今までの内容をまとめる。事後：第14章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
16	投資	投資の定義と種類、ケインズの投資理論、加速度原理・利潤原理・ストック調整原理などについて議論します。				事前：テキスト15章を読んでくること。事後：第15章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
17	貨幣と利率	貨幣の概念・機能・定義、利子、貨幣の供給、貨幣の需要、貨幣市場の均衡、IS-LM分析などについて議論します。				事前：テキスト16章を読んでくること。事後：第16章の演習問題を解いてくること。（4時間）				
18	財政・金融政策	経済安定政策、財政・金融政策の手段、財政・金融政策の効果などについて議論します。				事前：テキスト17章を読んでくること。事後：第17章の演習問題を解いてくること。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）		事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。	
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	総需要関数と総供給関数	生産要素市場と経済の供給、総供給曲線、物価水準と総需要関数、GDPと物価水準の同時決定、財政・金融政策の効果などについて議論します。	事前：テキスト18章を読んでおくこと。事後：第18章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
20	失業とインフレーション	失業とインフレ、失業とインフレの社会的費用、インフレーションの動学理論などについて議論します。	事前：テキスト19章を読んでおくこと。事後：第19章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
21	マクロ経済学の問題と論争	ケインジアンとマネタリスト、マクロ経済学論争の内容、供給重視派の経済理論などについて議論します。	事前：テキスト20章を読んでおくこと。事後：第20章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
22	経済の成長	経済成長の要因、経済成長理論、新古典派成長理論などについて議論します。	事前：テキスト21章を読んでおくこと。事後：第21章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
23	所得分配理論	分配問題、限界生産力説、ケインズ派の分配理論、所得分布の理論、所得分配政策などについて議論します。	事前：テキスト22章を読んでおくこと。事後：第22章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
24	国際貿易の理論（1）	貿易、貿易構造、自由貿易と保護貿易、貿易摩擦、多国籍企業などについて議論します。	事前：テキスト24章を読んでおくこと。事後：第24章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
25	国際貿易の理論（2）	貿易、貿易構造、自由貿易と保護貿易、貿易摩擦、多国籍企業などについて議論します。	事前：テキスト24章を読んでおくこと。事後：第24章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
26	国際貿易の理論（3）	貿易、貿易構造、自由貿易と保護貿易、貿易摩擦、多国籍企業などについて議論します。	事前：テキスト24章を読んでおくこと。事後：第24章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
27	社会保障の経済学	社会保障の意義、日本の社会保障、医療保険と年金の経済理論、社会保障の諸問題などについて議論します。	事前：テキスト23章を読んでおくこと。事後：第23章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
28	国際金融と国際マクロ経済学（1）	為替相場とその決定理論などについて議論します。	事前：テキスト25章を読んでおくこと。事後：第25章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
29	国際金融と国際マクロ経済学（2）	変動相場性の諸問題などについて議論します。	事前：テキスト25章を読んでおくこと。事後：第25章の演習問題を解いておくこと。（4時間）
30	総まとめ	この科目の総まとめを行います。	今までの授業の内容を熟知しておくこと（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「現代経済学」水野正一ほか著水野正一ほか編（中央経済社） ISBN:4-502-60372-4		レポート：50% 実技：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「マンキュー経済学」		前期はトヨタ自動車、後期は東京証券取引所、植物工場、清涼飲料製造企業などにアウトキャンパス・スタディとして行きます。アンケート調査などにも積極的に参加してください。	

科目名	専門研究		学年学期	3年通年	単位数	4	ナバリング	KL36076	研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：水曜日2限 後期：水曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
ICTと“情報”をキーワードに現代社会を考える。 卒業研究に向けて、ゲーム理論や行動経済学の基本的な文献を読んだり、株や金融データの扱いや統計データの理解を深めるトレーニングを行います。また、必要に応じてシミュレーション技法やプログラムの作成、マルチメディアデータの扱いも学びます。 Excel や Python でいろいろなAI技術の基本的な動作をすることにもチャレンジしてみましょう。										
学修到達目標										
情報化された現代社会を適切に把握し、現象をデータに基づいて論理的に考えられるようになる。 卒業研究のテーマを自分で決める。										
授業の進め方										
テキストやプリントを読み演習問題をやりながら、お互いに議論しあい理解を深めます。 プログラミングや3Dプリンタ、ネット環境、マルチメディアデータなど何でも使しましょう。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	このゼミの基本的方針の説明と班分け。卒業研究で扱える問題の範囲についての解説を行う。				配布資料を読み、次週に備える。（4時間）				
2	基本ツール	Excel と Python の基本的な使い方を練習します				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
3	データから仮説を作る	データを理解するために、散布図や相関に基づき仮説を立てます				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
4	データに親しむ(1)	実際のデータを入手する				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
5	データに親しむ(2)	映画「マネーボール」の世界を検証する				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
6	データを見る(1)	データからいろいろなグラフを作る				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
7	データを見る(2)	代表値を考える				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
8	データを見る(3)	分布とその広がりを考える				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
9	データを加工する(1)	実際のデータからいろいろな経済指数を出す				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
10	データを加工する(2)	実際のデータから動的比率や静的比率を出す				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
11	データを加工する(3)	実際のデータから貧困問題を考える				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
12	関係性を読み解く(1)	データから、物事の間関係を考える 相関について				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
13	関係性を読み解く(2)	データから、物事の間関係を考える 因果推論				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
14	関係性を読み解く(3)	データから、物事の間関係を考える ベイジアンネットワーク				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
15	前期のまとめ	前期中に学んだ技法を復習する 夏休みの課題を考える。				前期の復習と課題の検討。（4時間） さらに、夏休みの課題をやる。				
16	後期ガイダンス	後期の授業の方針の説明とグループ分け				方針に従って次週の準備をする。（4時間）				
17	原因一つを考える(1)	回帰分析ってなんでしょう				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				
18	原因一つを考える(2)	回帰分析を使ってみる				配布プリントや関連図書を読み理解を深める。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）			事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	いくつも原因がある(1)	重回帰分析 初めの一步	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
20	いくつも原因がある(2)	重回帰分析を使ってみよう	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
21	ダミー変数(1)	ダミー変数の使いかた(1) ダミー変数って？	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
22	ダミー変数(2)	ダミー変数の使いかた(2) 定数項ダミーの場合	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
23	ダミー変数(3)	ダミー変数の使いかた(3) 係数ダミーの場合	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
24	パネルデータ	パネルデータの扱い方	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
25	個票データに親しむ(1)	個票データの質的分析	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
26	個票データに親しむ(2)	個票データの量的分析	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
27	個票データの回帰分析	個票データに対して回帰分析を行う	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
28	個票データの質的分析(1)	質的な結果の回帰分析 2値の場合	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
29	個票データの質的分析(2)	質的な結果の回帰分析 3値以上の場合	配布プリントや関連図書を読み理解を深める。(4時間)
30	まとめ	一年間やってきた専門ゼミ全体を振り返り、大学生活のまとめである卒論への展望を考える。	卒論のテーマを考える。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
「なし」 なし		課題：50% レポート：50% 課題とは発表や討論などの授業への参加度と毎回の課題提出です。 S:与えられたテーマに関する発展的な問題を考察できる A:与えられたテーマに関する応用的な問題を考察できる B:与えられたテーマに関する標準的な問題を考察できる C:与えられたテーマに関する基礎的な問題を考察できる	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「なし」 なし		履修希望者は必ず事前に相談に来てください。 広い意味でICTや情報が関係すれば何でも卒業研究テーマになります。 日経ストックリーグへの参加も検討しています。	

科目名	卒業研究			学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ'リング	KL46077	研究室	W-28
担当者	清水 聡子			必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日2限 後期：火曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
本卒業研究ではマーケティング基礎、マーケティング戦略、流通総論、消費者行動論での講義内容を基礎とし、3年次の専門研究によって深めた知識を元に卒業論文を作成します。卒業論文のテーマを各自で設定し、卒業論文の作成、ゼミナール内でのプレゼンテーション、卒業論文発表会でのプレゼンテーションを行い、大学4年間の研究活動の総まとめとします。											
学修到達目標											
これまでの学習を生かして研究を進め、各自で課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識の深化、総合的な能力を高めるとともに、問題解決能力や論理的・創造的思考の育成を目標とします。											
授業の進め方											
各自の研究テーマに応じてそれぞれ個別に指導することが多くなりますが、各自の研究を受講者全体で相互に議論する機会も設定し、問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めることで、論文完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文の研究計画	卒業論文発表会までのスケジュールを確認し、研究計画書の作成に取りかかります。					事前に研究テーマを明確にしておく。研究計画書を作成する。（4時間）				
2	卒業論文の書き方	卒業論文の研究テーマ、研究目的を考察します。					先輩の卒業論文を読み、各自の研究テーマ、研究目的を考える。（4時間）				
3	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再検討します。					研究テーマの内容について概観し、研究計画を見直す。（4時間）				
4	研究テーマの検討(1)	各自の研究テーマについての概要、研究計画書を発表します。					発表者は発表準備をし、データの収集を開始する。（4時間）				
5	研究テーマの検討(2)	各自の研究テーマについての概要、研究計画書を発表します。					発表者は発表準備をし、データの収集を行う。（4時間）				
6	論文の章立て(1)	章立てを検討し、データの収集に関して個別指導をします。					各自のテーマに応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
7	論文の章立て(2)	章立てを検討し、論文の書き方について指導をします。					各自のテーマに応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	論文の章立て(3)	章立てを検討し、論文の書き方について指導をします。					各自のテーマに応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	資料・データの収集(1)	資料・データの収集に関して個別指導をします。					各自の資料・データの収集をすすめる、中間発表会用プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）				
10	資料・データの収集(2)	資料・データの収集に関して個別指導をします。					各自の資料・データの収集をすすめる、中間発表会用プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）				
11	資料・データの収集(3)	資料・データの収集に関して個別指導をします。					各自の資料・データの収集をすすめる、中間発表会用プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）				
12	中間発表会(1)	中間発表を行い、発表内容について検討します。					プレゼンテーション資料を完成させる。（4時間）				
13	中間発表会(2)	中間発表を行い、発表内容について検討します。					プレゼンテーション資料を完成させる。（4時間）				
14	資料・データの収集(4)	資料・データの収集に関して個別指導をします。					テーマに応じた資料・データの収集をすすめる、中間発表会で指摘された内容を補充する。（4時間）				
15	資料・データの収集(5)	資料・データの収集に関して個別指導をします。					テーマに応じた資料・データの収集をすすめる、中間発表会で指摘された内容を補充する。（4時間）				
16	資料・データの収集(6)	資料・データの収集に関して個別指導をします。					テーマに応じた資料・データの収集をすすめる、中間発表会で指摘された内容を補充する。（4時間）				
17	卒業論文作成(1)	卒業論文の全体像をつかむ。論文内容（研究テーマ、研究目的、研究方法、文章構成、文章の整合性）を再検討し、論文を作成します。					卒業論文を作成する。（4時間）				
18	卒業論文作成(2)	卒業論文の全体像をつかむ。論文内容（研究テーマ、研究目的、研究方法、文章構成、文章の整合性）を再検討し、論文を作成します。					卒業論文を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒業論文作成(3)	卒業論文の全体像をつかむ。論文内容（研究テーマ、研究目的、研究方法、文章構成、文章の整合性）を再検討し、論文を作成します。	卒業論文を作成する。（4時間）
20	卒業論文作成(4)	卒業論文の全体像をつかむ。論文内容（研究テーマ、研究目的、研究方法、文章構成、文章の整合性）を再検討し、論文を作成します。	卒業論文を作成する。（4時間）
21	卒業論文作成(5)	卒業論文の全体像をつかむ。論文内容（研究テーマ、研究目的、研究方法、文章構成、文章の整合性）を再検討し、論文を作成します。	卒業論文を作成する。（4時間）
22	卒業論文作成(6)	卒業論文の全体像をつかむ。論文内容（研究テーマ、研究目的、研究方法、文章構成、文章の整合性）を再検討し、論文を作成します。	卒業論文を作成する。（4時間）
23	卒業論文完成(1)	注、引用・参考文献を整理し、卒業論文を完成させます。	卒業論文の文章構成、文体を整え、最終原稿として完成させる。（4時間）
24	卒業論文完成(2)	注、引用・参考文献を整理し、卒業論文を完成させます。	卒業論文の文章構成、文体を整え、最終原稿として完成させる。（4時間）
25	卒業論文発表会用資料作成(1)	卒業論文発表会用プレゼンテーション資料を作成します。	与えられた時間内でプレゼンテーションができるよう、発表内容を吟味する。（4時間）
26	卒業論文発表会用資料作成(2)	卒業論文発表会用プレゼンテーション資料を作成します。	与えられた時間内でプレゼンテーションができるよう、発表内容を吟味する。（4時間）
27	卒業論文発表会でのプレゼンテーション(1)	発表の仕方、説明の仕方、発表内容を検討します。	聞き手に伝える・伝わる発表について検討し、発表内容を吟味する。（4時間）
28	卒業論文発表会でのプレゼンテーション(2)	発表の仕方、説明の仕方、発表内容を検討します。	聞き手に伝える・伝わる発表について検討し、発表内容を吟味する。（4時間）
29	卒業研究のまとめ(1)	卒業研究の総まとめを行います。	原稿を印刷し、完成させる。（4時間）
30	卒業研究のまとめ(2)	卒業研究の総まとめを行います。	原稿を印刷し、完成させる。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：80% 受講態度：20% 卒業論文はその内容（研究テーマ、研究目的、研究方法、文章構成、文章の整合性）を評価します。卒業論文作成過程、プレゼンテーションを受講態度として評価します。S：独自性のある卒業論文 A：批判的思考に基づく卒業論文 B：誠実に取り組んだ卒業論文 C：完成できた卒業論文	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		問題意識を持ち、卒業論文の完成に向けて主体的、自発的に取り組む姿勢を求めます。	

科目名	卒業研究		学年学期	4年通年	単位数	4	ナバリング	KL46077	研究室	W-32
担当者	小林 俊一		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：水曜日3限 後期：木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
卒業研究では、これまでに大学で学んだ内容をさらに発展させて、それを卒業論文としてまとめていくことを目的としています。学生が自らの力で研究テーマを見つけ出すこと、これが卒業研究の出発点となります。なお、「卒業研究発表会」において卒業論文の要旨を口頭発表することが履修者全員に求められます。										
学修到達目標										
大学生生活の集大成として、卒業論文を仕上げるのが最大の目標です。なお、その過程を通じて、研究を進めていく上で必要な情報収集力、論理的思考力、文章表現力、プレゼンテーション力などを身につけることも学修到達目標のひとつです。										
授業の進め方										
文献調査、フィールドワーク、ディスカッションなど、さまざまな形態を取り入れながら授業を進めます。基本的には学生個々人に対する個別指導が中心となってきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業研究についてのガイダンスを行います。	卒業研究のガイダンスを行います。				卒業論文の研究テーマを考えてみてください。作成スケジュールも検討して下さい。(4時間)				
2	研究テーマの検討	研究テーマについて検討します。				検討結果を踏まえて、研究テーマの再考をして下さい。(4時間)				
3	研究テーマの検討	研究テーマについて検討します。既存研究についても調査します。				検討結果を踏まえて、研究テーマの再考をして下さい。(4時間)				
4	研究テーマの検討	研究テーマについて検討します。既存研究についても調査します。				検討結果を踏まえて、研究テーマの再考をして下さい。(4時間)				
5	卒業論文の構成の検討	卒業論文の構成を検討します。また、研究テーマに関連する資料・データの収集を行います。				卒業論文の構成を考えてきて下さい。また資料収集を進めてきて下さい。(4時間)				
6	卒業論文の構成の検討	卒業論文の構成を検討します。また、研究テーマに関連する資料・データの収集を行います。				卒業論文の構成を考えてきて下さい。また資料収集を進めてきて下さい。(4時間)				
7	資料・データの収集	研究テーマに関連する資料・データの収集を行います。				資料・データの整理を進めてきて下さい。(4時間)				
8	資料・データの収集	研究テーマに関連する資料・データの収集を行います。				資料・データの整理を進めてきて下さい。(4時間)				
9	資料・データの収集	研究テーマに関連する資料・データの収集を行います。				資料・データの整理を進めてきて下さい。(4時間)				
10	調査、研究活動の推進	研究テーマに応じて、調査、研究活動を進めます。				調査、研究活動の整理を進めてきて下さい。(4時間)				
11	調査、研究活動の推進	研究テーマに応じて、調査、研究活動を進めます。				調査、研究活動の整理を進めてきて下さい。(4時間)				
12	調査、研究活動の推進	研究テーマに応じて、調査、研究活動を進めます。				調査、研究活動の整理を進めてきて下さい。(4時間)				
13	調査、研究活動の推進	研究テーマに応じて、調査、研究活動を進めます。				調査、研究活動の整理を進めてきて下さい。(4時間)				
14	調査、研究活動の推進	研究テーマに応じて、調査、研究活動を進めます。				調査、研究活動の整理を進めてきて下さい。(4時間)				
15	調査、研究活動の進捗状況の中間発表	調査研究活動の進捗状況について確認し、必要に応じて、研究計画書や作成スケジュールの見直しを行います。				研究計画書や作成スケジュールの修正作業に取り組んで下さい。(4時間)				
16	論文の書き方	論文の書き方について解説します。論文の構成、本文の組み立て方などを考えます。				卒業論文の執筆に着手して下さい。(4時間)				
17	論文の書き方	論文の書き方について解説します。注、引用、文献表のつけ方などを学びます。				卒業論文の執筆に着手して下さい。(4時間)				
18	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進め、論文の作成指導を行います。				指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。(4時間)				

授業計画（各回のテーマ等）		事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。	
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進め、論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。(4時間)
20	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進め、論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。(4時間)
21	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進め、論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。(4時間)
22	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進め、論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。(4時間)
23	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進め、論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。(4時間)
24	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進め、論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。(4時間)
25	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進め、論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。(4時間)
26	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進め、論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。(4時間)
27	卒業研究発表会のプレゼンテーション資料の作成	卒業研究発表会のためのプレゼンテーション資料の作成を進めます。	プレゼンテーション資料の作成を進めてきて下さい。(4時間)
28	卒業研究発表会のプレゼンテーション資料の作成	卒業研究発表会のためのプレゼンテーション資料の作成を進めます。	プレゼンテーション資料の作成を進めてきて下さい。(4時間)
29	卒業研究発表会の予行演習	卒業研究発表会の予行演習を行います。発表の流れ、発表内容のポイント、発表時間の管理などを確認します。	卒業研究発表会の発表の練習を重ねてきて下さい。(4時間)
30	卒業研究発表会	卒業研究発表会にて、卒業論文の要旨を発表します。	卒業論文集に向けた印刷原稿を準備してきて下さい。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
研究テーマに合わせて、適時、必要な資料を配布します。		課題：100% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づき姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
研究テーマに合わせて、適時、必要な資料を紹介します。		研究室を事前に訪問し、十分に相談の上、履修の許可を得てから履修登録をして下さい。楽しんで研究する姿勢を、忘れないようにしてください。	

科目名	卒業研究		学年学期	4年通年	単位数	4	ナバ`リング	KL46077	研究室	W-11
担当者	葛西 和廣		必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日4限 後期：火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
これまで学んできた経営に関する知識をもとに、ゼミでの議論・検討を重ねた成果を卒業論文としてとりまとめることを目的とする。										
学修到達目標										
経営学における基礎概念やフレームワークを自分の論文の中で使いこなせること。また、論文の書き方にしたいが、必要条件を満たした論文の文章が作成できること。テーマに関して、文献を十分に渉猟し、本文中で引用または要約により適切に紹介するとともに考えられる疑問や反証に耐えうる内容の文章が作成できること。										
授業の進め方										
ゼミ から引き続き、各自が卒業論文を作成する。個別指導、あるいは随時報告会を行い、ゼミ内でディスカッションをしながら、よりよい内容にし、論文の完成度を高めていく。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	卒業論文の作成プロセスを詳細に説明する				卒業論文に関する資料をよく読んでおくこと（4時間）				
2	テーマの選定に関する説明	具体的なテーマは、設定した領域について更に詳しく調べる中で、これまでの研究を更に発展させるべき分野をみきわめたり、これまで十分に研究されていない題材を見つけることにより、決めていく				具体的なテーマを探す（4時間）				
3	テーマの選定（個別対応）(1)	卒論テーマについて個別に相談する				具体的なテーマを探す（4時間）				
4	テーマの選定（個別対応）(2)	卒論テーマについて個別に相談する				具体的なテーマを探す（4時間）				
5	研究計画について説明	研究の仮説、方法など、研究の枠組みを検討する				研究計画を立案する（4時間）				
6	研究計画の内容確認	テーマの掘り下げや、テーマに相応しい研究方法の検討を行った上で、資料集や調査の計画を立てる				研究計画を立案する（4時間）				
7	研究計画の修正	各自が立案した研究計画を修正する				研究計画の修正（4時間）				
8	研究計画の決定	各自が立案した研究計画を修正し、決定する				研究計画の修正・確認（4時間）				
9	資料収集に関する説明	資料収集の仕方などを説明する				資料集の仕方を確認する（4時間）				
10	テーマに基づく資料収集	決定したテーマに基づいて資料の収集を行う				収集した資料の内容確認（4時間）				
11	テーマに基づく資料収集（個別対応）	収集した資料の内容を個別に確認し、指示を与える				指示に従って資料を収集する（4時間）				
12	テーマに基づく資料収集（個別対応）と卒業論文の作成	収集した資料の内容を個別に確認し、卒業論文を作成する				指示に従って資料を収集し、卒業論文の作成を開始する（4時間）				
13	卒業論文の作成（1）	収集した資料を基に卒業論文を作成する				収集した資料を基に卒業論文を作成する（4時間）				
14	卒業論文の作成（2）	収集した資料を基に卒業論文を作成する				収集した資料を基に卒業論文を作成する（4時間）				
15	前期の総括と今後の課題	卒業論文の現状報告と今後のスケジュールについて説明する				現状報告の準備と今後のスケジュール確認（4時間）				
16	後期スケジュールの確認と論文作成	後期スケジュールを確認し、卒業論文の作成を行う				論文作成の進捗状況を確認し、引き続き卒業論文の作成を行う（4時間）				
17	卒業論文の第1回中間報告(1)	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う				卒業論文の中間報告を行う（4時間）				
18	卒業論文の第1回中間報告(2)	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う				卒業論文の中間報告を行う（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒業論文作成(3)	卒業論文の作成を行う	卒業論文を作成する（4時間）
20	卒業論文作成(4)	卒業論文の作成を行う	卒業論文を作成する（4時間）
21	卒業論文作成(5)	卒業論文の作成を行う	卒業論文を作成する（4時間）
22	卒業論文作成(6)	卒業論文の作成を行う	卒業論文を作成する（4時間）
23	卒業論文の第2回中間報告(1)	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う	卒業論文の中間報告を行う（4時間）
24	卒業論文の第2回中間報告(2)	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う	卒業論文の中間報告を行う（4時間）
25	卒業論文作成(7)	卒業論文の作成を行う	卒業論文を作成する（4時間）
26	卒業論文作成(8)	卒業論文の作成を行う	卒業論文を作成する（4時間）
27	卒業論文作成(9)	卒業論文の作成を行う	卒業論文を作成する（4時間）
28	卒業論文作成(10)	卒業論文の作成を行う	卒業論文を作成する（4時間）
29	卒業論文の修正・点検	卒業論文の修正・点検を行う	卒業論文の見直しを行う（4時間）
30	卒業論文の完成	卒業論文の最終確認を行い、完成させる	最終的な確認作業と提出（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
その都度指示する。		課題：100% S:基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。A:基本的な目標を十分に達成している。B:基本的な目標を達成している。C:基本的な目標を最低限度達成している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
講義内で指示します。		大学生にとって、卒業論文作成は大学での学びの集大成です。学生が卒業論文で、問いを立てる力、その問いへの考察を持続する力と論理的に表現する文章表現力を養います。	

科目名	卒業研究			学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	KL46077	研究室	W-10
担当者	兼村 智也			必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日1限 後期：月曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
卒業研究の研究テーマ選択、関連する資料・文献についての助言、論文作成にむけての指導・助言・チェック、論文発表会の指導を行います。											
学修到達目標											
3年生の専門研究から学んできたことの集大成を卒業論文として仕上げる。											
授業の進め方											
人数も少ないと思いますので、毎回、マンツーマンでの授業になります。受講生から問題意識や研究メモなどを持ち込んでもらい、それをもとに指導・助言を行いながら、卒業論文を作成していきます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	研究対象企業の探索	既存文献からユニークな県内企業を探索					収集資料とレジюме作成（2時間）				
2	研究対象企業の探索	既存文献からユニークな県内企業を探索					収集資料とレジюме作成（2時間）				
3	研究対象企業の探索	既存文献からユニークな県内企業を探索					収集資料とレジюме作成（2時間）				
4	訪問企業の事前学習	訪問企業の概要、ヒアリング調査のポイントなどを報告					レジюмеと質問票の作成（2時間）				
5	訪問企業の事前学習	訪問企業の概要、ヒアリング調査のポイントなどを報告					レジюмеと質問票の作成（2時間）				
6	訪問企業の事前学習	訪問企業の概要、ヒアリング調査のポイントなどを報告					レジюмеと質問票の作成（2時間）				
7	訪問企業の事前学習	訪問企業の概要、ヒアリング調査のポイントなどを報告					レジюмеと質問票の作成（2時間）				
8	訪問企業の事前学習	訪問企業の概要、ヒアリング調査のポイントなどを報告					レジюмеと質問票の作成（2時間）				
9	企業訪問調査	企業訪問とヒアリング調査の実施					企業調査レポートの作成（2時間）				
10	企業訪問調査	企業訪問とヒアリング調査の実施					企業調査レポートの作成（2時間）				
11	企業訪問調査	企業訪問とヒアリング調査の実施					企業調査レポートの作成（2時間）				
12	企業訪問調査	企業訪問とヒアリング調査の実施					企業調査レポートの作成（2時間）				
13	企業調査訪問のまとめ	訪問企業の競争力分析を行う					企業調査レポートの作成（2時間）				
14	企業調査訪問のまとめ	訪問企業の競争力分析を行う					企業調査レポートの作成（2時間）				
15	後期に向けての研究課題	前期の振り返りと後期の研究課題を報告					報告用レジюмеの提出（4時間）				
16	研究テーマの検討	研究テーマ・分析視点を見出すためのディスカッション・指導・助言					研究アイデア・メモ等の提出（2時間）				
17	研究テーマの検討	研究テーマ・分析視点を見出すためのディスカッション・指導・助言					研究アイデア・メモ等の提出（2時間）				
18	研究テーマの検討	研究テーマ・分析視点を見出すためのディスカッション・指導・助言					研究アイデア・メモ等の提出（2時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	研究テーマの決定	これまでの作業を踏まえ、研究テーマの絞り込み・決定を行う。	論文骨子・仮説の洗い出し（2時間）
20	論文骨子の検討	論文骨子・仮説についてのディスカッション・指導・助言	論文骨子・仮説の洗い出し（2時間）
21	論文骨子の検討	論文骨子・仮説についてのディスカッション・指導・助言	論文骨子・仮説の洗い出し（2時間）
22	論文作成にかかるチェック	論文進捗状況・方向性の把握確認と意見交換	進捗論文の提出（4時間）
23	論文作成にかかるチェック	論文進捗状況・方向性の把握確認と意見交換	進捗論文の提出（4時間）
24	論文作成にかかるチェック	論文進捗状況・方向性の把握確認と意見交換	進捗論文の提出（4時間）
25	論文作成にかかるチェック	論文進捗状況・方向性の把握確認と意見交換	進捗論文の提出（4時間）
26	論文作成にかかるチェック	論文進捗状況・方向性の把握確認と意見交換	進捗論文の提出（4時間）
27	暫定版論文の確認・修正	暫定版の論文を提出、それについての確認・修正を行う	暫定版論文の提出（2時間）
28	暫定版論文の確認・修正	暫定版の論文を提出、それについての確認・修正を行う	暫定版論文の提出（2時間）
29	完成版論文の提出	完成版の論文を提出、それについての最終確認・修正を行う	完成版論文の提出（2時間）
30	卒業発表会の準備	卒業発表会に向けての準備・指導・助言を行う	発表用レジユメの提出（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
必要に応じて指示・助言します。		レポート：100% A：先行研究の踏襲、論理展開、そこで使われるデータ・資料の適切性などの面で非常に優れ、論文としての完成度が高い。B：前記の点で優れ、論文としての完成度もある。C：前記の点でやや問題があるが、論文としての体裁は整っている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
必要に応じて指示・助言します。		単位取得のためではなく、自分なりに何かを明らかにしたい、調べてその成果をまとめたいと思う学生の受講を希望します。	

科目名	卒業研究		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ・リング	KL46077	研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：水曜日2限 後期：水曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
卒業研究に向けて、テーマの設定、研究計画の作成、資料の収集を行います。ゼミのメンバーどうしでお互いの計画を批評し合い、現実的な計画を作り、卒業研究に着手する。大学生生活の集大成である卒業研究を完成させ、最後に卒業論文としてまとめます。										
学修到達目標										
問題を適切に設定し、必要な資料を集め、十分な分析を行い、結果をわかりやすい文章にまとめる事ができるようになる。成果物として卒業論文を完成させる。										
授業の進め方										
基本的な技法の解説ののち、各自の計画や準備状況を発表しあい、お互いにアドバイスしあいながら卒業研究の準備を進めていきましょう。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	卒業論文作成に向けた戦略の確認。				卒業研究のテーマを具体的に考える。（4時間）				
2	研究テーマの設定と計画の立て方	卒業研究のテーマの選び方と研究計画の立て方の基本学びます。				自分で計画を立ててみる。（4時間）				
3	研究テーマと計画の比較検討（1）	各自が考えた研究テーマと計画を発表し検討する。				自分の計画との比較検討を行い、自分の研究計画を改善する。（4時間）				
4	研究テーマと計画の比較検討（2）	各自が考えた研究テーマと計画を発表し検討する。				自分の計画との比較検討を行い、自分の研究計画を改善する。（4時間）				
5	資料の集め方	研究計画遂行のために必要な資料の集め方の基本を学びます。				自分の研究計画遂行のために必要な資料を集める。（4時間）				
6	資料収集の報告（1）	資料の収集状況を報告しあい、お互いにアドバイスしあう。				自分の準備状況を確認し、未収集の資料を集める。（4時間）				
7	資料収集の報告（2）	資料の収集状況を報告しあい、お互いにアドバイスしあう。				自分の準備状況を確認し、未収集の資料を集める。（4時間）				
8	再検討（1）	資料に基づき、各自の研究テーマと計画の再検討案を発表し、アドバイスしあう。				自分の計画との比較検討を行い、自分の研究計画を改善する。（4時間）				
9	再検討（2）	資料に基づき、各自の研究テーマと計画の再検討案を発表し、アドバイスしあう。				自分の計画との比較検討を行い、自分の研究計画を改善する。（4時間）				
10	資料収集状況報告（1）	修正された計画に従って、必要な資料を集める。資料の収集状況をお互いに検討し、計画の現実的な実行可能性を議論する。				自分の計画との比較検討を行い、自分の研究計画を改善する。（4時間）				
11	資料収集状況報告（2）	修正された計画に従って、必要な資料を集める。資料の収集状況をお互いに検討し、計画の現実的な実行可能性を議論する。				自分の計画との比較検討を行い、自分の研究計画を改善する。（4時間）				
12	結論と章立て	今までに集まった資料に基づき、結論とそこへ導く章立てを考える。				自分の研究計画について、章立てを考える。（4時間）				
13	結論と章立ての検討（1）	結論と章立てを発表し、お互いにアドバイスしあう。				自分の研究計画について、結論と章立てを改善する。（4時間）				
14	結論と章立ての検討（2）	結論と章立てを発表し、お互いにアドバイスしあう。				自分の研究計画について、結論と章立てを改善する。（4時間）				
15	前期のまとめ	前期に行ってきた卒論の準備をまとめ、夏休みの計画を発表する。				夏休みの計画を夏休みに実行する。（4時間）				
16	中間発表（1）	前期の準備に続いて、夏休みに実行した調査研究の状況報告を行う。				各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）				
17	中間発表（2）	前期の準備に続いて、夏休みに実行した調査研究の状況報告を行う。				各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）				
18	中間発表（3）	前期の準備に続いて、夏休みに実行した調査研究の状況報告を行う。				各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	結論の再確認（1）	資料に基づいて検討した結果の結論を検討発表する。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
20	結論の再確認（1）	資料に基づいて検討した結果の結論を検討発表する。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
21	章立ての確認（1）	再確認した結論に向けての、論理展開と章立ての確認。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
22	章立ての確認（2）	再確認した結論に向けての、論理展開と章立ての確認。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
23	第2回中間発表（1）	現在までの研究進展状況を発表する。進展状況と、今後の方針を検討する。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
24	第2回中間発表（2）	現在までの研究進展状況を発表する。進展状況と、今後の方針を検討する。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
25	論文の確認（1）	卒業論文の執筆状況を報告する。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
26	論文の確認（2）	卒業論文の執筆状況を報告する。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
27	論文の確認（3）	卒業論文の執筆状況を報告する。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
28	卒業論文発表（1）	卒業研究の成果を発表しあう。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
29	卒業論文発表（2）	卒業研究の成果を発表しあう。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
30	卒業論文発表（3）	卒業研究の成果を発表しあう。	各自の状況をまとめ、さらに考察を進める。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「なし」 なし		課題：100% 課題とは、各自が作成する卒業論文です。 S:各人が設定したテーマについて発展的な問題を考察した。 A:各人が設定したテーマについて応用的な問題を考察した。 B:各人が設定したテーマについて標準的な問題を考察した。 C:各人が設定したテーマについて基礎的な問題を考察した。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「なし」		大学生生活の集大成です。良い卒業論文を作りましょう。	

科目名	公務員試験対策		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバ'リング	KC36078 TL36096	研究室	非常勤
担当者	櫻井 義彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
公務員上級職試験対策として、独学が難しいとされる憲法、民法、行政法の専門科目および一般教養科目を、基礎からしっかり理解し、実戦力まで習得できるよう解説します。とくに法律専門科目をはじめて学が初学者に対しても分かりやすく解答の出し方を詳解し、確実に得点を挙げる解答力を養成します。										
学修到達目標										
公務員試験の出題の特徴を多角的に理解することが基本的な目標です。さらに、各法律科目の頻出する制度的意義を十分に理解することによって、出題者の意図をすばやく見極め、知識だけに頼らない正確な判断能力を養うことが最終目標です。										
授業の進め方										
講義は教室において、テキストと事前配布資料の問題を中心に基本事項を概説し、その後、事前に指定しておいた問題の答え合わせを行い、問題の傾向について解説をします。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス。 公務員上級職の職種と試験 制度について。	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。公務員採用試験の概要および展望、試験準備の要領と注意点などを紹介し ます。				事前に受験ガイドを読む。事後志 望職種を定める。(4時間)				
2	憲法 基本原理と包括的 基本権	日本国憲法の理念および原理を詳解し、憲法の制度的特色を理解します。とくに包括的基本権は新しい人権の根拠となつてい ますので、事例を 交えて解説します。				事前にテキストP58を読む。事後 間違えた問題を復習する。類似過 去問にあたる。(4時間)				
3	憲法 自由権と社会権	憲法が規定する人権の種類と特徴を解説し、人権の識別がすばやくでき る判断力を習得します。とくに消極的権利と積極的権利の区別は重要で す。				テキストのP56を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
4	憲法 違憲立法審査制度	法令審査基準と理論を判例を通じて解説します。判例の趣旨を正確に見 極める判断力を養い、択一問題を確実に解答する理解力を習得します。				テキストP78を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
5	憲法 議院内閣制	憲法の統治規定の中でも議院内閣制の問題は出題率が高いので、国会と 内閣の関係や国会の地位について過去の出題と判例を踏まえて解説しま す。				テキストP70,74111を事前に読む 。 授業中間間違えた問題を復習する。				
6	憲法 司法制度	司法権の独立、三審制、訴訟の種類など裁判制度の基本を理解し、三権 分立の中での裁判所の意義と司法権の限界について学習します。				テキストP76を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
7	民法 代理権の諸問題	代理における無権代理、表見代理などの問題を中心に解説します。とくに 相続と絡ませた出題が多いので、過去問を中心にいくつかのパリエー ションを習得します。				テキストP111を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
8	民法 契約時のトラブル 意思の不存在と瑕疵のあ る意思	契約の重要な要素である意思表示の問題を、民法規定に沿って整理し、 法律関係がどのように変化するかを解説します。とくに94条の類推適 用の事例を習得します。				テキストP110を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
9	民法 不動産物権変動と 対抗要件	不動産売買を中心に所有権の移転の問題や対抗要件の成否について詳解 します。また、相続や時効に関連して所有権がどのように移るかを判例 に沿って整理します。				テキストP113を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
10	民法 地上権、借地権、 抵当権	いわゆる担保物件の諸権利の特徴を解説します。なかでも抵当権が重要 ですので、その他の担保物件との違いを比較しながら、抵当権による担 保制度を理解していきます。				テキストP115を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
11	民法 売買に関する問題 危険負担と売主担保責任	動産と不動産の売買について、所有権や危険負担の移転の問題や売買の 瑕疵の問題における債務不履行と瑕疵担保の違いを判例と通説を比較して 解説します。				テキストP120を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
12	民法 債務不履行と契約 解除	契約解除の原因について、債務不履行を中心に法律関係を解説します。 ここは不法行為と損害賠償請求権にもかかってくるので立体的に法的効 果を理解していきます。				テキストP121を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
13	行政法 行政行為の概念 と効力	行政行為(処分)の性質を解説しながら、その他の行政庁の行為との識 別ができるようにします。さらに、効力の要件や瑕疵のある行政行為に ついて学び、行政法とは何かを理解します。				テキストP84を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
14	行政法 抗告訴訟と訴え の利益	行政事件訴訟の種類と要件、とくに訴えの利益について解説します。この テーマは、憲法の違憲判決の問題と直結しているため、典型的な判例 に沿って理解します。				テキストP100を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
15	行政法 国家賠償法	公務員の不法行為について、どのような場合に国家が賠償責任を負うか また民間人の行為でも国家賠償の可能性はあるか、など過去の出題に 沿って判例をもとに詳解します。				テキストP97を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「2019年度 地方上級・国家一般職 大卒程度 公務員試験総合問題集」 L&L総合研究所編(新星出版社) ISBN:978-4-405-01792-4(生協で購入して ください。)		定期試験:50% 受講態度:50% 成績評価基準 S:授業内容を高度に理解するとともに、探求姿勢をもって積極的に課題に取り 組み、授業で示した例題の発展問題が解ける。 A:授業内容を十分理解し、授業で示した問題は完全に解ける。 B:授業内容をほぼ理解し、授業で示した問題の80%程度が解ける。 C:授業内容をある程度理解し、授業で示した問題の60%程度が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「口語民法」(自由国民社) 「スーパー過去問ゼミ 憲法」(実務教育出版) ほか		公務員および各種資格試験に対応します。いずれも過去問をどれくらい解いた かが合格の鍵です。分からないところは質問に応じますので、各自積極的に過 去問を繰り返し解いていくことを期待します。								

科目名	公務員試験対策		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバ`リツ	KC36079 TL36097	研究室	非常勤
担当者	櫻井 義彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-			
関連資格					履修条件	3年生のみ履修可				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
公務員上級職試験対策として、憲法、民法、行政法の法律科目と一般教養科目について、前期の基礎知識をもとに問題演習と解説を行います。また、後期からは経済原論も加えて過去の頻出問題の徹底研究と択一問題の識別の仕方や選択肢の見極め方など、速く正確に解くテクニックを習得します。										
学修到達目標										
公務員試験の出題パターンを整理し、理解することが基本的な目標です。さらに、過去の頻出問題の傾向を徹底的に研究することで、出題者の意図を瞬時に見極め、確実に得点を挙げる実戦力を養うことが最終目標です。										
授業の進め方										
講義は教室において、教科書を中心に基本事項を解説しながら進め、適宜に過去問題をプリントして問題演習を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ		内容				事前事後学修			
1	授業ガイダンス。 公務員試験の最近の傾向。 経済原論とはなにか。		授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。公務員試験の最近の傾向や択一問題に対する心構えについて、さらに、経済原論についての出題傾向について解説します。				テキストの試験ガイドを事前に読む。授業の経済用語を復習して類似過去問にあたる。(4時間)			
2	ミクロ経済 消費行動理論		限界効用と予算線から最適消費量を求める問題や代替効果と価格効果の違いから消費者行動を予測分析する問題を学習します。				テキストのP162を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
3	マクロ経済 フローとストック		マクロ経済モデルについての理解の前提として、国民所得(GDP)とは何か、需要および供給とはどのような関係にあるのかを解説します。				テキストのP172を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
4	マクロ経済 デフレギャップとインフレギャップ(45度分析)		45度分析図から完全雇用国民所得における需要と供給のギャップを求める問題の解法を解説します。これは公務員試験では必須問題の1つですので、用語や考え方をしっかりと理解します。				テキストのP172を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
5	マクロ経済 乗数理論(45度分析)		前回と同じく、公務員試験頻出問題です。マクロ経済モデルを使って、民間投資や政府支出および増減税が国民所得に具体的にいくら増減をもたらすかを計算する問題を解説します。				テキストのP173を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
6	マクロ経済 財政・金融政策(IS-LM分析)		マクロ経済三本柱の最後は、IS-LM分析の問題解法を解説します。財市場と貨幣市場の動向が、利子率と所得によってどのように変化し、財政・金融政策がどのように機能するか、を理解します。				テキストのP174を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
7	憲法 政教分離の原則(20条)		憲法20条の信教の自由の中でも、第3項の政教分離の原則についてそのリーディングケースとなった判例と条文の解釈について解説します。				テキストのP62を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
8	憲法 表現の自由(21条)とプライバシー権		人権の中で最も重要とされる表現の自由と個人のプライバシーの衝突矛盾について、最高裁はどのような調整を行ったかについて解説し、人権相互の調整はどのような考え方によるのかを学習します。				テキストのP64を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
9	憲法 職業選択の自由(22条)		経済的自由権の中でも、とくに営業の自由を中心に、他人の人権との整合性を判例に沿って理解します。ここはとくに判例の知識が問われますので、重要判例を整理しながら詳解していきます。				テキストのP67を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
10	憲法 生存権(25条)		このテーマは、社会福祉政策の中心的人権であり、いわば公務員という職業の基盤をなすものなので、過去出題率はかなり高いです。自由権との違いを比較しながら、判例に基づいて解説します。				テキストのP69を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
11	憲法 国会、内閣、裁判所(統治論)		三権分立および日本の統治システムの問題を解説します。ここは公民程度の知識で十分ですので、いろいろな出題パターンになれるよう過去問を中心に進めていきます。				テキストのP70~76を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
12	民法 債権者代位権と詐害行為取消権		債権者代位権および詐害行為取消権の要件、客体、範囲、効果についてそれぞれの法律行為の要点を整理します。さらに、両者の相違点についてはよく出題されるのでその点もふまえて解説します。				テキストのP117を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
13	民法 抵当権と物上代位権		抵当権の性格を他の担保物権と比較しながら解説します。また、抵当権と物上代位権の行使の様態や法定地上権の成否など過去問を使って出題形式を習得します。				テキストのP116を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
14	民法 夫婦関係と親子関係		婚姻、離婚、内縁関係ならびに嫡出子と非嫡出子、認知、特別養子制度の各項目について要件と効果を整理して、それぞれの性格を解説します。				テキストのP125~127を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
15	民法 相続		法定相続人と相続の承認や放棄、遺言と法定遺留分の関係について、我が国の相続制度の要点を整理し、さらに、共同相続における登記と第三者の法的関係など他の民法条項にも関連する問題を詳解します。				テキストのP128を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)			
テキスト			成績評価の方法・基準							
「2019年度 地方上級・国家一般職 大卒程度 公務員試験総合問題集」L&L総合研究所編(新星出版社) ISBN:978-4-405-01792-4(生協で購入してください。)			定期試験:50% 受講態度:50% 成績評価基準 S:授業内容を高度に理解するとともに、探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、授業で示した例題の発展問題が解ける。 A:授業内容を十分理解し、授業で示した問題は完全に解ける。 B:授業内容をほぼ理解し、授業で示した問題の80%程度が解ける。 C:授業内容をある程度理解し、授業で示した問題の60%程度が解ける。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「口語民法」(自由国民社) 「スーパー過去問ゼミ(各科目)」(実務教育出版) 「20日間で学ぶ 政治・経済の基礎」(実務教育出版)			公務員および各種資格試験に対応します。いずれも過去問をどれくらい解いたかが合格の鍵です。分らないところは質問に応じますので、各自積極的に過去問を繰り返し解いていくことを期待します。							

科目名	公務員試験特講		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KC36080 TL36098	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
この講義は、政府部門の職員である国家公務員・地方公務員(都道府県、市町村、警察官、消防官などの職員)・独立行政法人等職員などを志望する学生のために、公務員試験に必要な志望理由・志望動機を明確化させる授業です。真剣に公務員になることを考えている学生を対象としているので、学生の主体的参加・積極的参加を求めます。										
学修到達目標										
政府部門の組織とその職員の仕事の内容について、制度のしくみ、具体的な事例を見ながら、各自が「なぜ公務員になりたいのか」を具体化する作業を行います。各自が自分なりに各種公務員の仕事の魅力について理解し、その上で志望動機を確立する。										
授業の進め方										
毎回プリントを配布し、基本的な制度のしくみ、具体的な仕事の事例などを検討します。また、講義内容の理解度を見るためにも、15回中3回程度は講義時間中に小論文を書いてもらいます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	ガイダンス				講義内容の復習(4時間)				
2	公務員試験のしくみ	各種公務員試験のしくみについて解説します				プリントを読む(4時間)				
3	公務員の役割と仕事	政府部門の職員としての公務員の仕事について説明します				プリントを読む(4時間)				
4	小論文作成	第3回までの講義を踏まえて小論文作成を行います				講義の復習をする(4時間)				
5	小論文答案返却と解説	前回で作成した小論文を添削して返却し、解説します				答案を見直す(4時間)				
6	国家公務員:国家公務員とその仕事	国家公務員の仕事と試験について説明します				プリントを読む(4時間)				
7	地方公務員	都道府県庁の職員の仕事と採用試験について説明します				プリントを読む(4時間)				
8	地方公務員	市町村役場の職員の仕事と採用試験について説明します				プリントを読む(4時間)				
9	警察官	警察官の仕事と採用試験について説明します				プリントを読む(4時間)				
10	小論文作成	第9回までの講義を踏まえて小論文を作成します				復習と問題意識明確化(4時間)				
11	小論文答案返却と解説	前回の答案を添削して返却し、解説をします				自己の答案の見直し(4時間)				
12	集団討論	志望理由、志望動機について、各自の意見や感想についてディスカッションを行います				集団討論の振り返り(4時間)				
13	公務員の仕事の意義	公務員の仕事の意義について考えながら、志望動機の明確化を図ります				講義内容の振り返り(4時間)				
14	小論文作成	それまでの内容を踏まえた課題で小論文を作成します				講義の振り返り(4時間)				
15	小論文答案の返却と解説	添削された答案について解説を加え、全体のまとめを行います				志望理由の明確化(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
特に指定しません。		レポート:70% 定期試験:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
なし		週1コマの講義は公務員試験合格のためのほんの一部に過ぎません。時間外に自分で勉強する時間を多く取るようにしてください。								

科目名	公務員試験特講		学年学期	4年前期	単位数	2	ナバ`リング	KC46081 TL46099	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ`	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
この講義に参加するためには、時間外での小論文作成が必要で、時間外学習(課題作成)ができない学生には向きません。また、担当教員が毎週の添削コメントを付けるため、この講義の定員は10名程度とします。履修希望人数がこれを超えた場合は、面接および小論文作文試験などによって選抜を行います。なお、その際には所属する学科によって有利または不利に扱うことはありません。あくまでも本人の志望の強さと資質によって選抜します。										
学修到達目標										
この演習は、公務員(都道府県、市町村、警察官、消防官などの職員)を志望する学生のために公務員試験に必要な小論文作文の知識と技術を習得する。										
授業の進め方										
学生による小論文作文の作成～担当教員による添削・コメント～学生による書き直し～担当教員による添削コメントといった流れを中心に進めます。さらに小論文作文のテーマに関連した知識についての講義を含みます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	イントロダクション	ガイダンス&課題その1					小論文答案の作成(4時間)			
2	課題その1の返却と解説	前回の小論文に添削を加えて返却し、解説をします					答案の作成(4時間)			
3	課題その1書き直し答案の返却と解説	課題その1の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その2を提示します					答案作成(4時間)			
4	課題その2の返却と解説	課題その2の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
5	課題その2の書き直し答案の返却と解説	課題その2の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その3を提示します。					答案作成(4時間)			
6	課題その3の答案の返却と解説	課題その3の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
7	課題その3の書き直し答案の返却と解説	課題その3の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その4を提示します。					答案作成(4時間)			
8	課題その4の答案の返却と解説	課題その4の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
9	課題その4の書き直し答案の返却と解説	課題その4の答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その5を提示します。					答案作成(4時間)			
10	課題その5の答案返却と解説	課題その5の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
11	課題その5の書き直し答案返却と解説	課題その5の答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、かだいその6を提示します。					答案作成(4時間)			
12	課題その6の答案返却と解説	課題その6の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案の作成(4時間)			
13	課題その6の書き直し答案の作成と提出	課題その6の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その7を提示します。					答案の作成(4時間)			
14	課題その7の答案返却と解説	課題その7の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
15	課題その7の書き直し答案返却と解説およびまとめ	課題その7の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、最後に全体を振り返ってまとめの講義を行います。					自己点検(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
指定テキスト等はありません。適宜、プリントを配布します。					レポート:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし					週1コマの講義は公務員試験合格のためのほんの一部に過ぎません。時間外に自分で勉強する時間を多く取るようにしてください。					

科目名	消費生活アドバイザー			学年学期	1・2・3・4前期	単位数	2	ナバリング	KB16082	研究室	
担当者	各教員			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格				履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
消費生活アドバイザーは、「消費者と企業や行政の架け橋」として、消費者の意向を企業経営や行政に反映させるとともに、消費者からの苦情相談等に対して迅速かつ適切なアドバイスができる人材に付与される公的資格です（内閣総理大臣・経済産業大臣の事業認定資格）。本講義では、消費生活アドバイザーの1次試験（択一式）合格に必要な消費者問題、行政・法律知識、経済知識、生活基礎知識について説明します。											
学修到達目標											
消費者問題、行政・法律知識、経済知識、生活基礎知識を習得し、消費生活アドバイザーの第1次試験（択一式）合格を目指します。											
授業の進め方											
教室での講義を原則とし、テキストに添って解説します。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	消費生活アドバイザーの役割と試験の概要、学習目標、授業の進め方について説明します。					自分が関心のある消費者問題を探します。授業外学修は週に4時間必要。				
2	消費生活アドバイザー制度	消費生活アドバイザー制度とは？ 消費生活アドバイザーの仕事は？といった内容について説明します。					配布資料をよく読みます。授業外学修は週に4時間必要。				
3	消費者問題	「くらしの豆知識」の該当部分に添って、消費者問題について説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
4	生活基礎知識（1）	「くらしの豆知識」の該当部分に添って、生活基礎知識について説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
5	生活基礎知識（2）	「くらしの豆知識」の該当部分に添って、生活基礎知識について説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
6	法律知識（1）	「くらしの豆知識」の該当部分に添って、法律知識の基礎について説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
7	法律知識（2）	「合格対策」第3章「法律知識」に添って、ポイントを説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
8	行政知識	「合格対策」第2章「行政知識」に添って、ポイントを説明します。					テキストの該当部分を読む。配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
9	悪質商法の被害に遭わないために	これまでのまとめとして、長野県松本消費者センターの専門家を招き、消費者トラブルに巻き込まれないための基礎知識と心構えについて、特別講義をしていただきます。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
10	経済一般知識	「合格対策」第4章「経済一般・経済統計の知識」の経済一般部分に添って、ポイントを説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
11	経済統計と調査方法の知識	「合格対策」第5章「経済一般・経済統計の知識」の経済統計部分に添って、ポイントを説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
12	企業経営一般知識	「合格対策」第5章「企業経営の一般知識」に添って、ポイントを説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
13	生活経済	「合格対策」第6章「生活経済の知識」に添って、ポイントを説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
14	地球環境・エネルギー需給	「合格対策」第7章「地球環境問題・エネルギー需給の知識」に添って、ポイントを説明します。					テキストの該当部分と配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
15	総括	講義全体の総括として、各章の要点や相互の関連を整理して説明します。					全体を振り返って、内容を理解し、疑問点を解消します。授業外学修は週に4時間以上必要。				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「くらしの豆知識 2017年版」国民生活センター編（生協で購入してください。） 「消費生活アドバイザー受験合格対策 2017年版」葛西光子・高橋美保他編著（丸善出版）（別途、指示します。）					期末試験及び資格試験の結果を踏まえて評価します。 S:消費生活アドバイザーの第1次試験に合格するレベルに到達。A:消費生活アドバイザー1次試験にほぼ合格するレベルに到達。B:授業の70%程度を理解しているレベルに到達。C:授業の60%程度を理解しているレベルに到達。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「ハンドブック消費者」内閣府国民生活局編（国立印刷局） 「消費生活アドバイザー試験 過去問題集」産業能率大学編 「消費生活アドバイザー資格がわかる本」日本産業協会編（産業能率大学）					日頃から消費者問題関連記事を読む習慣を身につけてください。試験は10月上旬実施予定。1年次の生活マネジメント入門、経済入門、法律の基礎を修得した後に履修することを薦めます。質問には、オフィスアワーで回答します。						

科目名	消費生活アドバイザー		学年学期	1・2・3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KB16083	研究室	
担当者	各教員		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義では、消費生活アドバイザー（内閣総理大臣・経済産業大臣の事業認定資格）の第2次試験（論文試験、面接試験）合格に必要な消費者問題、行政知識、法律知識、経済一般、企業経営一般、生活経済、地球環境問題・エネルギー需給について学習をします。										
学修到達目標										
消費者問題、行政知識、法律知識、経済一般、企業経営一般、生活経済、地球環境問題・エネルギー需給の知識を習得し、消費生活アドバイザーの第2次試験（論文試験、面接試験）合格を目指します。第2次試験に合格した場合、消費生活相談員（国家資格）も同時に取得できます。										
授業の進め方										
テキストに添って解説するほか、小論文の書き方や面接試験への臨み方についてアドバイスします。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	消費生活アドバイザー第2次試験の概要、学習目標、授業の進め方について説明した後、論文試験の目的や小論文の書き方を解説します。				テキスト該当部分を読む。配布資料をよく読み、理解します。授業外学修は週に4時間必要。				
2	生活基礎知識	生活基礎知識の確認問題を実施します。				生活基礎知識を復習しておく。疑問点を解消します。授業外学修は週に4時間必要。				
3	消費者問題、行政・法律知識	消費者問題、消費者のための行政知識・法律知識の確認問題を実施します。				消費者問題、消費者のための行政知識・法律知識を復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
4	経済知識	経済知識の確認問題を実施します。				経済知識を復習し、疑問点を解消します。授業外学修は週に4時間必要。				
5	消費者問題	消費者問題の小論文作成のポイントを説明します。				テキスト該当部分及び配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
6	行政	消費者のための行政に関する小論文作成のポイントを説明します。				テキスト該当部分及び配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
7	法律（1）：消費者のための民法	法律（1）：消費者のための民法の小論文作成のポイントを説明します。				テキスト該当部分及び配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
8	消費者のための法律（2）：特定商取引法	法律（2）：特定商取引法の小論文作成のポイントを説明します。				テキスト該当部分及び配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
9	小論文作成演習（1）	消費者問題、行政、法律（1）、法律（2）について、小論文作成演習をします。				小論文作成の練習をします。授業外学修は週に4時間必要。				
10	経済一般	経済一般の小論文作成のポイントを説明します。				テキスト該当部分及び配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
11	企業経営	企業経営の小論文作成のポイントを説明します。				テキスト該当部分及び配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
12	生活経済	生活経済の小論文作成のポイントを説明します。				テキスト該当部分及び配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
13	環境・エネルギー	地球環境・問題エネルギー需給の小論文作成のポイントを説明します。				テキスト該当部分及び配布資料をよく読み、復習します。授業外学修は週に4時間必要。				
14	小論文作成演習（2）	経済一般、企業経営一般、生活経済、環境・エネルギーについて、小論文演習をします。				小論文作成の練習をします。授業外学修は週に4時間必要。				
15	総括	講義全体を総括として、面接試験の目的や聞かれるポイントを説明し、面接試験での注意事項についてアドバイスします。				面接試験で話す内容を整理し、練習します。授業外学修は週に4時間以上必要。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「消費生活アドバイザー受験合格対策 2017年版」葛西光子・高橋美保他編著（丸善出版）（生協で購入してください。） 「くらしの豆知識 2017年版」国民生活センター編（生協で購入してください。）				資格試験の結果を踏まえて評価します。 S:消費生活アドバイザーの第2次試験に合格するレベルに到達。A・B・C:該当なし						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「消費生活アドバイザー試験 過去問題集」産業能率大学編 「ハンドブック消費者」内閣府国民生活局編（国立印刷局）				消費生活アドバイザー と合わせて履修してください。日頃から消費者問題に関心を持ち、新聞・ネット等の関連記事を読む習慣を身につけてください。質問には、オフィスアワーで回答します。						

科目名	宅建講座		学年学期	1・2・3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA16084	研究室	W-11
担当者	葛西 和廣		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
宅地建物取引士資格試験は、毎年20万人以上が申し込む人気の国家資格です。不動産業に携わる人ばかりでなく、金融関係や保険関係でも不動産に関わる専門知識を要するセクションでは、宅建の知識が業務に深く関わることもあり、高い需要を誇っています。本講義では権利関係、宅建業法、法令上の制限、その他の分野について基礎的な内容を理解することが出来るよう指導します。										
学修到達目標										
宅建士試験に合格すること										
授業の進め方										
基本的には教科書を用いて授業を進めますが、必要に応じて事例などのプリントも配布して使用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義				今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
2	宅建業・取引主任者・営業保証金と保証協会	宅建業、取引主任者、営業保証金、保証協会について学習します				予習はテキストのpp.1-76まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
3	業務上の規制と媒介契約・報酬額の制限	業務上の規制と媒介契約、報酬額の制限について学習します。				予習はテキストのpp.77-106まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
4	「自ら売主」の「8つの制限」・重要事項説明書と37条書面・監督処分と罰則	「自ら売主」の「8つの制限」、重要事項説明書と37条書面、監督処分と罰則について学習します。				予習はテキストのpp.107-169まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
5	都市計画法・建築基準法・国土利用計画法	都市計画法、建築基準法、国土利用計画法について学習します。				予習はテキストのpp.170-249まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
6	宅地造成等規制法・農地法・土地区画整理法とその他の法令	宅地造成等規制法、農地法、土地区画整理法、その他の法令について学習します。				予習はテキストのpp.250-291まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
7	住宅金融支援機構、公示価格、不動産の鑑定評価の方法など	住宅金融支援機構、公示価格、不動産の鑑定評価の方法などについて学習します。				予習はテキストのpp.498-539まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
8	制限行為能力者、意思表示	制限行為能力者、意思表示について学習します。				予習はテキストのpp.292-324まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
9	代理、時効	代理や時効について学習します。				予習はテキストのpp.325-349まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
10	物権変動、抵当権	物権変動と抵当権について学習します。				予習はテキストのpp.350-383まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
11	売買契約、賃貸借契約・借地借家法	売買契約や賃貸借契約、借地借家法について学習します。				予習はテキストのpp.384-419まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
12	債権の譲渡・消滅、連帯債務・保証債務	債権譲渡・消滅、連帯債務・保証債務について学習します。				予習はテキストのpp.420-445まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
13	その他の契約・不法行為、相続	その他の契約・不法行為や相続について学習します。				予習はテキストのpp.446-463まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
14	建物区分所有法、不動産登記法	建物区分所有法や不動産登記法について学習します。				予習はテキストのpp.464-497まで学習し、今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
15	講義全体のまとめ	講義全体を総括し、内容確認を行う。				今回実施した講義内容を復習しておくこと(4時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「2018年度版 スッキリわかる宅建士」中村喜久夫著(TAC出版) ISBN:9784813268550(生協で購入してください。) 「2018年度版 スッキリとける宅建士(過去問コンプリート12)」中村喜久夫著(TAC出版) ISBN:9784813268567(生協で購入してください。)				小テスト:50% 課題:50% S:基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。A:基本的な目標を十分に達成している。B:基本的な目標を達成している。C:基本的な目標を最低限度達成している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
必要に応じて指示します。				余計な知識は混乱のもとになります。合格に必要な知識だけを身につけることが必要です。そのためには、テキストを繰り返し読み、身につけた知識を使いこなして、どんどん問題を解くようにしてください。						

科目名	宅建講座		学年学期	1・2・3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KA16085	研究室	W-11
担当者	葛西 和廣		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
宅建は択一式の試験です。過去問題や予想問題の勉強は、テキストの内容を違う形式で反復すること、さらに、本試験での問われ方に即した記憶として定着させることが目的です。過去問題や予想問題ですから、形式は本試験形式の四肢択一になっていますが、大切なのはそこで問われている知識です。満点を狙うのではなく、合格ボーダーを超えればいだけます。本講義では、合格の為の要所を指摘して合格圏内に到達することが出来るよう指導します。										
学修到達目標										
宅建士試験に合格すること。										
授業の進め方										
過去問題集や予想問題集のプリントを配布して授業を進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	宅建業・取引主任者・営業保証金と保証協会	宅建業・取引主任者・営業保証金と保証協会の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
2	業務上の規制と媒介契約・報酬額の制限	業務上の規制と媒介契約・報酬額の制限の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
3	「自ら売主」の「8つの制限」・重要事項説明書と37条書面・監督処分と罰則	「自ら売主」の「8つの制限」・重要事項説明書と37条書面・監督処分と罰則の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
4	都市計画法・建築基準法・国土利用計画法	都市計画法・建築基準法・国土利用計画法の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
5	宅地造成等規制法・農地法・土地区画整理法とその他の法令	宅地造成等規制法・農地法・土地区画整理法とその他の法令の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
6	住宅金融支援機構・公示価格・不動産の鑑定評価の方法	住宅金融支援機構・公示価格・不動産の鑑定評価の方法の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
7	不当景品類及び不当表示防止法・土地と建物に関する基礎知識	不当景品類及び不当表示防止法・土地と建物に関する基礎知識の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
8	不動産取得税・固定資産税・所得税・その他の税	不動産取得税・固定資産税・所得税・その他の税の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
9	制限行為能力者・意思表示	制限行為能力者・意思表示の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
10	代理・時効	代理・時効の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
11	相続・物権の変動・危険負担・債権譲渡	相続・物権の変動・危険負担・債権譲渡の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
12	不動産登記法・共有・区分所有法	不動産登記法・共有・区分所有法の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
13	損害賠償・担保責任・連帯債務・保証債務など	損害賠償・担保責任・連帯債務・保証債務などの過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
14	賃貸借・借地借家法	賃貸借・借地借家法の過去問題を解きます。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
15	まとめ	予想問題を解いて確認をする。				配布した資料を読むこと。解いた問題を復習すること(4時間)。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
毎回、資料や問題プリントを配布します。		定期試験：100% S:基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。A:基本的な目標を十分に達成している。B:基本的な目標を達成している。C:基本的な目標を最低限度達成している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
必要に応じて指示します。		『宅建講座』は『宅建講座』を履修した学生のみ履修できます。勉強はテキストを繰り返し読み、身につけた知識を使いこなして、どんどん問題を解くようにしてください。								

科目名	貿易実務			学年学期	1・2・3・4年前期	単位数	2	ナパリング	KA16086	研究室	W-10
担当者	兼村 智也			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
貿易の自由化はいまや世界的な潮流となり、わが国でも今後ますます多くの貿易実務のエキスパートが求められる状況にあります。特に、輸出を手掛ける企業の多い長野県では、その傾向が一層強くなっています。そうした将来・地域のニーズを踏まえて、貿易実務知識と貿易実務英語を総合的に判定する「貿易実務検定」の合格に向けた学習を行います。											
学修到達目標											
10月にある貿易実務検定試験C級の合格を目指す。											
授業の進め方											
講義形式で行いますが、その回数や実施方法・日時は受講者数やその理解度によって柔軟に変えていきます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	この授業の目的、進め方、受講にあたってのお願いについてお話しします。					履修有無の決定（4時間）				
2	貿易取引の全体像の理解	貿易取引が全体として、どのように流れているのかについて解説します。					授業の復習（4時間）				
3	市場調査から契約の成立まで	輸入業者の取引相手先の探し方、その候補先の信用調査、さらに提案から契約成立までの流れについて解説します。					授業の復習（4時間）				
4	信用状の基礎知識	貿易取引で必要になる信用状とは何か、どんな意味を持つのかについてみるとともに、その手続きについて解説します。					授業の復習（4時間）				
5	品質条件・数量条件等	輸出入者で交渉される品質、数量の決め方、受け渡しの決め方についてみていきます。					授業の復習（4時間）				
6	インコタームズの基礎知識	取引条件の中でも特に重要な「貿易条件」について、国際商業会議所が定めたインコタームズについてみていきます。					授業の復習（4時間）				
7	貿易輸送	輸送方法の種類と、その契約形態、運賃、輸送書類について学習します。					授業の復習（4時間）				
8	貨物海上保険	貨物海上保険契約の基本的保健条件等についての基礎知識を学習します。					授業の復習（4時間）				
9	貿易取引に関するその他の保険	輸出入商品に事故が起こった場合の製造物責任と貿易保険について学習します。					授業の復習（4時間）				
10	代金決済	異なる国の間で代金決済を行う場合の決済方法について学習します。					授業の復習（4時間）				
11	船積みから輸送代金の回収	輸出者の主な業務である「通関・船積の手続」と「代金回収の手続」について学習します。					授業の復習（4時間）				
12	「船積通知の受領」から「貨物の引取り」まで	船積通知を受領してから「貨物の引取り」までの流れを学習します。					授業の復習（4時間）				
13	外国為替相場と為替変動リスクの回避	貿易取引の価格設定に大きな影響を与える外国為替相場について学習します。					授業の復習（4時間）				
14	国際貿易体制の基礎知識	国際貿易体制、日本の貿易の現状、国際平和と環境維持のための貿易管理等について学習します。					授業の復習（4時間）				
15	本講義の総括	これまでの講義内容をレビューしながら、補足説明などを加え、本講義の総括を行う。					試験対策を含め、授業の総復習（4時間）				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「最新貿易実務ベーシックマニュアル」日本貿易実務検定協会編（MHJ出版） ISBN:978-4-902499-21-1（別途、指示します。）					定期試験：100% A：検定模擬試験のスコアが160点以上。B：同試験のスコアが140点以上。C：同試験のスコアが120点以上。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「貿易実務検定C級試験問題集」日本貿易実務検定協会編（MHJ出版） ISBN:978-4-902499-26-1					この講座は資格試験対策講です。10月にある検定試験を受けようとする学生のみ受講して下さい。						

科目名	ファイナンシャルプランニング		学年学期	1・2・3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KB16087	研究室	W-21
担当者	古川 智史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義は、ファイナンシャルプランニングに必要な経済、金融、法規、税制関連の基礎知識の習得を目標とします。将来、社会人になった時に必要とされる実学として学習するとともに、3級ファイナンシャル・プランニング技能検定の合格も目指します。										
学修到達目標										
ファイナンシャルプランニングに必要な経済、金融、法規、税制関連の基本的な知識を理解し、説明できる。 3級ファイナンシャル・プランニング技能検定の合格に必要な知識・スキルを習得する。										
授業の進め方										
テキストに沿って授業を進めますが、解説等については適宜ノートをとるようにしてください。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ファイナンシャルプランニングおよび本講義の概要について説明します。				各自の将来像を考え、またファイナンシャル・プランニング技能検定を調べてください(4時間)				
2	ライフプランニングと資金計画(1)	ライフプランニングについて解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
3	ライフプランニングと資金計画(2)	社会保険(医療、介護、雇用)について解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
4	ライフプランニングと資金計画(3)	社会保険(年金)について解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
5	リスク管理(1)	生命保険について解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
6	リスク管理(2)	損害保険について解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
7	金融資産運用(1)	金融の仕組みについて解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
8	金融資産運用(2)	株式投資、投資信託などについて解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
9	タックスプランニング(1)	日本の税の仕組みについて解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
10	タックスプランニング(2)	所得税とその計算方法について解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
11	不動産(1)	不動産にかかる法規について解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
12	不動産(2)	不動産にかかる税について解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
13	相続・事業承継(1)	相続と相続税について解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
14	相続・事業承継(2)	贈与と贈与税について解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
15	総括	これまでの内容を振り返り、講義全体を総括します。				テキスト全体を復習してください(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「最短合格3級FP技能士」きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著(きんざい)(生協で購入してください。)2018年6月頃発行予定				期末試験及び資格試験の結果を踏まえて評価します。 S: 3級ファイナンシャル・プランニング技能検定の学科試験、実技試験ともに合格レベルに到達。 A: 3級ファイナンシャル・プランニング技能検定の学科試験、実技試験のどちらかに合格するレベルに到達。 B: 3級ファイナンシャル・プランニング技能検定の学科試験、実技試験のどちらかにほぼ合格するレベルに到達。 C: 授業の60%程度を理解しているレベルに到達。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義中に紹介します。				電卓を持参してください。講義終了後、1月の試験を受検してください(試験は年3回実施)。わからないことはそのままにせず、講義終了後やオフィスアワーで質問するなどしてください。						

科目名	ファイナンシャルプランニング		学年学期	1・2・3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KB16088	研究室	W-21
担当者	古川 智史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
ファイナンシャル・プランニング技能士は、顧客のライフプランに合わせて、生涯生活設計に関して総合的にアドバイスができる専門家に付与される国家資格です。本講義では、3級ファイナンシャル・プランニング技能検定の合格者を対象に、2級ファイナンシャル・プランニング技能検定の合格に必要な金融、保険、税金、不動産等の知識について説明します。										
学修到達目標										
金融、保険、税金、不動産、相続関連の知識を身につけ、2級ファイナンシャル・プランニング技能検定の合格を目指します。										
授業の進め方										
テキストに沿って授業を進めますが、解説等については適宜ノートをとるようにしてください。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ファイナンシャルプランニングの概要および講義の進め方等について説明します。				テキストの該当部分を読み、ファイナンシャル・プランナーの資格について調べること(4時間)				
2	ライフプランニングと資金計画(1)	「ライフプランニングと資金計画」のうち、社会保険、年金を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
3	ライフプランニングと資金計画(2)	「ライフプランニングと資金計画」のうち、住宅、教育資金を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
4	リスク管理(1)	「リスク管理」のうち、生命保険を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
5	リスク管理(2)	「リスク管理」のうち、損害保険を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
6	金融資産運用(1)	「金融資産運用」のうち、債券投資、株式投資を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
7	金融資産運用(2)	「金融資産運用」のうち、投資信託、外貨建商品を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
8	タックスプランニング(1)	「タックスプランニング」のうち、所得税を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
9	タックスプランニング(2)	「タックスプランニング」のうち、住民税、法人税、消費税を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
10	不動産(1)	「不動産」のうち、不動産にかかる取引、法律を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
11	不動産(2)	「不動産」のうち、不動産にかかる税金を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
12	相続・事業承継(1)	「相続・事業承継」のうち、贈与税、相続税を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
13	相続・事業承継(2)	「相続・事業承継」のうち、財産評価を中心に解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
14	実技試験問題	各分野の実技試験問題のポイントを解説します。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
15	総括	これまでの内容を振り返り、講義全体を総括します。				テキスト全体を復習してください(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「最短合格2級FP技能士」きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著(きんざい)(生協で購入してください。)2018年6月頃発行予定		資格試験の結果を踏まえて評価します。 S:2級ファイナンシャル・プランニング技能検定の学科試験、実技試験ともに合格するレベルに到達 A:2級ファイナンシャル・プランニング技能検定の学科試験、実技試験のどちらかに合格するレベルに到達。 B・C:該当なし								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
講義中に紹介します。		電卓を持参してください。講義終了後、1月の試験を受検してください(試験は年3回実施)。わからないことはそのままにせず、講義終了後やオフィスアワーで質問するなどしてください。								

科目名	上級情報処理			学年学期	1・2・3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA16089	研究室	W-32
担当者	小林 俊一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
本講義は、「基本情報技術者試験」を受験する学生向けの試験対策講座となっています。本講義の受講者は、「基本情報技術者試験」を受験することを前提としています。この講義は、基本情報技術者として必要な基礎知識を身に付け、基本情報技術者として活躍していくことができるようにすることを目的としています。この授業では、「基本情報技術者試験」を受験することが可能なレベルの応用力を身に付けることを最終目標としています。											
学修到達目標											
「基本情報技術者試験」を受験することが可能なレベルの応用力を身に付けることを目標としています。											
授業の進め方											
実践的な試験対策とするために、試験対象分野の講義と試験問題の演習を交互に行いながら授業を進めます。「基本情報技術者試験」の理解を深めるためコンピュータ教室も利用します。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンスを行います。基本情報技術者試験についても解説します。	上級情報処理の講義のガイダンスを行います。基本情報技術者試験の試験内容についても、説明を行います。					配付資料を復習して下さい。(4時間)				
2	n進数と基底変換について学習します。	「n進数」の扱いに慣れるための学習をします。よく使われるn進数を学習します。また、基底変換についても学習します。					テキストの第1章の予習と復習を行います。(4時間)				
3	2進数の計算と数値表現について学習します。	2進数の足し算と引き算について学びます。また、シフト演算と、2進数のかけ算、割り算について学びます。さらに、小数点を含む数の表し方についても学習します。					テキストの第2章の予習と復習をします。(4時間)				
4	コンピュータの回路について学習します。	コンピュータの回路について学習します。論理回路について学習します。そのための基礎として、論理演算やベン図についても学習をします。					テキストの第3章の予習と復習をします。(4時間)				
5	デジタルデータの表現の仕方について学習します。	ビットとバイトによるデジタルデータの表現の仕方について学習します。					テキストの第4章の予習と復習をします。(4時間)				
6	CPUについて学習します。	コンピュータのCPUと5大装置について学習します。					テキストの第5章の予習と復習をします。(4時間)				
7	機械語のアドレス指定方式について学習します。	機械語のアドレス指定方式について学習します。即値アドレス、直接アドレス、間接アドレスなどについて学習します。					テキストの第5章の予習と復習をします。(4時間)				
8	CPUの性能評価について学習します。	CPUの性能評価について学習します。クロック周波数、MIPSなどを学びます。CPUの高速化技術についても、学習します。					テキストの第5章の予習と復習をします。(4時間)				
9	コンピュータのメモリについて学習します。	コンピュータのメモリの種類について学習します。また、主記憶装置と高速化手法についても学習します。					テキストの第6章の予習と復習をします。(4時間)				
10	ハードディスクとその他の補助記憶装置を学習。	ハードディスクの構造と、記憶方法について学習します。					テキストの第7章の予習と復習をします。(4時間)				
11	RAIDについて学習します。	RAIDと、その他の補助記憶装置を学習します。					テキストの第7章の予習と復習をします。(4時間)				
12	その他のハードウェアを学習します。	入力装置、ディスプレイ、プリンタについて学習します。					テキストの第8章の予習と復習をします。(4時間)				
13	基本ソフトウェアについて学習します。	OSの仕事、ジョブ管理について学習します。					テキストの第9章の予習と復習をします。(4時間)				
14	タスク管理などについて学習します。	タスク管理、実記憶管理などについて学習します。					テキストの第9章の予習と復習をします。(4時間)				
15	講義全体のまとめを行います。	講義全体のまとめを行います。					テキストの復習を行います。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者 平成30年度」きたみ りゅうじ著（技術評論社） ISBN:978-4774193496（生協で購入してください。）						課題：30% 定期試験：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
講義で適宜指示します。						基本情報技術者試験の試験内容は、かなり技術的に高度な内容も含んでいますので、色々な演習問題を解き、しっかりと練習して試験に臨むようにして下さい。					

科目名	ITパスポート対策		学年学期	1・2・3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA16090	研究室	W-23
担当者	田中 正敏		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
学生諸君の中には経営が理解できて、そのうえ、情報部門に自分の将来の進路を真剣に考えている学生に対して、情報関係の資格取得の援助のための講義を行います。将来の就職活動にも生かした講義であります。										
学修到達目標										
ITパスポート取得を目指す。										
授業の進め方										
授業は演習問題を解くことを主に考えている。過去のITパスポートの問題を解き、経営および情報関連の知識の理解度を深めていく。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、ねらいについて				ITパスポートの習得の意義についてと企業活動の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
2	企業活動	損益分岐点、財務諸表、PDCAなど				企業活動の習得と法務の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
3	法務	知的財産権、コンプライアンス、労働者派遣法など				法務の習得と経営戦略の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
4	経営戦略	PPM、SWOT分析、SCM、コアコンピタンスなど				経営戦略の習得とシステム開発の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
5	システム開発(1)	開発手法、プロジェクトマネジメントなど				開発手法の習得とサービスマネジメントの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
6	システム開発(2)	サービスマネジメント、システム監督など				サービスマネジメント、システム監督の習得と開発技術の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
7	開発技術(基礎)	基礎理論:二進数、集合、情報量、確率など				開発技術(基礎)の習得とハードの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
8	開発技術(ハード)	データ構造、五大装置、OSなど				ハードの習得とソフトの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
9	開発技術(ソフト)	マルチメディア:動画、静止画など				ソフトの習得と表計算の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
10	表計算(1)	相対参照、絶対参照など				相対参照、絶対参照の習得と関数の抽出、選択の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
11	表計算(2)	関数、抽出、選択など				関数、抽出、選択の習得とRDBの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
12	データベース	リレーショナル・データベース				RDBの習得とネットワークの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
13	ネットワークの概要	プロトコル				プロトコルの習得とLAN、WAN、伝送速度の考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
14	ネットワークの手法	LAN、WAN、伝送速度など				LAN、WAN、伝送速度の習得とセキュリティの考え方の準備・まとめ(週に4時間必要)				
15	セキュリティ	リスク管理、暗号など				セキュリティの習得・まとめ(週に4時間必要)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
テキストは授業中に連絡する。				定期試験:60% 出席レポート:20% 受講態度:20% S:講義中に対して積極的に質問をし、到達目標値それ以上の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業内容を理解して正しく文章で表現することができる。B:到達目標値の探求姿勢を持って意欲的に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解して正しく文章で表現することができる。C:到達目標値を理解、各回の授業で学んだことを理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は講義中に連絡する。				ビジネスマンにとって必要不可欠な経営と情報の基本的な知識を身につけましょう。ITパスポート試験に対応します。						

科目名	販売士資格対策		学年学期	1・2・3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA16091	研究室	W-28
担当者	清水 聡子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
リテールマーケティング(販売士)検定試験3級に合格することを目指して講義を行います。リテールマーケティング(販売士)検定は小売業の類型、マーチャライジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理の5科目から構成されています。小売店舗の基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識と技術、販売業務が試験内容となり、基本的な知識の習得と過去問題の演習を行います。										
学修到達目標										
「モノやサービスの仕組みを作るプロ」として大学卒業後、活躍できる人材を育成することを目標とします。マーケティングの基礎を習得し、多方面にわたる実践的なビジネスのノウハウを学びます。										
授業の進め方										
講義計画に従って、教科書、配布プリントを用いて教室にて授業を行います。それぞれの授業の構成は、前回の授業の復習、今回の授業のポイント、授業の中心部(メイン)、問題演習、問題解説、来週の予告、と講義を進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	リテールマーケティング(販売士)検定試験について説明します。				検定試験合格に向けての学習プランを考える。(4時間)				
2	小売業の類型(1)	流通における小売業の基本的役割について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
3	小売業の類型(2)	流通経路別小売業の基本的役割について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
4	マーチャライジング(1)	商品の基本的考え方について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
5	マーチャライジング(2)	マーチャライジングの基本的考え方について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
6	商品計画(1)	仕入計画・在庫管理・販売管理の基本的役割について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
7	商品計画(2)	価格設定の基本的考え方について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
8	ストアオペレーション(1)	ストアオペレーションの基本的役割について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
9	ストアオペレーション(2)	人的販売の基本的考え方について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
10	マーケティング(1)	小売業のマーケティングについて考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
11	マーケティング(2)	顧客管理の基本的役割について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
12	マーケティング(3)	商圏の設定と出店の基本的考え方について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
13	販売・経営管理(1)	販売員の基本業務および法令知識について考察します。				基礎理論を押さえ、数多くの演習問題に取り組む。(4時間)				
14	販売・経営管理(2)	販売に求められる決算データについて学習します。				多くの計算問題に取り組み、数字を扱うことに慣れる。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	リテールマーケティング(販売士)検定の総まとめを行います。				演習問題、過去問題で実践的な学習を行う。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「1回で合格!販売士検定3級過去問題集」上岡史郎著(成美堂出版) ISBN:978-4-415-22554-8(生協で購入してください。)				定期試験:100% S:授業内容を高度に理解できる。A:授業内容を理解できる。B:授業内容をおおよそ理解できる。C:授業内容の60%を理解できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「販売士検定試験3級ハンドブック」日本商工会議所・全国商工会連合会編(株式会社カリアック)				流通業界や店舗運営に興味があり、リテールマーケティング(販売士)検定3級を受験する学生を対象に講義を行います。流通総論、マーケティング基礎、マーケティング戦略の受講を勧めます。						

科目名	簿記受験対策			学年学期	1・2・3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KA16092	研究室	W-16
担当者	田中 浩			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
日本商工会議所主催簿記検定等において、実際に出題された問題を中心に、その基本的な考え方、処理のポイント、学問的な重要点等重要点等を学びます。各授業において、テーマを定め、講義全体を受講することで、簿記検定に関する全項目を学びます。											
学修到達目標											
仕訳、帳簿記入、計算問題など各パターンに習熟し、限られた時間のなかで、正確に解答できるようになることで、高度な事務処理能力を養い、簿記検定3級の問題が常に完答できるようになることが目標です。											
授業の進め方											
簿記・簿記 によって学習した(または今学習中である)簿記の方法に基づいて、本講義では、過去の検定問題を中心に、限られた時間で解答するには、どのような注意が必要かについて、実例に取り組みながら実践的な観点で学びます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ		内容					事前事後学修			
1	簿記の全体像	簿記検定について	簿記の全体像の復習 簿記検定の基本的な構成 仕訳と簿記一巡 試算表作成					簿記 のテキストを読んでおく。 配布する問題を解答し提出する 4時間			
2	試算表の作成		取引項目別のデータを処理する 重複取引を見抜く					授業で使用したプリントの復習び 配布プリントを解く(4時間)			
3	試算表の作成		日付データからの試算表作成 掛明細表の作成					授業で使用したプリントの復習び 配布プリントを解く(4時間)			
4	決算整理仕訳		決算事項の理解と計算を行い、全決算仕訳を行う					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
5	精算表の作成		簡単な6桁精算表を確実に短時間で作成する					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
6	精算表の作成		決算整理事項における難解な指示の場合					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
7	精算表の作成		穴埋めや推定部分のある精算表の場合					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
8	財務諸表の作成		報告式財務諸表の形式 試算表の推定、決算整理と財務諸表					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
9	伝票		一部現金取引の二つの処理 日計表の作成					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
10	帳簿処理		小口現金出納帳 商品有高帳 掛元帳などの帳簿を学ぶ					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
11	帳簿処理	他	手形記入帳 補助簿の選択 勘定振替締切 訂正仕訳などを学ぶ					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
12	仕訳		典型的な仕訳問題を学ぶ					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
13	仕訳		大量の仕訳問題を正確に短時間で処理する					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
14	補充 発展的な問題		逆進推定の決算書作成 訂正仕訳 資本計算					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
15	総まとめ		すべての学習項目の総復習 誤りやすい事項 より発展的な内容について					配布プリント問題を解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 4時間			
テキスト			成績評価の方法・基準								
講義前にプリントを配布します。(詳細は講義初回に説明します)			出席レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)			簿記の学習経験のある学生しか履修できません(特に1年生は注意してください)。また簿記原理あるいは上級簿記と同時に履修してください。								

科目名	職業指導論		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KL26093 TL260112	研究室	W-29
担当者	畑井 治文		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日3限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観○								
授業概要										
学校と社会の円滑な接続を図るためには、学生の職業観・勤労観を育むとともに、職業に関する知識や技能を身に付けさせることが必要不可欠です。またそれらに加えて、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力を育てることも大切になってくるでしょう。本講義では、職業指導(進路指導・キャリア教育)の基礎的な理論や実践的な技術について解説していきます。										
学修到達目標										
職業指導(進路指導・キャリア教育)の基礎的な理論や実践的な技術を学ぶことによって、職業指導についての知識や関心を広げようになるのはもちろん、中学生や高校生が進路選択という大きな課題に直面した際、教師として具体的な支援ができるようになることが目標です。										
授業の進め方										
基本的には講義用プリントを配布して授業を進めます。各回とも教室での講義となりますが、可能な限り、インタラクティブな授業を展開できるように心がけていきます。授業内で実施した小テスト・課題などについては、随時、返却・解説をする予定です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。また職業指導の定義、職業指導の概念の広がりについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、代表的な職業分類について調べてきて下さい。(4時間)				
2	職業の語義と種類	職業の要素について解説した上で、総務省や厚生労働省の職業分類体系をもとに、多種多様な職業の種類を紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、職業選択理論について調べてきて下さい。(4時間)				
3	職業指導(進路指導・キャリア教育)の基礎理論	職業選択理論、構造理論、発達理論など、職業指導にかかわる代表的な基礎理論について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、昨今の求人倍率の推移について調べてきて下さい。(4時間)				
4	産業構造・就業構造の変化	日本の産業構造の変化、それを受けた就業構造の変化について解説します。また昨今の労働市場の動向を整理しながら、企業の採用意欲の方向性なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、いわゆる「七五三現象」について調べてきて下さい。(4時間)				
5	若年者の職業意識とキャリア行動	職業指導の対象となる「若年者」が抱く職業意識、それを踏まえたキャリア行動について解説します。職業指導の円滑化を図る上、「若年者」への理解を深めることは必要不可欠なポイントです。				今回の内容を復習すると同時に、高卒で就職を希望する学生の割合を調べてきて下さい。(4時間)				
6	高校におけるキャリア教育と職業指導	キャリア教育を進める際の組織や運営方法について解説した上で、高校における職業指導の流れや留意点なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、キャリアカウンセリングの目的を調べてきて下さい。(4時間)				
7	キャリアカウンセリングの理論と技法	キャリアカウンセリングの導入の背景、キャリアカウンセリングの目的・機能・プロセスについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
8	中間のまとめ	映像資料を用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、企業で行われているMB0について調べてきて下さい。(4時間)				
9	企業で行われているキャリア開発支援	企業で行われているキャリア開発支援の取り組みを題材にしながら、若年者のキャリア行動を促すための手法について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、労働関連の法律の種類について調べてきて下さい。(4時間)				
10	職業指導の際に知っておくべき法律	若年者が職業選択を進めていく上で、さらには実際に職業生活を過ごしていく上で知っておくべき法律について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、フリーターに関連する情報を収集してきて下さい。(4時間)				
11	ケーススタディ(若年者のフリーターの実態)	若年者の「フリーターの実態」に焦点をあて、収入、雇用安定、能力開発などの側面から非正規労働者が抱える問題について解説します。また国が進めている若年者支援の施策なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、若年者の離転職に関連する情報を収集してきて下さい。(4時間)				
12	ケーススタディ(若年者の離転職の実態)	若年者の「離転職の実態」に焦点をあて、離転職が多い理由、離転職のその後について整理した上で、離転職を防ぐための手法を解説します。				今回の内容を復習すると同時に、ドイツで行われている見習制を調べてきて下さい。(4時間)				
13	欧米諸国のキャリア開発支援	学校生活から職業生活への移行タイプを整理した上で、欧米諸国におけるキャリア開発支援の取り組みについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、適性診断の種類について調べてきて下さい。(4時間)				
14	自己理解・適性診断の手法	自己理解の意義と目的について解説した上で、ワークシートを用いながら実際に自己理解を行います。また自己理解を進める上で参考となる適性診断の手法なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	定期試験対策プリントを用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、定期試験に備えて下さい。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
講義用プリントを配布します。				出席レポート:20% 小テスト:30% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解して発展問題・課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題・課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題・課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「キャリア開発と職業指導 大学・高校のキャリア教育支援」伊藤一雄・佐藤史人・堀内達夫編(法律文化社)				教師の立場として有用だけでなく、大学生である自分自身の進路選択を考える上でも良いきっかけを与えてくれるはずです。常に問題意識を持って授業に臨むようにして下さい。						

科目名	社会教養 A (基礎) (総経)		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバ'リング	KL36094 TL360104	研究室	非常勤
担当者	櫻井 義彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
この講座は、政治や経済など社会の基本的な仕組みや、いま実際に国内外で起こっている問題に対する社会人としての常識的な知見を身につけるとともに、ニュース時事能力検定の資格取得をめざします。また企業の採用試験、さらには公務員試験にも対応できるように企業や官庁が求める社会常識について、その傾向や解法を十分に理解し、繰り返し演習と解説を行うことで、たとえ自信のない人でも、高い得点率を可能にする実戦力を養成します。										
学修到達目標										
いま国内外で起こっているさまざまな政治的・経済的諸問題について、その原因と背景および課題について正しく認識し理解することが基本的な目標です。さらに、それらの問題について自分なりの一定の見解や解決策を持ちうる見識を養うことが最終目標です。										
授業の進め方										
社会常識の各分野については、テキストに沿って基本知識を理解しながら、ニュース時事問題についてプリントを使って演習を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス。 現在国の内外で何が起きているのか。	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。さらに今後授業で取り扱う時事問題について概説します。				国内外の問題を一つ挙げ、それについての自分の見解をまとめる。ニュースに目を通す。(4時間)				
2	そもそもなぜ今改憲なのか。	日本国憲法の成り立ちと課題、憲法改正の仕組みと手続きについて理解していきます。				テキストP14.15を事前に読む。憲法改正手続きについて復習する。ニュースに目を通す。(4時間)				
3	日本国憲法の理念と原理について。	憲法前文から日本国憲法の目的(理念)とそのために規定された三大原理の意味を確認しながら、関連する過去問を解いていきます。				日本国憲法前文を事前に読む。テキストP16~18を復習する。今日のニュースに目を通す。(4時間)				
4	人権とはどのような権利か。	人権の歴史と意義を確認し、基本的人権の性質と種類を概説しながら、人権の正しいとらえ方を理解していきます。				テキストP24~27を事前に読む。P28以降を復習する。今日のニュースに目を通す。(4時間)				
5	近代民主主義国家はいかに形成されたか。	前回と関連して、近代国家成立の歴史を概観しながら、政治思想や国家間の変遷について理解します。				テキストP60~63を事前に読む。テキストP64~66を復習する。ニュースに目を通す。(4時間)				
6	アベノミックスと日本経済の動向について。	安倍内閣が発足当初より進めている経済再生の政策と消費税の問題を解説し、今後の日本経済の動向について理解します。				テキストP112.113を事前に読む。テキストP116.117を復習する。ニュースに目を通す。(4時間)				
7	経済再生として政府は何をするのか。	デフレ脱却のために政府のとるべき経済政策と租税制度について、基本知識を習得します。				テキストP124.125を事前に読む。テキストP126を復習する。ニュースに目を通す。(4時間)				
8	景気対策について日本銀行の役割は何か。	日本の金融システムと金融政策の基本的な仕組みについて紹介します。とくに中央銀行としての日銀の政策と市中銀行の関連について理解します。				テキストP134~137を事前に読む。テキストP140.141を復習する。ニュースに目を通す。(4時間)				
9	経済のグローバル化とは何か。	円高・円安はなぜ起こるかなど外国為替市場の仕組みを理解しながら、なぜ中国など諸外国の経済動向が日本に影響するのかなどグローバル化する世界経済について解説します。				テキストP148~150を事前に読む。テキストP152~155を復習する。ニュースに目を通す。(4時間)				
10	日本の政治の仕組みはどうなっているのか。	議院内閣制、すなわち国会と内閣の関係や仕組みについて詳解します。さらに議院内閣制と大統領制との違いについて比較しながら理解を深めていきます。				テキストP36~39を事前に読む。テキストP40~42を復習する。今日のニュースに目を通す(4時間)				
11	司法制度の仕組みについて	裁判所の組織や最高裁判所と下級裁判所の役割の違い、三審制の仕組みや違憲審査制度、裁判員制度の問題点など我が国の司法制度について理解します。				テキストP39を事前に読む。テキストP44を復習する。今日のニュースに目を通す。(4時間)				
12	地方自治の仕組みと諸問題	地方の活性化や地域振興の必要性が言われているが、そもそも地方の政治システムや財政はどうなっているのかを解説しながら、地方の問題点を理解します。				テキストP52~55を事前に読む。テキストP56.57を復習する。今日のニュースに目を通す。(4時間)				
13	判断処理の方法	命題と集合についての出題の特徴と解法のテクニックを過去問を使って詳解し、演習とその解説を行うことで実戦力を養います。				SPIレベルの集合と命題を事前に予習する。演習で間違えた過去問を復習する。(4時間)				
14	判断処理の方法	発言の真偽、順序、対応関係などの推論の問題の問題のとらえ方と解法を詳解し、過去問で確認の演習を行います。				SPIレベルの推論の基本的な考え方を事前に予習する。演習で間違えた過去問を復習する。(4時間)				
15	数的処理の方法	場合の数と確率の解法のテクニックを詳解します。過去に頻出の問題をパターン化し、素早い解答処理の要領をまとめ、反復演習によって確実な攻略をめざします。				SPIレベルの推論の基本的な考え方を事前に予習する。演習で間違えた過去問を復習する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「新初級スーパー過去問ゼミ 社会科学」資格試験研究会編(実務教育出版) ISBN:978-4-7889-6690-1				定期試験:50% 受講態度:50% 成績評価基準 S:授業内容を高度に理解するとともに、探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、授業で示した例題の発展問題が解ける。 A:授業内容を十分理解し、授業で示した問題は完全に解ける。 B:授業内容をほぼ理解し、授業で示した問題の80%程度が解ける。 C:授業内容をある程度理解し、授業で示した問題の60%程度が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「ニュース検定公式問題集 1・2準2級 2018」日本ニュース時事能力検定協会編(毎日新聞社) ISBN:978-4-620-90724-6 本年度に検定試験を受験するのであるならば、2018年度版の購入を勧めます				企業および公務員の教養試験、ニュース時事能力検定試験等に対応します。いずれも実用的な知識が要求されるので、普段から新聞やニュースを見るよう心がけ、社会人としての問題意識を持って授業に参加することを期待します。						

科目名	社会教養（発展）		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	KL36095 TL360105	研究室	
担当者	各教員		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件	3年生のみ履修可				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本講義は、3年生後半から始まる就職活動で問われる社会教養力をつけるための科目です。就職活動では、SPIなどの適性検査がおこなわれます。本講義では、非言語・言語系のSPI試験、社会科教養試験、一般常識試験の模擬問題の演習と解説をおこないながら、筆記試験の得点力アップをめざします。就職活動を直前にひかえての、筆記試験対策の科目です。</p>										
学修到達目標										
就職活動で問われる社会教養力を判定するSPI試験において、6割以上の得点を取得することが最終的な目標です。										
授業の進め方										
配布プリントに沿って問題演習を行い、その都度ポイント解説を交えながら進めます。少人数のクラス編成でキメ細かい筆記試験対策を行います。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス。現状能力の確認。	ガイダンスとクラス分け				テキスト第1講の予習（4時間）。				
2	計算のルール（加えて毎回、言語系の演習問題）	SPI過去問題				テキスト第2講の予習（2時間）、第1講の復習（2時間）				
3	割合の計算	SPI過去問題				テキスト第3講の予習（2時間）、第2講の復習（2時間）				
4	損益の計算	SPI過去問題				テキスト第4講の予習（2時間）、第3講の復習（2時間）				
5	仕事算の計算	SPI過去問題				テキスト第5講の予習（2時間）、第4講の復習（2時間）				
6	速さの計算	SPI過去問題				テキスト第6講の予習（2時間）、第5講の復習（2時間）				
7	集合と確率	SPI過去問題				テキスト第7講の予習（2時間）、第6講の復習（2時間）				
8	推論	SPI過去問題				テキスト第8講の予習（2時間）、第7講の復習（2時間）				
9	総合問題（基礎）	SPI過去問題				テキスト第9講の予習（2時間）、第8講の復習（2時間）				
10	総合問題（発展）	SPI過去問題				テキスト第10講の予習（2時間）、第9講の復習（2時間）				
11	社会科問題（地理・歴史）	社会科教養試験過去問題				テキスト第11講の予習（2時間）、第10講の復習（2時間）				
12	社会科問題（政治経済・国際）	社会科教養試験過去問題				テキスト第12講の予習（2時間）、第11講の復習（2時間）				
13	一般常識問題（基礎）	一般常識試験過去問題				テキスト第13講の予習（2時間）、第12講の復習（2時間）				
14	一般常識問題（発展）	一般常識試験過去問題				テキスト第14講の予習（2時間）、第13講の復習（2時間）				
15	まとめ	SPI過去問題、社会科教養試験過去問題、一般常識試験過去問題				テキスト第14講の復習。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリントを配布します。また、就職委員会指定のテキストをします。				<p>小テスト：50% 定期試験：50%</p> <p>S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
適宜指示します。				就職活動では、筆記試験は避けて通れません。個々の苦手分野では適時、分かり易い解説をしていきたいと思ひます。積極的な参加を期待します。						

科目名	キャリア形成（基礎）	学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	KL26096 TL260106	研究室	W-29
担当者	畑井 治文	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
		A	B	C					
		総 観○							
授業概要									
本講義では、大学卒業後、社会の一員としてそれぞれのキャリアを積み上げていく際に土台となる基本的な考え方を学びます。ここで言うキャリアとは、単なる「仕事」や「経歴」ではなく、「自分らしい社会との関わり方」ということを意味しています。また自己理解や社会に目を向ける機会を通じて、3年次以降の学びがより充実したものになることが期待できます。									
学修到達目標									
3年次以降、具体的な進路（就職先や進学先など）を考えていく際に、自分なりの判断基準を持てるようになることが最大の目標です。また社会の一員として必要不可欠な素養（コミュニケーション力など）を身につけることも学修到達目標のひとつです。									
授業の進め方									
教室での講義を主とします。「セルフワーク」や「解説」などを組み合わせながら講義を進めていきます。また講義に付随するものとして、進路に関する個別面談（キャリア面談）を実施します。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。またキャリアデザインの重要性を解説した上で、「大学生生活の振り返り」のワークを通じて、自分の成長（方向性）について再考します。					今回の内容を復習すると同時に、過去の経験を整理してきて下さい。（4時間）		
2	自己理解	「自己分析」の手法を解説した上で、「自己分析」のワークに取り組んでももらいます。過去の経験を振り返りながら、「自分らしさ」について検討します。					今回の内容を復習すると同時に、友人に尋ねることで自分の特徴を整理してきて下さい。（4時間）		
3	自己理解	「他己分析」の手法を解説した上で、「他己分析」のワークに取り組んでももらいます。前回と今回のワークを通じて、自分の強み、興味、関心などを整理します。					今回の内容を復習すると同時に、最近、気になるニュースについて調べてきて下さい。（4時間）		
4	社会に目を向ける	世の中や企業の動向を知るために、新聞やニュースの読み方について解説します。「自分らしい社会との関わり方」を考える上でも、さまざまな情報を有効活用することが求められます。					今回の内容を復習すると同時に、地方の人口減少問題について調べてきて下さい。（4時間）		
5	社会に目を向ける	これからの日本社会、特に地方の人口減少問題に焦点をあてて解説します。自分達が暮らしていく社会のあり様を見つめ直すことで、「自分らしい社会との関わり方」を考えていきます。					今回の内容を復習すると同時に、社会人基礎力について調べてきて下さい。（4時間）		
6	社会に目を向ける	学生と社会人の違い、社会で必要とされる力（社会人基礎力など）について解説します。また採用時に企業が重視するポイントなども紹介します。					今回の内容を復習すると同時に、残りの大学生生活の過ごし方について再考してきて下さい。（4時間）		
7	大学生生活の充実と進路選択	他者とのディスカッションを通じて、大学生生活の充実を図るヒント、進路選択を円滑に進める上でのポイントなどを考えていきます。					今回の内容を復習すると同時に、次年度に向けて具体的な行動計画を立てて下さい。（4時間）		
8	講義全体のまとめ	講義全体を振り返ります。また次年度の「キャリア形成（応用）」のクラス選択について説明します。					これまでの内容を復習するようにして下さい。（4時間）		
テキスト		成績評価の方法・基準							
講義用資料・プリントを配布します。		出席レポート：60％ 課題：40％ S：授業内容を高度に理解して発展的な課題に対応できる。A：授業内容を理解して応用的な課題に対応できる。B：授業内容をおおよそ理解して応用的な課題にほぼ対応できる。C：授業内容の6割程度を理解している。							
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）							
特になし		最初は、このようなテーマについて考えることが難しく感じるかもしれませんが、現段階では、まず「自分で考えてやってみる」ということが重要ですので、自分なりのペースで各ワークに取り組んでみて下さい。							

科目名	キャリア形成 (応用)		学年学期	3年通年	単位数	4	ナバリング	KL36097 TL360107	研究室	
担当者	各教員		必修選択	必修	科目種別	講義	オイスワ-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観○								
授業概要										
本講義では、大学卒業後のキャリアを主体的に考え、それを実現していくための手法を応用的に学んでいくことを目的としています。納得のできる進路を選択するためには、自己理解を深めること、社会や職業に対する知識と自分なりの考えを持つこと、またそれらをわかりやすく他者に伝えるスキルを身に付けることなどが重要となります。本講義では、これらの知識やスキルを身に付けるために、これまでの大学生活での経験を振り返り、自己のキャリア形成のための具体的な計画を立てていきます。										
学修到達目標										
自己のキャリア形成について向き合い、卒業後の希望を実現するための具体的な計画を立て、それを実行に移すためのスキルを身に付けることが最大の目標です。また自己表現力、進路選択(就職活動)のための情報収集力を向上させることを学修到達目標のひとつです。										
授業の進め方										
教室での講義を主とします。「セルフワーク」や「解説」、さらに「社会人による講演」や「ロールプレイ」などを組み合わせながら講義を進めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ライフプランと就職活動	本講義の流れ、自己のキャリア形成への向き合い方について説明します。また就職活動のスケジュールについて紹介します。				キャリア形成 の配布資料を見直してきてください(4時間)。				
2	適性検査(受検)	適性検査を受験します。				本講義には、第2回の講義を復習してから臨んでください(4時間)。				
3	採用試験とは	一般的な採用試験(筆記・面接・書類)の種類、そのために必要な準備などについて、事例(企業・教職・行政ほか)を交えて紹介します。				事前に、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第1章を読んで臨んでください(4時間)。				
4	就職活動サイト利用法(採用に関わる社会情勢)	当該年度の採用事情や社会情勢の解説、就職活動サイト利用法と登録の説明を行います。				受講後、配布された資料を見直し復習してください(4時間)。				
5	自己分析 初級編(適性検査の結果に見る自分)	適性検査の結果を見て、自己の振り返りを行います。進路選択のための自己分析法を解説し、実際にワークを行います。				事前に、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第2章を読んで臨んでください(4時間)。				
6	自己分析 初級編(自分の強み・弱み)	自己分析に基づき、自分の強みを言葉で表現し文章にしてみます。				前回のワークを復習し、引き続き自己ワークに取り組んでから臨んでください(4時間)。				
7	求める人材の理解(企業講演会)	企業の人事担当者から新卒社会人に求める能力や、大学時代に身に付けてもらいたいことなどをご講演頂きます。				<課題>講演の感想を自分の言葉で400字でまとめてください。(4時間)。				
8	SPI試験対策(受検)	ペーパー形式のSPI試験を模擬体験します。				配布テキスト「SPI3能力テスト対策必出問題完全攻略」により個々に対策し臨んでください(4時間)。				
9	企業研究会(業界・職種の理解)	業界・職種の種類や企業研究の仕方を解説。新聞を利用した企業研究法や読み方のコツをお伝えします。インターンシップに関する説明も行う予定です。				就職サイトを閲覧し、企業情報やインターンシップ情報を見て業界理解を深めてください(4時間)。				
10	企業研究会(企業研究の仕方)	企業を調べる上で、確認する項目や比較する情報について、企業研究の仕方と注目するポイントについて解説します。				<課題>次週来学予定のOB・OGの企業について、企業研究を行ってください(4時間)。				
11	企業研究会(卒業生講演会)	本学の卒業生から、企業について、仕事について、その職を得るために工夫したことなどについて、経験談を語って頂きます。				<課題>第14回講義に向けて1社企業を選択し、企業研究をしてください(4時間)。				
12	SPI試験対策(解説)	模擬試験の結果返却と問題の解説および演習を行います。				模試の受験時に配布された解答冊子を読み不明点を明らかにして臨んでください(4時間)。				
13	履歴書作成法	就職活動に臨む際の履歴書の作成法について解説します。これまでの講義で培った自己分析の結果を盛り込む内容を考えます。				<課題>作成法に基づき、履歴書を作成してください。用紙は講義中に配布します(4時間)。				
14	企業研究会(グループワーク)	個々に興味のある企業について調べた情報(課題)をグループ内で発表します。他者の発表から価値観を広げ、自分の興味の軸を増やします。				受講後、他者の調べた企業の中から選び、さらに企業研究を深めてください(4時間)。				
15	インターンシップの意義と夏季休業期間の過ごし方	前期の講義のまとめを行います。また職業観を養うためのインターンシップの参加方法、後期からの講義概要についても説明します。				受講後、配布資料(インターンシップ企業リスト)から企業研究を進めてください(4時間)。				
16	就職活動の流れ	自己のキャリア目標に応じた就職活動スケジュールを作成し、具体的な準備について考えます。				前期までのワークブックで記入してきたことを見直し臨んでください(4時間)。				
17	自己分析 実践編(自分史作成)	履歴書・エントリーシートを作成するための具体的な自己分析を行います。過去の自分と向き合い、特出する出来事を文章化します。				受講後、作成した自分史に基づき印象に残った出来事を文章化してください(4時間)。				
18	自己分析 実践編(他己分析と長所・短所)	履歴書・エントリーシートを作成するための具体的な自己分析を行います。周囲の知人、友人からの評価を参考にし、自分を客観的に分析します。				受講後、他者から言われた言葉を自己振り返りし、文章化してください(4時間)。				

授業計画（各回のテーマ等）		事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。	
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	就職活動サイト利用法 （実践的な利用法）	企業研究法の振り返り、業種・職種の理解、就職活動サイトの効率的な利用法などを解説します。	就職活動サイトにアクセスし、実際に情報検索、情報収集を行ってください(4時間)。
20	SPI試験対策 （受験と対策）	WEB形式のSPIテストの対策を行います。実際にコンピュータを利用したテストに臨みます。	配布テキスト「SPI3能力テスト対策必出問題完全攻略」により個々に対策し臨んでください(4時間)
21	先輩の就職活動報告会	内定した先輩から、具体的な採用試験の事例、就職活動の準備の工夫点などについて紹介して頂きます。	受講後、先輩の事例を参考に、第16回の講義で作成した日程をより具体化してください(4時間)。
22	企業研究会 （直接情報を得る）	実際に企業の人事担当者にお越し頂き、業界や企業についてご説明頂きます。	本講義には、事前に講演企業について企業研究を行って臨んでください(4時間)。
23	エントリーシート作成法 （エントリーシートの目的とねらい）	エントリーシートの3大質問、作成法について解説します。	受講後、3大質問の回答作成のワークに継続して取り組んでください(4時間)。
24	エントリーシート作成法 （エントリーシートの作成）	エントリーシートの3大質問に取り組みます。	<課題>実際にエントリーシートを作成してください。用紙は講義中に配布します(4時間)。
25	ビジネスマナー （就職活動に臨む姿勢と身だしなみ）	就職活動に臨む姿勢と身だしなみ、ビジネスマナー（挨拶や作法など）について解説します。実際にリクルートスーツを来て参加していただきます。	事前に、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」就活マナーを読んで臨んでください(4時間)。
26	ビジネスマナー （合同企業説明会の歩き方）	合同企業説明会や会社説明会の参加方法、ビジネスマナーについて解説します。	受講後、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第6章を読んでおいてください(4時間)。
27	ビジネスマナー （電話・メール・手紙）	企業との連絡の仕方、電話・メール・手紙における一般常識や作法などについて解説します。実際にメール本文を作成するなどのワークに取り組みます。	受講後、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第6章を読んでおいてください(4時間)。
28	面接対策 （面接マナーと先輩事例紹介）	面接試験におけるマナーを学び、内定した先輩から面接試験に関わる経験談を聞かせて頂きます。面接対策の工夫点なども紹介します。	本講義には、事前に先輩の内定企業について企業研究を行って臨んでください(4時間)。
29	面接対策 （グループディスカッション対策）	採用試験で行われるグループディスカッションを体験し、グループディスカッションの評価ポイントについての理解を深めます。	受講後、自分の姿勢について自己評価し、自分のアピールポイントを考えてください(4時間)。
30	講義のまとめ （就職活動に向けて）	講義のまとめを行います。自己のキャリア形成に向けた目標について改めて確認し、具体的計画を立てます。また就職活動に向けて、大学内のサポート体制についても紹介します。	個々の具体的計画に基づき、進路選択（就職活動）に向けた準備を進めてください(4時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
「就職活動ナビゲーション（日経HR）」「ワークブック（1）（2）（松本大学キャリアセンター）」「SPI3能力テスト対策 必出問題完全攻略（懶学研メディアコン）」の3つのテキストを講義内にて配布します。個人で購入する必要はありません。		出席レポート：60% 課題：40% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づき姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「通るエントリーシートの法則」福沢恵子著日経HR編集部編（日経HR） ISBN：978-4-89112-141-9 「面接の質問「出た順」50」日経就職ナビ編集長 渡辺茂晃著日経HR編集部		社会に出るための準備をする講義です。主体的に取り組むことを心がけて下さい。またキャリアセンターが実施する就職合宿、就職対策講座などにも積極的に参加するようにして下さい。	

科目名	キャリア形成 (実践)		学年学期	4年通年	単位数	2	ナバリング	KL46098 TL460108	研究室	
担当者	各教員		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスワ-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
総観		○								
授業概要										
本講義は、大学卒業後のキャリア形成をより充実させることに主眼を置いた科目です。本講義では、さまざまなワークを通じて、学生の皆さんが初めて経験する「進路選択(就職活動)」の場面において生じたさまざまな課題や悩みを整理し、それらに対して迅速な対応をしていくことに力を入れていきます。また講義内では、その時々に応じた具体的な採用情報の提供なども行っていきます。										
学修到達目標										
「進路選択(就職活動)」の場面において生じたさまざまな課題や悩みを整理し、それらを解決していくスキル(課題解決力)を身に付けることが最大の目標です。その延長線上に、納得のできる進路が見えてくるはずです。										
授業の進め方										
教室での講義を主とします。また「セルフワーク」や「ロールプレイ」などを授業の一部に取り入れ、より実践に近い形で講義を進めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。「進路選択(就職活動)」に関して、個々人のスケジュールの確認をします。				キャリア形成、キャリア形成で利用したテキストなどを見直してきて下さい(4時間)				
2	業界・企業研究(実践)	業界・企業の選択時に生じた迷いを踏まえながら、再度、業界・企業研究に取り組みます。それぞれの業界・企業に関する情報も紹介します。				現時点で志望している業界・企業の一覧を作成してきて下さい。業界・企業研究を進めて下さい(4時間)				
3	業界・企業研究(実践)	業界・企業の選択時に生じた迷いを踏まえながら、再度、業界・企業研究に取り組みます。それぞれの業界・企業に関する情報も紹介します。				現時点で志望している業界・企業の一覧を作成してきて下さい。業界・企業研究を進めて下さい(4時間)				
4	自己分析(実践)	実際の履歴書やエントリーシートを作成する際に生じた課題を踏まえながら、再度、自己分析に取り組みます。それぞれの課題に応じて、エピソードや事例の選定などを相互に検討していきます。				これまでに作成した履歴書などを見直し、自分の文章を客観的に評価してきて下さい(4時間)				
5	自己分析(実践)	実際の履歴書やエントリーシートを作成する際に生じた課題を踏まえながら、再度、自己分析に取り組みます。それぞれの課題に応じて、エピソードや事例の選定などを相互に検討していきます。				これまでに作成した履歴書などを見直し、自分の文章を客観的に評価してきて下さい(4時間)				
6	志望動機のとめ方(実践)	実際の履歴書やエントリーシートを作成する際に生じた課題を踏まえながら、再度、志望動機の作成に取り組みます。それぞれの課題に応じて、キーワードの整理、強みとの連携などを相互に確認していきます。				これまでに作成した履歴書などを見直し、自分の文章を客観的に評価してきて下さい(4時間)				
7	志望動機のとめ方(実践)	実際の履歴書やエントリーシートを作成する際に生じた課題を踏まえながら、再度、志望動機の作成に取り組みます。それぞれの課題に応じて、キーワードの整理、強みとの連携などを相互に確認していきます。				これまでに作成した履歴書などを見直し、自分の文章を客観的に評価してきて下さい(4時間)				
8	キャリア相談	実際の就職活動を通じて生じたさまざまな悩みを共有し、それに対する対応策を相互に検討していきます。				これまでの就職活動を振り返り、進路選択にあたって気になる点をまとめてきて下さい(4時間)				
9	面接対策(実践)	実際の面接試験で生じた課題を踏まえながら、再度、面接時の対応について学んでいきます。それぞれの課題に応じて、実践的な練習を重ねていきます。				面接時に聞かれた困った質問などについてまとめてきて下さい。				
10	面接対策(実践)	実際の面接試験で生じた課題を踏まえながら、再度、面接時の対応について学んでいきます。それぞれの課題に応じて、実践的な練習を重ねていきます。				面接時に聞かれた困った質問などについてまとめてきて下さい(4時間)				
11	グループディスカッション対策(実践)	実際のグループディスカッション試験で生じた課題を踏まえながら、再度、グループディスカッションのポイントについて学んでいきます。それぞれの課題に応じて、実践的な練習を重ねていきます。				グループディスカッションで課されたテーマについて、再度、自分の考え方をまとめてきて下さい(4時間)				
12	グループディスカッション対策(実践)	実際のグループディスカッション試験で生じた課題を踏まえながら、再度、グループディスカッションのポイントについて学んでいきます。それぞれの課題に応じて、実践的な練習を重ねていきます。				グループディスカッションで課されたテーマについて、再度、自分の考え方をまとめてきて下さい(4時間)				
13	報告書の作成	大学卒業後の進路が決まるまでの過程を振り返りながら、その過程をまとめた報告書の作成に取り組みます。				<課題> 報告書の作成を進めてきて下さい。用紙は講義中に配布します(4時間)				
14	報告書の作成	大学卒業後の進路が決まるまでの過程を振り返りながら、その過程をまとめた報告書の作成に取り組みます。				<課題> 報告書の作成を進めてきて下さい。用紙は講義中に配布します(4時間)				
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返ります。卒業に向けたガイダンスを行います。				これまでの内容を復習するようにして下さい(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
講義用資料・プリントを配布します。		出席レポート：50% 課題：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特になし		皆さんの「進路選択(就職活動)」に直結する内容ですので、主体的に講義に取り組むことを心がけて下さい。そうすることで皆さんの大学卒業後のキャリア形成がより充実したものになると思います。								

科目名	ワークインフォメーション（総合経営学部）		学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング	KL46099 TL460109	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸・畑井 治文		必修選択	選択必修	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
		総 観○								
授業概要										
本講義ではこれから「社会人として、そして労働者として働く」皆さんに、働く上での諸問題をきちんと克服し、より良い働き方を実現してもらうための情報を提供します。大きく働く上での中心的な法律の説明、仕事と生活のバランスの取り方、社会保険の説明、働くことで問題が生じた際の解決方法、万が一転職や失業した際の手続き、等を扱います。										
学修到達目標										
社会で働く上で自らを守るために必要な、労働に関わる法律・手続き等の知識を修得してもらうことが最終的な目標です。										
授業の進め方										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。なお毎回の講義ではミニレポートを作成してもらいます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	講義の内容や進め方について説明します。				働く上での不安をあらかじめ考えて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
2	日本の労働市場の現状と今後	日本の労働力人口の推移と今後の労働市場について説明します。				労働力人口減少の問題点を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
3	労働法概論 - 様々な労働関連法規 -	労働に関わる法律を広く浅く紹介します。				労働に関わる法律を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
4	労働基準法 - 最低賃金と賃金支払原則 -	労働基準法の「最低賃金」「賃金支払原則」等に関わる扱いについて説明します。				労働基準法第三章をあらかじめ読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
5	労働基準法 - 割増賃金・平均賃金・賞与 -	労働基準法の残業時の「割増賃金」やその根拠となる「平均賃金」等について説明します。				労働基準法第三七条・第三八条をあらかじめ読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
6	労働基準法 - 解雇・労働時間・休憩時間 -	労働基準法の解雇や労働時間等について説明します。				労働基準法第二章をあらかじめ読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
7	労働基準法 - 休日休暇 -	労働基準法の休日や休暇について説明します。				労働基準法第四章をあらかじめ読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
8	労働基準法に関わる講演	長野労働局より講師を招き、労働基準法の実践について講演してもらいます。				労働基準法に関連する内容を、あらかじめ整理して下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
9	ワークライフバランス	育児休業や介護休業を中心にワークライフバランス全般について説明します。				育児休業についてあらかじめ調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
10	ワークライフバランスに関わる講演	長野労働局より講師を招き、ワークライフバランスの実践について講演してもらいます。				ワークライフバランス施策を整理して下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
11	社会保険 - 雇用保険・労災保険 -	法定労働保険である雇用保険と労働災害保険について説明します。				雇用保険と労働災害保険を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
12	社会保険 - 厚生年金保険・健康保険 -	法定社会保険である厚生年金保険と健康保険について説明します。				厚生年金保険と健康保険を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
13	労使関係と労働相談	職場でトラブルに遭った際や悩みが大きくなった際の相談窓口等について説明します。				パワハラ、セクハラ、マタハラを調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
14	転職のデメリット - 転職すべきか否か -	終身雇用制度における転職することのデメリットについて説明します。				日本の転職者の現状を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
15	退職・失業の際の手続き -	退職時や再就職時の手続きについて、雇用保険、年金保険、健康保険、税金を中心に説明します。				年金制度における第1号～3号被保険者を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
テキスト		成績評価の方法・基準								
プリントを配布します。		出席レポート：60% 定期試験：20% 小テスト：20% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）								
「初任者・職場管理者のための労働基準法の本」労務行政研究所編（労務行政研究所） 「社会保険 これですっきりわかる！」井戸美枝著（日本実業出版社）		この講義で扱う内容は、皆さんが働く上で直接的に関連するものばかりです。積極的に講義に臨むとともに、講義の復習を欠かさないようにして下さい。								

科目名	社会人になるために		学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング	KL460100 TL460110	研究室	W-12
担当者	八木 雅子・林 昌孝・山根 宏文・白戸 洋		必修選択	選択必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
大学卒業後、職場や地域において社会人として自立して活躍するために必要な知識などを学ぶとともに、社会人としての心構えや考え方を学ぶことを目的とします。実際の現場で経験した内容をもとに、実践的な内容を扱っていきます。										
学修到達目標										
企業への入社や入社後の職場の人間関係などにおいて直面する様々な問題や課題に対処していく力を身につけている。										
授業の進め方										
講義は全体講義形式とクラス別講義形式、パネルディスカッション、などによって行います。講義は必要に応じて2コマ連続して行なうこともあるので講義計画を参考にして受講してください。なお、最初の講義の時に詳細な予定を示します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	オリエンテーション 講義スケジュール説明					計画表を配布します。(4時間)			
2	パネリストによる各職種の紹介と経験談	パネルディスカッション(パネラーの職種内容等説明)(4時間)					講演内容の整理、レポート作成の夜振り返りを行います。(4時間)			
3	パネリストの体験事例から学ぶ	パネルディスカッション(仕事と生きがい、会社生活等)(4時間)					講演の整理、レポート作成による振り返りを行います。(4時間)			
4	ビジネス文書作成	企業の報告書と報告書作成のポイント(課題として提出する)					資料配布をします。(4時間)			
5	レポートの振り返り	課題レポートの返却と講評					レポートで指摘された課題の確認をします。(4時間)			
6	製造業界の職場	社会人として直面する課題(製造業編)					製造業界についての情報収集、講演を聞いてレポート作成(4時間)			
7	運輸業界(航空業界)の職場	社会人として直面する課題(運輸業編)					運輸業界、海外での仕事についての情報収集、講演を聞いてレポート作成(4時間)			
8	建設業界の職場	社会人として直面する課題(建設業編)					建設業界、海外での仕事についての情報収集、講演を聞いてレポート作成(4時間)			
9	旅行業界の職場	社会人として直面する課題(福祉業編)					旅行の職場、職種についての情報収集、講演を聞いてレポート作成(4時間)			
10	講演を聞いてレポートにまとめる	小レポートの講評					レポートで指摘された課題の確認をします。(4時間)			
11	ビジネスマナー講座	研修と自己啓発					社会人のマナーについて考えてきてください。(4時間)			
12	自己啓発	自己啓発プログラムの作成(自己を取巻く環境と自己分析)					自分の性格、学生生活をまとめてきてください。(4時間)			
13	自己啓発	自己啓発プログラムの作成(課題として提出する)					自己啓発プログラムを作成します。(4時間)			
14	自己啓発	課題レポートの返却と講評					公表をもとに、自己分析を再検証し挑戦課題を発見します。(4時間)			
15	まとめ	まとめ					学生生活と社会人生活との違いを最終確認します。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
必要に応じてプリント資料を配布します。					レポート:100% レポートで評価します。 S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。 A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。 B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。 C:授業内容の6割程度を理解している。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし					「社会人としての自覚」を考えることを目的とした講義なので積極的に参加してほしい。 講義計画に該当する内容をプリント資料から探し、読んでおいてください。					

科目名	教育指導入門		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KL260101 TL260111	研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
	総 観○									
授業概要										
プレゼン、授業、セールス、面接、仕事でもプライベートでも自分の考えや思いを他人に伝えたい場面や伝えなければいけない場面は、誰にでも起こります。自分の真意を相手が正しく受け取ってくれるように、上手に情報発信する技法を考えましょう。										
学修到達目標										
こちらの意図が相手にきちんと伝わるようなプレゼンをできるようになる。 教育指導に関する問題を正しく捉えられるようになる。										
授業の進め方										
講義と実践を交えて進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	この授業の目的と進め方を解説し、必要に応じてグループ分けします。グループのメンバーの顔と名前を覚えましょう。				グループのメンバーの顔と名前を覚える。アイスブレイクを考える。(4時間)				
2	分かりにくい表現	身の回りの分かりにくい表現をさがし、それがなぜわかりにくいのか考える。				分かりにくい表現を探す。(4時間)				
3	“てにをは”	“てにをは”を考える。てにおはを変えるだけで文章の印象がどのように変わるか。				”てにおは”をいろいろ変えた文章を比較する。(4時間)				
4	分かりやすい	参考文献に従って、分かりやすい表現のルールを考える。				ルールを吟味する。(4時間)				
5	分かりやすいの実践と反省	分かりやすい表現の実践と反省。分かりやすい表現と分かりにくい表現を意識して作り比較検討する。				自分で分かりやすい表現を作ってみる。(4時間)				
6	プレゼン	プレゼンにおける分かりやすさとは何かを考える。				分かりやすいプレゼンを作ってみる。(4時間)				
7	説明術・基礎編	説明術・基礎編。参考文献「わかりやすい説明の技術」に基づいて説明術を考える。				課題のテーマを自分で説明してみる。(4時間)				
8	説明術・応用編	説明術・応用編。参考文献「わかりやすい説明の技術」に基づいてさらに説明術を考える。				課題のテーマを自分で説明してみる。(4時間)				
9	授業	授業におけるわかりやすさの再検討。				指導プランを考える。(4時間)				
10	プランの立て方	時間配分、話の流れの設定など、50分の授業プランの立て方を考える。				50分の授業プランを立ててみる。(4時間)				
11	題材と仕上げ方	50分の授業を想定し、題材の選択と仕上げ方の技術を学びます。				題材を自分仕様に仕上げる。(4時間)				
12	ICT機器の利用	パソコン、タブレット、カメラ、ビデオ、プロジェクターなどなど色々なツールの利用を考える。				カメラとパワーポイントを使ってみる。(4時間)				
13	技術の説明	“説明”してみよう1. 技術の説明を具体例を用いて考える。				技術を説明してみる。(4時間)				
14	文化の説明	“説明”してみよう2. 文化の説明を具体例を用いて考える。				文化を説明してみる。(4時間)				
15	まとめ	色々な説明のポイントを纏める。				授業内容全体を振り返り、試験に備える。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
なし				課題：30% 定期試験：70% 課題とは授業中の発表やレポートです S:教育指導に関する発展的な問題を考察できる。 A:教育指導に関する応用的な問題を考察できる。 B:教育指導に関する標準的な問題を考察できる。 C:教育指導に関する基礎的な問題を考察できる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義内で指示します。				教職を目指す学生を主な対象としていますが、授業の技法だけではなく、様々な形で情報発信を広く扱っていきます。						